

58-52

岡山醫學專門學校教授

醫學士小川劍三郎著

挿圖二百廿三

眼科手術完

明治

35 7 11

内交

吐鳳堂書店發行

例言

- 一、此書ハ余ガ眼科手術ニ關セル備忘録ニ自家ノ經驗ヲ附加セル者ニシテ、學生及眼科實地醫家ノ參考ニ供セント欲ス
- 一、手術室、器械、消毒、殺菌等ニ關シテハ、別ニ章ヲ設ケズ、一般外科總論ニ讓レリ
- 一、主トシテ實用ニ益アル者ヲトレドモ、時ニ人工角膜術ノ如キヲ記スルハ志想ノ新ナルヲ以テナリ
- 一、引用書目ハ繁ヲ避ケテ一々記入セズ
- 一、本書記スル所西洋ニ精ニシテ日本ニ粗ナルハ、日本ノ文獻ハ諸氏各々探査ノ便ヲ有スト信ズレバ也、各術ニ就テ記述ノ繁閑宜シキヲ得ズ、重要ナル術式ノ遺脱セル者アラン、ソハ同學諸士ノ叱正ヲ乞ヒ、併セテ他日ノ修正ヲ期セントス

於岡山 著 者 識

眼科手術目次

第一章	眼瞼手術	一頁
第一項	眼瞼手術總論	一
第二項	霰粒腫手術	四
第三項	麥粒腫手術	四
第四項	眼瞼膿瘍手術	五
第五項	まいぼーむ氏腺梗塞手術	五
第六項	外眥成形術	五
	一、あんもん氏式	五
	二、Agnew	八
	三、すてるわーぐ氏眼瞼切開術	八
第七項	眼瞼軟骨縫合術	九
	一、ぐれーふ氏式	九

二、ぶくす氏式 一〇

三、臉裂ノ中央ニ施ス式 一一

第八項 臉裂全閉鎖術 一一

第九項 縁間切開術 一二

第十項 睫毛亂生及内反症手術ノ姑息療法 一三

一、絆創膏牽引法 一三

二、「コロジウム」塗布法 一三

三、膏藥貼布法 一四

四、睫毛矯正法 一四

五、抜去法 一四

六、輪匠筋延長法 一四

七、眼瞼皮下注射法 一四

八、外眥切開法 一五

九、すてるわーぐ氏眼瞼切開法 一五

一〇、皮下筋及軟骨截斷法 一五

第十一項 局部性睫毛亂生及内反症ノ手術

一、をへんはいめる氏眼鏡療法 一六

一二、電氣毛囊破壊術 一七

一三、河本氏烙白金點燒法 一八

一四、まぢぐのん氏式 一八

一五、たまむしえふ氏式 一八

一六、皮膚切除法 一八

一七、局部燒灼法 一八

一八、局部腐蝕法 一八

一九、ざめるぞーん氏式 一九

二〇、ぶるぶ氏式 一九

二一、かれぞーすきー氏式 一九

二二、びーせ氏式 一九

二三、わるもんと氏式 一九

二四、くりすとーうち氏式 一九

二五、しみー氏式 一九

二六、すねるれん氏圈絲法 二〇

第十二項 眼瞼内反症及睫毛亂生症手術ノ理論及種類 二〇

第十三項 全部性睫毛亂生及眼瞼内反症ノ手術 二五

二七、ちるすー氏式 二五

二八、夾法 二五

二九、腐蝕法 二六

三〇、焼灼法 二六

三一、じらるあると氏縫線式 二六

三二、もんどごめりー氏縫線式 二七

三三、すねるれん氏縫線式 二六

三四、ほつ氏式 二六

三五、河本氏式 三〇

三六、あるぼると氏式 三三

三七、ばーげんすてへる氏式 三三

三八、わるごはうえる氏式 三三

三九、ぐれーふ氏式 三一

四〇、ふらーれるすてるわぐ氏睫毛除去式 三三

四一、えーちんげん氏睫毛移送法 三六

四二、うきける氏式 三六

四三、あると氏縁間切開法 三七

四四、わるごはうえる氏縁縁成形術ヲ兼テタルえしゆあると氏
睫毛移送法 三七

四五、やこぶそんほしゆうす氏式 三九

四六、すべんさーわとそん氏睫毛移送法 四〇

四七、にかちー氏式 四二

四八、すちめみー氏式 四二

四九、みるりんげん氏粘膜瓣縁縁成形術 四二

五〇、べるりん氏式 四三

五一、ばなす氏式 四三

五二、べしる氏式 四
 五三、すねるれん氏楔状軟骨切除法 四
 五四、すねるれん氏第二式 四
 ほつ氏式 四
 五五、ばらをし氏式 四
 五六、えしゆ氏式 四
 五七、かろんじびらし氏式 四
 五八、あなぐのたます氏式 四
 五九、くろにしす氏式 四
 六〇、河本氏(上眼瞼睫毛亂生)式 五
 六一、あんもんばらをし氏式 五
 六二、うきへるきううつ氏式 五
 六三、くらんぶとん氏式 五
 六四、へるべると氏式 五
 六五、えいびんぐ氏式 五

六六、わるごはうえる氏式 五
 六七、ちいる氏式 五
 六八、すこと氏式 五
 六九、らぐれいち氏式 五
 七〇、すとーりー氏式 五
 七一、らんどー氏式 五
 七二、桐淵氏式 五
 七三、小川氏式 五
 第十四項 眼瞼外反症ノ理論及分類 五
 第十五項 弛緩性眼瞼外反症手術 五
 手術ノ理論及分類 五
 一、じいふんばは氏式 五
 二、しまのすきし氏式 五
 三、あだむす氏式 五
 四、くーんと氏式 五

五、み。る。れ。る。氏改良くーんど氏式 六二

六、す。ね。る。れ。ん。氏縫線式 六二

七、み。へ。る。氏式 六三

八、ら。ん。ご。ー。氏式 六三

九、癩痕牽引法 六三

第十六項 癩痕性眼瞼外反症手術 六三

一、皮下癩痕截斷術 六四

二、癩痕切開—間接縫合法 六四

三、成形術(第十七、第十八項) 六六

第十七項 眼瞼皮膚ノ新鮮ナル缺損ニ對スル成形術ノ一、一有柄
皮瓣ヲ用ユル眼瞼成形術 六六

一、ふ。り。け。氏式(上下眼瞼) 六七

二、じ。ー。へ。ん。ば。は。氏式(下眼瞼) 六七

三、しまのすきー氏式(下眼瞼) 六八

四、しまのすきー氏式(上眼瞼) 六八

五、じ。ー。へ。ん。ば。は。氏式 六五

六、り。し。え。ー。氏式 六五

七、伊太利式及獨逸式 六六

第十八項 眼瞼皮膚ノ新鮮ナル缺損ニ對スル成形術ノ二、一無柄
皮瓣ヲ用ユル眼瞼成形術 六七

一、れ。ふ。ー。と。う。る。ふ。氏式 六七

二、ち。ー。る。し。え。へ。る。す。ぶ。し。氏式 六八

第十九項 造瞼術 六八

一、え。へ。る。す。ぶ。し。氏式 六八

二、ら。ん。ご。ー。氏式 六八

三、ち。る。ま。ー。氏造瞼線術 六八

四、ら。ん。ご。ー。氏式 六八

五、う。へ。る。き。ー。う。つ。氏式 六七

六、く。な。ぶ。氏式 六八

七、び。ろ。ー。氏式 六八

八はすねる氏式	八九
第二十項 眼瞼下垂症手術	九〇
一、ぐれーぶ氏式	九〇
二、ばーげんすてへる氏式	九一
三、うらける氏式	九二
四、へす氏式	九二
五、らんごー氏式	九三
六、ばな氏式	九三
七、えべるすぶし氏式	九四
八、ばやろん氏式	九六
第二十一項 外鼻神經手術	九六
第二十二項 眼瞼腫瘍手術	九七
血管腫手術	九七
第二十三項 眼瞼象皮症手術	九八
第二十四項 内眦贅皮手術	九八

第二章 涙器手術

一、あんもん氏式	九八
二、あると氏式	九九
第二章 涙器手術	一〇〇
第一項 小涙管切開術	一〇〇
第二項 小涙管電氣療法	一〇一
第三項 小涙管閉鎖術	一〇一
第四項 鼻涙管消息法	一〇二
第五項 涙道洗滌	一〇二
第六項 べちと氏涙囊前壁切開法	一〇八
第七項 涙囊摘出術	一〇九
第八項 涙囊瘻手術	一一一
第九項 涙管異物	一一一
第十項 涙腺摘出術	一一三
一、えべるすぶし氏式	一一三

二、うつける氏式 二二三

第十一項 涙腺瘻手術 二二四

第三章 結膜手術 二二五

第一項 「トラホーム」手術 二二五

一、さめるぞーん氏焼灼式 二二五

二、移行部切除式 二二五

三、さ、とれる氏顆粒搔抓式 二二七

四、く、なぶ氏顆粒挫出式 二二八

五、く、んと氏歴出法 二二九

六、擦過法―現時余ノ行ヒツ、アル式附トラホーム手術ノ

時機 二二九

第二項 險球癒著症手術 二二五

一、離断式 二二六

二、あると氏式 二二六

三、てーる氏式 二二六

四、ひるし、べるひ氏式 二二七

第三項 結膜異物 二二七

第四項 結膜下注射法 二二八

第五項 翼狀贅片手術 二二八

一、切除式 二二八

二、あると氏式 二二九

三、こ、し、うす氏式 二二九

四、う、さ、ける氏式 二三〇

五、が、れ、ぞー、すきー氏式 二三〇

六、ち、ぶ、れ、と氏式 二三〇

七、腐蝕式 二三〇

八、す、つ、か、る、すきー氏結束式 二三〇

九、です、まー氏移植法 二三一

一〇、く、な、ぶ氏移植法 二三一

目次

一、ですまー(子)氏式 一三二

二、みへる氏式 一三三

三、れーもんど氏式 一三三

四、ほつ氏植皮式 一三三

五、すたるけー氏電氣分解式 一三三

六、後轉法 一三四

七、結膜下移植法 一三四

八、小川氏結膜橋下移植法 一三六

第四章 角膜手術 一三六

第一項 角膜潰瘍ニ沃度丁幾ヲ塗布スル法 一三八

第二項 角膜表層刮去術 一三九

第三項 角膜潰瘍搔抓術 一三九

第四項 角膜亂切術 一四〇

一、亂視矯正 一四〇

目次

一、すこご氏「バンヌス」手術 一四〇

二、たまむちふ氏白斑手術 一四〇

第五項 角膜焼灼術 一四〇

第六項 角膜穿孔術 一四一

第七項 角膜切開術—せーみし氏法 一四一

第八項 剝刺術 一四六

第九項 角膜ニ於ケル結膜移植術 一四七

第十項 角膜移植術 一四九

第十一項 人工角膜術 一五〇

第十二項 角膜切除術 一五一

一、術式二 一五一

二、ばーでる氏圓錐角膜手術 一五二

三、かれぞーすきー氏圓錐角膜手術 一五二

四、かもー氏全葡萄腫手術 一五三

第十三項 全角膜切除術 一五三

一、べーる氏式	一五四
二、うまける氏式	一五四
三、くりのちの氏式	一五五
第十四項 眼球前部截除術	一五五
第十五項 角膜異物摘出術	一五六
第十六項 角膜縫合術	一五六
第十七項 硝酸銀周擁腐蝕術	一五九
第十八項 角膜周擁切開術	一六〇
第十九項 角膜周擁切開術	一六〇
第二十項 角膜周擁搔抓術	一六〇
第五章 鞏膜手術	一六一
第一項 前鞏膜切開術	一六一
第二項 後鞏膜切開術	一六一

第六章 虹彩手術

第一項 虹彩切除術	一六一
第二項 緑内障手術トシテノ虹彩切除術	一六二
第三項 虹彩切開術	一六四
第四項 虹彩断裂術	一六五
第五項 虹彩剝離術	一六五
第六項 虹彩結紮術	一六六
第七項 虹彩嵌置術	一六六

第七章 水晶體手術

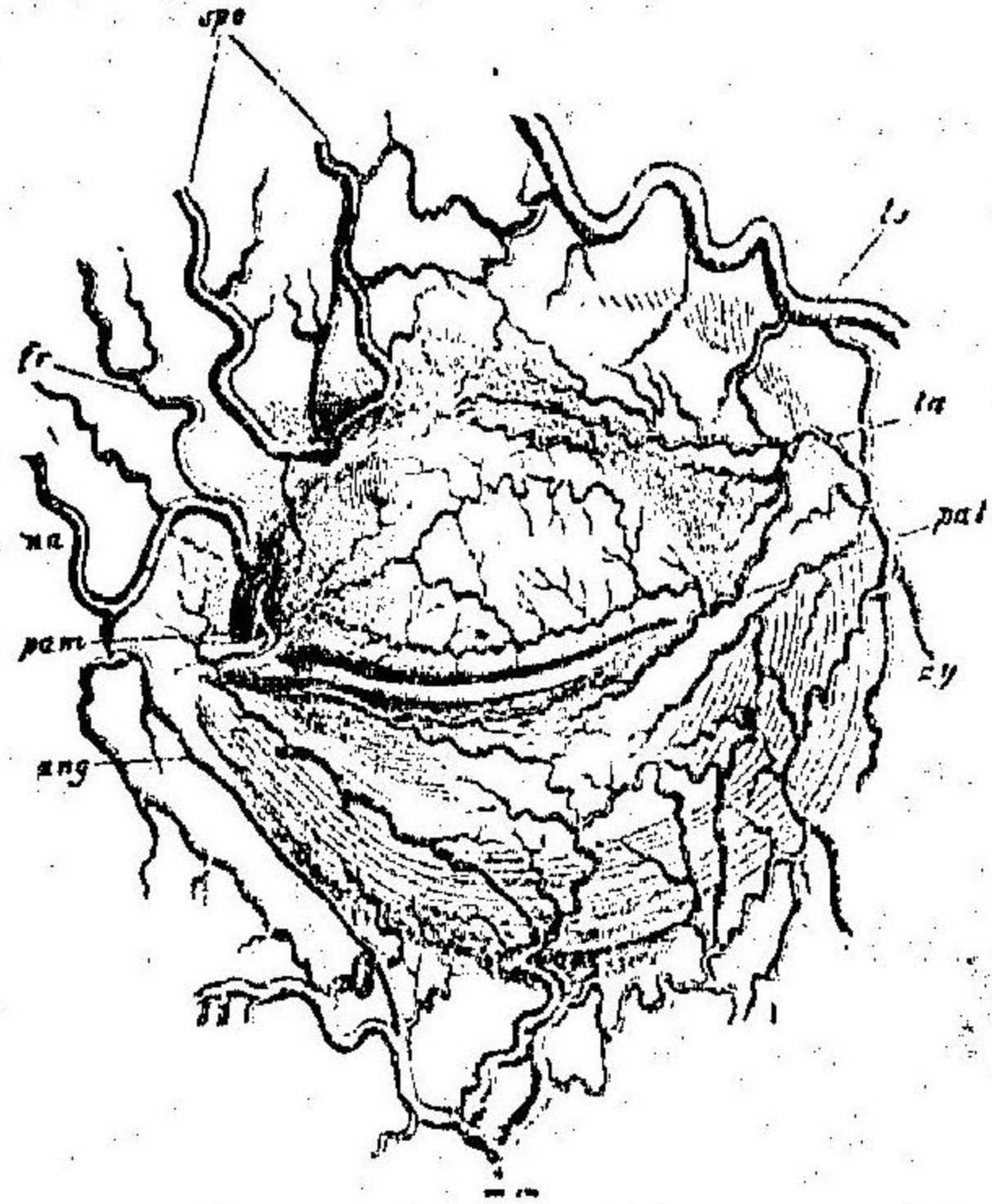
第一項 白内障手術總論	一六七
一、手術ノ種類	一六七
二、手術スベキ種類	一六七
三、手術前ニ注意スベキ要件	一六八

四、手術ノ時機	一九〇
五、白内障成熟ノ状態	一九〇
六、手術ノ準備	一九一
第二項 墜下法	一九三
第三項 截開法	一九四
第四項 穿開法	一九六
一、刺角膜穿開法	一九六
二、刺鞏膜穿開法	一九九
第五項 吸出法	一九九
第六項 線狀摘出法	二〇〇
第七項 ぐれーぶ氏變式周圍線狀摘出法	二〇〇
第八項 瓣狀摘出法	二〇三
第九項 高度近視ノ水晶體摘出	二〇三
第八章 斜視手術	二一七

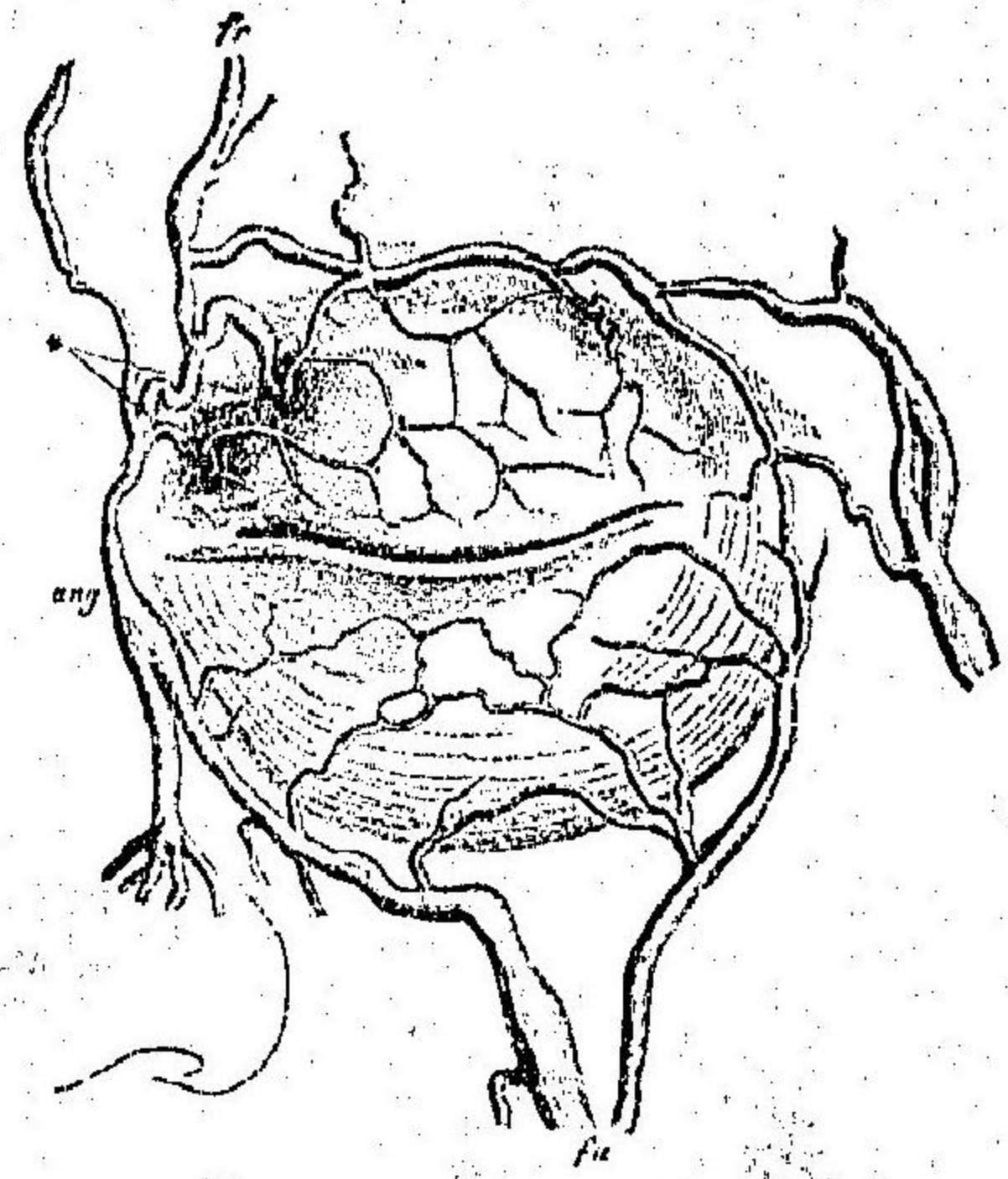
目次畢

第一項 後轉法	二二七
第二項 前轉法	二二九
第三項 斜視手術ノ適應症	二三二
第九章 眼球摘出術	二三四
第十章 眼球内容除去術	二三七
第十一章 視神經毛様神經切斷術	三三九
第十二章 眼窩内容除去術	三三〇
第十三章 眼窩腫瘍手術	三三三
第十四章 くれんらいん氏外眼窩壁切開術	三三五
第十五章 電磁ヲ用ヒテ鐵片ヲ吸出スル術	三三八

圖一 乙
管血險眼(乙)

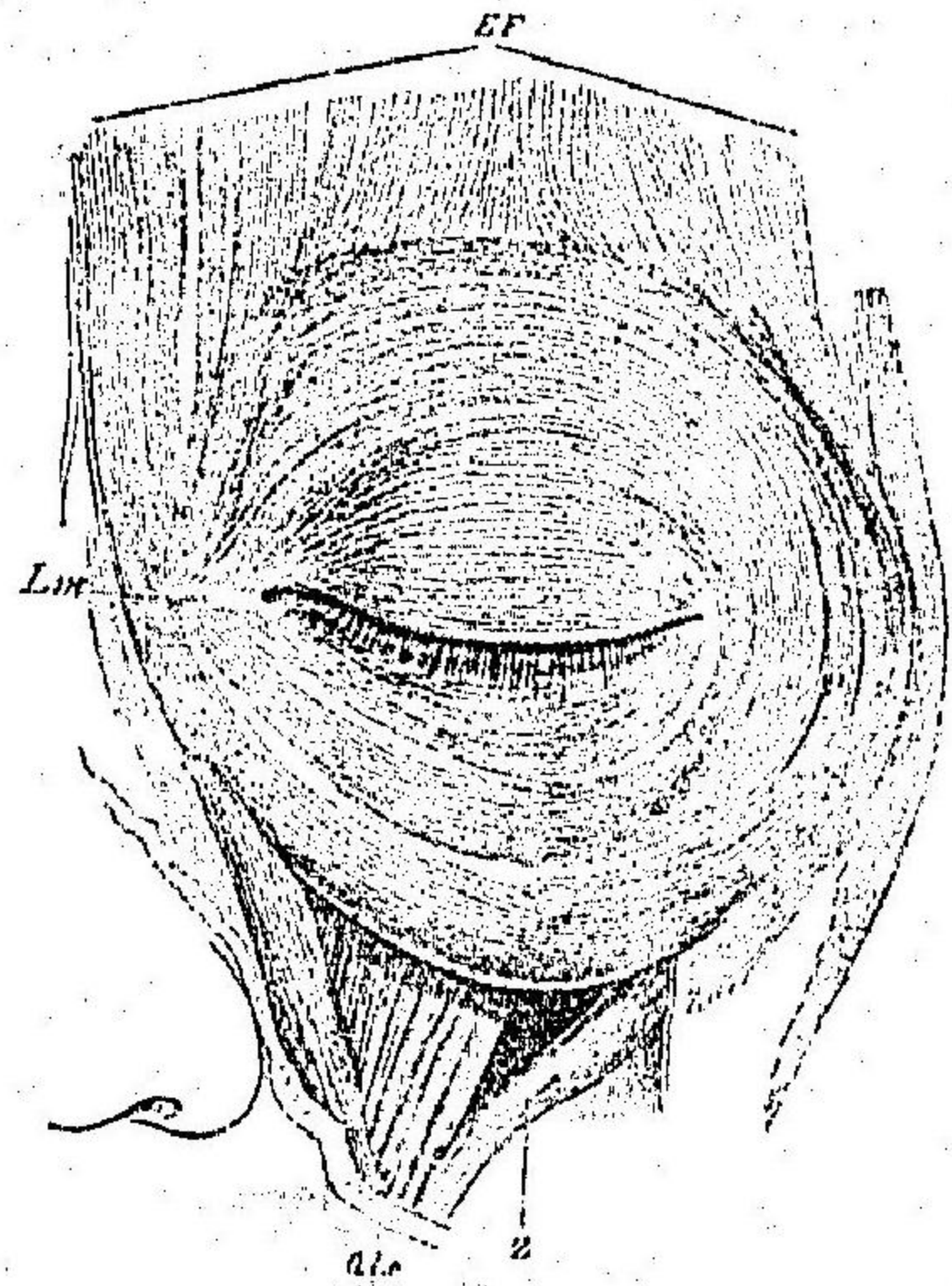


圖一 甲
管血險眼(甲)



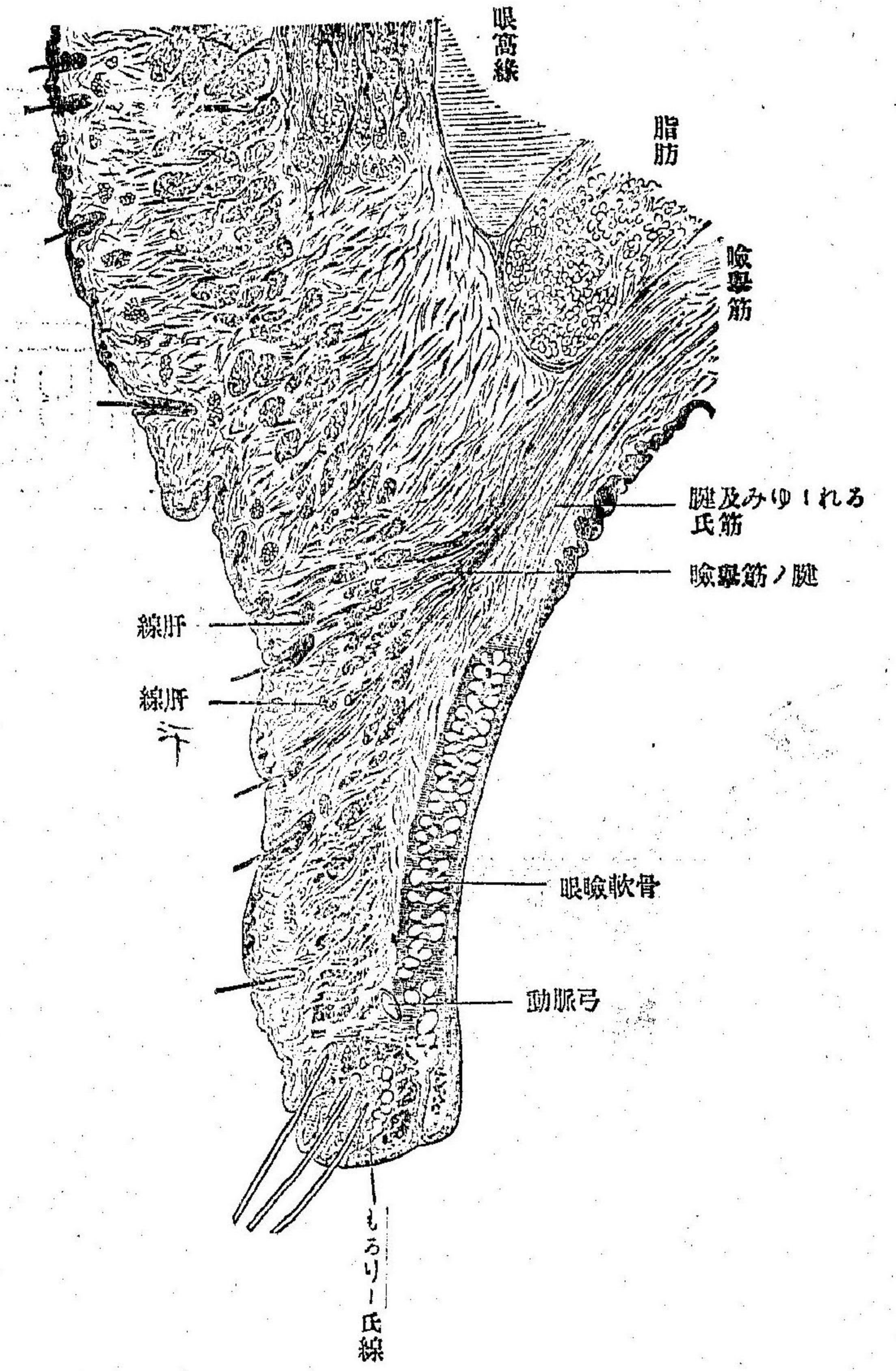
- | | |
|-------------|----------------|
| (suo) 上眼窩動脈 | (pal) 外眼險動脈 |
| (fr) 前額動脈 | (pam) 內眼險動脈 |
| (na) 鼻背動脈 | (**) 上下眼險軟骨動脈弓 |
| (ang) 內眥動脈 | (fr) 前額靜脈 |
| (mxc) 外眥動脈 | (ang) 內眥靜脈 |
| (zy) 額骨動脈 | (t) 額額靜脈 |
| (la) 淚腺動脈 | (fa) 前額面靜脈 |
| (ts) 上頰額動脈 | |

圖二
圖ノ筋匠輪



- | | |
|------------|-------------|
| (Lm) 內眥韌帶 | (Qls) 方形上唇筋 |
| (EF) 前頭蓋項筋 | (z) 額骨筋 |

第三圖 眼 險 縱 斷 圖



眼科手術

第一章 眼 險 手術

第一項 眼 險 手術 總論

醫學士 小川劍三郎 纂著

眼 險 手 術

眼 險 手 術 總 論

一 眼 險 手 術 ヲ 施 ス ニ 際 シ テ ハ ソ ノ 手 術 面 ガ 人 間 容 貌 ノ 美 醜 ノ 根 本 タ ル 顔 面 ナ ル コトヲ 忘 ル ベ カ ラズ 術 者 ハ 美 的 的 觀 念 ヲ 有 シ テ 被 術 者 ノ 人 相 ヲ 損 セザル 様 注 意 ス ベ シ 即 チ 一 見 人 ノ 注 目 ヲ 惹 ク ガ 如 キ 癍 痕 ヲ 殘 ス コト 勿 レ ナ ル ベク 纖 細 ナ ル 癍 痕 ヲ 作 ル ニ ハ 皮 下 ニ アル 筋 纖 維 ノ 走 行 (第 二 圖) ニ 合 セザル ベカ ラズ 時 ニ 疾 病 ヲ リ モ 癍 痕 ニ 向 テ 大 ナ ル 苦 痛 ヲ 感 ズ ル ノ 人 アル コトヲ 忘 ルル コト ナ カレ コト ニ 妙 齡 ノ 婦 人 ニ 於 テ 然 リ ト ス 眼 險 ノ 皮 膚 ハ 極 メ テ 軟 柔 ナル ガ 故 ニ 刀 ヲ 用 ヲ ヲ ニ カ ヲ 加 エ ベ カ ラズ 然 ラザレバ 目 的 以 外 ナ ル 軟 骨 ヲ

眼 險 手 術 總 論

傷ツケ或ハ眼瞼ノ全層ヲ切斷スルコアリ
 二術者及被術者ノ位置 光線ハ手術スベキ眼ニ落ツル様ニナシ術者ハ患
 者ノ頭ノ方ニアリ、助手之レニ對ス、器械ハ術者ノ右側ニ整置スヘシ
 三麻醉 多クハ古加因水ノ皮下注射ニテ足レリ、しらいひ氏浸潤麻醉或ハ
 全身麻痺ヲ要スルコアリ

角板



四眼球ヲ傷ツケザルガ爲メニえーげ
 氏角板第四圖ヲ要スルコ多シ、助手
 之レヲ下向セル眼球ノ上、眼瞼若クハ
 反轉セル眼瞼ノ下ニ眼窩縁マデ結膜

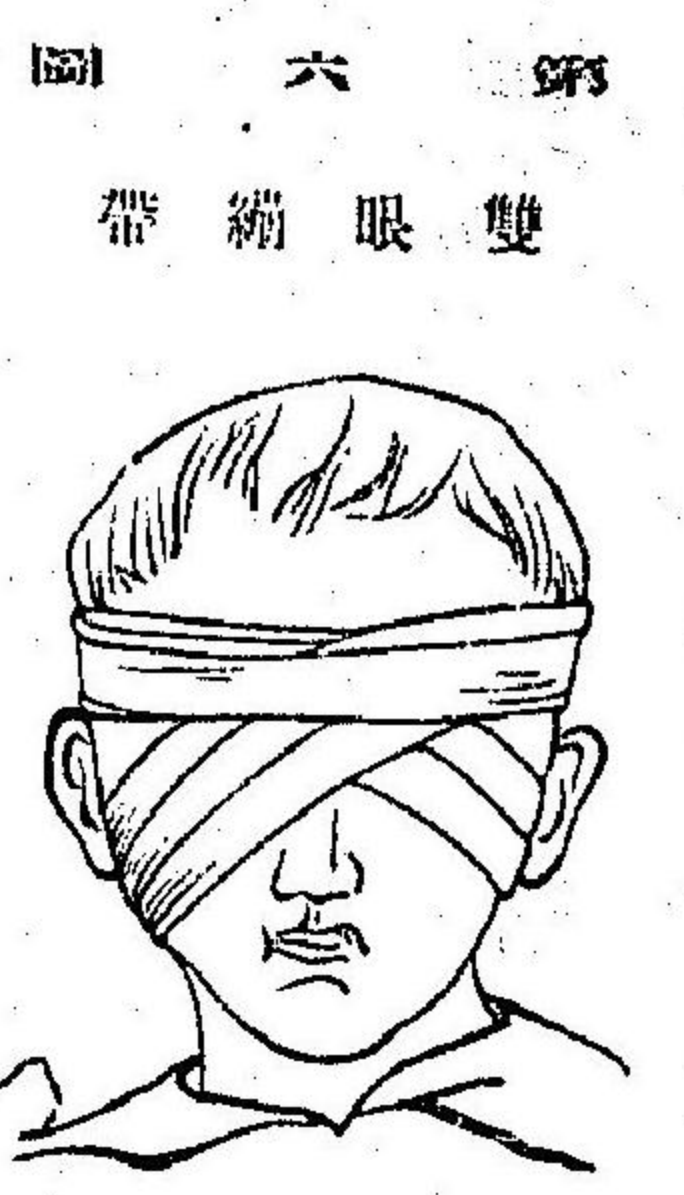
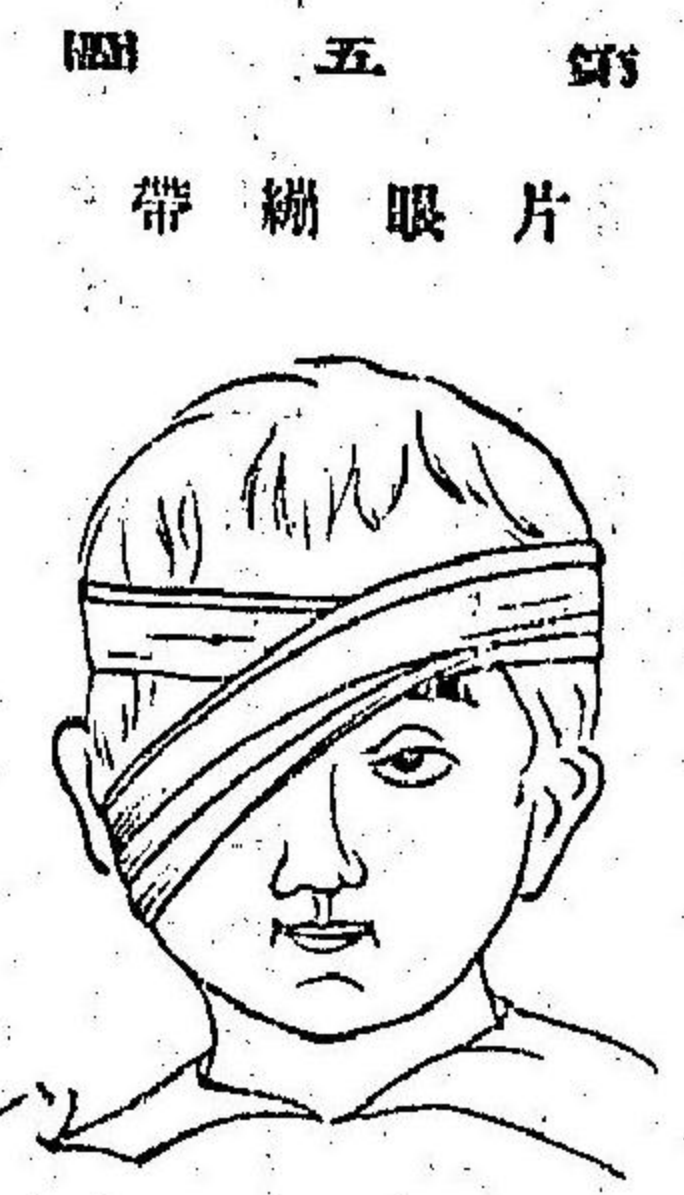
囊内ニ挿入シテ固定スベシ

五縫合絲 絹絲

六術後ノ撒布藥 沃度仿護「ヨドール」、「デルマトール」、「キセロホルム」、「オル
 トホルム」

七細帶 片眼細帶(第五圖)或ハ雙眼細帶(第六圖)ヲナス、術後撒布藥ヲ撒布
 シ(或ハ護謨紙ヲオキテ)昇汞「ガーゼ」ヲノセ油紙、脫脂綿ヲオキ卷軸細帶ヲ

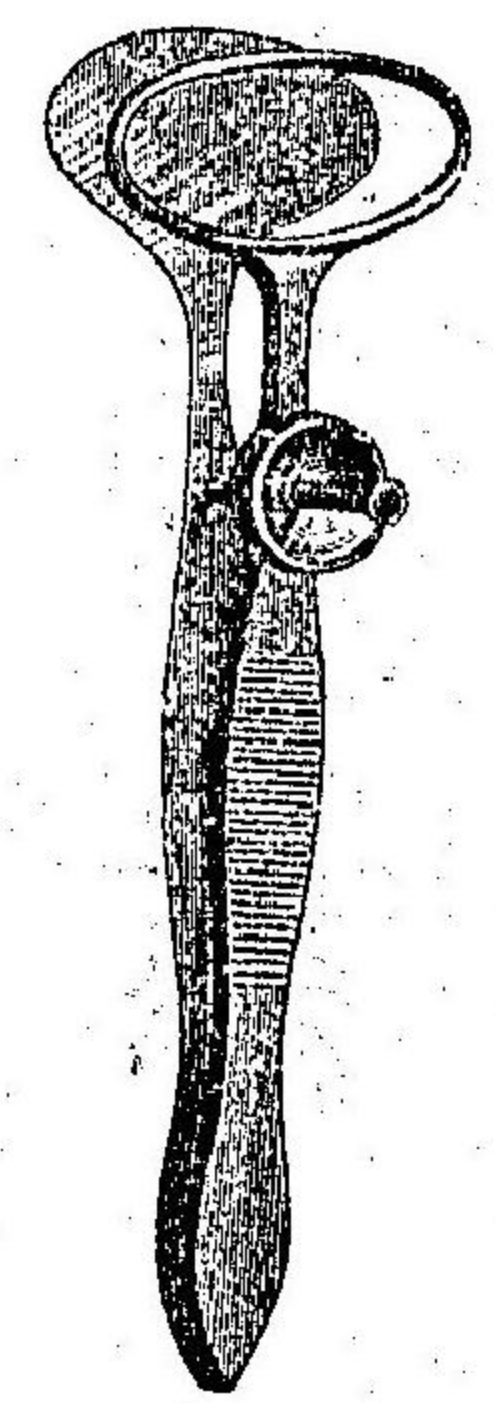
片眼細帶
雙眼細帶



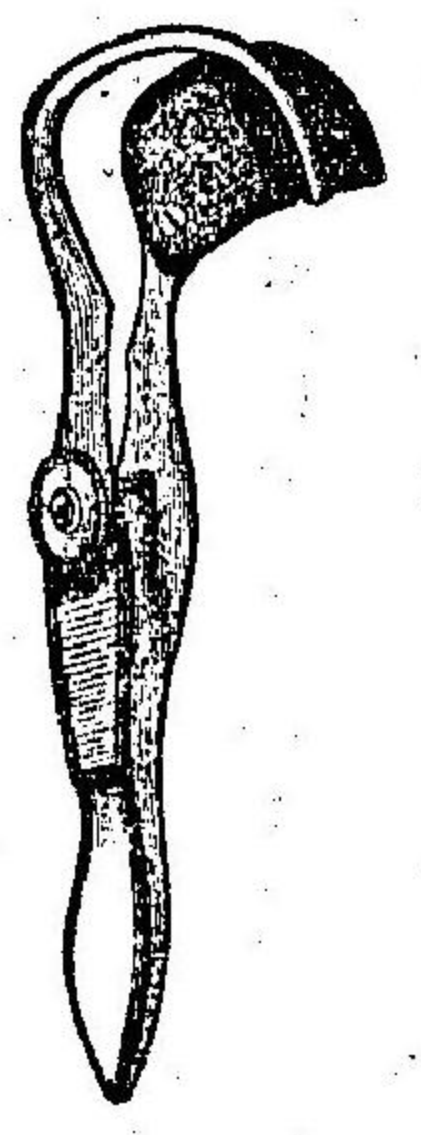
以テス
 八止血 綿花
 球ヲ以テ壓迫
 シテ止血スベ
 シ、脈管ノ結紮
 ヲ要スルガ如

ですまー氏夾
腫攝子
くなくぶ氏
器

第七圖
器夾氏すまー
子攝腫粒ハ或



第八圖
器夾氏ぶなく



キヲ殆ンド絶無手術面大ナラザル片ハですまー氏夾瞼器一名霰粒腫鉗子
 (第七圖)くなくぶ氏夾瞼器(第八圖)ヲ用ユベシ
 九眼瞼手術ノ分類(はいまん氏)

- 一、眼瞼皮膚ノミニ關スル手術即皮膚病的の外科
- 二、眼瞼軟骨ノミニ關スル手術例之麥粒腫、霰粒腫

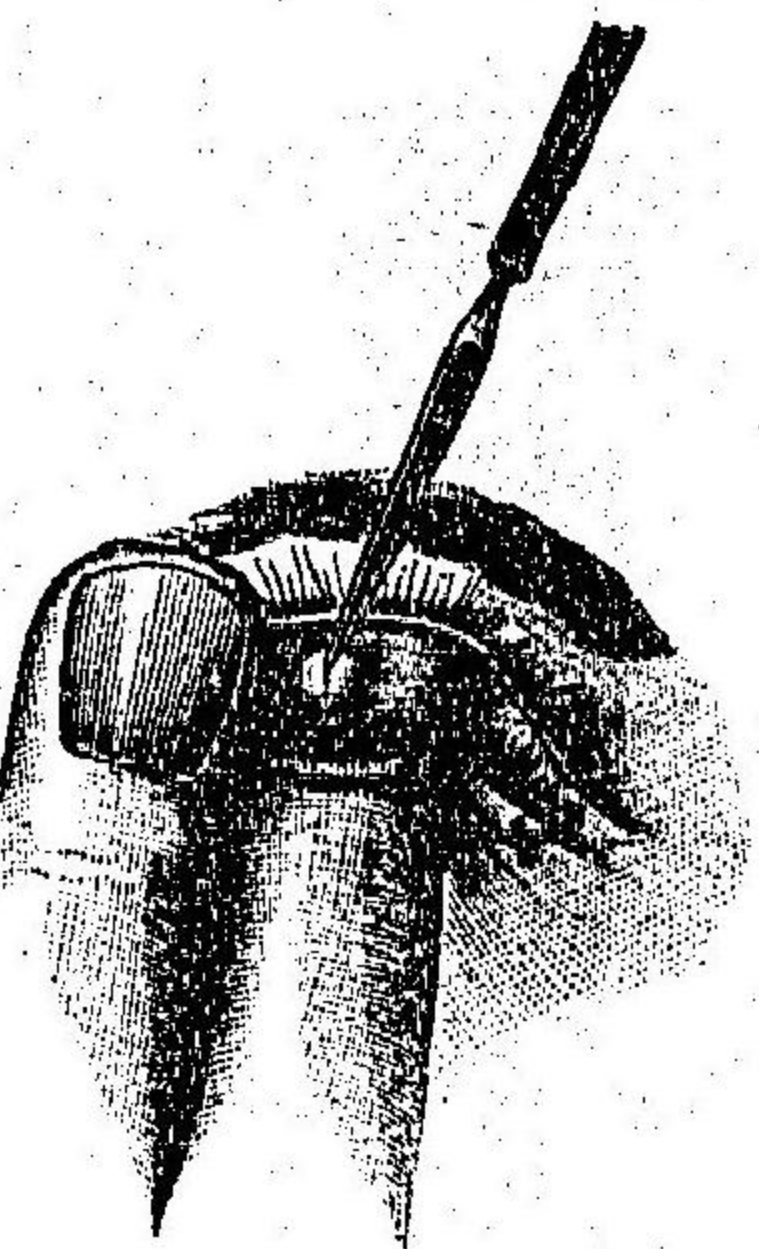
三、眼瞼全體ニ關スル手術例之外反症、内反症、兎眼
コノ書ニテハ便宜上疾病ニ由テ分類スベシ

霰粒腫手術

第二項 霰粒腫手術

術式 眼瞼ヲ反轉シテ軟骨面ニ隆起ヲ認メバソノ最高點ヲ尖刀ノ背

ヲ眼球ノ方ニ向ケテ縦ニまいぼー
ム腺ノ方向ニ切開シ銳匙ニテ内容
物及ビ囊ヲナス肉芽組織ヲ搔爪ス
反轉セル眼瞼ノ下ニ角膜或ハ術者
ノ指ヲオクベシ(第九圖)片眼綑帶二
十四時ニ去ル可成出血ヲ避ント



霰粒腫切開
九
開切腫粒霰

セハ霰粒腫鑷子第七圖ヲ用ユベシ

麥粒腫手術

第三項 麥粒腫手術

術式 眼瞼ノ下ニ角板ヲ送入シオキ皮膚ニ瞼縁ニ平行シテ横ニ切輪匠

眼瞼膿瘍手術

筋纖維ノ走行ニ一致セシメテ腫脹ノ尤モ高キ處ヲ切開シ化膿セル内容物
ヲ壓出シ更ニ銳匙ヲ以テ化膿窠壁ヲ搔爪ス切開大ナルキハ縫合シ一洗滌
一沃度仿謨撒布一片眼綑帶一二日

第四項 眼瞼膿瘍手術

麥粒腫手術ニ同ジ

まいぼーむ氏
腺梗塞手術

第五項 まいぼーむ氏腺梗塞手術

術式 眼瞼ヲ反轉シテ結膜面ヨリ直内障又ハ小尖及刀ノ尖端ヲ以テ梗
塞物ノ長徑ニ沿ウテ切開シ梗塞セル腺分泌物ノ硬結物ヲ摘出ス

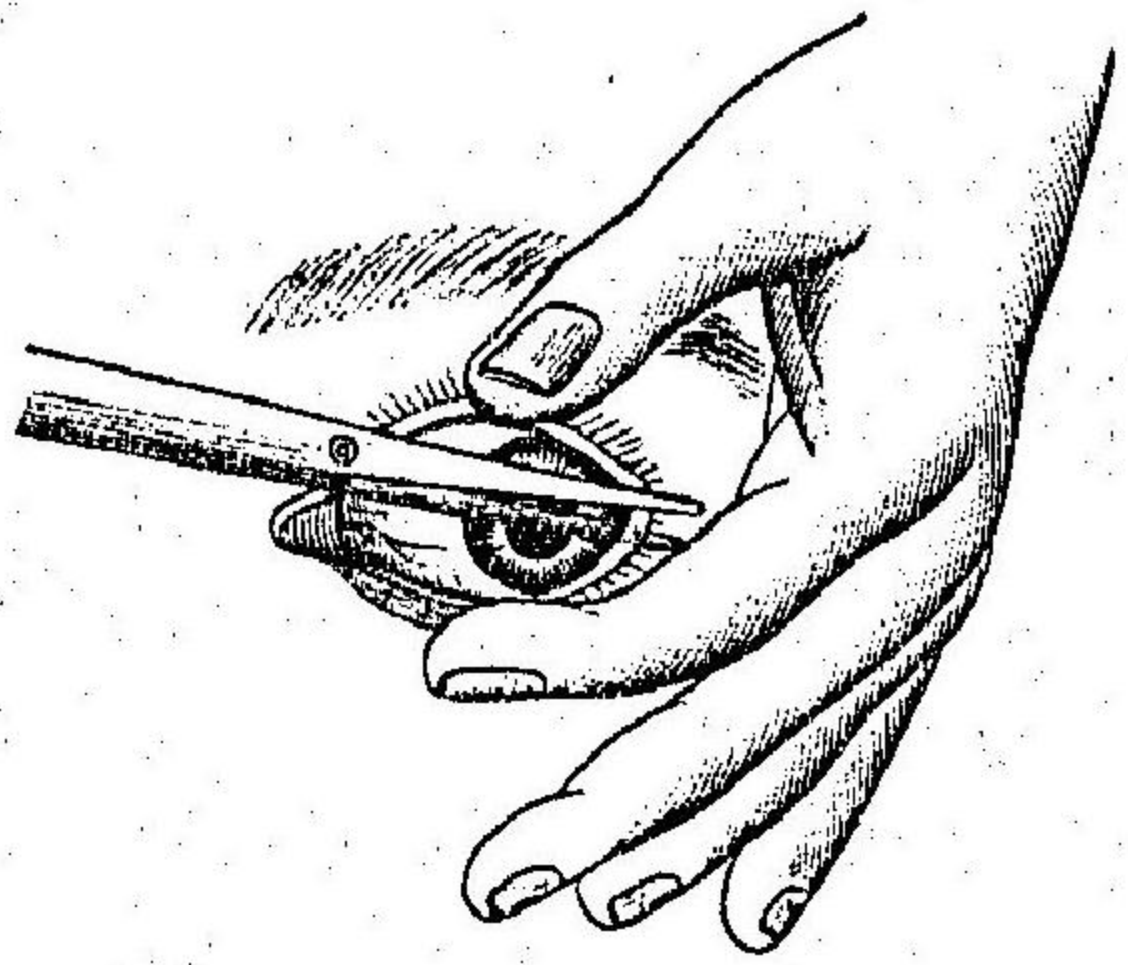
第六項 外眥成形(切開)術 (Kantplastik)

一 あんもん氏外眥切開術(K. von Ammon)
持久的ノ效果ヲ欲スル時ハ外眥ヲ切開セル後切開創ニ於テ結膜及皮膚
ヲ合セ縫ヒテ再ビ癒著スルヲ妨クレモ一時性ノ目的ナル時ハ切開セル

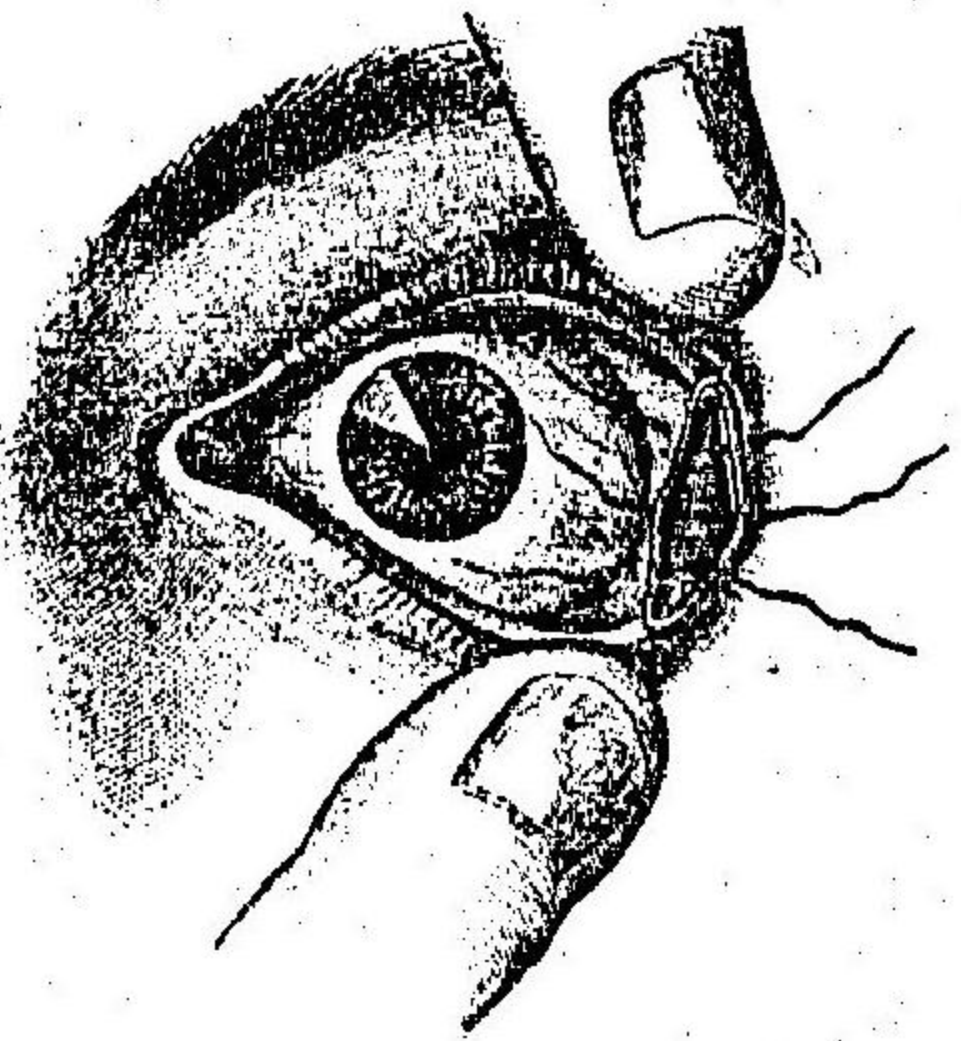
外眥成形(切
開)術

マ、ニテ放置ス

術式 右眼ナレバ術者ノ左手ノ拇指及示指ノ端ヲ上下眼瞼ノ外半部ニ置キテ顚顚部ノ方ニ引キ且ツ二指ヲ少シク廣ゲル様ニシテ外眥部ノ皮膚ヲ緊張セシム。左眼ナレバ患者ノ頭方ニ立チテ左手ノ拇指及示指ノ端ヲ下上眼瞼ノ外半部ニオキ、前膊ヲ患者ノ顚頂ニ載セ、約直角ヲナシテ手掌ヲ顚顚部ニオキ、前ト同ジク外眥部ノ皮膚ヲ緊張ス、次ニ直大剪刀ヲ以テソノ鈍端ヲ有スル方ヲ下ニナシ、結膜囊内ニオキテ、一舉シテ上下眼瞼ヲ相連結ス



第十圖 外眥切開術

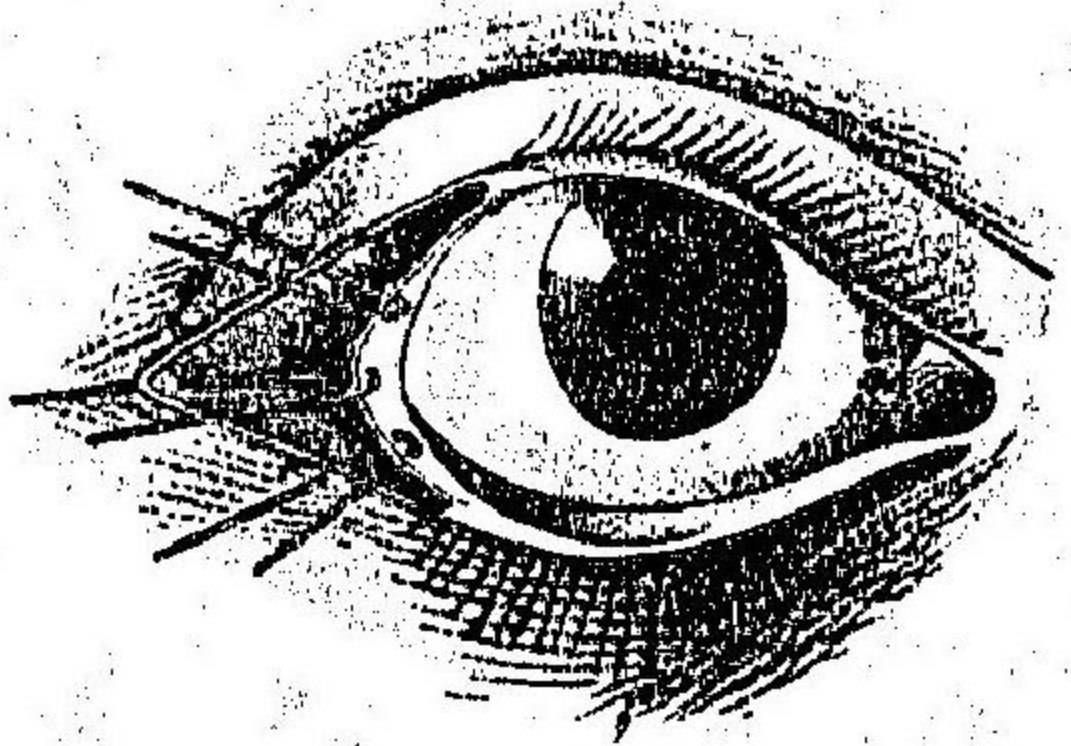


第十一圖

ル部ノ皮膚ヲ剪截ス、コノ際剪刀ノ刃ハ皮膚ニ垂直ニアタル様ニナスベシ(等十圖)切開ノ長ハ目的ニ由テ一様ナ

外眥切開術

ラザルモ多クハ眼窩縁ニ達セシム。切開スルヤ直ニ助手ハ綿ヲ以テ創面ヲ壓シテ止血セシムベシ。次ニ助手ハ上下眼瞼ヲ上下ニ引ク。第十一圖ノ如クスベシ、カクシテ上下ニ引ケル時創間ニ筋膜ノ緊張セルヲ見バ更ニ之レヲ截ルベシ、コノ時ハ結膜及皮膚ノ間ニアル創口ノ底ニハ眼窩縁ノ骨膜面ヲ見ルベシ。小動脈ノ流血スル者アレバ結紮子



第十二圖 外眥成形術

ニテ夾ミテ止血スベシ、皮膚、險縁、結膜等ニ慢性炎症アル時ハ實質性出血ヲ見ルコノ時ハ強ク壓迫シテ止血スベシ。次ニ切開線ノ端(上下)ニ引張ルルハ鈍角ヲナス處ノ所ノ結膜ニ針ヲ刺シ次デ皮膚ヲ刺貫シテ結紮ス、コレ即新製外眼角ナリ。次ニコノ上下ニ於テ各一絲ヲ結紮ス、若シ切開小ナル時ハ第一絲ノミニテ可ナリ。之レニ由テ創面ハ全ク結膜及ヒ皮膚ヨリ被レテマタ癒著スルヲナシ(第十二圖)若シ一時性ノ目的ナル時ハ最後ノ縫合ヲナサズ結膜短ナル時ハ眼球結膜ニ弛緩切開(Entspannungsschnitt)ヲナス(Hause)或ハ

外眥成形術

外眥成形(切開)術

外眥部ニテ眼球結膜ヲ撮ミテ水平ノ皺襞ヲ作り之ヲ剪刀ニテキリテ三角ノ頂點外方ニ向ヘル結膜瓣ヲ作りオキテ、外眥切開ヲナシ、次デ先ヅコノ三角ノ頂點ニ針ヲ通シ皮膚ヲ刺貫シテ結紮ス(V. Oettingen)

繃帶 無毒的 第三日ニ絲ヲ去リ、繃帶ヲ去ル

麻醉 古加因局處麻醉 切開ノミナレハ要セズ

目的 瞼裂ヲ延長スルニアリ。一時性ノ縫合セザル者ハ一時瞼裂ヲ弛緩スルカ、瀉血スルニアリ

適應症 (一)瞼緣癒著症 (二)瞼裂ノ小ナル者 (三)瞼眥癒著症

切開ノミヲナス手術ハ (四)膿漏眼 (五)眼瞼痙攣症 (六)老人ノ急性結膜炎 (七)小兒ノ炎症的疾患 (八)眼窩内容除去術 (九)くれんらいん氏手術ノ準備的手術

二 Agnew 氏式

同氏ハ外眥切開ト共ニ外眥ノ近傍ニテ皮下ニテ輪匠筋纖維ト眼窩鞅帶トヲ切斷セリ

三すてるわーぐ氏眼瞼切開術 (V. Stellwag's schräge Blepharotomie)

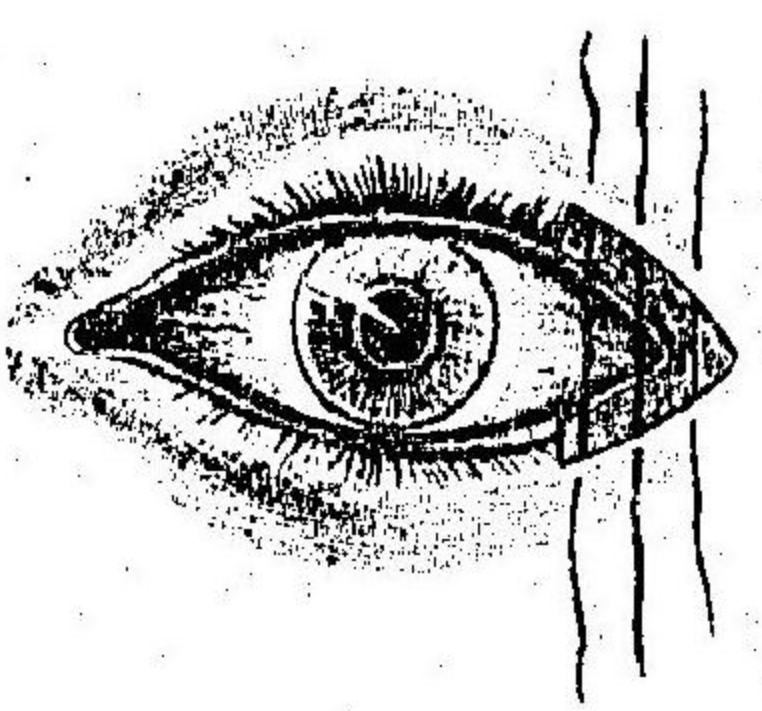
同氏ハ外眥ノ近傍ニ於テ瞼緣ヲ斜ニ切斷セリ

コノ二氏ノ方ハ何レモ一時性ノモノニシテ瞼緣ノ弛緩ヲ十分ナラシメントセル者ナリ

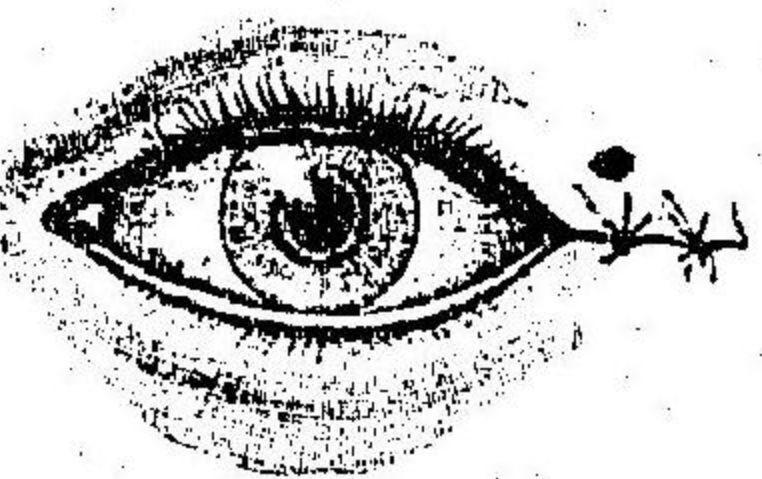
第七項 眼瞼軟骨縫合術 (Tarsorrhaphie)

一ぐれーふえ氏 (V. Graefe) 式 (第十三第十四圖)

第十 三 式 氏 合 縫 骨 軟 瞼 眼



第十四 四 式 氏 合 縫 骨 軟 瞼 眼



術式 内眥若クハ外眥ニ於テ瞼裂ヲ短縮セント欲スル丈ノ長ニ上下瞼緣ニ線間切開創ヲ作り、創ノ深サ約一密迷、次ニ眥ヨリ遠レル方ノ端ニ於テ垂直ニソノ前葉ヲ

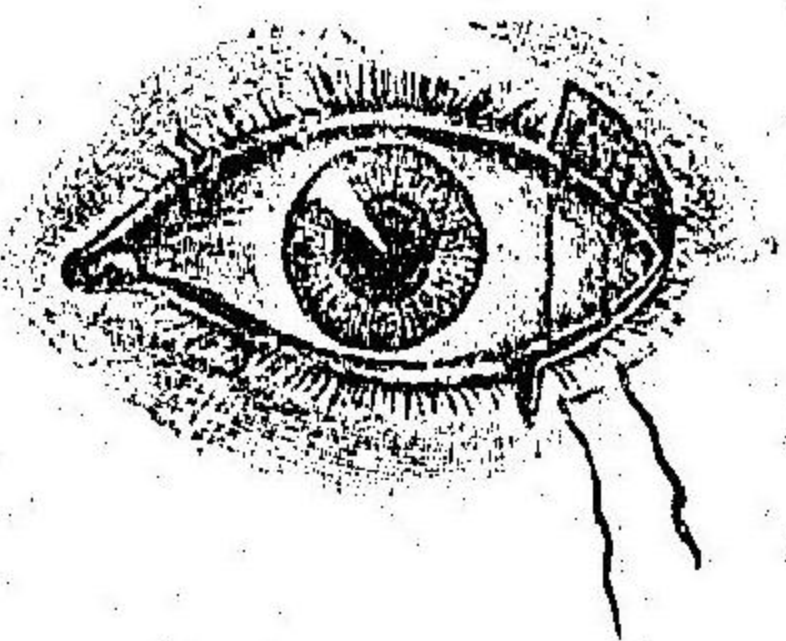
切斷シ、次ニ二密迷距リテ瞼緣ニ平行セル切開線ヲ上下瞼ニ作りソノ端相會シテV形ヲナサシメ、次ニコノ切開線ヨリ圍レタル皮膚ヲ筋纖維ヲ傷ツケザル様ニ切除スルキハV形ノ創面ヲ得ベシ、コ、ニ於テ上下ノ皮膚ニ絲ヲ刺シテ二三ヶ所ニテ縫合結紮ス

二ふくす氏(Fuchs)式第十五第十六圖

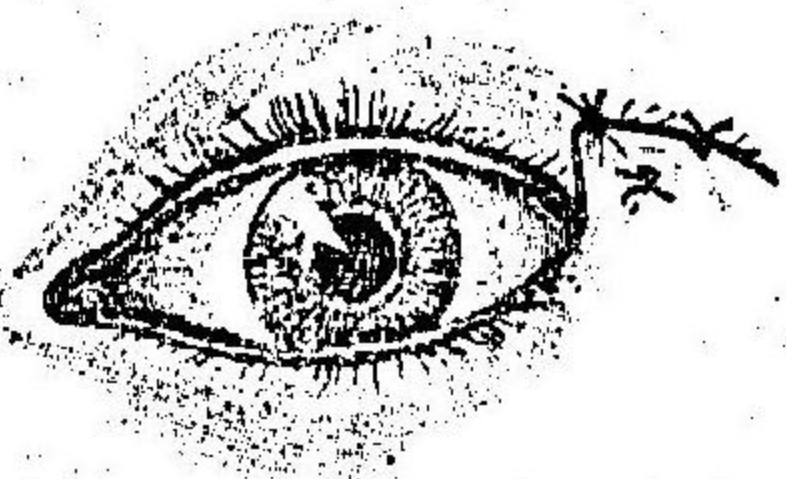
術式 外眥若クハ内眥ニ縁間切開創ヲ作り、上瞼ノ前葉(皮膚)ヲ切除シ、下

二ふくす氏式
眼瞼軟骨縫合術

第十圖
眼瞼軟骨縫合術
式氏すくふ



第十一圖



眼瞼ノ前葉ノ端ヲ垂直ニ切開シ、次ニ一絲ノ兩端ニ針ヲ附シタル者ヲ以テ上眼瞼ノ結膜面ヨリ刺シテ貫出セル者ヲ下眼瞼ノ前葉(皮膚)ノ裏面ヨリ刺入シテ皮膚面ニ貫

出シ、コノ兩端ヲ引キテ上眼瞼ノ皮膚ヲ切除セル殘餘ノ分(後葉)ヲ下眼瞼ノ切開セル兩葉ノ間ニ挿入シテ結紮ス

繃帶 通例ノ如シ、第三四日目ニ絲ヲ去ル

適應症 (一)先天性眼瞼延長症(二)兔眼(三)眼球突出症(ばせだう氏病)(四)外反

症(五)成形手術(六)斜視手術後ノ眼瞼ノ開大セル者(七)眼瞼輪匠筋麻痺

短縮スヘキ大ヲ如何ニシテ定ムヘキカ 手術前ニ鑷子ニテ試ニ上下眼

瞼ヲ撮ミテ手術後ノ結果ヲ豫想セシムベシ、延長セル眼瞼ノ度、外反、突出等

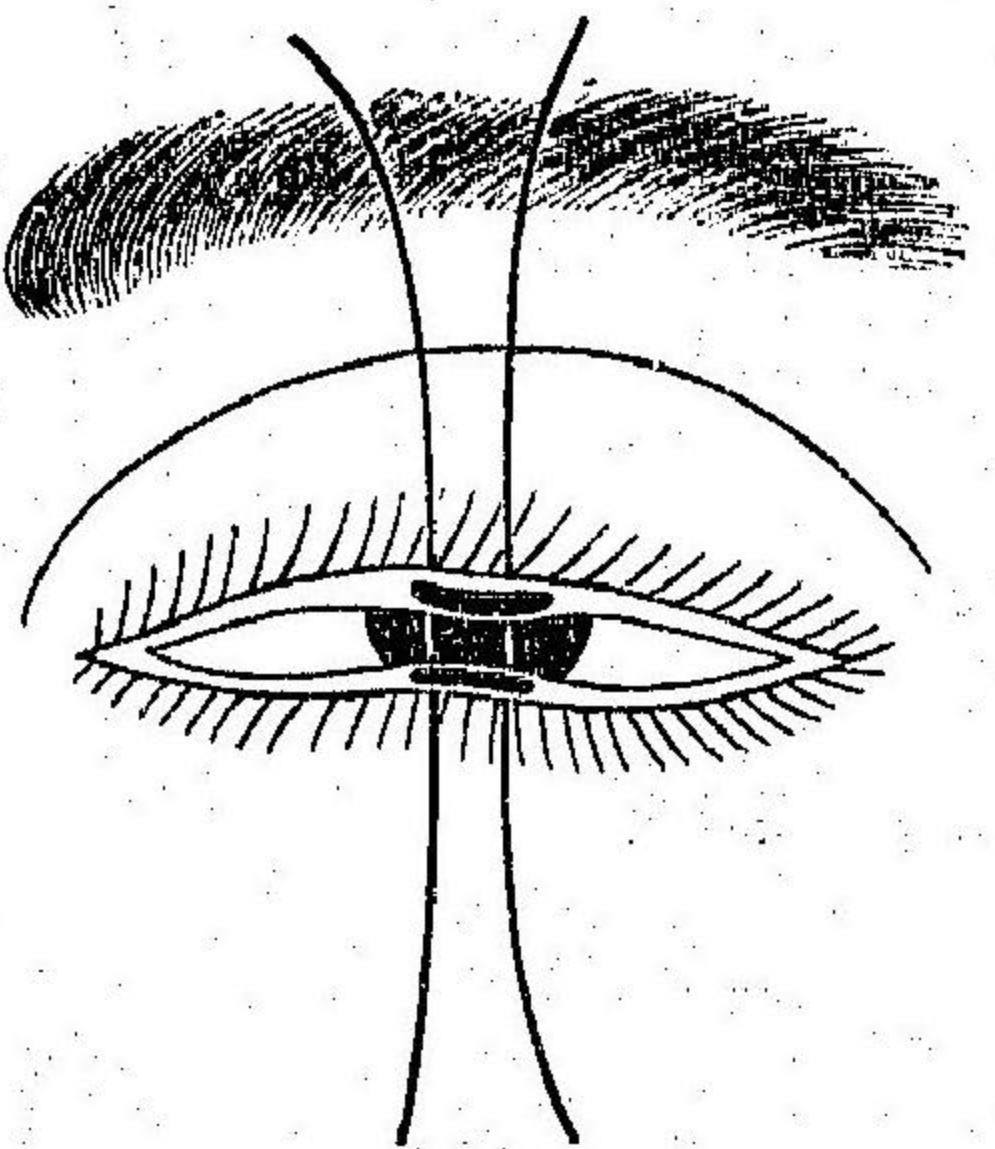
ノ輕重ニヨリテ一様ナラザルヲ勿論ナリ

三 眼瞼ノ中央ニ施ス眼瞼軟骨縫合術

(第十七圖)

眼瞼軟骨縫合術

第十圖
眼瞼軟骨縫合術



術式 上下眼瞼ノ中部ニ於テ睫毛ヲ避ケテ、眼瞼ヲ切除シ、絲ヲ上下眼瞼ニ通ジテ上下兩緣ヲ縫合シテ相癒合セシムベシ

適應症 兔眼症ノ高度ナル者

第八項 眼瞼全閉鎖術 (Vollständige Vernähungen der Lidspalte)

眼瞼全閉鎖術

術式 曲小剪刀ヲ以テ眼瞼ヲ線狀ニ切除シテ、涙點ヨリ外眥ニ至ル迄新創面ヲ作ル、コノ際睫毛ヲ傷ツケザル様注意スベシ、次ニ、上眼瞼皮膚ノ睫毛ノ上ノ處—上眼瞼創面—下眼瞼創面—下眼瞼皮膚ノ睫毛ノ下ノ處—ノ順ニ針ヲ通ジテソノ兩端ヲ結紮スルヲ五六絲

縁間切開術

適應症 (一)悪性膿疱、蜂窩織炎ノ爲メニ後ニ成形手術ヲ要スベキ程廣ク眼瞼皮膚ノ破壊セラル、時ソノ疾病治療中(二)成形手術ニテ上下眼瞼ヲ離置スルノ必要アル時(三)眼球摘出後結膜萎縮シテ義眼挿入ノ見込ナキ時(四)眼窩内容除去術後

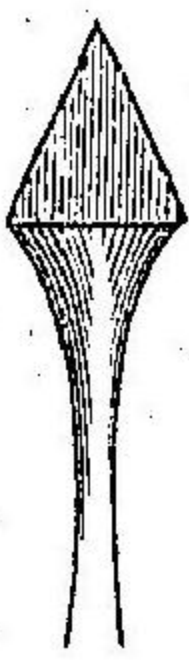
コノ手術ヲ要シタル原因ノ去レル時 即チ險裂閉鎖ヲ存スルノ要ナキ時ハ癒著セル所ヲ離解スベシ

第九項 縁間切開術 Intermarginalschnitt

術式 古加因水點眼ニ由テ結膜ヲ麻痺セシメ、次ニ古加因水ヲ險縁ニ沿

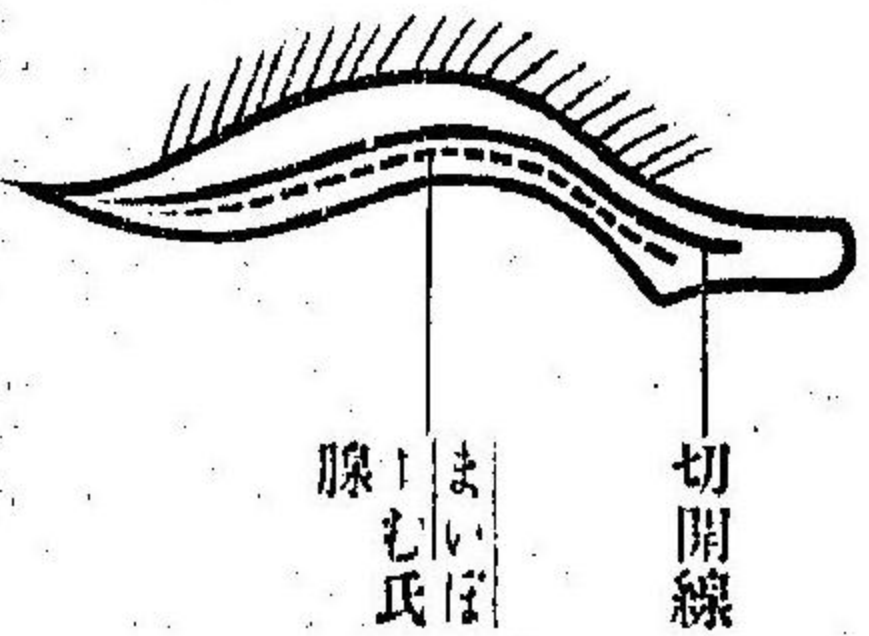
あると氏縁間切開線
縁間切開術
面斷

第十圖



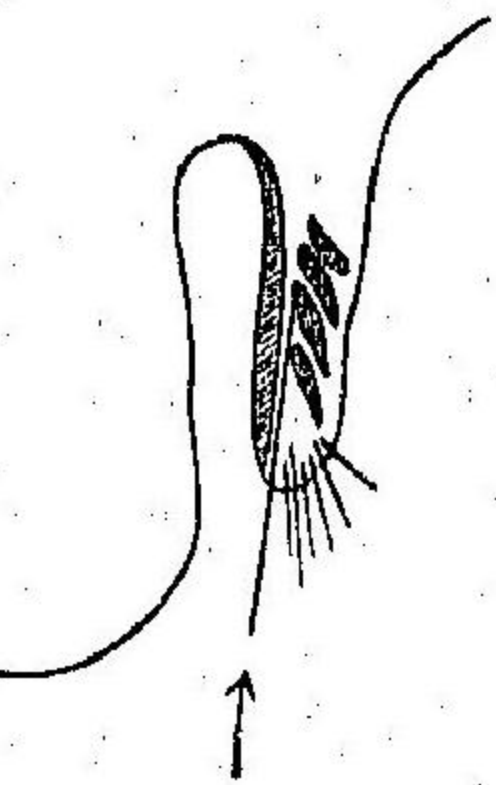
第十一圖

線開切間縁氏さるあ



第十二圖

面斷創開切間縁



ウテ皮下ニ注射ス(一%液一筒)術者ハ患者ノ頭ノ方ニアリ、助手ヲシテ角膜ヲ眼瞼ノ下ニ送入シタルモノヲ保持セシメ以テ眼球ヲ保護ス、術者ハ左手ノ示指ヲ以テ險縁ニオキテ輕ク上方ニ引カシメ以テ險縁ノ縁間部ヲ見ヤスカラシム、右手ニ三角形ノ兩刃刀(第十八圖)或ハ小尖刃刀ヲ以テ涙點ヨリ外皆ニ至ルマデ睫毛トまいぼー氏腺口トノ間ヲ切開シテ眼瞼ヲ前後ノ兩葉トス、前葉ハ皮膚及ビ筋肉ヨリシ後葉ハ軟骨及ビ結膜ヨリス(第十九圖、第二十圖)

適應症 睫毛亂生症及其準備手術

コノ法ハ Dr. Aethius (1534) 氏ヨリ、Paul von Aegina (1855) 氏ガ唱ヘタル者ナあると氏ガ再ビ賞揚セルガ爲ニあると氏「縁間切開術」トモ稱セラル

第十項 睫毛亂生及内反症手術

甲、始息或ハ一時性療法

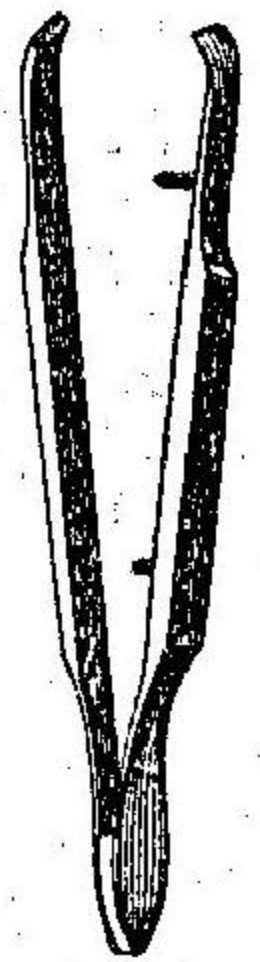
- 一 絆創膏ヲ皮膚ニ貼リテ牽引ス
- 二 加害ノ睫毛ヲ倒シテ「コロジューム」ヲ塗ル

睫毛亂生及内反症手術

縁間切開術・睫毛亂生及内反症手術

睫毛鑷子

第二十一圖
睫毛鑷子



三同ジク硬キ膏藥ヲ細ク截リタルニテオ
サヘオクベシト

四温鐵ヲ以テ睫毛ノ方向ヲ矯正スルコト

理髮人ガ鬚毛ノ形ヲ造ルガ如クス

五反復睫毛ヲ鑷子ヲ以テ拔去ス Epilation (第二十一圖)

六輪匠筋ヲ延長ス (Dehnung des Orbicularis) 筋性内反症ニ應用ス、虹彩炎、角膜

潰瘍等ノ爲

メニ反射的

ニ眼瞼痙攣

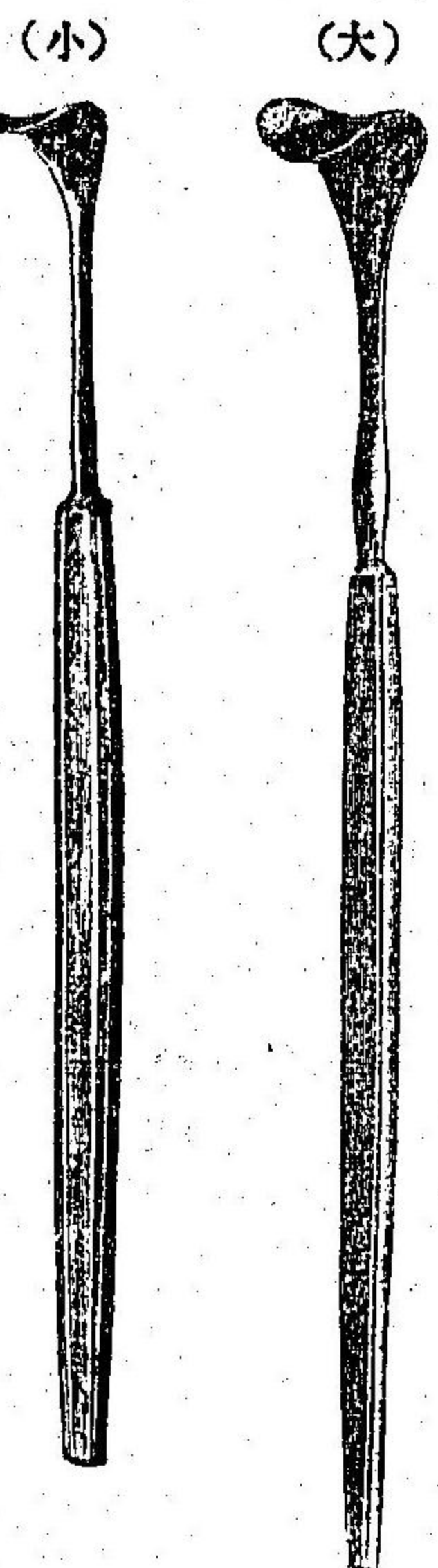
シテ内反症

ヲ呈スルト

キハですま

氏開瞼器
ですま

第二十二圖
氏開瞼器



氏開瞼器(第二十二圖)ヲ上下眼瞼ニ用ヒテ強ク引キテ輪匠筋ヲ延長セシ

七眼瞼皮下注射

八眼瞼裂ヲ延長セシム一外皆切開法(外眥成形術ヲ見ヨ)

九筋纖維ノ方向ニ直角ニ眼瞼ヲ截斷ス一すてるわーぐ氏眼瞼切開法 Schrage Blepharotomie Stellwag's.

一〇皮下ニテ軟骨及筋纖維ヲ截斷ス一皮下鉛直或ハ斜行筋及軟骨截斷法 Subcutane, lotrechte od. schräge Myo- und Tarsotomie

七八九ハ筋ノ緊張ヲ減ズルカ或ハ消失セシムル者ニシテ主トシテ筋性内反症ニ用ユベキ者ナリ

絆創膏ヲ貼スルハ離レ易ク睫毛ヲ拔去スルハ反テ強キ睫毛ヲ再生セシムルノ恐レアリ、而シテ老人性内反症ノ未タ睫毛亂生ヲ來サ、ル者ニシテ下眼瞼睫毛ガ角膜ヲ刺スガ如キ時ニ眼瞼ニ少許ノ壓ヲ加フレハ眼瞼ハ整復セラレテ睫毛ノ刺激ヲ免カル、ハ吾人ノ知ル所ナリ故ニをべんはいめる

Oppenheimer 氏ハ眼鏡枠ノ柄ノ根ノ處ニ下方ニ向テ眼鏡ノ下縁ト平行ニ下眼瞼ノ中央ニマデ及ブ突起ヲ稍、太キ線金ヲ以テ作リタリ、コノ眼鏡ヲ使用スル時ハ突起ハ下眼瞼ノ皮膚ニ衝リ眼鏡固有ノ重量ニ由テ壓スルガ故ニ下眼瞼ノ内反セル者整復セラレテ睫毛眼球ヲ刺激セズ、コノ眼鏡ニ突起ヲ

附シテ眼瞼ニ働カシメタルハ一千八百九十年ニござるごちへる Goldziher 氏ガ眼瞼下垂用眼鏡ヲ作りタルコトアルノミコノ眼鏡ヲ用ユルヲ

圖三十二



ズ遂ニ自ラ完全ナル根治的手術ヲ求ムルヲ例トス

第十一項 局部性睫毛亂生及内反症ノ手術

睫毛亂生、眼瞼内反ノ一局部ニ限ラレタル時ハ後文記述スベキ全部ヲ占ムル疾患ニ用ユル諸手術式ノ内ニテ應用スベキ者少カラズ例ハ眼瞼ノ内外皆ニ限ラレタル時ハすべんさー、わどそん、ふらーれる、すてるわぐノ式ノ如

局部性睫毛亂生及内反症ノ手術

一 眼鏡療法 Pelottenbehandlung (第二十三圖)

ト云フ原因ガ一時性ナルカ、都合上數日ヲ延期スルガ如キ時ニハ用ユベキモ原因ノ持續的ナルカ或ハ原因ノ去リ難キ時ハ眞ニ姑息的ニシテ效ナクヨシ一時ノ效アルモ患者反復スルノ繁ニ堪ヘ

ク中央ニ限ラレタル時ハほつ、えっしゅ、あるど、わるとはうえる、ふらーれる、すてるわぐ、みるりんげんノ式ノ如シ、コレラノ式ヲ應用スルニ足ラザル時即極小部分ニ限局セル時ノ如キハ亦一局部ニ於テ睫毛ヲ除去廢滅セシムルカ反轉ヲ整復セザルベカラズ、コレニ用ユベキ方法種々アリ

一 電氣毛毳破壊術 Elektrolytische Epilation.

白金針ヲ電池ノ消極ニ接続セシメ積極端ハ板狀チナサシメテ頂部若クハ頸背部ニオキテ電流ヲ通ズ、患者ハ椅子ニヨラシメ、術者ハ時計師ノ用ユル「ルーバ」ヲ用ヒテ局部ヲ檢シ微細ナル毳毛ヲ毛選セザル様注意スベシ、眼瞼ノ下ニ角板ヲ

圖四十二



挿入シ助手チシテ之レヲ保持セシメ術者ハ左手ヲ以テ積極板ヲ

オサヘ右手ヲ以テ針ヲ毛選ニ刺入ス電流ヲ通ズル事三十秒時コノ時毛選口白色ヲ呈シ少シク水泡チ生ズルヲ見テ止ム、電流ノ強ハ〇・五—一〇「ミリアンペヤ」針ヲ抜キテ次ニ錐子ニテ毛ヲ抜ケバ毛選ノ既ニ破壊セラレタル時ハ毫毛抵抗ナクシテ脱落スベシ、破壊スベキ毛選ノ數多キ時ハ「コカイン」ヲ局部ニ注射スベシ (第二十四圖) Czank Fig. 74.

局部性睫毛亂生及内反症ノ手術

- 一三河本氏烙白金點燒法
烙白金ノ尖端ヲ細クセルモノヲ以テ毛蓋ニ刺入シテ之ヲ破壊ス、コトニ下眼瞼
睫毛亂生ニ用ユベシ
- 一四まちぐのん Maignon 氏式 (1885)
皮膚ヲ切開シ創縁ヲ廣ク睫毛蓋ヲ暴露セシメオキテ之ヲ焼灼シ瞼縁ヨリ睫毛
ヲ奪ヘリ…睫毛亂生
- 一五たまむし *Tamamschiff* 氏硝酸銀腐蝕法
瞼縁ヲ軟骨ニ沿ウテ二葉ニ切開シ *6mm* ノ深サトナシソノ創端ヲ硝酸銀桿ニ
テ結痂ノ生ズル迄腐蝕セシム…睫毛亂生
- 一六皮膚切除法
睫毛根ニ接シテ皮膚ヲ切除シ縫合スル時ハ睫毛牽引セラレテ眼球ヲ刺傷セザ
ル様ニナルベシ…睫毛亂生…コント同シ作用ヲナサンガ爲メニ
- 一七局部焼灼法
- 一八局部腐蝕法
何レモ癩痕形成ニ由テ局部ノ睫毛亂生若クハ内反症ヲ治セント試ムル者ナリ
而シテコノ癩痕ヲ皮膚ノミニ止ムル人アリ深ク軟骨ニマテ及ス人アリ、べしし
る *Peschel* 氏ガ論文ノ中局部性睫毛亂生ノ手術トシテ列擧セル者ノ内ニ次ノ諸法

- アリ、何レトモ其理由ニ大差アルニ非ズ
- 一九さめるそーん *Samelsohn* 氏 (1873)
睫毛根ニ密接シテ焼灼電氣ニテ軟骨ニ達スル迄小孔ヲ作ラシメコレガ癩痕ニ
由テ睫毛ヲ外方ニ向ハシム
- 二〇ぶるぶ *Bruch* 氏 (1884)
一八ニ似テ鉛筆ノ尖端ヲ焼灼シタル者ヲ用ヒタリ
- 二一かれぞーすきー *Galzowski* 氏 (1877)
皮膚ヲ切開シ創縁ヲ廣ク烙白金ヲ以テ皮下組織、輪匝筋、軟骨表面ヲ焼灼セリ
- 二二ビローセ *Viense* 氏 (1884)
皮膚、筋纖維ヲ通シテ瞼ニ垂直ナル結痂線ヲ作レリ
- 二三わろもん *Warlomont* 氏 (1885)
氏ハ軟骨ニ達スル焼灼結痂ヲ作り次日之レヲ除去シテ更ニ強キ癩痕トナセリ
- 二四くりす *Christowisch* 氏 (1889)
或ハ皮筋、軟骨ニ達スル線狀焼灼法ヲナシ毛蓋ヲ避ケシメタリ
- 二五しみる *Simi* 氏 (1891)
氏ハ線狀焼灼ニ代ユルニ皮膚ヨリ軟骨ニ達シテ睫毛ヲ少シク距テタル所ニ少
シツ、ノ距ヲオキテ九—一—ノ焼灼點ヲ作レリ

眼瞼内反症及
睫毛亂生手術
ノ理論及分類

ニ六すれるれん氏圈絲法 Snellen's Inaqueatio.

コノ法ハ昔時行ハレタルヲすれるれん氏が再ビ用ヒ出シタルモノニシテ一針孔ニ絲ノ兩端ヲ通シ毛根部ニ接近シテ針ヲ皮膚ニ貫キ睫毛ヲ絲圈中ニ入レ絲ヲ牽引シ睫毛ヲ皮下ニ潜入セシム

第十二項 眼瞼内反症及睫毛亂生手術ノ理論及分類

内反症及睫毛亂生症ガ眼瞼ノ大部分ヲ占ムル時之レヲ手術的ニ治セントスルニ當リ先ツ如何ナル要素ガコノ病ヲ起スカチ解剖的ニ考究スルヲ要ス事實ニ於テハ數箇ノ要素相合シテ現ル、ナ例トスレドモ今コノ理論ヲ明亮ナラシムルガ爲メニコレガ要素ヲ擧ケレバ

第一、輪匝筋ノ痙攣アル時

第二、眼瞼皮膚弛緩スルカ、眼瞼結膜短縮スルカ、癢痕ソノ他ニテ眼瞼軟骨ガ彎曲スルカニ由テ内反スル時

第三、瞼縁ノ變形(睫毛亂生)アル時

ノ三ニ分類スル事ヲ得ベシコノ三箇ノ要素ニ就テ之レヲ矯正シ之レニ反對スルノ作用アラシムレバ治療ノ目的ヲ得ルハ明ナリ、今内反症及睫毛亂生症ノ手術ノ目的ヲ分類シソノ各種ニ就テ特色アルモノヲ例トシテ擧ケレバ次ノ如シ

眼瞼内反症及睫毛亂生症手術式ノ分類

I. 筋纖維ノ緊張ヲ減ズルカ或ハ消失セシム

- a. 痙攣セル筋纖維ヲ延長セシム、例、開瞼器ヲ用ユル法
- b. 眼裂ヲ延長セシム、例、外眥切開法
- c. 筋纖維ノ方向ニ直角ニ眼瞼ヲ截斷ス、例、すてゐわー氏眼瞼截斷法
- d. 皮下ニテ軟骨及筋纖維ヲ截斷ス、例、皮下鉛直或ハ斜行性筋及軟骨截斷法

II. 筋纖維及癢痕組織ノ牽引力ニ反對シテ眼瞼縁ニ鉛直ナル方向ノ力ヲ

以テ眼瞼ノ内方ニ反轉セルヲ整復セシム

- a. 眼瞼皮膚ノミニ於テ働カシム
- 1. 眼瞼ノ皮膚ヲ短ニス

- I. 皮膚ノ切除、例、ちさるすーす Cersus 氏
- 1. 皮膚ヲ夾牽シテ痘脫セシム、例、夾法
- 1. 腐蝕、例、ひぼくらてす、ちさるすーす、ちんけい Hippokrates, Cersus, Jungken.
- 1. 燒灼(溫鐵、燒鐵、烙白金、電氣)、例、ちさるすーす、あぶるすーす Cersus, Abulhasen.
- 2. 癢痕線ニ由テ固定ス、例、(ちさる)あるーある Galliard, Arlt. とんたりのりー Montgomery.

- b. 眼瞼ノ一固定點ヲ支點 (Stützpunkte) トシテ反對ナル牽引力ヲ働カシム
 - 1. 軟骨靱帶 (Fascia orbitalis) ニ支點ヲ有シ軟骨ヲ超エテ瞼緣ニ走ル鉛直ナル線痕ニ由テス、例、すねるれん Snellen 氏
 - 2. 軟骨ノ前面又ハ軟骨靱帶ニ皮膚ノ線痕ヲ固定ス、例、ほつつ Holz 河本氏
 - 3. 線狀線痕ニ由テ皮膚ヲ軟骨靱帶ニ固定ス、例、あるぼる Alipport 氏
 - 4. 瞼筋ノ瞼ノ前轉、例、はーげんすてーの Pagenstecher 氏
 - c. 眼窩緣ヲ支點トス、例、わるごはうぼる Waldhauer 氏

III. 鉛直ナラザル力ニ由テ内反ヲ整復セシム(下眼瞼)例、ぐれーぶ Graefe 氏

IV. 變形セル瞼緣ノ形狀ヲ變ズ

- a. 睫毛牀ノ切除、例、ぶらーれる、すてるわぐ Fierer-Stellwag 氏
- b. 睫毛牀ノ推移 (Verschiebung)、例、ぶらんげん Oettingen、うわーの Wecker、あるの Art 氏
- c. 睫毛牀ヲ推移シテ瞼緣ニ他ノ組織ヲ移植ス(皮膚、粘液膜)、例、わるとはうぶる、ぶらうぶる Waldhauer-Jasch-Art 氏

眼瞼緣成形術

- A. 皮膚瓣ヲ用ユル眼瞼緣成形術
 - I. 有柄皮膚瓣

I. 柄一ナル時

- 1. 皮膚ヲ一側ニ作り之レヲ線間切開創 Intermarginalschnitt. 中ニ置ク、
額部ノ皮膚ヲ用ユ、例、やこぶそん Jacobson 氏
眼瞼ノ皮膚ヲ用ユ、例、ほししゆうす Vossius 氏
- 1₂. 皮膚ヲ兩側ニ作り之レヲ兩方ヨリ線間切開創中ニ置ク、
例、すへんさーわこそん Spenser-Watson 氏
- 1₃. 皮膚ヲ他側ノ顔半面ヨリトリ癒著セル後ニ切り離ス、
例、に、うちー Nicati 氏
- 2. 柄ヲ中央ニオク、例、に、うちー 氏
- 3. 柄ニナル時即橋狀皮膚瓣ヲ用ユ、例、すちめみー Scimemi 氏

II. 無柄皮膚瓣

- I. 皮膚ヲ眼瞼ヨリトル、例、はししゆうあるの Jasch-Art 氏
- 2. 皮膚ヲ他ノ部ヨリトル、例、(上唇ノ前面ヨリス)はししゆう 氏
- 3. 皮膚ヲ他人ヨリトル
- B. 粘液膜瓣ヲ用ユル眼瞼緣成形術
 - 1. 有柄粘液膜(結膜)、例、りんごれる Lindner 氏
 - 2. 無柄粘液膜(口唇)、例、みるりんげん Millingen 氏

d. 瞼縁ノ復位ヲ計ル即瞼縁ノ内方ニ彎曲セルヲ恢復伸展セシム
 1. 瞼縁ノ近傍ニ於テ瞼縁ニ平行シテ軟骨ノ一部ヲ切除シ遊離セシメタル
 瞼縁ヲ外反シテ固定ス、例、へるり人、Berlin 氏

2. 同じク軟骨及結膜ノ全層ヲ切開ス、例、ばな一す Panas 氏

3. 軟骨ノ前面ニ瘻癩痕ヲ作りコレガ收縮ニ由テ眼瞼軟骨ヲ伸展シテ瞼縁
 ノ復位ヲナス、例、ペシエル Pechiel 氏

4. 軟骨ノ前面ヨリ線狀片ヲ切除ス、例、すれるれ人 Snellen 氏

5. 軟骨ノ後面ヲ切開シコレガ開口部ニ他ノ組織ヲ楔入ス、例、ぼろー Burrow 氏

コノ分類表中第一類ニ屬スル筋肉ノ緊張ヲ減ズルカ或ハ消失セシムル者ノ四
 種ハ既ニ一時性手術ノ所ニ詳述シタルヲ以テコ、ニ重複セシメズ、コ、ニ例ト
 シテ舉ゲタル術式ハコノ目的ノ特色ヲ示ス術式ヲトレリ、故ニ以下先ヅコノ表
 中ニ例トシテ撰ビタル者即固有ノ特色ヲ有スル者ヲ列記シ次テ他ノ諸氏ノ術
 式ノ異色アル者ヲ列記スベシ、讀者ハ必ズコノ諸氏ノ術式ハ皆分類表中二三以
 上ノ目的方法ヲ合併セルモノナル事ヲ知ルベシ、余ガコノ書ニ列記スル他ニ尙
 種々ナル術式アルベシ今後種々ナル報告ニ接ストモ恐クハコノ表所載以外ニ
 逸スル事ナカルベク、眼科ニ従事スル人ニシテコノ表ニ精通セバ必ズシモ各個

全部性睫毛亂
 生及内反症手
 術

第十三項 全部性睫毛亂生及内反症手術

ノ術式ヲ暗ンゼザルモヨク所用ニ臨ンテ種々ナル術式ヲ試ムル事ヲ得ベシ

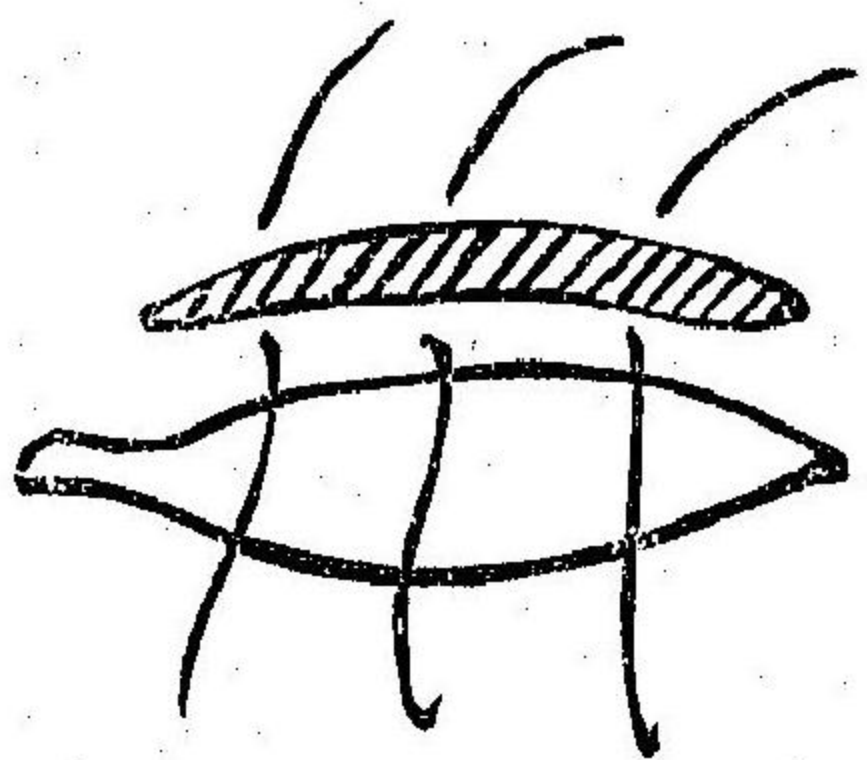
二七 ちるす一す氏式(第二十五圖)

半月形或ハ楕圓形ノ皮瓣ヲ眼瞼ヨリ切除シテ上下ノ創縁ヲ縫合ス

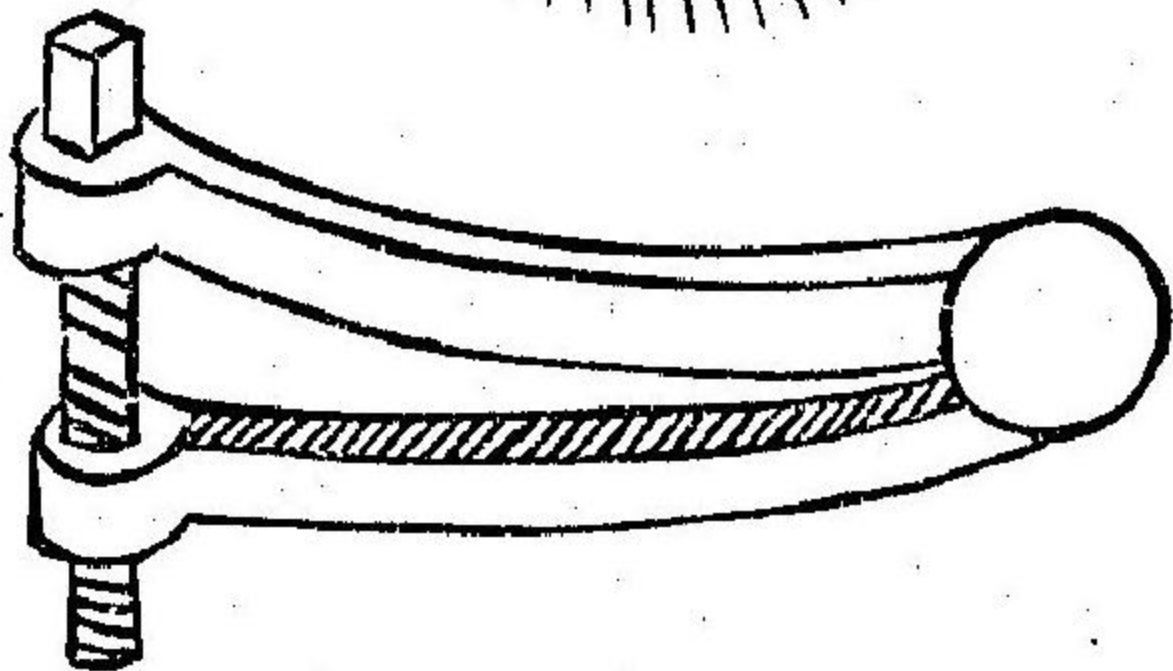
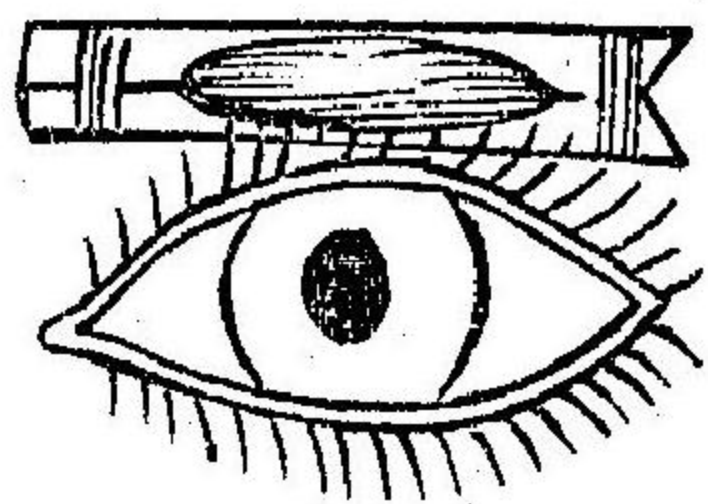
二八 夾法(第二十六圖)

支那ヨリ日本ニ傳リタル古法ニシテ圖ノ如ク竹桿(或ハ金屬)ノ細長キモノ二本
 ナテ皮膚ヲ夾窄シ瘻痕ニ陥ラシメタリ尙コノ脱落セル痕へ烙鐵ヲアテ或ハ

第二十五圖 ちるす一す氏式



第二十六圖 竹夾、銅夾



ちるす一す
 氏式
 竹夾、銅夾

涙點ノ下15mm.ノ處ニテ筋肉下ニ迄針ヲ刺入シ之ヲ外眥ノ下ノ處ニ引
キ出シテ横ニ縫線ヲ作レリ、コノ法モ一時ノ效アルノミ

三三 すねるれん Snellen's Naht氏(第二十圖)

絲ノ兩端ニ針ヲ附シ穹隆部ヨリ刺入シ眼瞼皮膚ノ同ジ位ノ高ノ處ニ出シ

更ニコ、ヨリ刺入シテ眼瞼皮膚下ヲ通り

瞼前縁ノ近ニ出ス他ノ一端モ同様ニシテ

兩端ヲトリテ瞼ノ整復スル丈ケニ強ク結

紮ス、約4mm.ヲ距テ、二乃至三同様ナル

方法ニテ絲ヲオク、一縷帶一絲ハ三四日ニテ抜キ去ル

應用

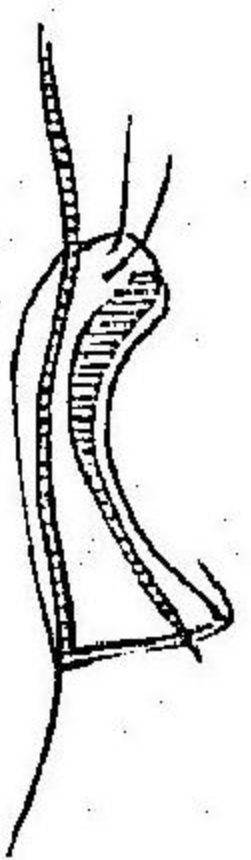
軟骨、瞼縁結膜ノ變狀ヲ伴ハザル痙攣性内反症ニ用ユベシ下眼瞼

三四 はつ Holz氏式(第三十一、第三十二圖)

鑷子ニテ瞼縁ノ中央ヲ撮ミテ下方ニ引クトキハ眼瞼軟骨ノ位置淺キ溝ニ
由テ水平ニ現ルベシ助手ヲシテ眉毛ト共ニ皮膚ヲ少シク上方ニ引カシメ
オキ、刀ヲ以テ眼瞼ニ彼ノ淺溝ニ從フテ水平ノ切開ヲナス、切開線ノ兩端ハ
眼角ヨリ2mm.上ノ處ニオクベシ切開ノ次ニソノ上創縁ヲ上方ニ引ケバ

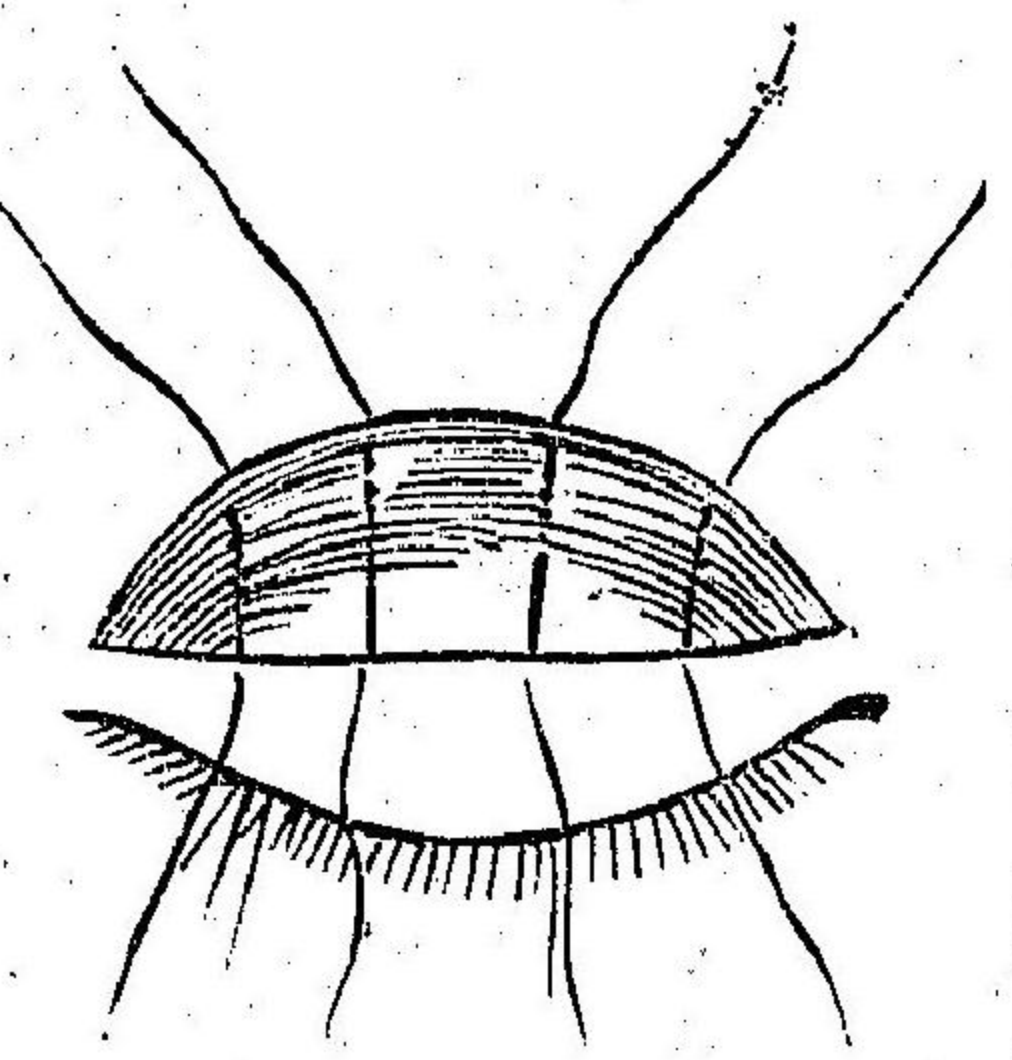
すねるれん氏

第三十圖 すねるれん氏

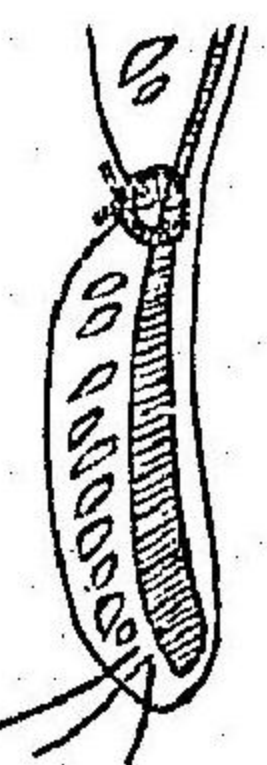


はつ氏式
はつ氏式
面圖

第三十一圖 はつ氏式



第三十二圖 はつ氏式断面圖



創口ハ開放セラ
ルベシ、次ニ注意
シテ筋纖維ノ間
ヲ開キテ黄色ナ
ル軟骨上縁ノ露
ル、迄進ムベシ

次ニ助手ニ下創縁ノ中央ヲ以テ眼瞼皮膚ヲ軟骨ヨリ引キ離シコノ時下創
縁ニ接シテ現ル、輪匝筋纖維束ヲ3mm.ノ幅ニ長ク皮創ノ長ク剪除ス、
止血針ヲ下創縁ニ2mm.瞼縁ヨリ距ル所ニ刺入シ上下創縁ヲ助手ヲシテ
開カシメオキ軟骨縁ノ下方2mm.ノ所ニテ腱膜ニ刺入シ軟骨面ノ上ヲ上
方ニ走ラシメ軟骨ヲ超ユルコト2mm.ノ所ニテ筋膜ヲ貫出シ更ニ上創縁
ノ皮膚ヲ貫カシム、カクスルコト四五絲、結紮内ニ輪匝筋纖維ノナキ様注意
スベシ、一縷帶、三日ニテ絲ヲ拔去ス
皮膚軟骨上縁ト癒著スルガ故ニ上眼瞼ヲ舉グルトキハ皮膚ニ皺襞ヲ作ル
ベシ、コノ法ニヨル牽引ハ眼瞼ノ位置ニ關セザルガ故ニ眼ヲ開キタルトキ

全部性睫毛脫生及内反症手術

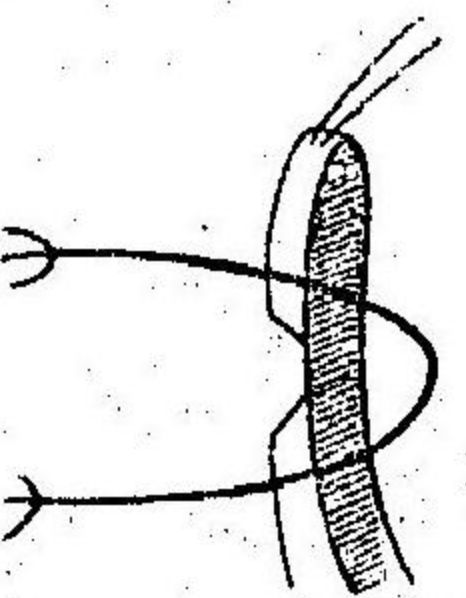
モ閉ヂタル時モ共ニ其力ヲ示スベシ
應用 上下眼瞼筋性内反症ノ陳舊ノ者睫毛亂生症ニテ眼瞼結膜ノ短縮軟骨ノ彎曲アリ不正ノ睫毛ガ瞼縁ノ後角ニ生ズルコト密ナラザル時利益 眼瞼ノ皮膚ヲ損ゼザルガ故ニ眼瞼皮膚ニ餘リ餘裕ナキ者ニ用ユルコトヲ得

變形 縫合スル前ニ皮膚ノ睫毛ニ屬スル方ヲ切除スル時ハ效力ヲ加ヘラルベシ又初メノ切開線ヲ稍下方ニオクモ同ジク效力ヲ増スベシ

他式トノ合併 線間切開法ヲ兼ヌルコトヲ得ベシばらう Burrow 氏ハ同時ニ軟骨ニ切開線ヲ作レリ Dohrborn 氏ハ軟骨ノ切除ヲ加ヘタリほつ氏自家モ軟骨ノ彎曲甚シキ者ニハ軟骨ヨリ楔狀長片ヲ切除セリ

河本氏式

河本氏式



三五河本氏式(第三十三圖)
 下眼瞼ノ縁ヨリ稍距テ横ニ半月狀瓣ヲ切除シ且ツ筋ノ一部ヲモ除去シテ創口上下兩縁ヲ縫合スルニ當リ兩端附針ノ絲ヲトリ其各針ヲ以テ下眼瞼ヲ稍其下方ニ於テ内面ヨリ外面ニ突貫シ一針

ハ創口ノ上縁一針ハ下縁ノ皮膚ニ通ズ絲ノ兩端ハ之ヲ結紮セバ創口ハ縫合セラルト同時ニ眼瞼軟骨ニ引付ケラレテ癒合ス下眼瞼ノ手術トシテハ尤モ賞愛ス

三六あるぼると Alipout 氏式

内反症輕度ノ者ニ軟骨ノ上縁ニ於テ皮膚結膜ヲ刺貫セル四―五絲ノ結紮ニテ效ヲ奏セリコノ時ハ眼瞼ノ皮膚ハ上方ニヒキ上ゲラレテオウル

三七ばーげんすてへる Pagenstecher 氏式

ほつ氏ノ修正ニシテ眼瞼軟骨ノ上縁ヲ距ルコト一密迷ノ處ニ横ニ切開シソノ中央ハ軟骨ニ達セシメソノ兩端ハ皮膚ヲ切ルニ止ムコレヲヒロゲル時ハ横橢圓ノ創面ヲ得ベシ助手ヲシテ鋸子ニテ下創縁ヲ下方ニ引カシメ術者ハ左手ノ示指ヲ以テ上創縁ヲ上方ニヒキ上方ニ創口ヲ開キテ軟骨面ヲ暴露スルニ至ラシム次ニ軟骨ノ上半部及ビ軟骨靱帶ノ上軟骨縁ノ部ヲ出シコノ際現ル輪匝筋ノ纖維ハ凡テ助手ヲシテ下方ニオシヤラシメ次ニ眼瞼ノ中央ニ於テ睫毛ヨリ一密迷上ノ處ニテ皮膚ニ刺入シ(強キ絲ヲ針ニツケルベシ)次ニ上創縁ヲ筋纖維ト共ニ鉤ニテ上方ニヒキ上軟骨ノ上部

全部性睫毛亂生及内反症手術

ヲヨク見ユル様ニナシ鉤鉚子ニテ横ニ軟骨靱帯ト險擧筋ノ睫トヲツカミ
 テ横皺襞ヲ作ラシム前ニ下創縁ニ刺入セル針ヲ以テ軟骨ノ上縁ヲ貫キ次
 テ皺襞ヲ刺貫シ次ニ上創縁皮膚ノ下面ヨリ上面ニ刺スベシ、カクスルコト
 中央兩側ニ於テ各一絲、次ニ先ツ中央次デ左右ノ絲ヲ結紮ス、コノ際創縁ノ
 ヨク相合スル様注意スベシ——綳帶——五六日ニテ絲ヲ去ル

目的 險擧筋ノ前轉

變形 にかち—式ハコレニ軟骨切開ヲ兼ネシメタリ

三八 八むるどはうえる Waldhauer 氏式

下眼瞼睫毛亂生ノ高度ノ者ニ外眼角ヨリ眼瞼皮膚ニ下眼窩神經ノ出ル所
 迄切開シテ深ク眼窩縁ニ及ボシ此切開線ノ處ヨリ皮膚ヲ線狀ニ切除シテ
 縫合スル時ニ皮膚ト軟骨下縁トヲ通シテ結紮スコノ時骨膜ヲ切り骨質ヲ
 現サシムル時ハ軟骨下縁ニ固定スルコトヲ助ケ從テ確實ナル支點ヲ與
 ヲルコトトナルベシ

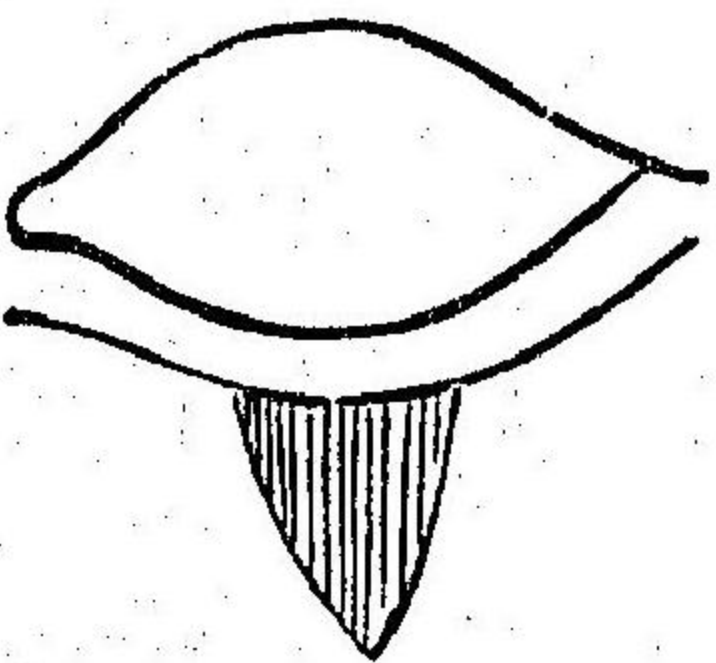
三九 ぐれ—ふ Graefe 氏式第三十四圖

瞼縁ヲ距ルコト 3mm. ノ處ニ長 1cm. ニ瞼縁ニ平行シテ切線ヲ作り之レヲ

ぐれ—ふ氏式

第三十四圖

ぐれ—ふ氏式



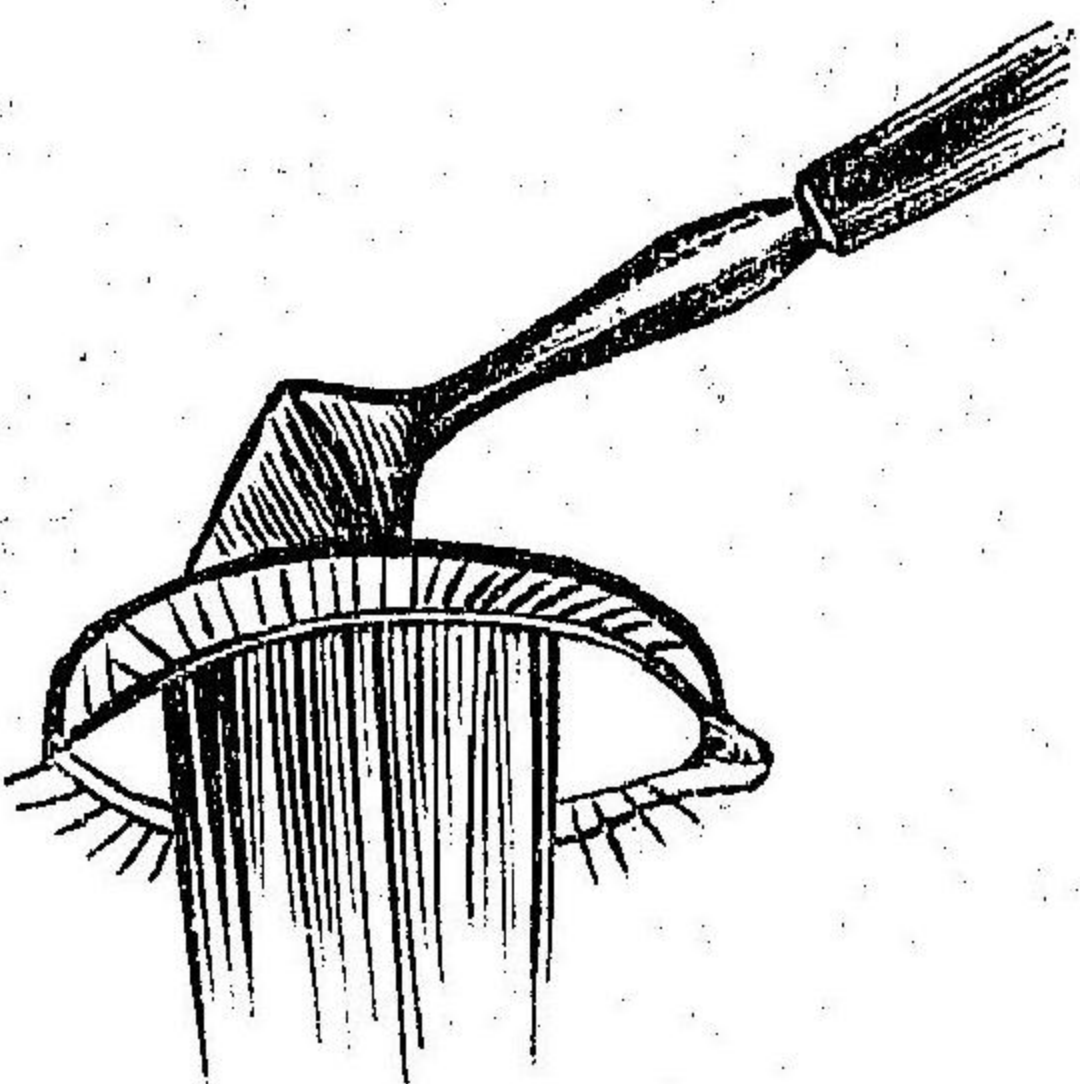
三分シテ中央ノ三分一ノ處ニソレ丈ノ底ヲ有
 スル三角形ノ皮膚瓣ヲ切除ス、次ニ此三角形ノ
 兩邊ヲ縫合スル時ハ横直各一個ノ創ヲ得ベシ、
 コレニ由テ皮膚ハ左右ニ縮小シテ眼瞼軟骨ヲ
 壓迫シ内反症ハ整復セラル、事ヲ得、下眼瞼

四〇 ぶら—れる、すてるわぐ氏瞼毛除去法 Abtragung des Wimperbodens nach Flarer-Stellwag am internen Lide. (第三十五、第三十六、第三十七圖)

眼瞼縁ヲ外眼角ヨリ涙點マデ切開シテ眼瞼ヲ二葉トナズコノ縁間創ノ深
 サ 3mm. 次ニ瞼縁ヨリ上方 3mm. ノ
 處ニ瞼縁ニ平行セル切開線ヲ作り
 其兩端ハ縁間創ヨリ内方ニオキテ
 端ヲ彎曲シテ縁間創ノ端ト相會セ
 シメ深サハ二葉トナリタル眼瞼ノ
 前葉ヲ切レバ可ナリ、次ニ睫毛ヲ有
 セル前葉ヲ彼ノ切線ニヨリテ剪除

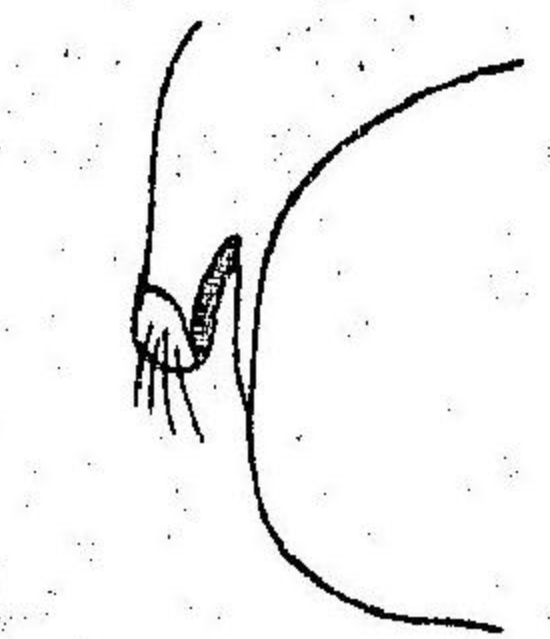
第三十五圖

ぶら—れる、すてるわぐ氏
 瞼毛除去法

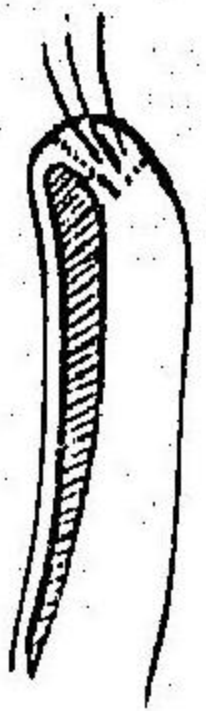


ぶら—れる、
 すてるわぐ氏
 瞼毛除去法

圖六十三



圖七十三



シ、次に得タル有睫毛眼瞼皮膚
瓣ヲ180°廻轉シテ創間ニ植付
シム(す)てるわぐ氏ハ平行ノ切
開線ヲ長クシテ外眥ヲ超サシ

メ曲線ニテ線間創ノ線ト會セシメタリ、コハ外眥ニ睫毛多キ時ニノミ必要
ナリ)有睫毛眼瞼皮膚瓣ヲトリタラバ之レヲ生理水中ニ入レオキテ先ヅ軟
骨面ヲ清淨シ止血セシメ然ル後ニ皮瓣ヲ創面ニオクベシ180°廻轉スルガ
故ニ眼瞼タリシ方ヲ下(下眼瞼ノトキ)眼瞼表面タリシ方ヲ上方ニユカシメ
皮瓣ヲ挫碎セザル様鑷子ヲ以テ靜ニ創面ニヒロゲ輕ク壓スベシ、コレニ由
テヨク皮瓣ガ粘著セル時ハ無益ニ之レニ觸レテ移動セシムベカラズ、次ニ
角板ヲ去リ靜ニ眼瞼ヲ眼球ノ上ニ載スベシ、結膜ノ分泌アル時ハ防腐綑帶
ヲナスベシ然ラザレバ沃度仿膜粉末ヲ厚ク撒布シ、石炭酸液ニテ消
毒セル彈力護謨紙、錫箔等ヲ保護的ニ被ヒ眼裂及眼瞼ノ軟骨部ヲ全ク蓋ヒ
コノ上ニ乾燥セル「ガーゼ」ヲオキ卷軸綑帶ニテ一眼綑帶ヲナス、患者ヲシテ
一二日間ハ他眼ヲ閉サシメテ手術セル眼瞼ニ共同的運動ヲ起サザル様ナ

スベシ、綑帶ハ通例結膜分泌甚シキガ故ニ皮瓣ノ癒著スル迄放置スルコト
能ハズ少クトモ毎二日分泌甚シキ時ハ毎日交換スルヲ要ス始メハ全ク蒼
白色ナル皮瓣ガ一二日ニシテ表皮ヲ剝脱シテ鮮紅色ヲ呈シ表面ノ濕潤セ
ルヲ見ル後再び蒼白色ニナリ表面乾燥シテ表皮ヲ以テ被ハルコトニ於テ
綑帶ヲ去リ華攝林ヲ塗布シ置クベシ綑帶長キニ過グレバ皮瓣ハ乾燥シテ
壞死スベシ

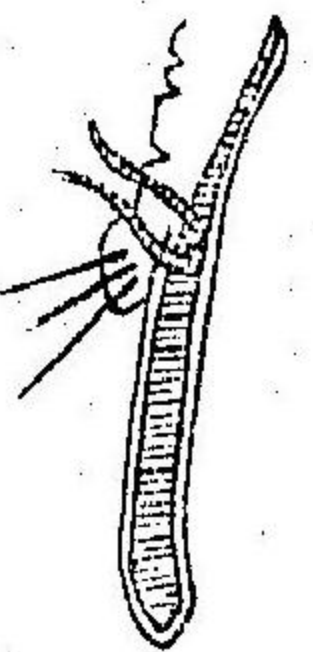
目的 初メふらられる氏ハ睫毛牀ヲ切除シテ眼瞼遊離線ニ線狀ノ瘻痕
ヲ作りタルモすてるわぐ氏之ヲ改良シテ上記ノ如クセルモノニテふ氏ハ
單ニ有害睫毛牀ヲ除去セントシす氏ハ除去シタル睫毛牀ヲ利用シテ瘻痕
ヲ防ギ普通ニ似タル眼瞼線ヲ作り尙軟骨ノ彎曲セルモノニテモ尙内反症ノ
成立ヲ妨害セントセルナリ、通例ハ睫毛牀ハヨク植へ付ケラル、モ時ニ睫
毛ノ全ク脱落スルコトアリ時ニ移植セル皮瓣全ク脱落スルコトアルモ尙
ふ氏ノ目的ハ達セラルベシ
コノ手術ニテ睫毛ノ脱落スルコトアルヲ防グ爲メニちるむZinn氏ハ切除
スル皮膚ヲ稍廣ク(5mm.)トリ毛囊ノ破壊セザル様注意スベシト云ヘリ

應用 下眼瞼内反症ニテ睫毛亂生アル者ニ用ユベシ、睫毛ヲ全クトリ去ルモ眼球ノ攝生ニ關スルコト少ナケレバナリ、上眼瞼ニモ用ヒラル、ふからハ、Walz氏ハ一眼角膜癆ニナリタル人ノ他眼頑固ナル瞼縁濕疹ニテ屢、濕疹性角膜炎ヲ反復シ角膜潰瘍ヲ生ズルノ恐アリタル者ニコノふら一れる氏式ヲ應用セリ

四一 Walz氏睫毛移送法 *Verschiebung des Haarwimperndolens nach Oettingen.* (第三十八圖)

氏睫毛移送法
Walz氏

圖 八十三 氏睫毛移送法



乳

圖 九十三 氏睫毛移送法



線間切開チナシテ軟骨ノ上縁ニマテ及シ軟骨ヲ被ヒタル皮膚ハ睫毛ヲ附シタルマ、軟骨ノ上縁ノ處ニ縫合固定シ軟骨ノ表面ハ瘢痕ノ生ズルニ任ズ

四二 Wecker氏式(第三十九圖)

線間切開チナシ皮膚ノ切除チセズシテ睫毛ヲ有スル前葉チ二三ヶ所ニテ皮膚全體ヲ結紮スルコト圖ノ如シ

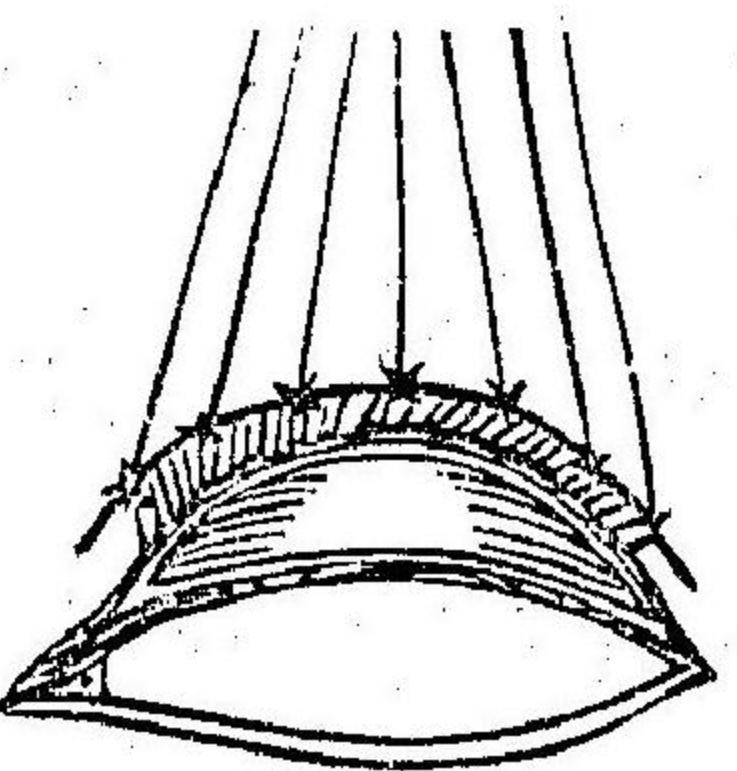
四三 あると氏線間切開法 *Internalmarginalschnitt nach Arlt* (前出)

四四 わるごはうえる氏瞼縁成形術ヲ兼ネタルえしゆあると氏睫毛移送法 (*Verschiebung des Wimperbodens nach Jäsch, Alt mit der Lidrandplastik von Waldha-ner*) (第四十、第四十一、第四十二、第四十三圖)

氏睫毛移送法
Waldha-ner氏



圖 一十四 氏睫毛移送法



氏睫毛移送法
Waldha-ner氏

圖 二十四 氏睫毛移送法

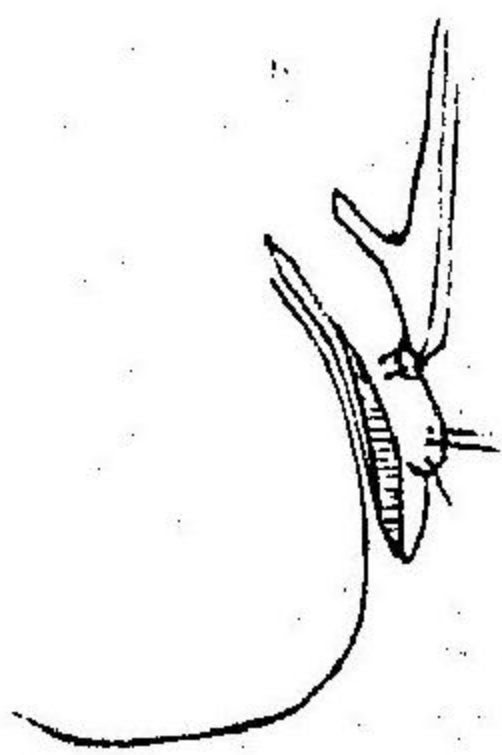
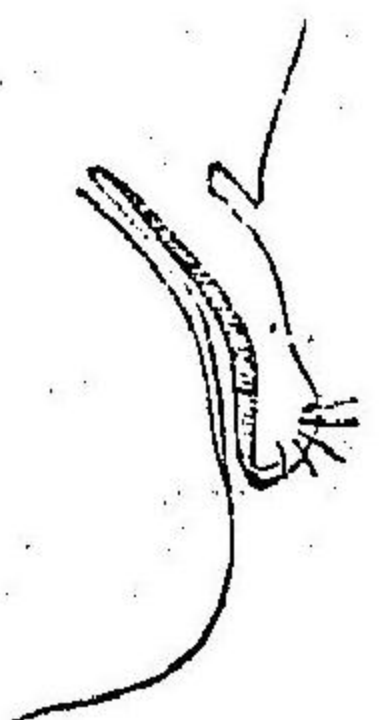


圖 三十四 氏睫毛移送法



外眼角ヨリ涙點ノ處マデ眼瞼縁ヲ切開線間切開創シテ眼瞼ヲ前後ノ二葉トナシ切開ノ深サハ上眼瞼ニテハ4—5mm. 下眼瞼ニテハ3—4 mm. 前葉ガ容易ニ後葉ヨリ移動セラル、程ナルベシ角板ヲ眼瞼ノ下ニ挿入シオキテ助手ヲシテ眉毛部ヲ上

全部性睫毛亂生及内反症手術

方ニヒカシメ術者下方ヲヒキ、前葉ヲ緊張セシメオキテ瞼縁ニ平行シテ第一切開線ヲ縁間切開ヨリハ稍長ク1.5—2.0mm.作ルベシ次ニ第二ノ切開線ヲ弓形ニ作り兩端ハ第一切開線ノ兩端ト相會セシメ切開線ノ深サハ何レモ筋層ニ達セシメズ次ニ剪刀ヲ以テ第一、第二ノ切開線ヨリ圍マレタル皮膚ノ一端ヲ細釣錐子ニテ撮ミ注意シテ筋層ヨリ剝離ス、コノ際誤リテ皮膚ニ窓ヲ作ラザル様ニスベシ、皮膚ヲ剝ギタラバ之ヲ食鹽水中ニオキ先ヅ皮膚ヲ去リタル創ヲ五六個所ニテ結紮縫合スベシ、結紮セル絲ノ端ハ長キマ、截リ捨テズシテ前額ニ列ベシメ之レヲ絆創膏ヲ以テ前額ニ固定シ以テ前葉ヲ上方ニ引キ上げシム、次ニ前ニ食鹽水中ニ入タル皮膚ヲ温メタル「スバ」テルノ上ヘ載セ注意シテ刺鍼ノ尖端ニテ廣ゲテ前葉ヲ引キ上げタルガ爲メニ現レタル眼瞼軟骨ノ前面ニオクベシ然シテコノ時移植セル皮膚ノ形ガコノ移植セラルベキ地ニ適應スルヤ否ヤニ注意シテ若シ適セザル部アラバ之レヲ切除スベシ、特ニ其端ニ於テ注意セヨ

繃帶 ふらゝれるすてるわぐ氏式ノ時ト同ジク長キ結紮絲ハ第一ノ繃帶交換ノ時ニ切ルベシ

目的 睫毛牀ヲ眼瞼縁ノ後角ヨリ遠ザケコ、ニ皮膚ヲ移植シテ新ナル廣キ瞼縁面ヲ作ラントスルニアリ

缺點 挿入セル皮膚後ニ萎縮シテ舊形ニ復スルコトアリ、皮膚ヲ短ニセルモ後チニ延展シ來タルヤ移植シタル皮膚ガ内反シテ角膜ニ觸ル、ニ至タリコトニ皮膚ニ毛ヲ生ジテ亂生セル睫毛ト同ジク角膜ヲ刺傷スルコトアリ

注意 眼瞼ノ皮膚短ナル時ハ上膊ノ皮膚又ハ唇軟膜ヲ用ユ、故ニ前以テ皮膚ヲ切除スルモ眼瞼尙眼球ヲ被フニ足ルヤ否ヤヲ檢スベシ

應用 コノ手術ハ睫毛亂生アリ結膜及ビ軟骨ノ收縮ノ爲メニ癩痕性内反症ヲ來タセル者コトニ眼瞼ノ中央部ニ著シキ睫毛亂生アル者ニ適ス、上下眼瞼

四五 やこぶそんほしゆうす Jacobson, Vossius 氏式(第四十四、第四十五圖)
縁間切開ヲナシ切開線ノ外端ヨリ30°—40°ヲナシテ眼瞼皮膚ニ3—4mm.ノ幅ヲ有スル皮瓣ヲ作り之ヲ縁間切開創ノ内ニ移植ス、皮瓣ノ長ハ睫毛亂生ノ場所ノ長短ニ從フやこぶそん氏初メ(1887)皮瓣ヲ顚顚部ヨリトリタルヲ

ほしゆうす
氏瞼毛亂生手
術(上眼瞼)
ほしゆうす
氏下眼瞼瞼毛
亂生手術

圖 四 十 四 第

術手生亂毛瞼氏すうゆしほ
(瞼 眼 上)

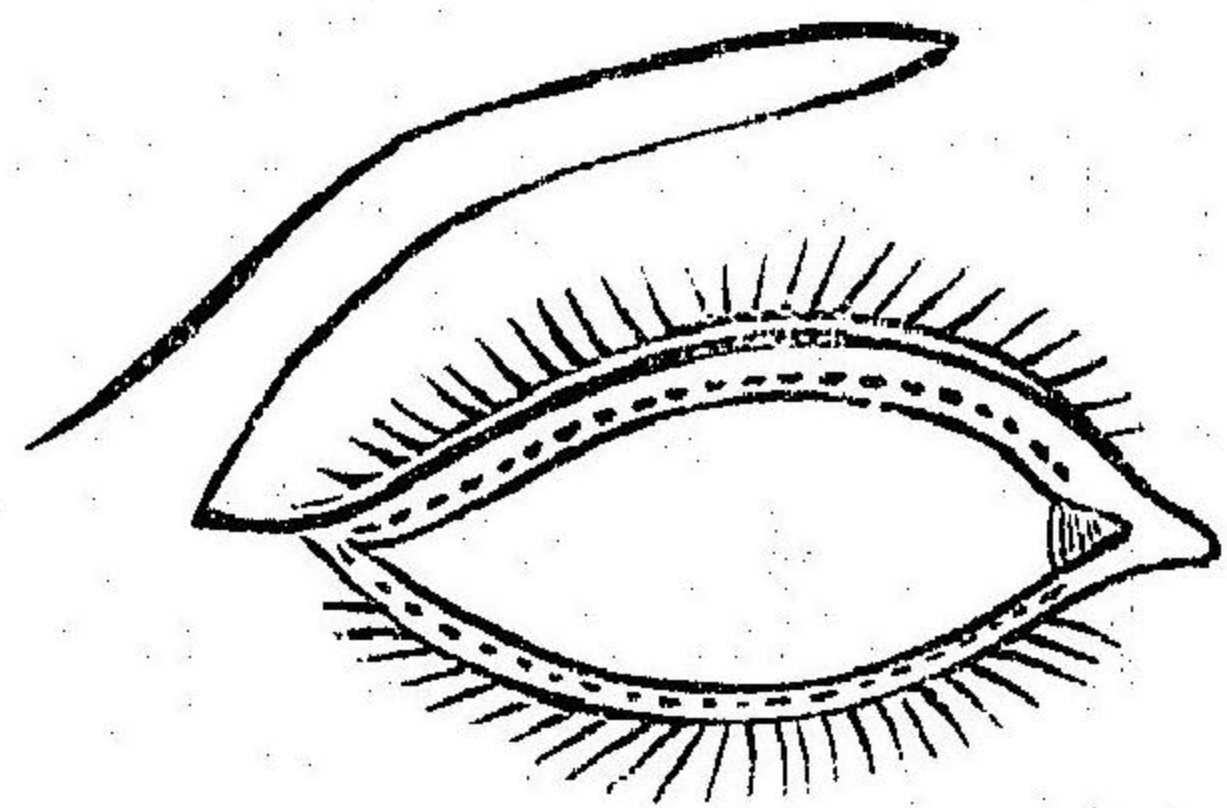
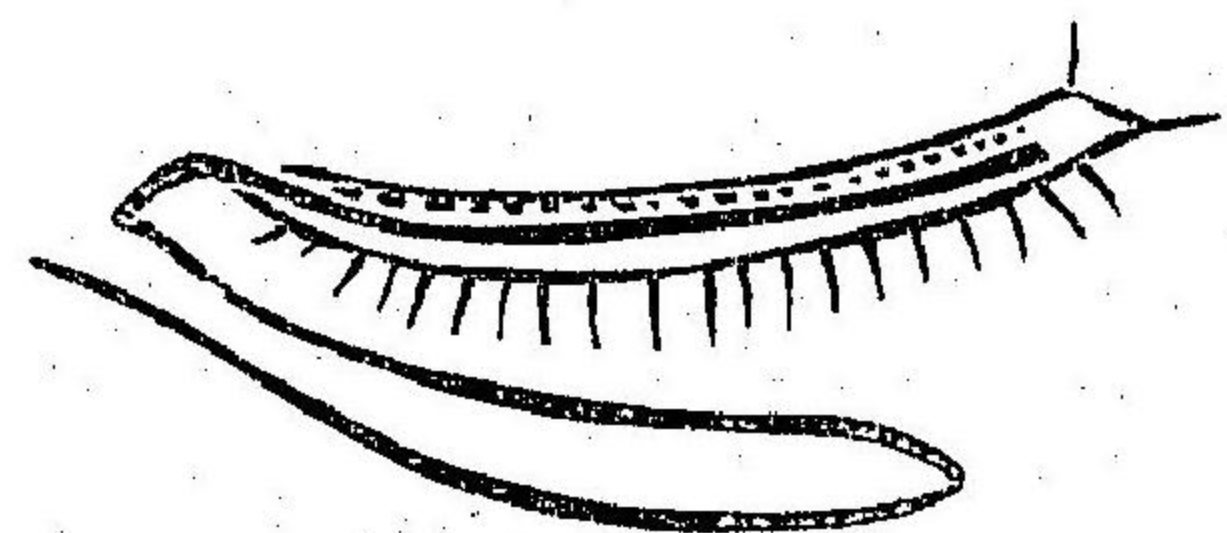


圖 五 十 四 第

術手生亂毛瞼眼低下氏すうゆしほ



ほしゆうす氏ガソノ
瞼毛ヲ有スルコトノ
多キト皮瓣ヲ柄ノ處
ニ曲グル事多キトノ
爲メニ修正シテ眼瞼
ヨリトルコト、ナセ
リ

ぶちやーる Bucha-

rdt氏ハやこぶそん氏

ヨリ前ニ之ヲ實施シタリ又や氏ヨリ前ニ報告(1882)シタリ而シテほ氏ハは
いでるべるひ第二十五回眼科學會(1887)ニコノ法ニ就テ報告セリ

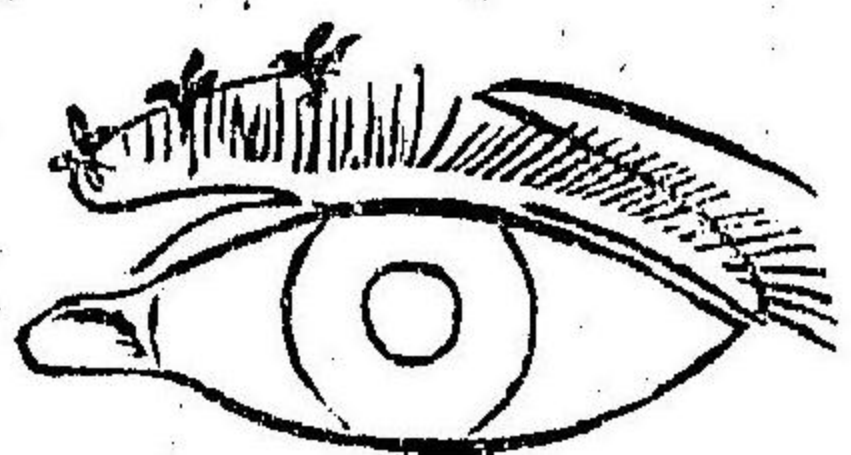
四六すへんさーむそん氏瞼毛牀移送法 *Verschiebung des Harbodens nach
Spencer, Watson (第四十六圖)*

瞼毛亂生ガ内反ノアルヨリハ稍 1-2mm長ク縁間切開ヲナシ次ニ瞼縁ニ
平行ナル切開ヲナシ其外端ハ曲線ニ由テ縁間切開線ト相會セシム次ニ同

すへんさー、
わそん氏
毛牀移送式

圖 六 十 四 第

氏んそむわ、いさんへす
式送移牀毛瞼



ジ程ノ距ヲ以テ(3-4mm)第三ノ切開線ヲ瞼縁ニ平
行ニ作ル第二線ノ内端ハ第三線ノ内端ト相會セシ
ム、コノ切開線ハ筋層ヲ傷ツケザル様ニ注意スベシ、
次ニ鑷子ヲ以テ各切開線ノ間ナル三角形ノ皮膚瓣
ノ尖端ヲ撮ミテ徐々ニ下ノ層ヨリ剝シコノ際筋織
維ヲ傷ツケザル様注意ス二個ノ三角皮瓣ヲ剝離セ

バ二個ヲシテ互ニ其位置ヲ變換セシム即チ上ナルヲ下ニナシ下ナルヲ上
ニナシテ圖ノ如クニ縫合結紮ス上皮瓣ノ下縁眼瞼縁ニ當ル所ハ縫合スル
ヲ要セズ、疾患瞼縁ノ全長ニ互ル時ハ左右ヨリ同様ニナス、上記切開法ハ外
皆部丈ヲ説ケリ

繃帶 えしゆあると氏式ノ時ノ如クス

目的 瞼毛牀ヲ移送セシメ尙之レヲ確實ニセンガ爲メニ有柄皮瓣ヲ嵌
入セルナリ

應用 内外ノ側方ニ病ノ著シキ時ニ用ユ

注意 眼瞼皮膚ノ少キ時ハ行フ事能ハズ故ニ前以テ檢スベキヲわるご

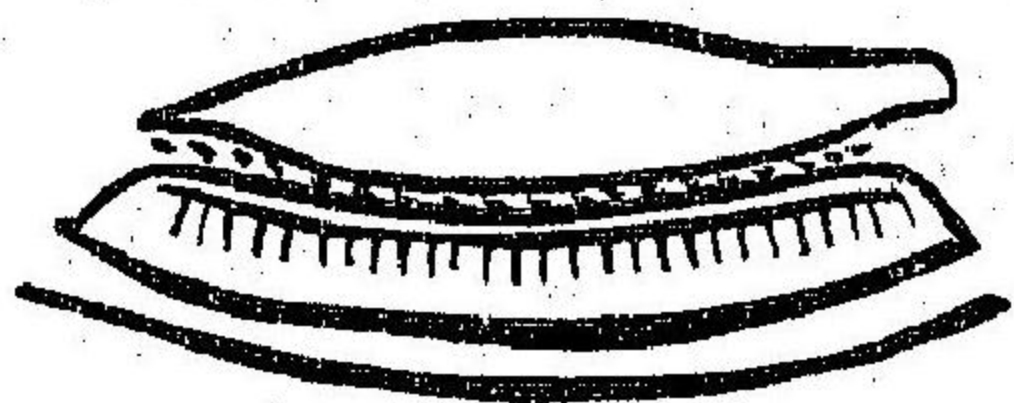
はうえるえしゆあると氏式ノ如シ

四七にかちーNici氏式

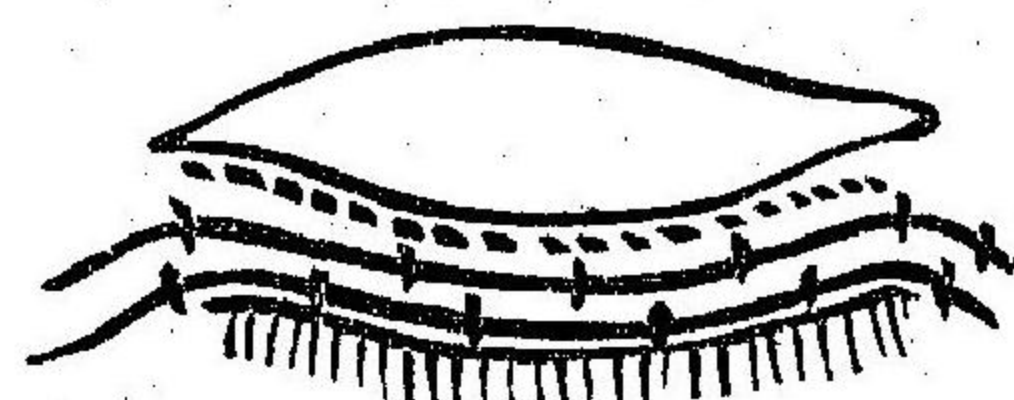
瞼縁ヨリ距レテ平行ニ狭細ナル皮膚片ヲ作ルコノ皮片ノ下縁ノ中央丈ハ下層ヨリ剥ガサズ、次ニ縁間切開創ヲ作リコレニ由テ離開セラレタル前葉ニ孔ヲ作リ、コノ孔ヨリ前作りタル皮瓣ヲ下方ニ引キ出シテ縁内切開ノ創中ニオケ

四八すちめみーSeimemi氏式(第四十七、第四十八圖)

四七十四第
氏しめちす
式ルユ用ヲ瓣皮狀橋



四八十四第



縁間切開ヲナシ深サ3-4mmトス次ニコノ兩端ヨリ斜ニ切開シ次ニコノ平行線ニ由テ3-4mmノ幅ヲ有スル皮膚ノ橋狀瓣ヲ作り毛睫ヲ有スル瞼縁ヲ移送シテ開口セル切開切開創中ニオキテ固定ス

すへんさーわさそん氏(1894)モ同様ノ橋狀皮瓣ヲ作レリ

四九みるりんげん Millingen 氏粘膜瓣瞼縁成形術

瞼縁ヲ切開シ中央ニテ3mmノ幅ヲ有スル位ニヒロゲコノ縁間創ノ開口ヲ保ツガ爲メニ眼瞼皮膚ヲ縁ニテ縫合ス、次ニ止血、口唇ヨリ探レルル25mmノ幅ヲ有

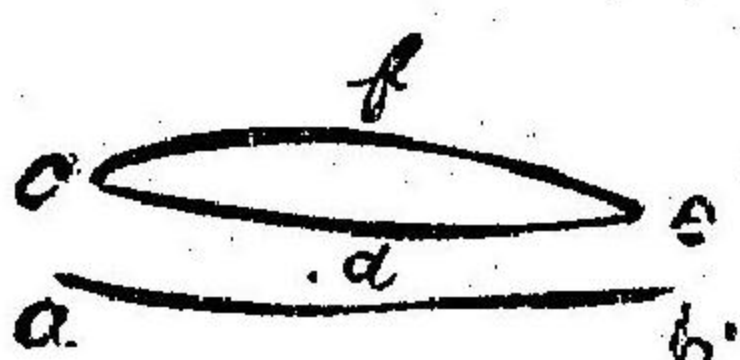
すちめみー氏
橋狀皮瓣ヲ用
ユル式

みるりん氏式

四九十四第
式氏みるりん



五〇十五第



スル粘膜片ヲ縁間創ノ間隙ニオキ、綿ニテ壓シ沃土仿謨華攝林ニテ綿帶、綿帶ハ二十四時後ニ交換ス、釣りタル綿ハ二日後ニ去ル(1887, 1888, 1889)
G. Korkashwili (1901), O. Mahed (1898), E. Rühlmann (1898), Israelson (1897), E. Franke (1892) 皆口唇軟骨ヲ用ユ、いすらひるそん氏ハ特ニ口唇ヲ固定スル鑷子トコレヨリ粘膜片ヲ切リトルヘキ刀ヲ作レリ

五〇べるりん Berlin 氏式(第四十九、第五十圖)

瞼縁ニ平行シテ3mmヲ距テ、平行ニ切開シ(ae)皮膚、筋層、軟骨、粘膜ノ全層ニ及ブ、次ニコノ上創縁ニテ軟骨面ヨリ筋纖維等ヲ剝離セシメソノ中央(d)ヲ鑷子ニテトリテ剪刀ヲ以テ半月形(高サ3mm)(chaf)ヲ切除シ(結膜ト軟

骨ト)瞼縁ヲ自由ニ外反シタル様ニナシテ皮膚ノ創ヲ三ヶ所ニ縫合ス

注意 まいぼーむ氏腺ヲ切斷スレドモすれるれん、はつ氏式ノ時ト同ジク術

後書ヲ見ズト云フ

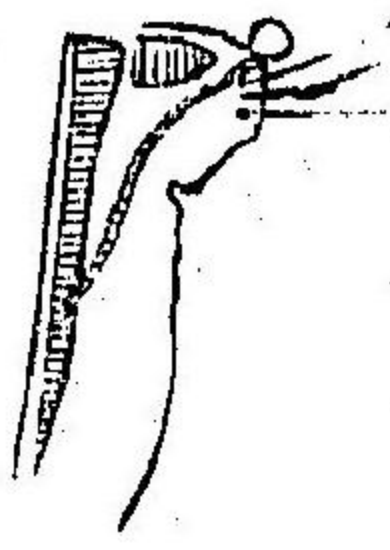
五一ばびす Knorpeldurchschneidung nach Panas 氏式(第五十一、第五十二圖)

全部性睫毛亂生及内反症手術

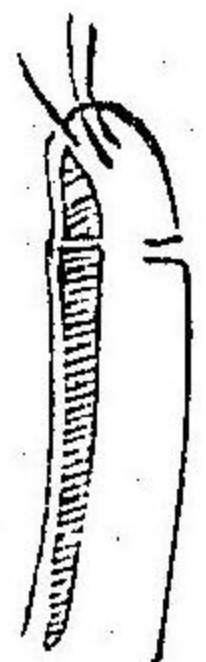
ばなす氏式

險縁ヨリ2-3mm. 距テ、コレニ平行ノ線ニテ皮膚及ビ筋層ヲ切開ス、次ニ
 コノ創口ヲヒロゲ下方ハ險縁マデ上方ハ軟骨ノ上縁ニ至ル迄ヲ軟骨面ヨ
 リ剝ガシテ軟骨ヲ全ク暴露
 セシメオキテ險縁ニ平行シ
 テ皮膚ノ切開線ヲ深クシテ
 軟骨及ビ結膜ヲ切開スベシ

第一十五圖 式氏すなげ



第二十五圖



即チ軟骨ノ下縁ハ遊離セル險縁ト共ニ全ク分離セラレ唯タ側方他ト接續
 スルノミ、次ニ絲ノ兩端ニ針ヲ附シテ軟骨縁及ビ軟骨靱帶ヲ結膜面ヨリ刺
 貫シテ軟骨ノ前面ヲ走リ軟骨ト筋層トノ間ヲ通りテ險縁ニ相併ベテ出シ
 結紮ス、皮膚創ハ縫合ス

繃帶 ほつすねるれん氏式ト同ジ、深キ絲ハ四五日ニシテ去ル
目的 結紮スルヤ睫毛ヲ有スル部ハ前方ニ反轉シテ睫毛前面ニ向キ軟
 骨ノ切開セル所ハ、後ニ結締織ニテトデラレテ險裂ニ位シ險縁ノ後角ヲナ
 スベシ

應用 睫毛亂生ニ内反症ヲ兼タル時ニ用ユベシ

變形式 えしゆ Jach 氏ハ皮膚ノ切除ヲ兼ネシメタリ Noyes (1890) 氏ハ術
 後「コロジューム」ヲ以テ睫毛ヲ皮膚ニ粘著セシメタリ

五ニべしる Paschel 氏式

險縁ヲ距ルニ密迷ノ處ニ險縁ニ平行セル一横切線ヲ險外皮ニ作り、次ニ輪匠筋
 ナ切斷セメ様ニ注意シテ筋纖維ヲ別ケ軟骨面ヲ露出セシメ適當ナル大サニ烙
 鐵又ハ燒灼電氣ヲ以テ軟骨上面ヲ燒灼ス、次ニ皮膚創ノ縫合
繃帶 コレニ由テ軟骨面ニ生ズル癩痕ガ收縮スルニヨリテ軟骨ヲ伸展シテ
 毛根塵ヲ起キカヘラシム

應用 上下眼瞼

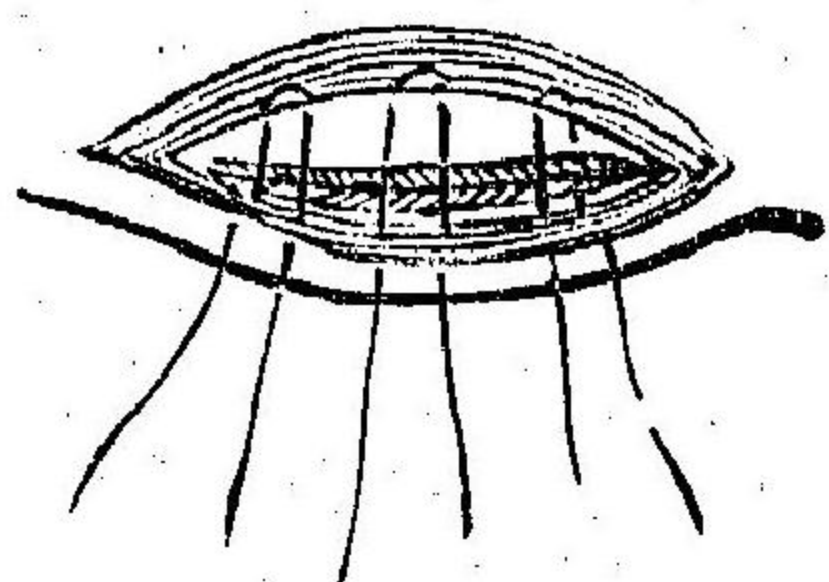
效用 奏效速ニシテ外貌ヲ損セズ持久ノ效アリ、手術容易ナリ

五三すねるれん氏楔狀軟骨切除法 Keilförmige Knorpelausschneidung nach Snellen.

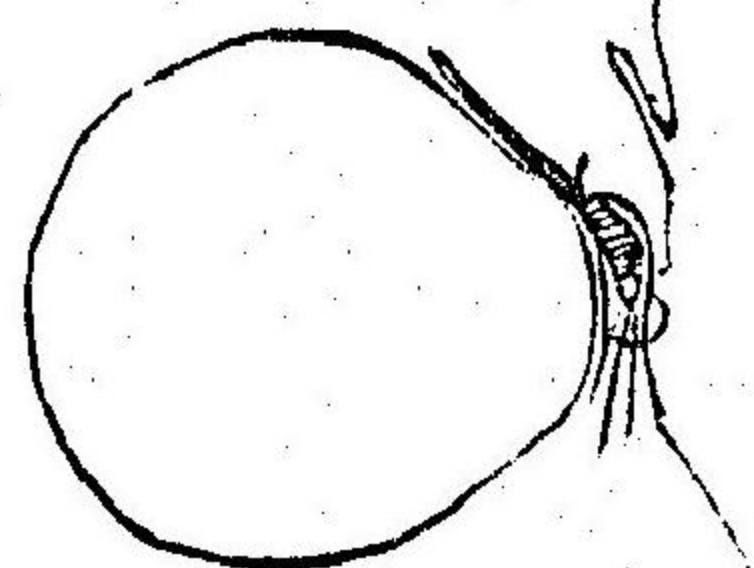
(第五十三、第五十四、第五十五、第五十六圖)

險縁ヲ距ルコト約二密迷ノ處ニ皮膚ヲ切開シテ現レ出ヅル筋纖維ヲ二密
 迷程ノ幅ニ切除シテ軟骨ヲ表面曝露セシメベーる氏白内障刀ヲ用ヒテ適
 宜眼瞼骨ノ彎曲ノ度内反ノ度ニ應ジテ大小アルベシ横ニ斷面楔狀ヲナス
 長片ヲ軟骨面ヨリ切除ス、コノ際軟骨全層ヲ切ルモ裏面ヲ被フ結膜ヲ切開

すれんれん氏
式、横断面



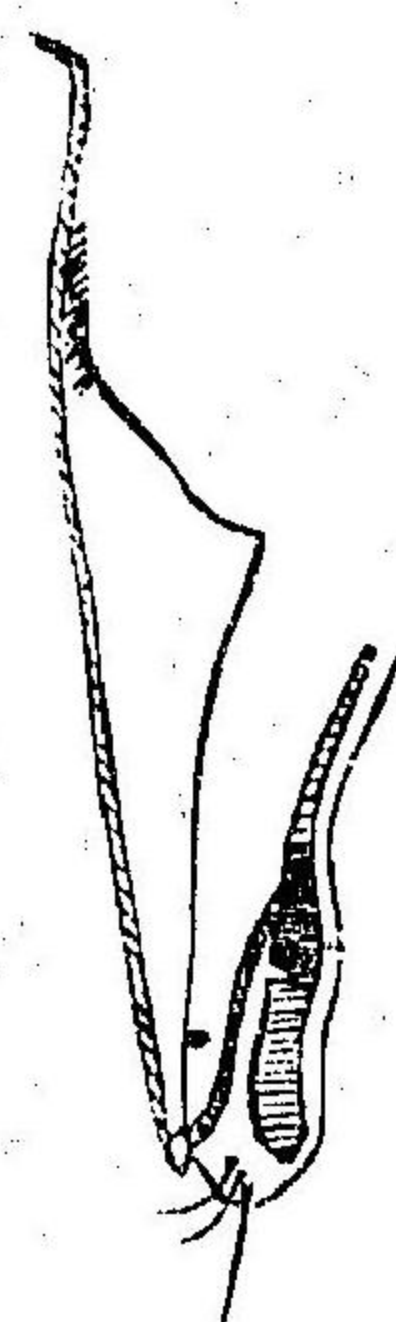
圖三十五第



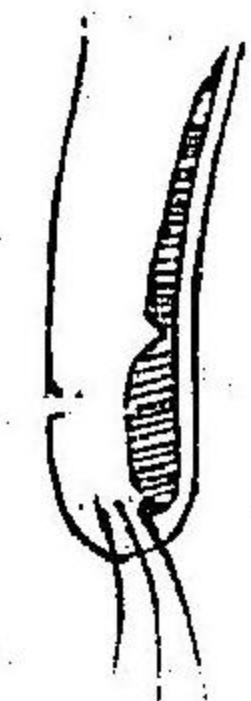
若クハ切除セザル様注意ス
ベシ、次ニ糸ノ兩端ニ針ヲ通
ジ先ヅ一針ヲ軟骨上縁ニ刺
入シテ軟骨ノ上面ヲ通り皮
膚及ビ筋層ノ切開創ヲ下面
ヨリ上面ニ險縁睫毛ノ上ノ

すれんれん氏
式、横断面

圖五十五第
式、横断面



圖六十五第



處ニ刺貫
ス少シク
距テ、第
二針ヲ通

ズルコト同様ナラシム、カクノ如クスルコト三個所ナルベシ、次ニ針ヲ去リ
糸ヲ軟骨ノ彎曲整復セラレ内反ノ治スル丈ケニ結紮ス而シテコノ結紮セ
ル糸ノ端ハ長ク額部ニ送り絆創膏ニテ眉毛ニ粘著セシム、次ニ皮膚ノ切開
創ハ通例ノ如クニ二三個所ニテ結合ス
繃帶 ほつ氏ノ如クニナシ、軟骨ヲ通セル糸ハ第二日ニ去ル

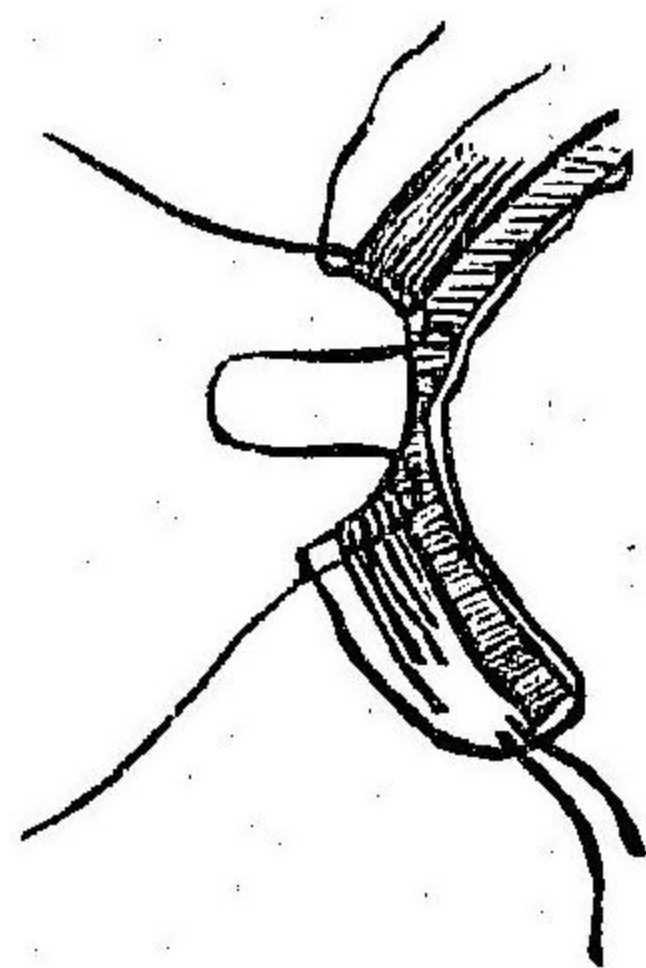
目的 彎曲セル軟骨ヲ凸面部ヲ少ク牽制ニ由テ整復セントセルナリ
應用 睫毛亂生アル眼瞼内反症ニ軟骨ノ彎曲及肥厚ヲ伴フ者ニ適ス
變形式 ほつ氏法ト同ジクシテ結合糸ハほつ氏式ニ
ヨレリ

五四すれんれん氏第二法(第五十七圖)

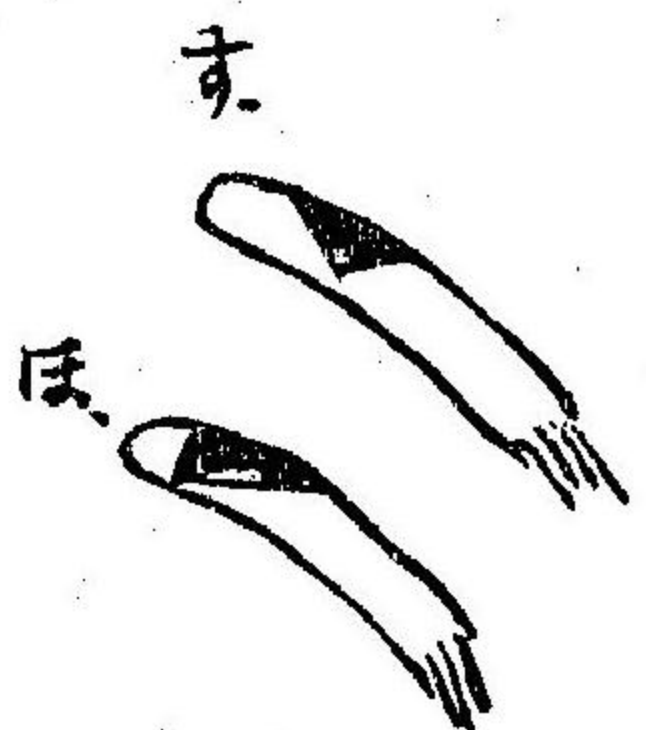
すれんれん氏 Sreenfield (1898) ナリ氏が修正セル者ナリ六密迷眼瞼縁ヨリ上
方ニ險縁ニ平行シテ皮膚ヲ切開シ、上下創縁ヲ皮膚下組織ヲ剥ガス、次ニコノ創

すれんれん氏
式、横断面

圖七十五第
式、横断面



圖八十五第
氏、横断面



口ニ現ル、
筋纖維ハ剪
除ス、軟骨面
現ル、ヤコ
レヨリ三角
形ノ長片ヲ

切除ス三角ノ尖端ハ結膜ニ向テ、次ニ上下創縁ニ於テ皮膚ト共ニ軟骨筋層ヲ同
時ニ針ヲ刺シテ結紮ス、糸ハ三日後ニ去ル

變形式 ほつ Holz氏モ Sreenfield, Snellen氏ト同シクナセルモ軟骨切除ノ方法稍

異リ先ヅ直角ニ軟骨ヲ切開シ次ニ直角ノ切開ニ向テ斜ニ第二ノ切開ヲナシタリす氏ノト断面圖ヲ比較スルトキハ上ノ如シ(第五十八圖)

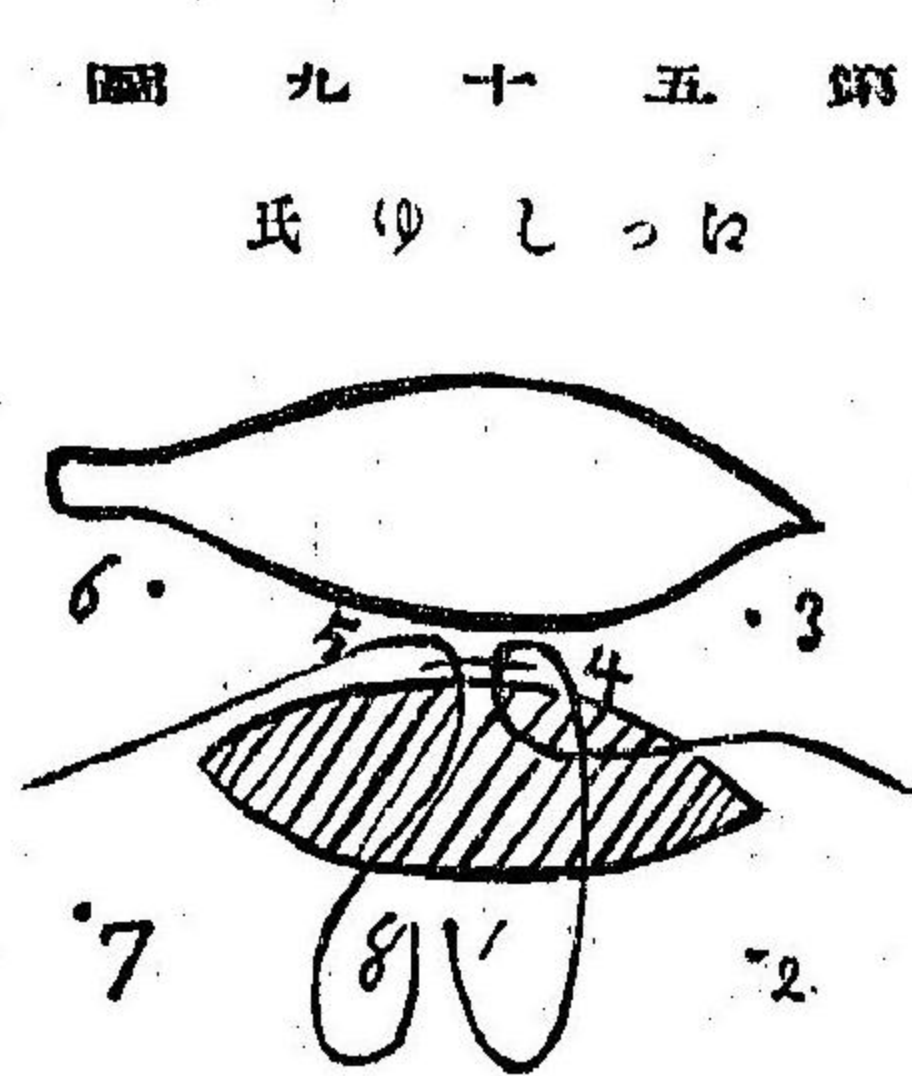
五五 ばらち Brow 氏式

結膜面ヲ軟骨マテ切開シ、ソノ切開セル處ニ皮膚或ハ口粘膜ノ一片ヲ縫合ナシニ入レガク

きふー Gifford (1892) ハ氏式ヲナシタルニ挾ミタル瓣角膜ヲ刺激セルモ後ニハ之レニ慣レタリ尙リノ餘分ナルモノハ銅棒ヲ以テ消失セシメタリト

五六 せしや Jasch 氏式第五十九圖

眼瞼ヲ距ル 10mm. 眼瞼ノ中央ニ針ヲ刺入シ(1)水平ニ外眼角ノ處ニテ出シ更ニ刺入シテ(2)外眼角ニ出シ(3)更ニ睫毛ノ直下ヲ通りテ眼瞼ノ中央(4)ニ出シ 1mm. 距テ、即チ 10mm. ノ絲橋ヲ作りテ刺入シ(5)内眼角(6)ニテ出シ更ニ刺入シテ直角ニ下リテ出シ(7)更ニ入りテ最初ノ刺入點ノ近ニテ出シコノ絲ノ終ヲ絲橋ヲ下ヨリ上方ニクグラシメ絲ノ始端ヲ絲橋ヲ上ヨリ下方ニクグラシメ、オキコ



第五十九圖 せしや氏式

ノ絲ヨリナレル四角形ノ内ニ横橢圓形ノ皮膚ヲ切除シテ絲ノ兩端ヲ結ビ

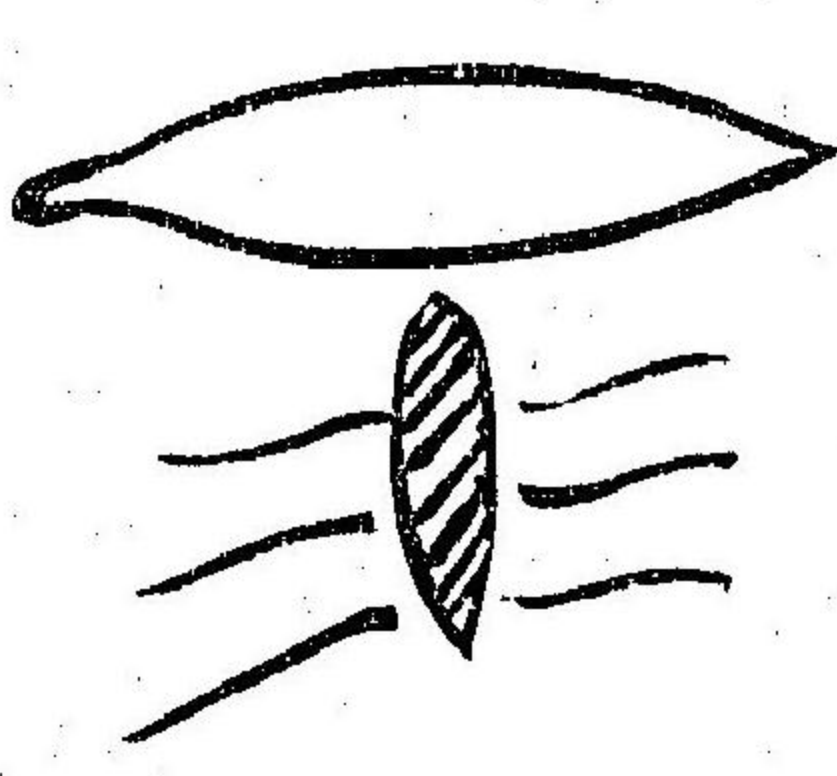
結紮ス

五七 かんじゆびら Carron du Villard (1838) 氏式

(第六十圖)

1 cm. ノ長サ 2-3 mm. ノ幅ニ鉛直ニ皮膚片ヲ眼瞼ヨリ切除シ左右ノ創縁ヲ縫合スルトキハ眼瞼ハ横ノ方向ニ引キ張ラレテ軟骨ヲ壓シ内反セル者外ニ向ク様ニナルベシ

應用 一時的



第六十圖 かんじゆびら氏式

五八 あなぐのたま Anagnostis 氏式 (1857)

ほつ氏(三四)式ニ似テ眼瞼縁ヲ超セル 5mm. ノ處ニ切開シ軟骨ノ凸縁ニ於テ筋纖維束ヲ切除シ、下創縁ヲ軟骨ニ縫ヒツケタリ

五九 くるに Chronis 氏式

(五八)ニ兼ナルニ外背切開法ヲ以テシ、軟骨ノ肥厚セル時ハ白内障刀ヲ以テ軟骨ヲ薄クセリ

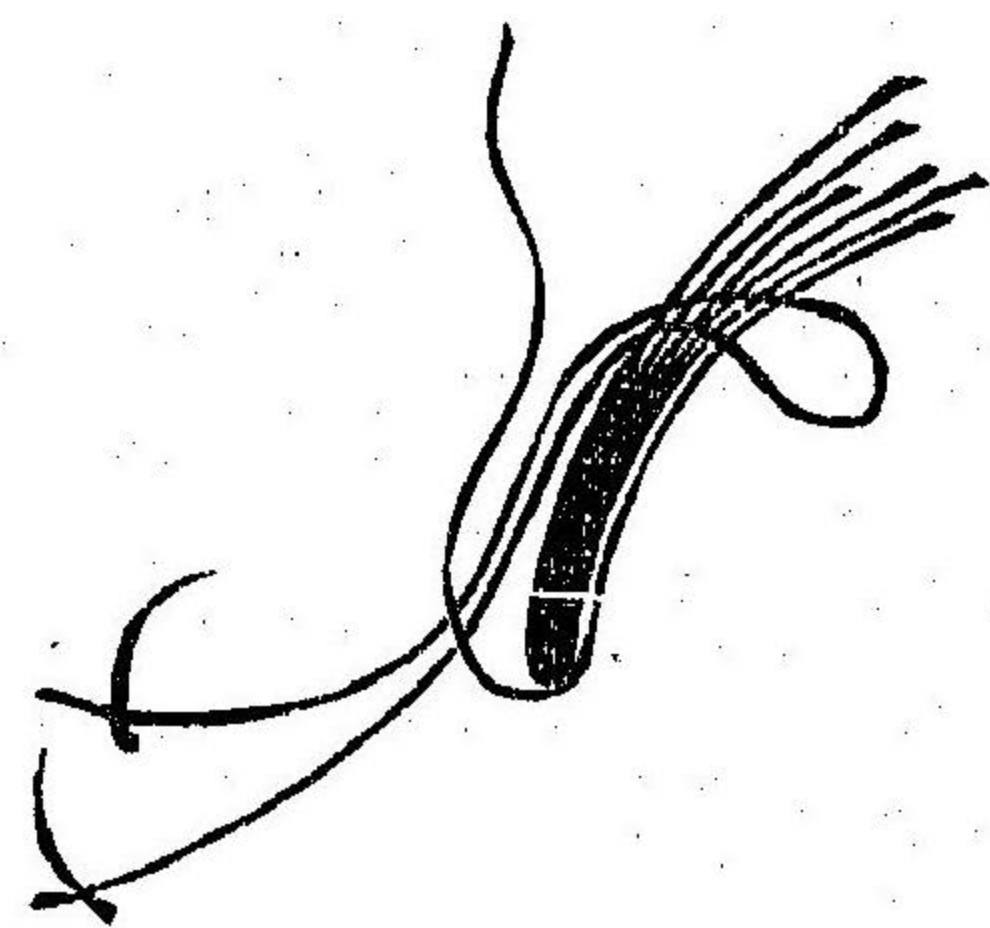
全部性睫毛亂生及内反症手術

かんじゆびら氏式

六〇河本氏(上眼瞼睫毛亂生)手術(第六十一圖)

上眼瞼ヲ反轉シ瞼縁ヨリ1-2mm. 距テ、縁ニ沿ヒ裏面ヨリ軟骨ヲ切開シ且ツ其創口ヨリ剪刀ヲ入レ軟骨ニ著セル纖維ヲ切斷シ然ル後兩端附針ノ

糸ヲトリ絲端ノ兩針共ニ之ヲ上軟骨縁ニ沿ヒ結膜面ヨリ穿入シ更ニ又其針ヲ瞼縁ヨリ稍、距テ皮膚ニ貫出シ以テ兩絲端ヲ結著ス、此ノ如ク左右中ノ三ヶ所ニ絲ヲ通シ先ツ左右ノ絲ヲ緊紮シ後ニ中絲ヲ程ヨク結ベバ瞼縁ハ稍、外反シ且ツ瞼縁ノ上ニ横溝ヲ生ジ眼相頗ル美ナリ、但シ眼瞼皮膚ノ



第六十一圖 河本氏式

河本氏式

餘リニ肥大セル折ハ絲ヲ結紮セル部ヨリ稍、上方ニ於テ更ニ皮膚ヲ半月形ニ切除シ筋ヲモ稍、切去シテ創縁ヲ縫合スベシ、コノ式ハ(五〇)コトニ(五一)ばなす氏式ノ變形トモ見ルベシ

六一あんもんばらー Annon, Burow 氏式

結膜面ヨリ軟骨ヲ切開シテ眼瞼表面ノ皮膚ヲ切除縫合スルコトニ由テ瞼縁ノ

整復ナ計レリ(1873)

六二コノ式ハ(五〇)ニ似テ切除セル部ノ皮膚ト軟骨ト異ルノミ

六三ウィチキエウィチキエ Wichekiewicz 氏式

(六一)ニ似テ縁間切開ヲナシ上眼瞼ヨリトリ來レル皮瓣ヲ其創口ニ移植セリ

六三くらんぷとん Crampton 氏式

コノ式ハ嘗テ英國ニ行ハレタル式ニシテ涙點ノ外方ニテ全眼瞼ヲ膝狀剪刀ニテ垂直ニ剪截シ(3-4mm.)次ニコレガ外方ニ同ジク1.5cm.ノ長ニ截リ、次ニ眼瞼ヲ反轉シテ瞼縁ヨリ2mm.ヲ距テ、結膜及軟骨ヲ切開シテ軟骨ノ2/3ニ至ラシメ、次ニ眼瞼ノ表皮ニ睫毛ノ上部ヨリ皮膚皺襞ヲ横ニ作リテ之レヲ切除シコノ下ニアル輪匝筋纖維ノ一部ヲ切除シ、終ニ表皮ノ創ヲ縫合結紮ス(上眼瞼)

コノ式ハ(一九五二)ノ三式ヲ合併セルモノト云フヲ得ベシ

六四ヘンネル H. Herbert 氏式

結膜面ヨリ軟骨ヲ切開シ軟骨彎曲甚シキ時ハ楔狀長片ヲ軟骨ヨリトリ(五〇、五四ノ合併式)

六五イーピング Ewing 氏式

全部性睫毛亂生及内反症手術

上眼瞼ニ結膜ヲ切除シテ軟骨ニ切開線ヲ入レ軟骨ノ下半ヲ縫合ニ由テ釣り軟骨ノヒラキタル口ガ結膜ヨリ被レテ軟骨伸展セラル、ヲ待テリ

六六 わるどはうばる Waldhauer 氏式 (1897)

縁間切開チナシタル刀尖ヲ内方ヨリ外方ニ突き出シテ前葉ヲ瞼縁ニ切開シ次テ皮膚ヲ前葉ヨリ切除セリ(四四ノ式ノ順序ニ稍、コトナル所アルノミ)

六七 ちーる Thier 氏式 (1895)

瞼縁ヲ切半シテコノ間ニ眼瞼ヨリトリタル皮膚ヲオキ前後兩葉ノ縁ニ縫合ヲ施セリ(四四ニ最後ノ縫合ヲ加ヘタルノミ)

六八 すんぼ Kenneth Scott 氏式 (1895)

結膜面ヨリ軟骨ヲ切ル事河本氏(六〇)ノ如クニシテ銀線金ヲ針ニ通シテ先ツ眼瞼皮膚ヨリ刺シテ軟骨ノ上片ヲ貫キ一二本ノ鉗子ニテ軟骨ノ下片ヲ曲ケオキテ一切開線ノ中央ニ出シ更ニ下方軟骨片ノ前面ヲ通シテ元來ノ瞼縁ニ出シテ初メ刺入セル者ノ端ト結ブ時ハ(コノ絲ハ七日間放置ス)瞼毛ヲ有スル瞼縁端ヲ外反セシム(六〇)(ガ五一)ノ變形ナルカ如クコノ式モ亦(五一)ノ變形ト見ルベシ

六九 らぐれいさ Lagleyze 氏式 (1895)

先ツ上眼瞼ヲ反轉シ軟骨上縁ヨリ六本ノ針ヲ刺シ瞼毛部ニ出ス、次ニ瞼縁ニ沿ウテ軟骨ヲ切開スベシト云フ(全ク(六〇)ト同シクシテ只順序異ルノミ)

七〇 すてーりー B. Story 氏式 (1894)

ふらーれる氏式ニ粘膜移植ヲ兼ネシメタリ

七一 らんじー Landolt 氏式 (1890)

わーらんげん氏ト同シク瞼毛牀ヲ上舉セント企テタリ眼瞼ヲ前後兩葉ニ折半シ、次ニ前葉ニ瞼縁ニ平行ニ切開線ヲ入レテ前葉ヲ上大部ト下小部ト二分チ、次ニコノ前葉ノ下小部ヲ二箇所ニテ兩端ニ針ヲ附セル絲ヲ以テ針ヲコノ皮膚ヨリ刺シテ上方眉毛部ニ出シテ(即チ後葉ト前葉ノ上大部トノ中間ニ引キ入ル)結紮スル事ニヨリテ前葉ノ下小部即瞼毛牀ヲ上舉シ、次ニ前葉ノ上大部ノ下縁ト後葉ノ下縁トヲ合セテ縫合シ次ニ瞼毛ノ爲メニコノ前葉ニ縫合線ニ平行シテ切開線ヲ作りテ瞼毛ヲシテ空氣ニ觸レシメタリ、コノ式ハ余ノ式ト類似スル所アルモらん氏が前後葉ヲ合セテ縫合セルハ唯ダ兩葉ノ下縁ヲ合スルニ過ギズ又式ノ前葉ニ切開創ヲ作りテ瞼毛ヲシテコノ窓ヨリ其顔ヲ出サシムルト云フモ果シテコノ切開創癒合シテ瞼毛牀永ク前後兩葉ノ間ニ隠滅セザルベキカ、恐クハ氏が所期スル所ニ反セン

七二 桐淵氏式

氏ハ縁間切開チナシコノ後葉ヨリ軟骨ノ楔狀長片ヲトリ次ニ前後兩葉ヲ同時ニ縫ヘリ、コノ式ハ尤モ余ガ式ニ類セリ、然シテ氏ハ縁間切開チナシ後葉ヨリ軟

骨ノ楔狀長片ヲトルト云フモ假令ソノ兩端ニ縱切開ヲオクトスルモ手術困難ニハ非ルベキカ、余ハ皮膚ヲ切除シ必要ヲ認ムルノ時軟骨ヨリ楔狀片ヲトルト云フ余ノ式ノ方行ヒ易シト考フ

七三小川氏式(第六十二、第六十三、第六十四圖)

術式 一あると氏ノ如クニ縁間切開ヲナシテ眼瞼ヲ前後ノ二葉トナシ、

前葉ハ皮膚筋纖維、睫毛牀ヨリナリ、後葉ハ軟骨及結膜ヨリス、コノ創ノ深サ

ハ五―六密

迷ニシテ軟

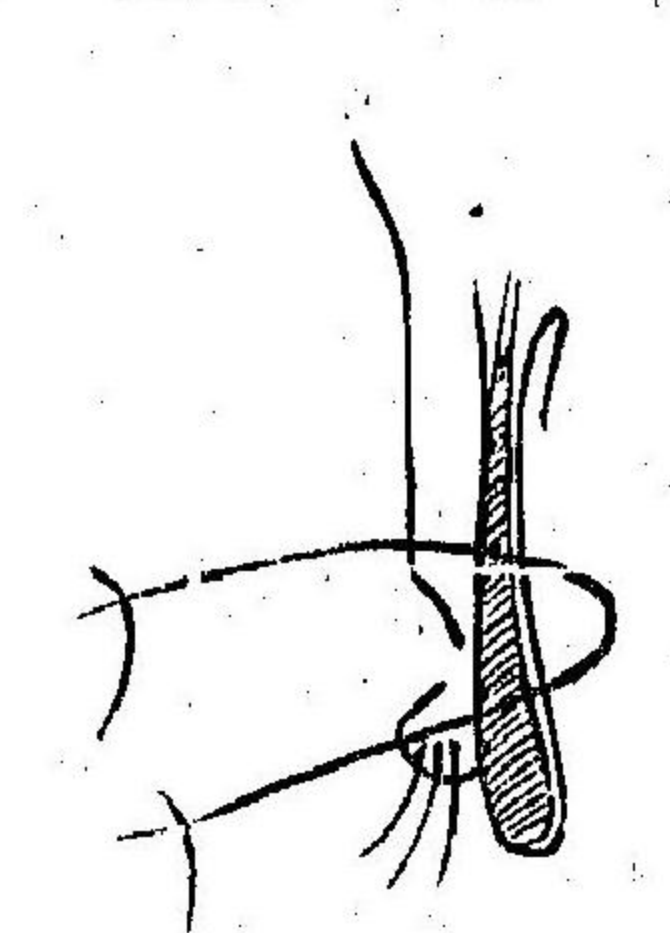
骨ノ至ク移

動セラル、

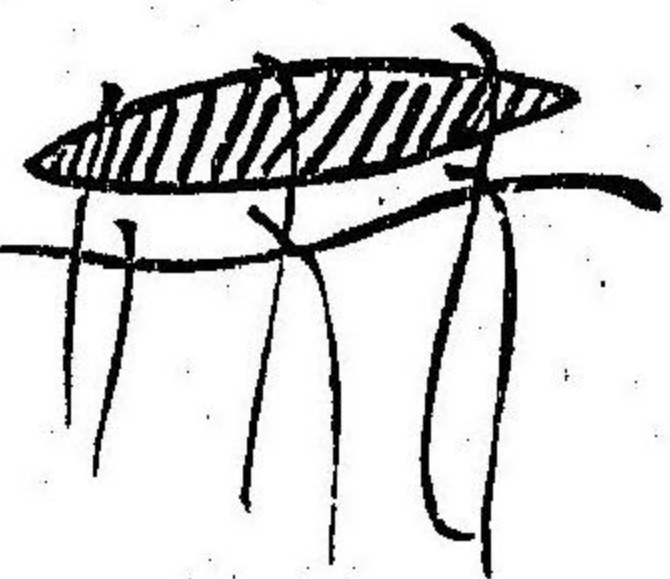
迄即軟骨ノ

小川氏式
睫毛ヲ有スル
前葉ノ推移
縫合線ノ刺シ
方ヲ示ス断面
圖

第二十六圖
小川氏式
睫毛ヲ有スル
前葉ノ推移
縫合線ノ刺シ
方ヲ示ス断面
圖



第三十六圖
眼瞼表面ヨリ
縫合線ヲ出
ルセ



上縁迄ヲ切開ス

二内反ノ度ニ應ジテ眼瞼皮膚ヨリ半月

形皮瓣ヲ切除ス、即チ險線ニ平行ナル切

開線ヲ險線ヲ去ルニ密迷ノ所ニ作り、次

小川氏式
術後、後術
示ス想像圖

第四十六圖
小川氏式
術後、後術
示ス想像圖



ニコノ上方ニソノ兩端第一切開線ノ兩端ト相會スル弓形線ヲ作り、コノ二個ノ切開線内ノ皮膚ヲ剪刀ヲ以テ切除シ筋性内反アル時即輪匠筋ノ癒癒アルトキハ筋纖維ノ一部ヲ切除ス

三前葉ヲ上方ニ推移シテ睫毛牀ヲ上舉シ睫毛ヲシテ全ク外方ヲ向カハシム、コノ推移ノ度ハ内反ノ度ニヨルベシ

四絲ノ兩端ニ針ヲ附シタル者ヲトリ、一針ヲ結膜面ヨリ刺入シテ結膜軟骨、筋、皮膚ノ全層ヲ通ジテ皮膚ノ皮瓣ヲ切除セル創ノ上縁ニ出シ次デ他ノ一針ヲ以テ創ノ下縁ニ出ス、カクノ如クスルコト中央、兩側ノ三ヶ所ナルベシ、

針ヲ通ジ終ラバ患者ヲシテ開眼セシメ推移適度ナルヤ否ヤヲ檢シテ結紮スベシ、推移尚稍不足ナリト思フトキハ強ク結紮シ稍過ギタリト思フトキハ弱ク結紮ス

繃帶 絲ハ四五日ニシテ去ル、繃帶交換ハ毎日一回、コノ交換ノ時推移過ギタリト思フトキハ早ク絲ヲ去ルベシ

軟骨ノ彎曲甚シキカ、著シク肥厚セル時ハ楔狀長片ヲ軟骨ヨリ截リトルベシ

手術ノ目的 緣間切開創及ビ前葉ノ推移ニ由テ一種ノ險縁成形ヲナシ
 1. 皮膚ノ切除ニ由テ險皮ヲ短縮シ 2. 輪匠筋ノ一部除去ニ由テ筋性内反症
 ヲ起スベキ原因力ヲ弱カラシメ 3. 兩葉間ニ生ズル癍痕ノ收縮ニ由テ彎曲
 セル軟骨ヲ強制シ伸展セシメ 4. 固定セル軟骨ヲ支點トシテ縫合癍痕絲ヲ
 以テ推移セル前葉ヲ固定セシメ 5. 尙結紮ニ由テ内反ヲ強ヒテ伸展セシム
 6.

應用 上下眼瞼

效用 目的ノ六條件ハ何レモ内反ヲ矯正シ睫毛ヲシテ眼球ヲ刺傷スル
 コトナカラシムルモノナリ然シテ推移、皮膚切除、輪匠筋切除、結紮力、結紮絲
 拔去ノ遲速ニ由テヨク病ニ應ジテ加減スルコトヲ得尙軟骨ノ楔狀片切除
 ヲ兼ヌルコトヲ得ルノ便益アリ、加之皮膚ヲ緣間創中ニ移植シテ其毳毛ニ
 苦シメラル、ガ如キ恐ナシ
 故ニコノ手術式ハ(二七、三四、四一、五二)等ノ諸式ノ合併セルガ如キ者ニシテ
 隨時(三五)ノ式ヲ加ユルノ便アリ
 余ハ岐阜、静岡及岡山ニ於テ約六箇年間ノ實地ニ於テ三十回以上コノ式ニ

由テ手術シ好結果ヲ得タリ、コノ法ニヨル時ハ經驗ヲ重ヌルニ從フテ術式
 一ナリト雖モ施術ノ輕重ト一部省略トニ由テ輕重種々ナル病症ニ施スコ
 トヲ得

第十四項 眼瞼外反症手術ノ理論及分類

一 眼瞼前葉ニ於ケル牽引ニ由テ生ズル眼瞼外反症

a. 癍痕性外反症

b. 創傷缺損ニヨル外反症

二 眼瞼緣ノ弛緩ニ由テ生ズル眼瞼外反症

a. 麻痺性外反症—輪匠筋ノ麻痺

b. 慢性結膜炎、慢性眼瞼緣炎ニ併發スル外反症及老人性外反症—險縁ノ
 延長及輪匠筋險縁部ノ筋張力ノ減少ヲ有セル險縁組織ノ弛緩ニヨル外
 反症

三 後方ヨリノ壓ニ由テ眼瞼軟骨ノ位置ノ傾斜ノ爲ニ生ズル眼瞼外反症

a. 痙攣性外反症—輪匠筋痙攣—分泌症

- b. 器械學性外反症
 - a. 眼球前部ノ變形及眼球突出症ニ由テ生ズル者
 - b. 下眼瞼ニ於ケル結膜及眼瞼軟骨ノ腫瘍ノ壓迫ニ由テ生ズル者
 - c. 上眼瞼ニ於ケル結膜及眼瞼軟骨ノ腫瘍ノ牽引ニ由テ生ズル者
- 注意 コノ第三類ニ屬スル者ハソノ原因ヲ去ルヲ以テ主トス、故ニコノ項ニ於テハソノ手術ヲ記サズ

第十五項 弛緩性眼瞼外反症手術

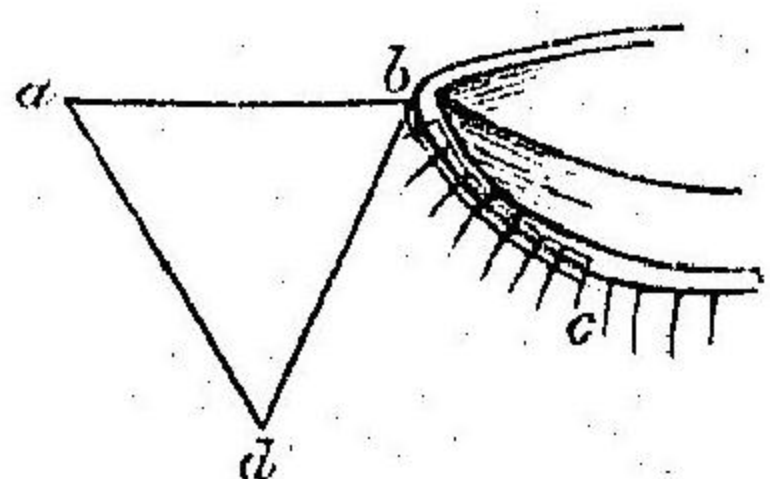
弛緩性眼瞼外反症手術

手術式ノ理論及種類

- 一 内外眥ニ於ケル眼瞼縫合術或ハ眼瞼軟骨縫合術ニ由テ瞼縁ノ弛緩ヲ去ル、例、*J. ぶんばん* は *Diefenbach* 氏、*しものすき* *Szymanowski* 氏、*あんもん*、*あだむす* *Ammon*、*Adams* 氏、*くーん* *Kuhl* 氏、*みさる* *Miller* 氏式
- 二 瞼縁ニ於テ下方ニ作用スル力或ハ瞼縁ニ後方ヨリ作用スル力ニ由テ眼瞼軟骨ノ背捲 *Rückdrehung* ヲ整復セントス、例、*すねん* *Snellen*、*るべる* *Robertson*、*ふつら* *Fukala* 氏式

- 三 皮膚内ニ於テ瞼縁ニ働ク力ヲ去ル、例、*ぐれ* *Grade*、*ふつら* *Fukala* 氏式
- 四 眼瞼軟骨ヨリ長片ヲ切除スルカ或ハ癭痕形成ニ由テ結膜ヲ短縮スルコトニ由テ眼瞼ノ背捲ヲ去ル、例、*みさる* *Miller*、*らんご* *Landolt* 氏式
- 五 分泌症 *Paraphimose* ニ對スル手術。一 縫合ヲナサ、ル水平性眼瞼切開術(外眥切開術ヲ見ヨ)

一 *J. ぶんばん* は *Diefenbach* 氏式(第六十五圖)



第六十五圖 *J. ぶんばん* は *Diefenbach* 氏式

$$ab = bc.$$

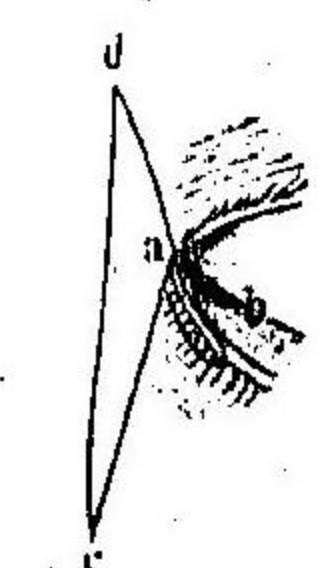
$$ad = bd.$$

術式 瞼裂ノ延長線ニ瞼縁ノ延キテ長スギル丈ノ長サニ *ad* ナル皮膚切開線ヲ作り其兩端 *a* 及 *d* ヲヨリ下方ニ切開線 *ad* 及 *dc* ヲ作りテ二等邊三角形トナシソノ皮膚ヲ切除シ次ニ $ad \parallel dc$ ニ前瞼縁ヲ切除シ次ニ *ad* ヲ *bd* ニ縫合ス

目的 皮膚ヲ緊張セシム

二 *しものすき* *Szymanowski* 氏式(第六十六圖)

術式 外角ニテ睫毛牀ヲ *5 mm.* ノ長サニ切除シ次ニ外眼角ニ *ad* ノ三角形皮膚ヲ切除ス次ニ



第六十六圖 *しものすき* 氏式

弛緩性眼瞼外反症手術

cab ヲ cda ニ (a ヲ b ニ) 縫付クル可シ

目的 眼瞼皮膚ヲ堅張シ且ツ同時ニ瞼縁ヲ上舉セシムコノ式ハヒール

ンバハ氏式ノ變形ニ過ギズ

三 あだむす Adams 氏式(第六十七圖)

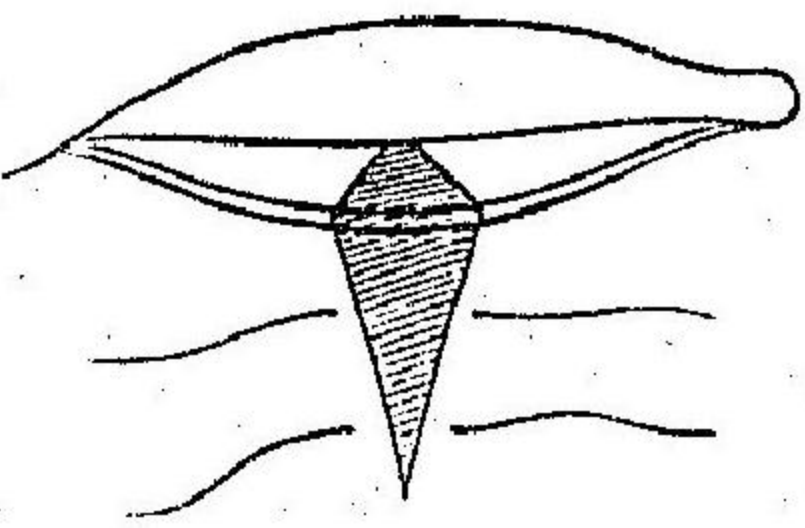
術式 外反セル部ニ眼瞼全層ヲ三角形ニ切除シ

ソノ底ヲ瞼縁ヲオキ兩邊ハ相等シクシテ尖端下方

ニアラシメ全層ヲ縫合ス

注意 瘢痕甚ダシクシテ外貌ヲ損ス

あだむす氏式



第六十七圖
あだむす氏式

四 くーんと Kuhn 氏式(第六十八第六十九圖)

術式 軟骨及ビ結膜ヨリ三角形ニ其基底ヲ瞼縁ヲオキ其尖端ヲ下穹隆

部ニ向ケテ切除シ

水平ニ縫合ス瞼縁

ヲ切開スルハ切除

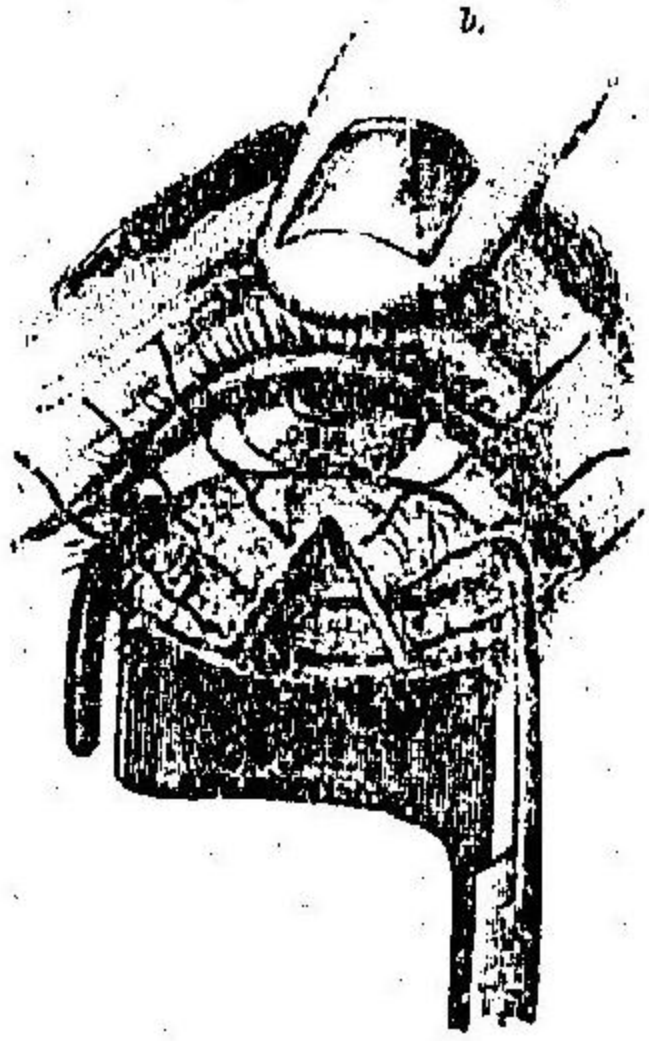
スル丈ノ大ニテ可

ナリ

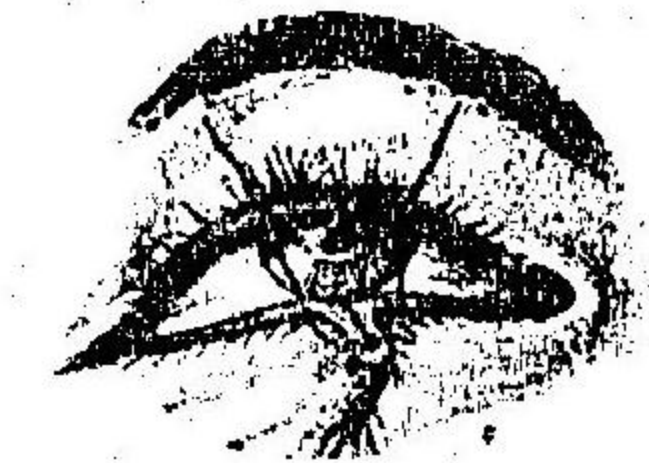
くーんと氏式

くーんと氏式

第六十八圖
くーんと氏式

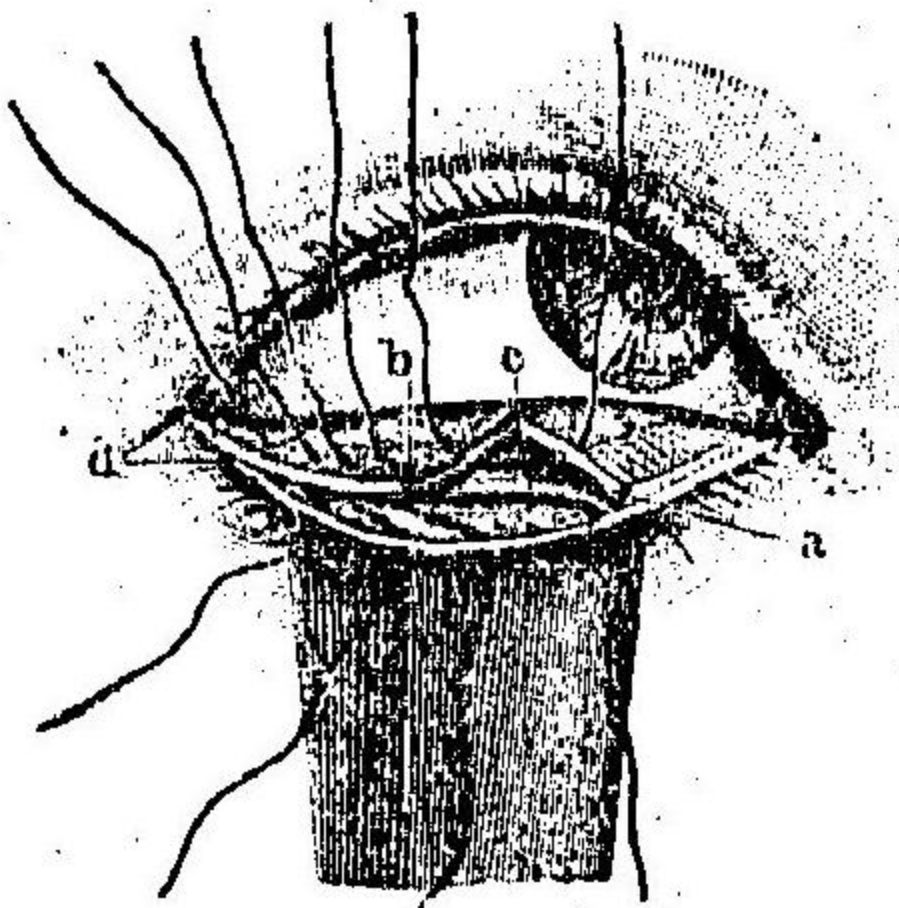


第六十九圖
くーんと氏式



みゆるれる氏
改良くーんと
氏式

第七十圖
みゆるれる氏
改良くーんと
氏式



絲ハ三角部ノ尖端ニ位スル者ヨリ初メ結紮スル片モ同様ナリ下眼瞼皮膚
ハ軟骨縫合ノ後ハ倒鼻形ノ皺襞ヲナスベシコノ皺ニ横ニ針ヲ通ジテ瞼縁
ニ結紮ス
繃帶 結膜ハ沃度仿謨ヲ散布シ眼瞼ノ上ハ無毒繃帶ヲナス第四日ニ抜
絲ス

適應症 くーんと氏ハ内眦ノ輕度ノ外反症 Eversio des Thränenpunctes ト稱

スル者ニ此術ヲ行ヘリ皮膚ノ瘢痕性短縮ノナキ弛緩性外反症 Erschlaffung

及老人性外反症ノ高度ノ者ニ效アリ、瘢痕性外反症ニテモ同時ニ適當

ナル成形手術ヲ兼ヌル時ハ用ヒラル、

コアリ(下眼瞼)

五 みゆるれる氏改良くーんと Miller 氏式

(第七十第七十一圖)

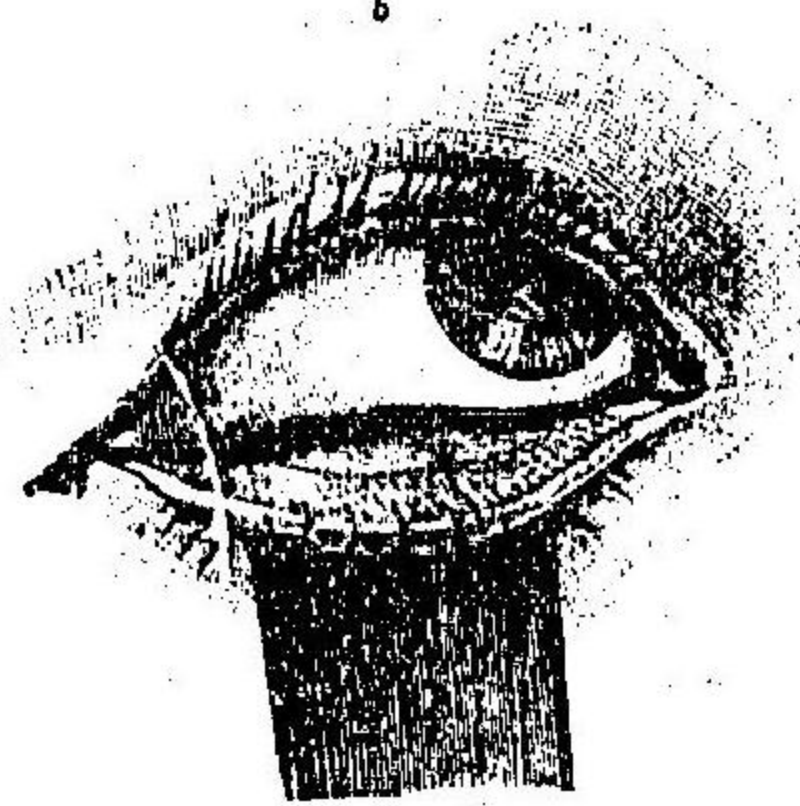
くーんと氏式ハ眼瞼ニ皺襞ヲ殘シ睫毛

ノ不規則トナルコアルヲ以テ改良セリ

即瞼縁ヲ切開シテ線間切開ヲナスコ切

みゆるれる氏
改良くしんこ
氏式ノ二

第七十一圖
みゆるれる氏
改良ノ式

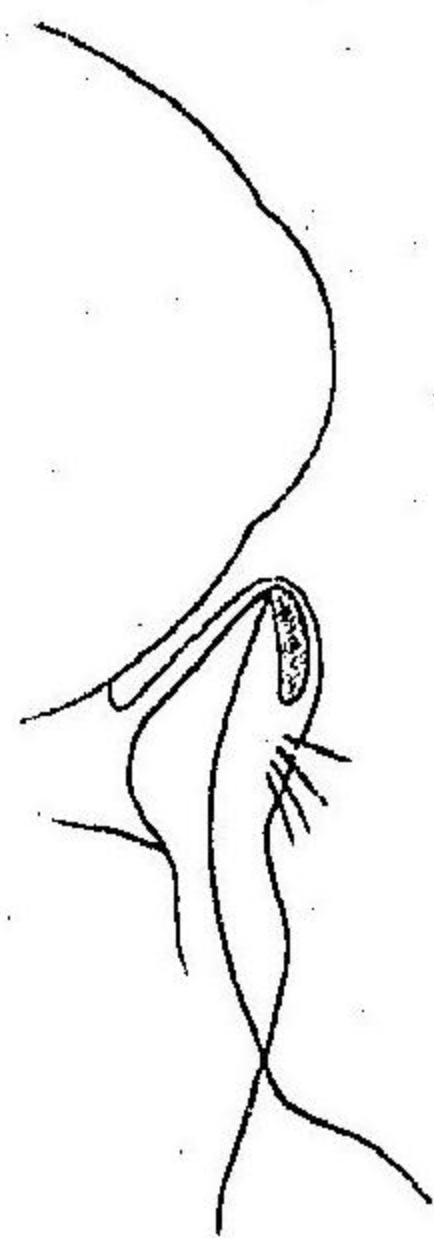


除ス可ベキ三角形ノ底(即瞼縁部)ノ長ノ二
倍ノ長ナル可シ次ニ三角形ノ結膜及ビ軟
骨ヲ切除シ絲ハ圖ノ如クニオクキハ術後
眼瞼皮膚ガ一所ニ強キ皺襞ヲ作ルヲ免
ル可シ

六すねるれん氏縫線式(下眼瞼)第七十二圖

すねるれん氏
縫線式

第七十二圖
すねるれん氏
縫線式



術式 絲ノ兩端ニ針ヲ附シテ
外反セル下眼瞼結膜ノ最モ隆起
セル所ニ刺入シ(3mm)ヲ隔テ()
皮下ヲ通リテ瞼縁ヲ去ル(2cm)

ノ所ニ相列ビテ貫出シ「ガーゼ」或ハ護膜ノ小塊ヲ枕トシテ外反ノ整復スル
丈ニ強ク結紮ス、カクノ如クスルヲ二絲或ハ三絲
上眼瞼ニテハ絲ヲ眉毛内若クハ前額ニ於テ結紮ス
繃帶 通常ノ壓迫繃帶、第三四日ニ抜絲ス或ハ沃度仿護「コロヂユム」ヲ貫
出セル所ニ塗ルモ可ナリ

癩痕性外反症
手術—眼瞼成
形術

目的 絲ノ通ゼル所ニ癩痕絲ヲ生ジテ外反セル者ヲ整復セシメ尙之レ
ヲ牽引シテソノ儘持續セシム、絲ヲ去ルモ軟骨彎曲變化セザルカ或ハ原因
尙去ラザル片ハ舊ニ復ス

適應症 老人性外反症ノ輕症、結膜腫脹ノ爲ニ小兒ノ急性外反症 (Ectro-
pium Acutum)

七みへる Michel 氏式

術式 瞼縁ノ全長ニ於テ軟骨ヨリ長片「プリズマ」形片 (Prismatische Stück) ナトレリ
ハらんたー Landolt 氏式

術式 軟骨ヨリ長片ヲトリ次ニすねるれん氏式ノ如ク絲ヲ結膜ヨリ頬部皮
膚ニ通ジテ結紮セリ

九癩痕ヲ作リテ牽引スル法

術式 硝酸銀又ハ「パッケリン」ニテ結膜ニ癩痕ヲ作ル者ナリ

第十六項 癩痕性外反症手術—眼瞼成形術(或造瞼術)

癩痕性外反症手術ハ索狀癩痕ヲ皮下ニテ截斷スルカ、癩痕ヲ切開シテコレ
ガ創縁ノ間接的一致ヲ計ルカ、成形的手術ヲナスカノ、三途ノ内ニアリ

第一 皮下癥痕截斷術

截瞼刀ヲ以テ皮下ニアル索狀癥痕ヲ截斷シテ、牽引力ヲ去ラシメテ眼瞼外反ヲ整復セシムル法ナレド、實際ハコノ簡單ナル手術ニ、適當ナル例ニ接スルコト、極メテ稀ナリ

第二 癥痕切開術

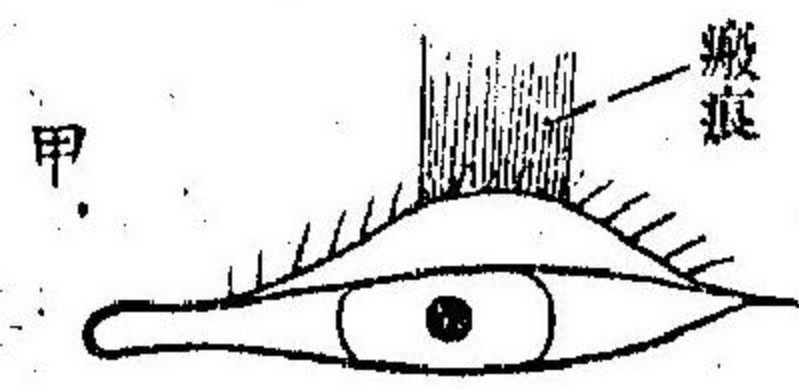
外反症ノ原因ヲナス癥痕ノ狀況ニヨリ、一樣ナラズ、先ヅ癥痕ヲ切開シテ外反ヲ充分ニ整復セシメ、次テコノ整復ヲ持久ナラシムル可ク、或ル種類ノ方法ヲ講ズ可キナリ

一 癥痕ノ幅狭細ニシテ長キ者ナルキハ、之ヲ横ニ切開シテ充分ニ外反ヲ整復セシメテ(一時險裂ヲ縫合スルコトアリ)開キタル創ヲ圖ノ如クニ縫合ス(第七十三圖)ニ創口ノ形三角形ヲ

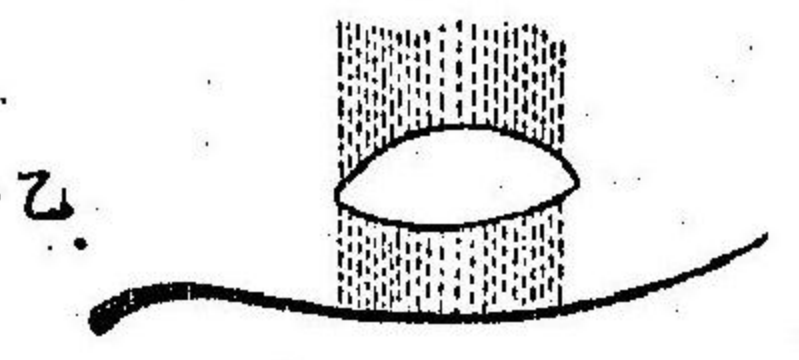
細長キ癥痕ニ由テ牽引セラルル外反症ヲ牽引セル癥痕ヲ切開シテ外反ヲ整復セル術ヲ縫合セル

第三十七圖

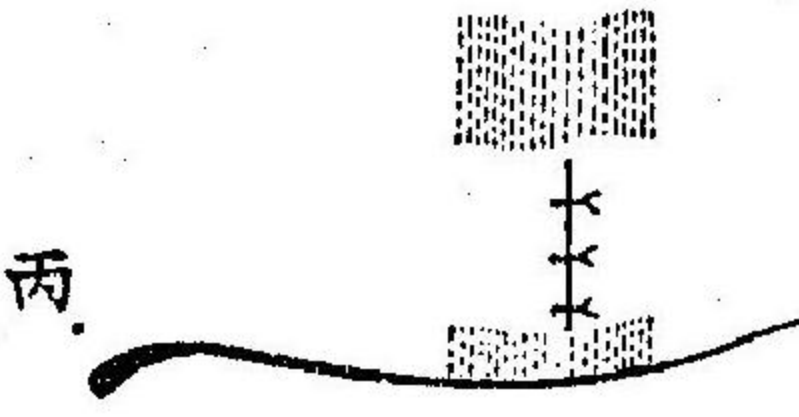
細長キ癥痕ニ由テ牽引セラルル外反症ヲ牽引セル癥痕ヲ切開シテ外反ヲ整復セル術ヲ縫合セル



牽引セラルル癥痕ヲ切開シテ外反ヲ整復セル術ヲ縫合セル



次テ縫合セル



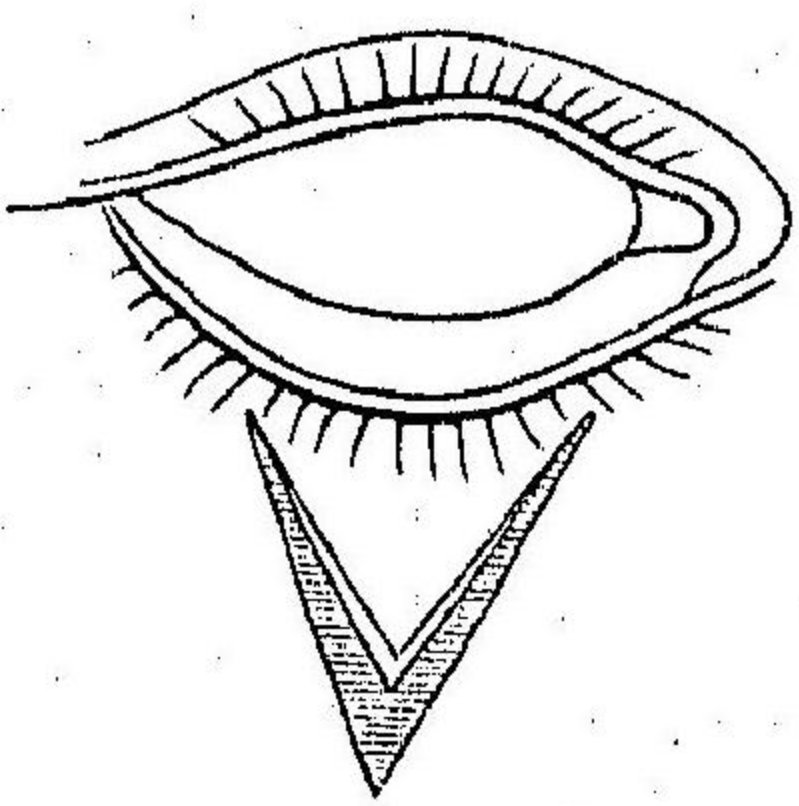
復セシメテ(一時險裂ヲ縫合スルコトアリ)開キタル創ヲ圖ノ如クニ縫合ス(第七十三圖)ニ創口ノ形三角形ヲナシ、其底面險縁ニ向

ヘルキハ、ソノ底縁ヲ左右ニ延長切開シテ之ヲ縫合スルキハ、上形ノ創痕ヲナス可シ

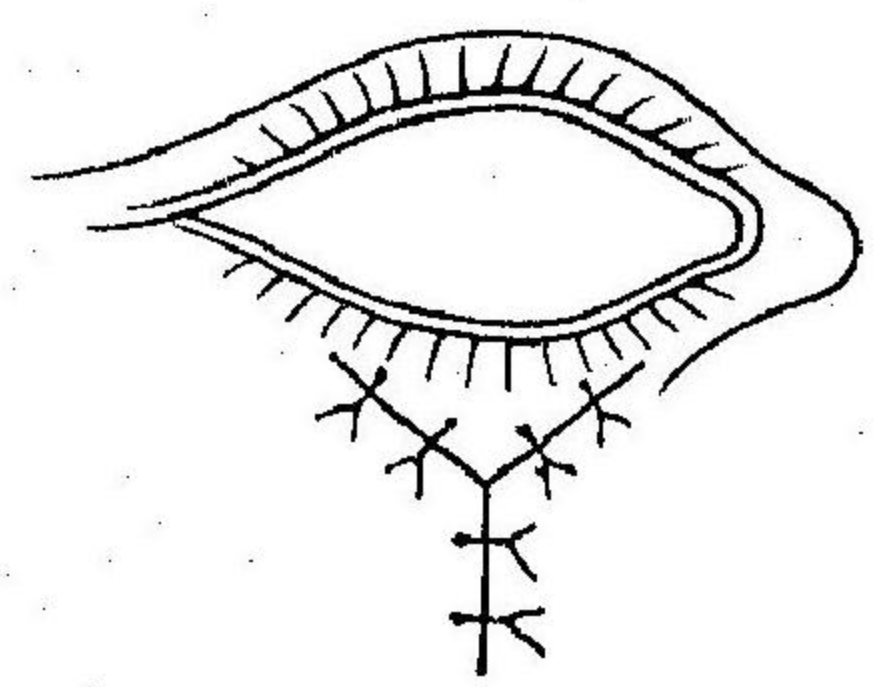
わるとん氏式

第四十七圖

わるとん氏式



第五十七圖

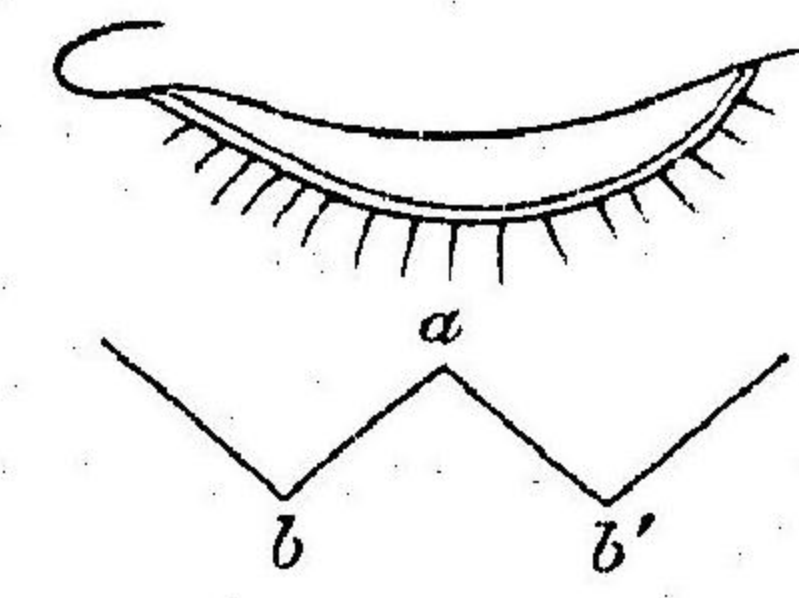


三 癥痕ニハ形ノ切開ヲナスキ整復スレバ、其切開線ノ内ニアル△形ノ皮瓣ハ、收縮シテ創口A形ヲナスベシ、之ヲ縫合スルキハ、人形ノ創痕ヲ

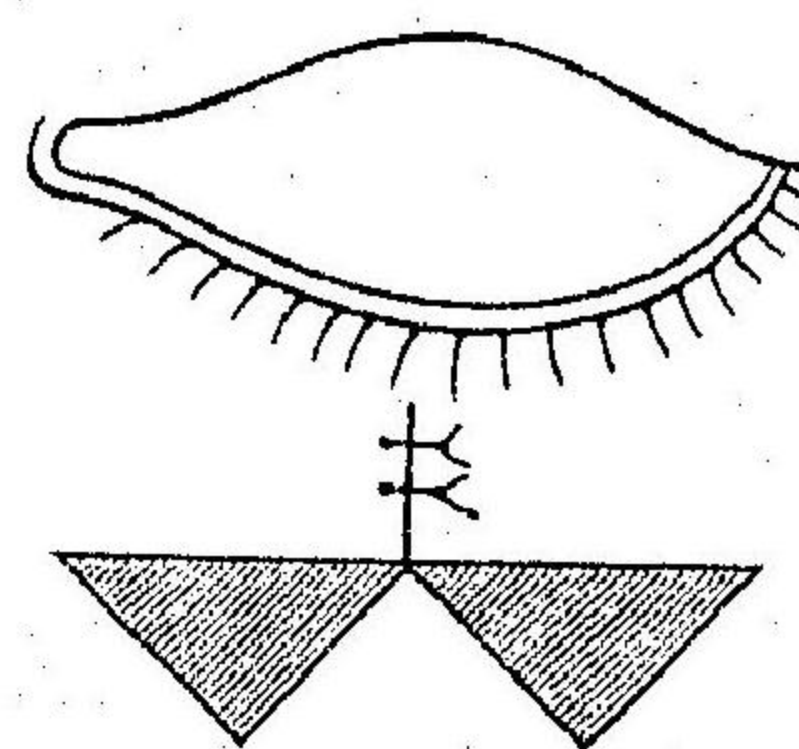
ぐえりん氏式

第六十七圖

ぐえりん氏式



第七十七圖



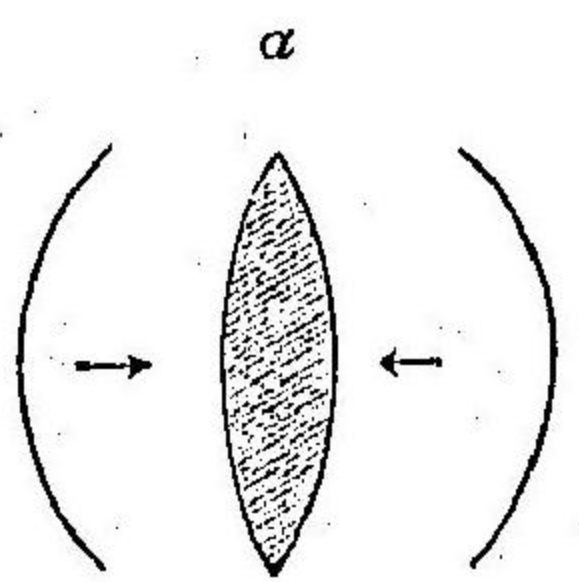
ナスベシ。わるとん Wharton 氏式(第七十四、第七十五圖) 四 癥痕ニW形ノ切開ヲナスキ整復スレバ、ソノ創口Aニ縫合ス、ぐえりん Guerin 氏式(第七十六、第七十七圖)

五 側部緩張切開 (Seitliche Entspannungschnitt) ノ可ナルコトアリ、即チ創縁ヲ縫合

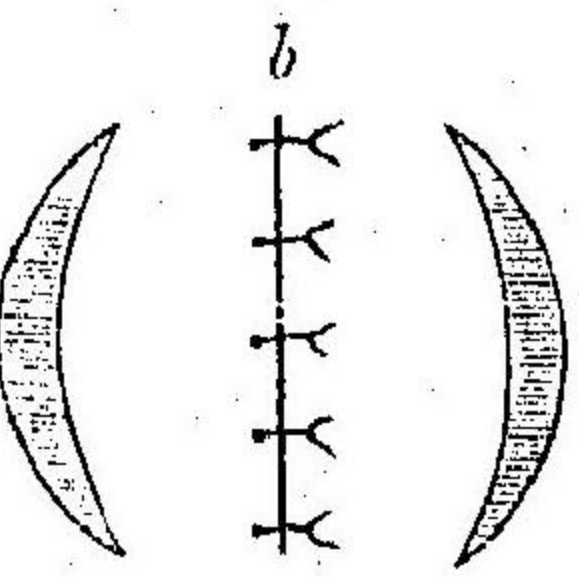
癥痕性外反症手術—眼瞼成形術

側部緩張切開
側部緩張縫合

圖八十七第
開切張緩部側



圖九十七第
合縫張緩部側



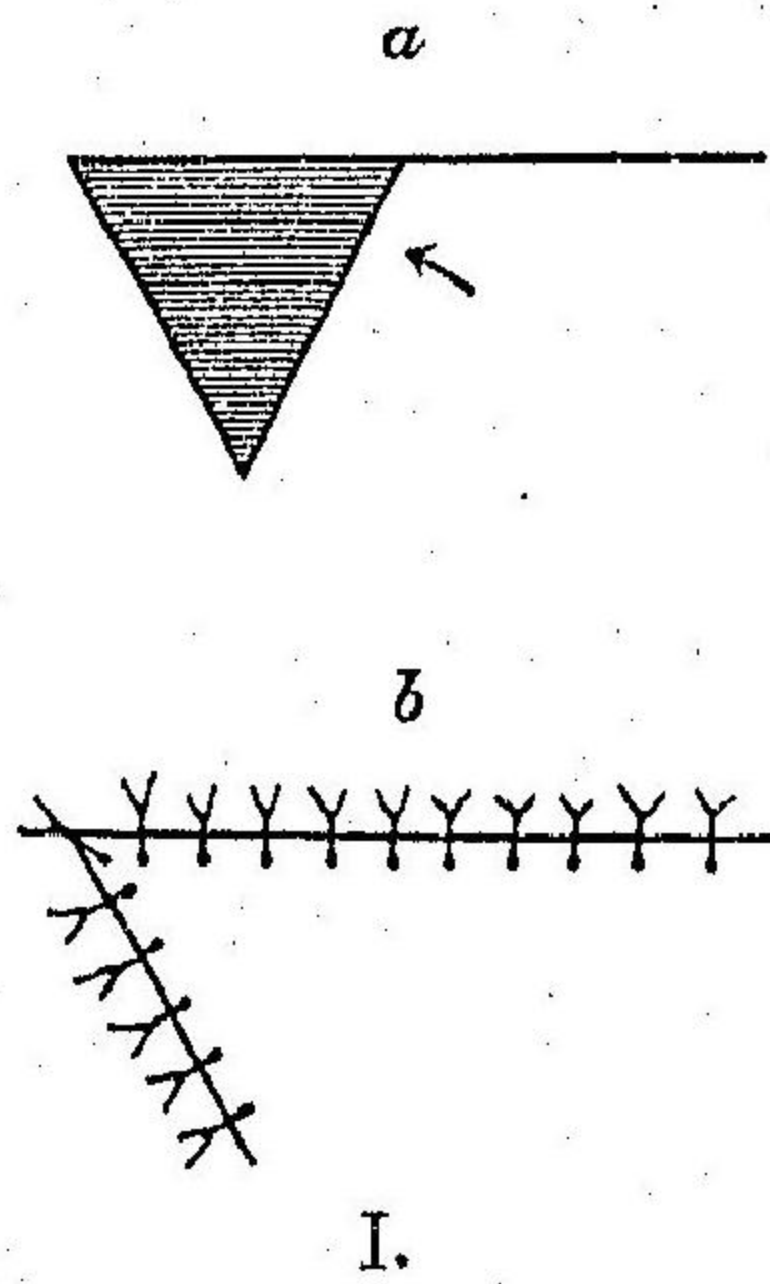
スル前、或ハ後ニ於テ、縫線ノ側部ニ各一個ノ併行的縱徑切開ヲ施シ、以テ縫線ヲ緩張ス、コノ缺損縫合後ノ緩張切開ハ、微ニ哆開セル創裂ヲナ

シテ通例肉牙形成ニ由テ速ニ治癒ス、或ハ時ニ均シク縫合ニ由テ閉鎖セラ

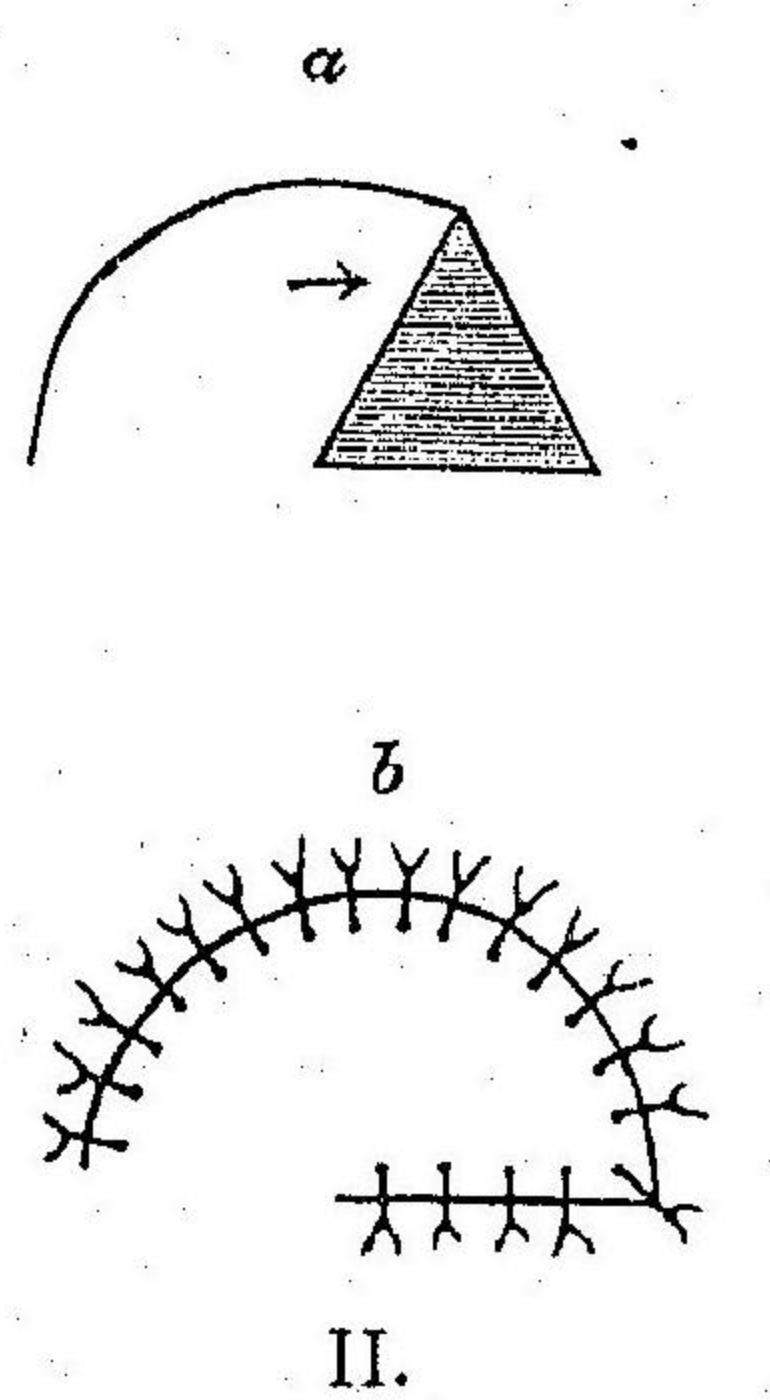
ル、モノナリ(第七十八、第七十九圖)
六延長切開 Verlangungs schnitt ヲ施シテ缺損部ヲ縫合スル皮膚移送法 Setti-

che Hautverschiebung ノ數例、之ハ圖ヲ以テ示ス

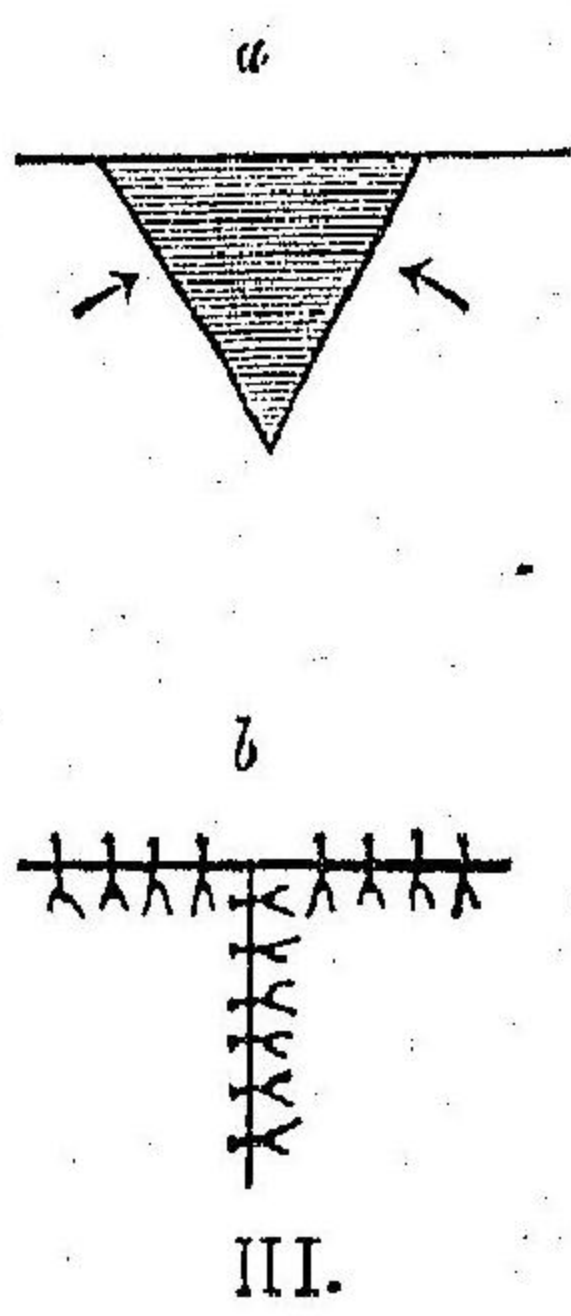
圖一十八第



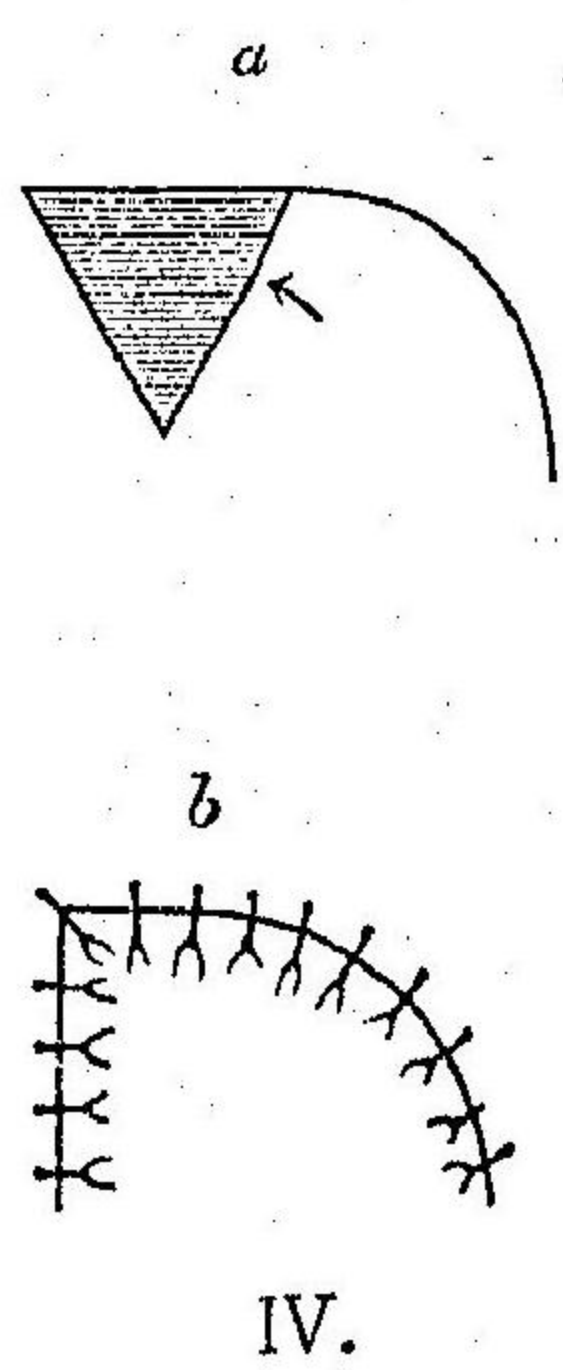
圖一十八第



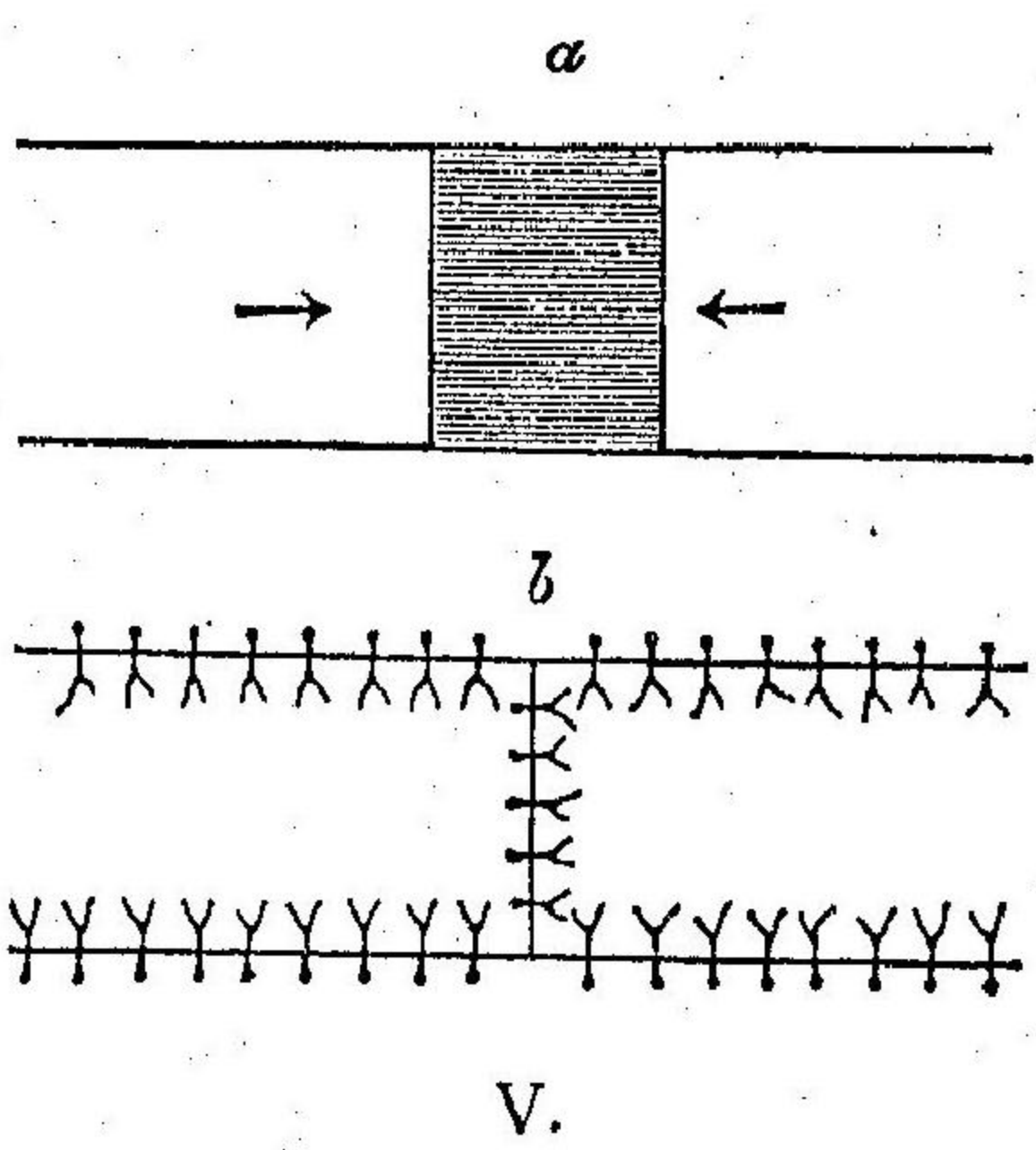
圖二十八第



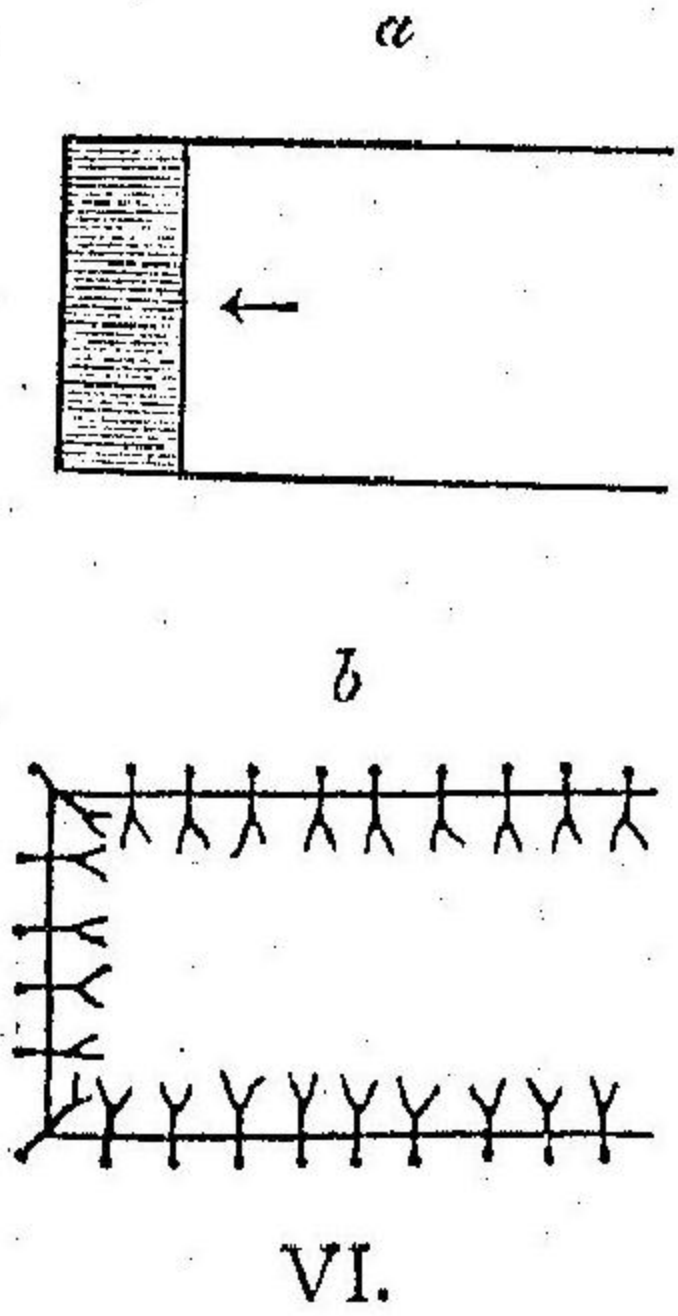
圖三十八第



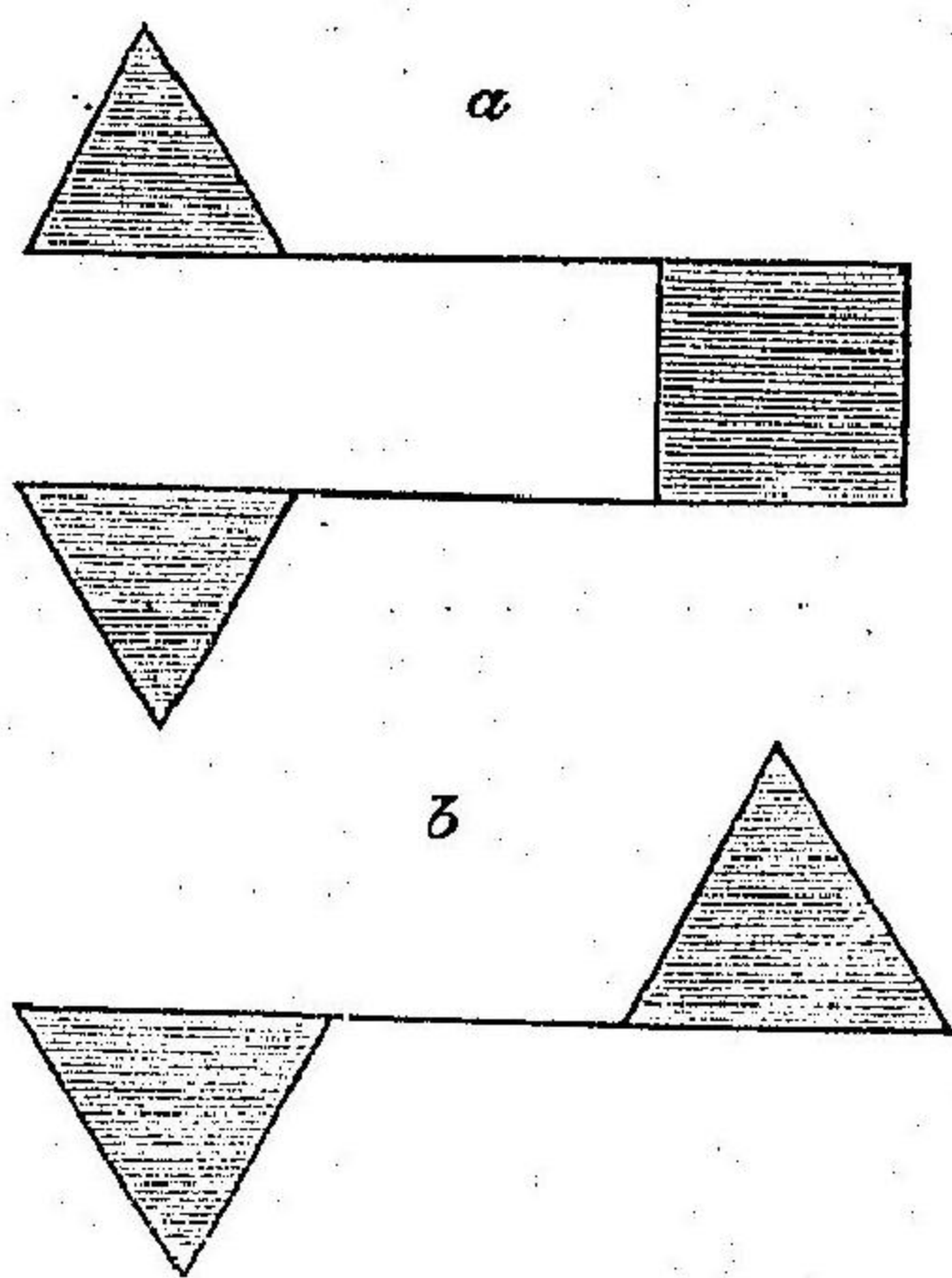
圖四十八第



圖五十八第



第八十六圖



VII.

第三 成形術

成形術ハ、有柄皮瓣ヲ近接セル部ヨリトルカ、遠隔セル部ヨリトルカ(伊太利法)無柄皮瓣ヲ以テ(植皮術)缺損部ヲ補フニアリ、之等ハ、癩痕性外反症及眼瞼ノ缺損症ノ手術トシテ用ヒラル、

而シテ先天、外傷、手術等ソノ何レニヨルモ、眼瞼ニ缺損アルキハ先ヅソノ缺損ノ性質ヲ詳識セザルベカラズ、即皮膚ノミナルカ、眼縁、軟骨等マタ浸サレタルヤ否ヤ、若シ癩痕アレバ、癩痕ガ皮膚ノミナルカ、深部ニ及セルカ、將又骨ニ癒合セルモノナルヤ否ヤ、等ヲ精査セザルベカラズ

術式撰擇ニ就テ、Valude氏ニ從ヘバ

一 癩痕全眼瞼ニ及シ、周圍健康ナル皮膚ナルキハ、植皮術ハ不可ナリ、近傍ヨリ有柄皮瓣ヲトルヲヨシトス、時ニ伊太利法ヲ用ユ(例外)上眼瞼ノ完全ナル癩痕性外反症ニテハ通例前額、額部ヨリトリ、其柄ヲ額骨部ニオク即チ瞼

眼瞼皮膚ノ新鮮ナル缺損ニ對スル成形術ニ新
鮮ナル成形術ニ對スル有柄皮瓣ニ對スル成形術ニ新
鮮ナル成形術ニ對スル有柄皮瓣ニ對スル成形術ニ新

裂ヨリハ下位ニアラシムベシ、下眼瞼ノ時ニハ頰部ヨリトリ、其柄ヲ額部ニオク即チ裂線ヨリハ上位ニオクベシ、眼瞼ノ外半部ニ於ケル限局性外反症ニテハ上記ト同ジクシテ、唯タ皮瓣稍短ナルノミ

下眼瞼ニテハリしえーRicht氏(リッヒト) Dieffenbach氏式ニヨル、内半部ニ於ケル限局性外反症ハ稀有ニシテ上瞼ニテハ前額ヨリ皮瓣ヲトリ柄ヲ鼻根ニオク

二 眼瞼ノ近傍ガ表層性非固著性癩痕組織ヨリナルキハ、近傍ヨリ皮瓣ヲ作ル
三 外反セル眼瞼ガ皮瓣ヲ作ルニ不適當ナル癩痕組織ヨリ圍繞セラル、キハ、植皮術ヲ用フ

伊太利法ハ常ニ患者ノ忍耐ニ待ツコト多キモノナリ

第十七項

眼瞼皮膚ノ新鮮ナル缺損ニ對スル

成形術ノ一——有柄皮瓣ヲ用ユル眼

瞼成形術 Plastik mit gestielten Lappen

新生物切除等ニ由テ眼瞼皮膚ニ新鮮ナル缺損ヲ生セル時、有柄皮瓣ヲ用ヒテ成

方ニ延長スルヨリ、*Wunderlich* ナルベシコレ皮瓣ノ基底ヲ險裂ヨリハ下位ニ置カンガ爲ナリ、若シ角度ヨリ以上ナラザルヲ得ザルキハ皮瓣ノ柄部ハ細クスベシ、次ニ皮瓣ヲ皮下脂肪組織ト共ニ基底ヨリ剝離スベシ、次ニ皮瓣ヲ探ル爲ニ生ゼル第二缺損部ヲ縫合ス可シ、即チ其縁部及第一第二缺損部ノ間ニ介在スル三角形ヲナス皮膚ヲ剝離シテ先ヅ指ヲ以テ兩縁ヲ相接近セシム而シテコノ際抗抵甚ダシキ時ハ減張縫合ヲ施ス可シ、兩端ニ針ヲ附シタル絲ヲトリコノ兩針ヲ創縁ヨリ $1-1.5\text{cm}$ 距テタル處ニ 2cm ヲ距テ、刺入シ更ニ反對縁ニ於テ相對セル處ニ刺貫シテ強ク結紮シテ兩縁ヲナルベク相接近セシム、カクノ如クシテ第二缺損部ヲ縫合セル後ニ於テ第一缺損部ノ形一定セラレ最初ニ比スレバ外方ニ擴張セラル、ヲ見ル可シ、次ニ皮膚瓣ヲ缺損部ノ上ニ置キテ注意シツ、之ヲ廣ゲ先ヅ尖端ヲ内端ニ縫著ス、次ニ皮膚瓣ト缺損部トヨク相合セシメテ縫合ス

繃帶 局所ヲ食鹽水ニ浸セル綿花ヲ以テ淨拭セル後ニ沃度仿謨末ヲ撒布シ、險裂部ニハ沃度仿謨「ガーゼ」ヲ重ネテ結膜分泌ニ備ヘ、次ニ無毒性「ガーゼ」ヲ載セ耳ハ十分ニ綿花ヲ以テ包ミ、白洋布ヲ以テ十分ニ繃帶シテ移動ス

ル「ナカラシム」第二眼ハ手術ノ第一日ニハ同ジク繃帶ス、繃帶ハ輕ク壓スルヲヨシトス、餘リ強キニ過グルキハ皮瓣ノ榮養ヲ害スルノ恐アリ、後出血若シクハ多量ノ化膿性分泌物ガ滲透スルニ非ザレバ手術セル繃帶ハ三、四日間ソノ儘ニ放置ス

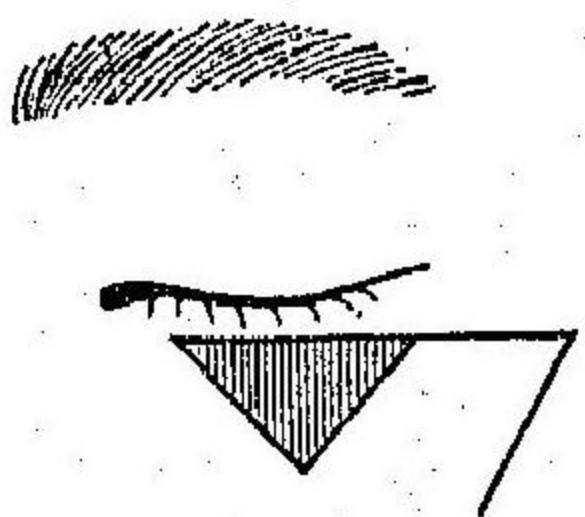
繃帶交換 ノ時ハ注意シテ白洋布ハ剪截シテ除去シ「ガーゼ」ハ一枚ヅ、徐ニ剝シ固著セルキハ微温食鹽水ヲ灌ギテ靜ニ取り去ルベシ、コトニ最後ノ者ハ尤モ注意ヲ要シ、剝離スルキハ鑷子ニテ皮瓣ノ根部ノ方ヨリ剝シユクベシ、若シ血液ノ凝著セルモノ或ハ眼裂ヨリ分泌物ノ溢レテ險面ヲ被フ者ハ食鹽水ニ浸セル綿ヲ以テ靜ニ拭フベシ、第一ノ繃帶交換ノ時ニ減張縫合ヲ除去ス而シテ舊ノ如クニ繃帶ス、第五、六日目ニ結節縫合ノ絲ヲ去ル、繃帶交換ノ時ニ壞疽或ハ化膿ノ部ヲ生ゼバ速ニコノ部ヲ烙白金ニテ燒灼シ、次ニ沃度仿謨ヲ撒布シ、破壞ノ全皮瓣ニ及バザル様企ツベシ

二「Diefenbach」氏式下眼瞼(第八十八圖)

下眼瞼ニ於ケル三角形ノ缺損ヲ隣セル四角形ノ皮瓣ニ由テ補償セントスル法ナリ

じふふんばつば氏式

圖八十八第 式氏はつばんふいじ

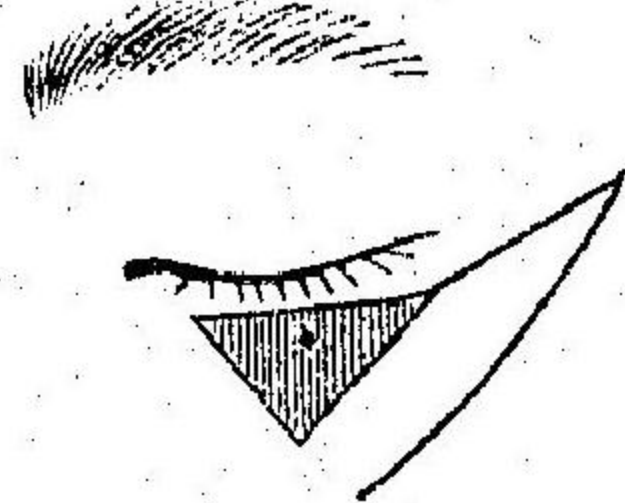


術式 下眼瞼ニ三角形ノ缺損ヲ生ジソノ一邊ガ
瞼縁ト竝行セルキハソノ一邊ヲ延長セル直線ニ由
テ切開スソノ長サソノ一邊ノ長サト等シカルベシ $ae \parallel$
 $cd \dots \dots C-Sym.$ 次ニ其切開線ノ末端ヨリ三角ノ外
邊 cb ニ竝行ニ且ツ同長ニ de ナル切開ヲ作ルカクシ
テ生ゼル bc de ナル菱形ノ皮瓣ヲ基底ヨリ剝離シテ cd bc ニ合スル様ニ
皮瓣ヲ動カシ先ツ bc ab ニ縫合シ次ニ cd ac ニ縫合ス、外方ニ生ゼル第
二ノ缺損ハ皮瓣縫合後ハ三角形ヲナスベシコレガ邊縁ヲ十分ニ剝離セル
後相牽引シテ縫合ス

繃帶及後療法 ふりつけ氏式ニ記セルト同ジ

三しまのすきー Szymanowski 氏式第八十九圖

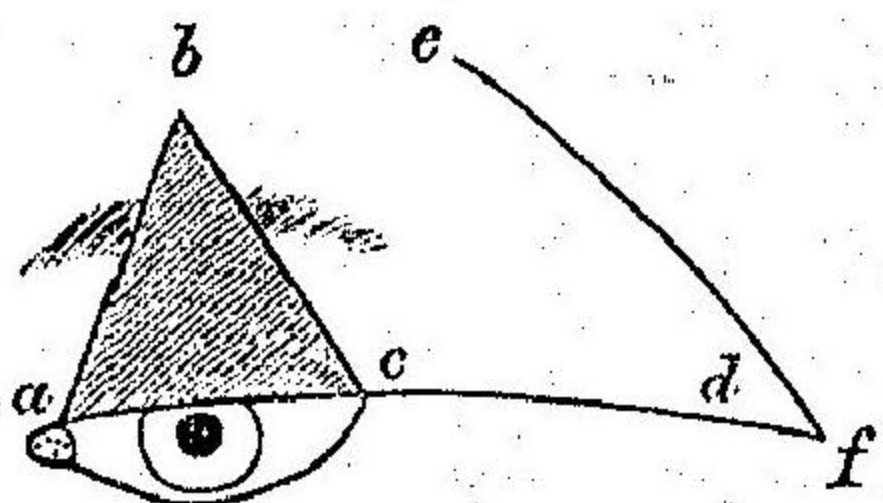
圖九十八第 式氏しまのすきー



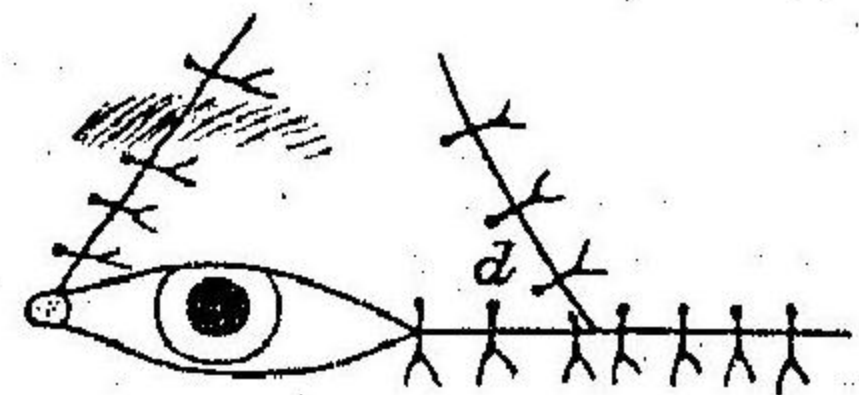
術式 下眼瞼ニ三角形ノ缺損ヲ生ジソノ一邊ガ
瞼縁ト竝行セルキハソノ一邊ヲ延長セル直線ニ由
テ切開スソノ長サソノ一邊ノ長サト等シカルベシ $ae \parallel$
 $cd \dots \dots C-Sym.$ 次ニ其切開線ノ末端ヨリ三角ノ外
邊 cb ニ竝行ニ且ツ同長ニ de ナル切開ヲ作ルカクシ
テ生ゼル bc de ナル菱形ノ皮瓣ヲ基底ヨリ剝離シテ cd bc ニ合スル様ニ
皮瓣ヲ動カシ先ツ bc ab ニ縫合シ次ニ cd ac ニ縫合ス、外方ニ生ゼル第
二ノ缺損ハ皮瓣縫合後ハ三角形ヲナスベシコレガ邊縁ヲ十分ニ剝離セル
後相牽引シテ縫合ス

しまのすきー氏改直じふんばつば氏式(上眼瞼)

圖十九第 真改氏しまのすきー
(瞼眼上)式氏はつばんふいじ
(載所書科眼るげいわいし)



圖一十九第



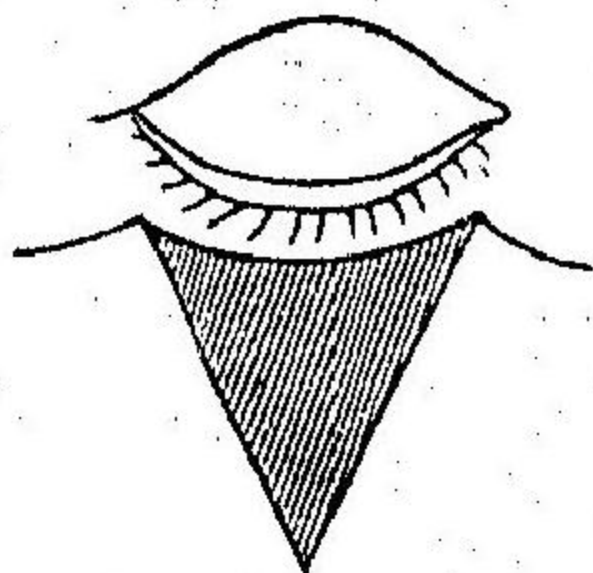
四同(上眼瞼)第九十、第九十一

五じふんばつば Diefenbach 氏

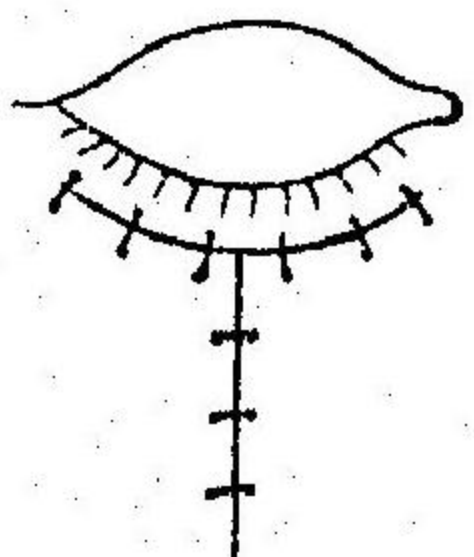
式第九十二、第九十三圖
同氏ハマタ三角ノ瞼縁ニ竝行
ナル邊ノ兩端ヨリ内下及外下
方ニ切開線ヲ作リテ、之ヲ
圖ノ如ク縫合セリ

じふんばつば氏式

圖二十九第 式氏はつばんふいじ
れぶんりさつみし
(載所書科眼る)



圖三十九第



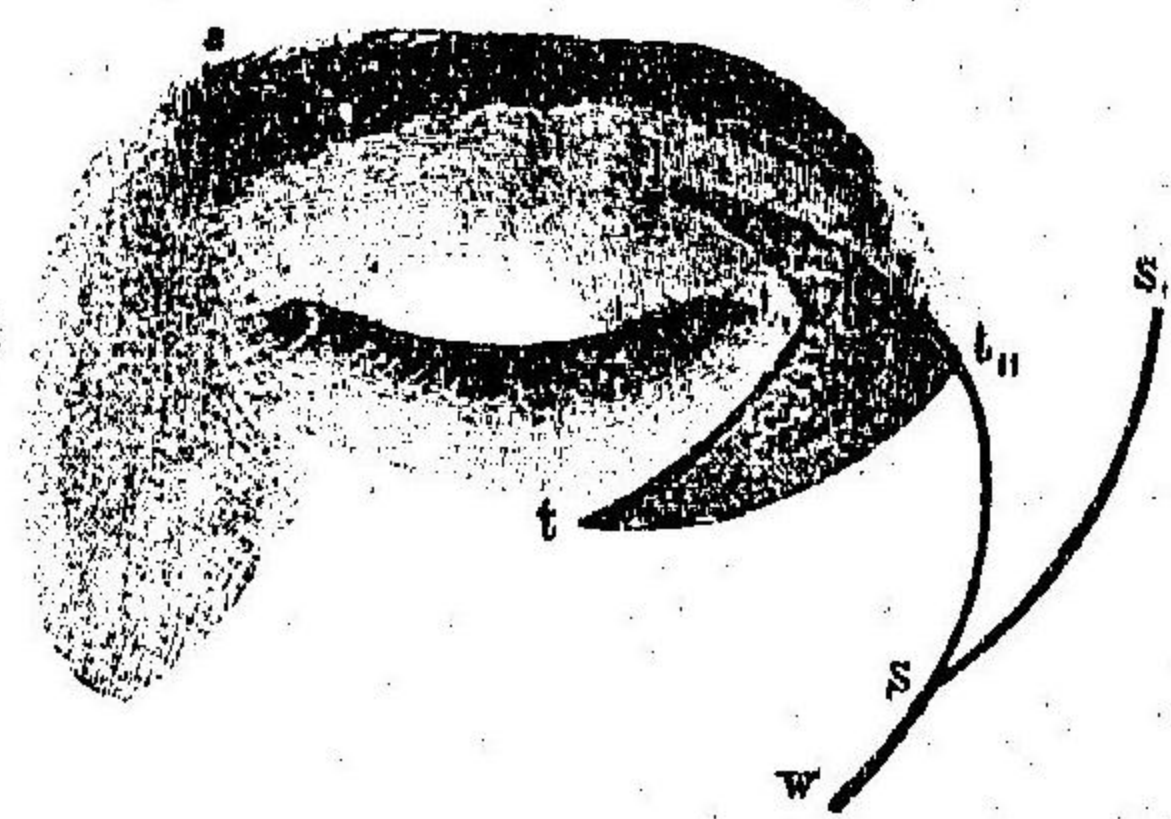
六りしえー Richet 氏式(第
九十四、第九十五圖)
術式 外下眼窩縁ノ處

ニ陥入セル癩痕アルキハ、 ab , bc , cd , de ナル三曲線ヲ以テ癩痕ヲ切除ス、次ニ ef
ヲ一方ハ上眼瞼ノ方ニ(三)一方ハ頰部ノ方ニ(三)延長シ、 ef ナル皮瓣ヲ得
テ、之ヲ基底ヨリ剝離ス、次ニ fg ナル切開ニ由テ gh ナル皮瓣ヲ得ベシ、然シ
テ gh ノ皮瓣ノ尖端ノヲニ來タシ、 gh ナル皮瓣ノ尖端 ij kl ニ來ラシメ

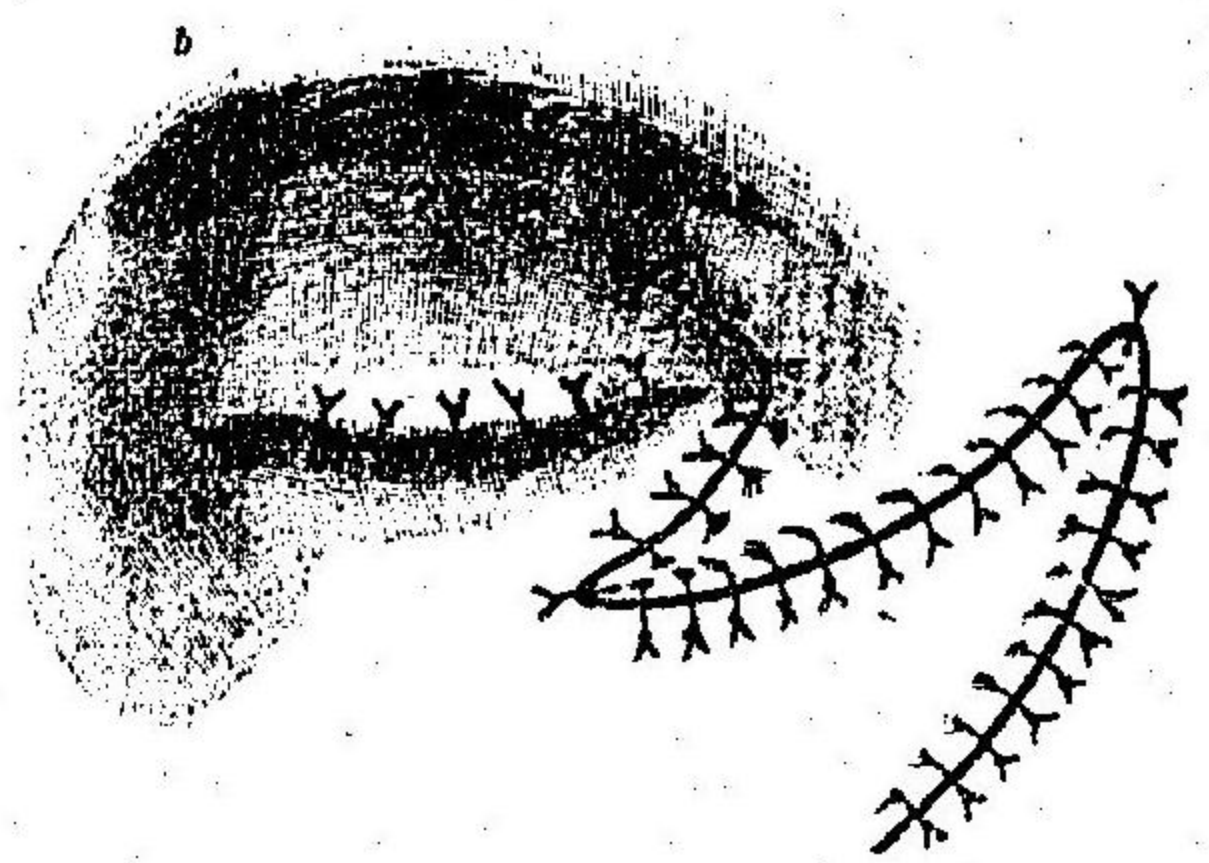
眼瞼皮膚ノ新鮮ナル缺損ニ對スル成形術ノ一有柄皮瓣ヲ用ユル眼瞼成形術

リしほー氏式
リしほー氏式
(縫合)

第九十四圖
リしほー氏式



第九十五圖
(縫合)リしほー氏式



テ、相接スル創縁
ヲ縫合スベシ
適應症 外下
眼窩縁ニアル瘻
痕ヲ切除セル時
ニ用ユ
七伊太利式
皮膚缺損アル片

近圍ニ於テ良好ナル皮瓣ノ材料ナキ時ハ、破格的ニ遠隔セル身體部分ヨリ
有柄皮瓣ヲ作ルコアリ、たりあこ、ちーTasliacozzi氏(千五百九十七年)始メテ上
膊二頭筋部ノ皮膚ヨリ有柄皮瓣ヲ作り、其上膊ヲ鼻ノ缺損部ニ對向セシメ
而シテ皮瓣癒合ノ後、柄ヲ切斷スルノ方法ヲ創案セリ、之ヲ伊太利式ト云フ
通例三回ニ分チテ施行ス、即(1)二個ノ切開ニヨリテ基底ト剝離セラル、橋
狀瓣ヲ形成シ、沃度仿膜綿紗或ハ蠟布ヲ挿入シテ其癒著ヲ妨ゲ、(2)肉芽十分
ニ發生スルノ後、皮橋ヲ其一端ニテ切斷シ由テ生ゼル有柄皮瓣ヲ缺損中ニ

眼瞼皮膚ノ新
鮮ナル缺損ニ
對スル成形術
ニ對シテ用フル
無柄瓣ニ

縫合シ、皮瓣ノ癒著セル後即約八日乃至十日ノ後、更ニ其柄ヲ切斷ス
ぐれーム(N. Graefe)氏ハ單ニ一回ヲ以テ施行シ有柄皮瓣ヲ直チニ缺損中ニ
癒合セシメタリ、之ヲ獨乙式ト云フ、然レモ此ノ如キ新鮮ナル皮瓣ノ榮養ハ
往々不充分ニシテ甚ダシク萎縮スルコアリ、伊太利式、獨乙式何レニヨルモ
患者ノ從順ト忍耐トヲ要スル手術ナリ、故ニ他術ニ由テハ到底施スト能ハ
ザルニ非ザレバ試ム可カラズ

第十八項 眼瞼皮膚ノ新鮮ナル缺損ニ對スル 成形術ノ二—無柄瓣ヲ用フル成形 手術(Plastik mit unges tielten Lappen)

缺損部ガ健康ナル組織ヨリナル片ハ直ニ著手スルコトヲ得レモ、若シ然ラズシテ
瘻痕組織ヨリナルカ、或ハ骨ヲ露出スル時ハ、肉芽發生ヲ待ツベシ、然シテ肉芽ノ
發生夥多ナル片ハ、コレガ表層ヲ小刀ヲ用フルカ或ハ銳匙ヲ以テ除去スルチヨ
シトス(Thiersch)
皮膚ハ何所ヨリ採ル可キカ 一上膊ノ内面(Le Fort-Wolfe) 二假肋骨ノ部、三眼瞼、

四上膊或ハ大腿

移植固定ノ方法 一縫合ス (Le Fort-Wolfe) 二縫合セス、三皮瓣ノ縁ヲ缺損部
創縁ヲ割シタル下ニ入レオク (Kuhne) 四皮瓣ノ上縁ハ縫合絲ニテ固定シ下縁ハ
くーんニ氏ニ從テ割シタル缺損部創縁ノ下ニ入レテク (Silex-Cyrenak)

移植皮膚ハ大ナル者ヲ用フ可キカ小ナル者多數ヲ用フ可キカ ういける (V.
Wecker) 氏すてゐるわーぐ (V. Stellwag) 氏ハ小ナル者多數ヲ用フ之等ハ、一缺損部ニヨ
ク適合ス、二瘻疽ヲ生ズルモ全部ニ及ボサズ、三化膿ヲ惹起セシメ易キ縫合ヲ要
セザル等ノ利益アリ

じれくす (Siles) 氏ハ反對ニ大ナル者ヲ用フルヲ利アリトシテ、曰ク、形ノ適合スル
ヤ否ヤハ注意スレバ可ナリ、瘻疽ヲ生ズルモ必ズシモ皮瓣全體ニ及ボス者ニ非
ズ、縫合絲ヲオクモ小數ナレバ害ナシ、大ナル片ハ治癒後ノ外觀美ニシテ小ナル
者ノ後マデ、各小瓣ノ惹著痕跡アルニ似ズ

無柄皮瓣ノ外見 初メハ全ク死體ノ如ク蒼白ナリ、移植シテ血液ソノ組織内
ニ入ルヤ淡紅色 (Blasroing) トナル、コレ相適合ヲ初メタル片ナリ、次ニ再ビ蒼白色
トナル、表皮層變化シテ通例第三日ニ排除セラル、チ常トス、次ニ鮮紅色 (Ros) ト
ナル、然シテ全ク治スルハ約三週日ヲ要ス、屢、表皮層ノ膨起シテ剝離シソノ下ニ
まるびき氏層ノ増息スルヲ見ルトアリ、時ニ誤テ化膿セリトスルトアリ、コノ表

皮膚が粥状塊トシテ結痂ノ如クニ乾燥シテ除去セラル、ヤ下ニ新鮮ナル表皮
層ノ存スルヲ見ル

治療中ノ障害 一瘻疽、二化膿、三潰瘍ヲ生ジテ移植皮瓣破壊セラル、トアリ

一レ、ふおご、うあるよ Le Fort, Worhe 氏式

術式 缺損部ヲ注意シテ止血セシム、時ニ出血止マザル片ハ無毒的綑帶
ヲ行ヒ、移植ハ次日ニ行フトアリ

護謨紙ニテ缺損部ノ形ヲトリ、上膊ノ内面ヲヨク消毒シ、皮膚ノ纖維走行ヲ
鑑ミテ、餘リ創ノ開口セザル様ニ注意シテ、前ニ作レル模型ニ從テ、凡テノ方
向ニ「I」位大ニ、皮膚ヲ切開シ、一個所一横指位ノ大ニ切開線ヲ作ラズ他ノ
皮膚ト接續セシメオク可シ、次ニナル可ク皮膚ノ損セザル様ニ、初メハ解剖
鋸子ヲ以テ撮ミ、後ニハ左手ノ拇指及示指ノミヲ以テ、撮ミテ下層ヨリ剝ス
ベシ、若シ探ル可キ皮瓣大ナル片ハ、コノ剝離ノ間モ、温メタル生理的食鹽水
ニ浸セル「ガーゼ」ヲ以テ被フベシ、前ニ切開線ヲ作ラザリシ部丈ニテ接續シ
テ、他部ノ剝離セラル、ヤ、皮下脂肪ノ附著セル者ヲ取り去リ、次ニ皮瓣ヲ切
除創面ニ擴ゲ、適當ナル所ニ三四ノ縫合絲ヲ通ズ、絲ノ兩端ニ針ヲ附シタル

者ヲ用ヒテ一針ヲ裏面ヨリ貫キテ絲ヲ通ジ、絲ガ皮瓣ニ通ズレバ、コノ時
 ヒタル針ハ絲ヨリ去ル、次ニ剪刀ヲ以テ初メニ切り殘シタル部ヲ剪截シ、熱
 氣消毒セル時計硝子ノ凸面ノ上ニ、皮瓣ノ表面ヲ下ニシテ、載セ、更ニ皮下組
 織ノ附著セルヤ否ヤヲ檢シテ、剪刀ヲ以テヨク之ヲ剪除シ、次ニコノ時計硝
 子ヲ用ユルカ、或ハ薄キ「スパイテル」ヲコノ硝子ト皮瓣トノ間ニ挿入シテ、皮
 瓣ヲ「スパイテル」上ニ移シ載セ、之ヲ以テ缺損部ノ上ニ持チユク、缺損部ノ上
 ニオキテ、大ニ過ギルルハ、剪刀ニテ適當ニ截除ス、次ニ縫合絲ノ針ノ附シタ
 ル方ノ端ヲトリテ、針ヲ缺損部創縁ニ於テ下方ヨリ上面ニ刺貫シ、缺損部ノ
 相適應セル部ニ通ズベシ。縫合絲ハ結紮セズ、皮瓣ノ下縁ハ缺損部縁ノ下ニ
 入レオク

全手術ハ嚴重ナル無毒的注意ノ下ニナシテ、消毒藥ノ如キハ用ユ可カラズ、
 結膜分泌アルルルハ、創面ニ沃度仿談末ヲ撒布スベシ

繃帶 錫箔ニ「ワゼリン」ヲ塗リタルモノヲオク、其大凡テノ方向ニ 2 cm.
 位大ナルヲヨシトス。次ニ「ガーゼ」ヲオキ、兩眼繃帶

繃帶交換 第一次ハ第三日ニナス、靜ニ錫箔ヲ去ル可シ、温メタル食鹽水

第九十六圖



ク肉芽ヲ作ルルハ「ワゼリン」ノ代ニ皓禁軟膏或ハ硝酸銀軟膏 (Zincod. Hollens-
 tein Salbe) ヲ用ユ可シ (第九十六圖)

ニち一るし、ゑべるすぶし。Thiersch, Eversbusch 氏式

上膊或ハ大腿ノ内側ニ、刀ヲ平ニシテ皮瓣ヲトリ、皮瓣ノ縁ヲ屋根瓦狀ニ重
 ネテ、缺損部ヲ被ハシムル法ニシテ、皮瓣ヲ薄ク且ツ廣クトラントスルニハ、
 其場所ヲ堅張セザル可カラズ、然シテ左右ヨリ壓スルヲ甚ダシキルハ、皮瓣

ヲ以テ、拭除シ、洗滌ス
 可カラズ、絲ハ第三日
 ニ去ル、約三週日、乾燥
 セル表皮層ヲ以テ被
 ハル、時ハ繃帶ヲ去
 ル。術後第一日ハ嚴重
 ナル臥牀、第二眼ハ第
 一繃帶交換時ニ繃帶
 ヲ去ル、皮瓣ガ甚ダシ

ハ中央厚ク兩縁薄クナルカ、或ハ皮瓣細キニ過グルノ恐アリ、刀ハ餘リ廣カラザルヲヨシトス、刀ヲ手ニアテ、彼此早ク引クキハ、熟練ヲ積メハ1.5—2cm.ノ幅、4—5cm.ノ長位ノ者ヲ作ルヲ得可シ、皮瓣ノ厚サハ、刀ヲ引クキ、刀ノ上ニテ細ナル皺襞ヲナシテ、邊縁ノメクレザルヲ度トス、探リタル皮瓣ハ、創傷部ニ載セテ細針ヲ以テ廣グ、ヨク皺襞ノナキ様ニス可シ、皮瓣ト皮瓣トハ、1—2mm.ツ、重ネテ、瓦ヲ置キタル如クス、缺損ノ縁ノ部モ、少シク皮瓣ノ方超ユル様ニス可シ

繃帶 前項ニ同ジ

適應症 (一)成形手術ニ續發セル缺損部ヲ被フニ用フ(二)眼瞼ニテハ後ニ收縮ヲ來ス故ニ眼角部ニハ用フ可キモ眼瞼部ニハ適セズ(三)新シキ眼瞼ノ火傷ニモ用ユ可シ

造瞼術

第十九項 造瞼術 Wiederherstellung von Lidern.

眼瞼全層ノ缺損アル者ニ對スル手術ニシテ、ソノ缺損部ハ眼瞼全部ニ及スニアリ、一部分ナルヲアリ

第一眼瞼全部ヲ缺ケル者 Abiepharie ニシテ唯ダ眼球結膜ノミ存スル時、效果多クハ不十分ニシ、眼瞼ヲ作り得ルモノ可動性ナラズシテ殆ント眼瞼ノ要ヲナササルモ、幾何カソノ醜容ヲ減シクルト角膜ノ滅亡ヲ防グヲ得ルノミ

一 えるすぶツ Eversbusch 氏造下眼瞼術

癌腫ノ爲メニ下眼瞼全部ヲ失ヘル者ニ於テ次ノ如クナセリ。先ヅ缺損部ニ適スル丈ノ大サノ皮瓣ヲ近接セル部ヨリ作り、コノ皮瓣ヲ取りタル創面及皮瓣ノ裏面ニ表皮ヲ移植シ、創面ニハ絹布ヲ以テ被ヒ、ソノ上ニ於テ皮瓣ヲ元來ノ位置ニ復セシメ、防腐的繃帶ヲ施シテ移植セル表皮ノ全ク癒著セルヲ待ツ。癒著セバ皮瓣ノ周邊ヲ適宜切除シテ缺損部ノ形ニ一致セシメ、適當ナル延長切開ニ由テ皮瓣ノ柄ヲ長カラシメテ、皮瓣ノ周縁ヲ眼窩縁即チ缺損部ノ創縁ニ縫著ス、コレニ由テ前後兩面ニ表皮ヲ有スル眼瞼ヲ作ルヲ得。コノ方法ハ上眼瞼缺損ニモ應用スルヲ得

同氏ハ後ニ至テ更ニ造眼瞼ノ裏面ニナル面ニハ兎ノ咽腔粘膜ヲ被ヒタリ

第二眼瞼ガ短縮セル時。下眼瞼ノ短縮セルハ眼瞼縫合術ニ由テソノ醜容ヲ除クヲ得ベキモ下眼瞼ニ於テハ其短縮輕ナルモ直ニ兎眼症トナルガ故ニ

手術セザルベカラス

ニらんごあーLandolt氏式

上眼瞼短縮セル時ハ、上下眼瞼ヲ各前後ノ兩葉トナシ、次ニ上眼瞼ノ前葉ヲ眼窩縁ノ所ニテ眼瞼縁ニ平行セル線ニテ切開シテ橋狀トナシ、コノ橋狀トナレル前葉ヲ下方ニ引キテ、ソノ上縁ガ後葉ノ下縁ト同ジ高キニアル様ニナシ、コノ前葉ヲ(ノ前面ニ)創面ヲ作リオキテ、下眼瞼ノ兩葉ノ間ニ抉ミ、コレト下眼瞼ノ後葉トヲ縫合ス。斯ノ如クシテ眼球ガ眼瞼ヨリ壓迫ヲ覺ヘヌ迄、數個月ヲ經過セシムル時ハ、上眼瞼ノ創面ハ、肉芽ヲ生ジ癩痕トナルモ、ヨク延長セラレテ眼瞼ガ適當ナル長トナルベシ。コノ時新ニ下眼瞼ノ睫毛列ノ下ノ所ニ切開シテ險裂ヲ作ル

第三眼瞼縁缺損シテ皮膚ハ癩痕ヨリナリ、結膜健在スル時

三ちるきーCzernak氏造險縁術(下眼瞼)

上眼瞼ノ險縁ヲ距ル 10mm ノ所ニ險縁ニ平行シテ、切開ヲ皮膚及筋層ニ作り、ソノ兩端兩眼角ヲ超エシム。次ニ之ト平行シテ 10mm ヲ距テ、同ジ長トノ切開ヲ作り、コノ二切開線ノ間ヨリナル橋狀部ヲ基底ヨリ剝離シオキ、次

ニ下眼瞼結膜ノ移行部ニ險縁ニ平行シテ切開シ(緩張切開)眼瞼結膜ヲ剝離シテ移動スル 10mm ヲ得セシメオキテ、彼ノ上眼瞼ノ橋狀部ヲ下眼瞼ノ險縁ニオキテ、一ハ皮膚ト、一ハ結膜ト縫合シテ險縁ヲ作ル。上眼瞼ノ皮膚ヲトレル所ノ創面ハ單ニ縫合スレバ可ナリ。術後皮膚癩ノ癒著スルヲ待チテ橋狀ノ兩端ヲ切斷ス

第四眼瞼ノ一部缺損セル者：眼瞼缺損症 Lidcolobone.

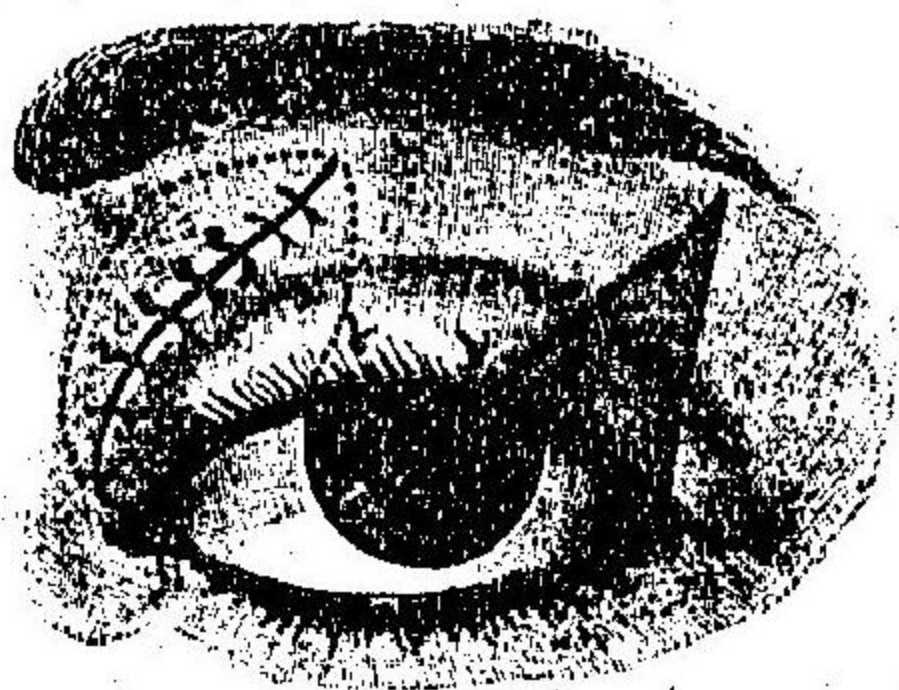
缺損ノ大眼瞼ノ三分一乃至五分ニヨリ少キ時ハ、通例コノ三角形チナス缺損部ノ兩縁ノ縫合ニ由テ效ヲ奏スル 10mm ヲ得ベシ。コノ際若シ缺損ガ新鮮ナル者ナラザル時ハ、注意シテヨリ癩痕組織ヲ除去セル後ニ於テナスベシ、くたつぶ Knapp氏ハ、コノ缺損部ノ直接縫合チナス時ハ、次ノ各項ニ注意スベシト云フ
一 細密ニ創縁ヲ一致セシムベシ。 結節縫合チナスニ、初メニ粘液膜ニ於テスベシ、コノ時兩創縁ノ端相違フ様ニ助手チノ堅張セシメオクベシ、然ラザレバ斜ニ縫合スル 10mm アリ、粘膜ノ縫合終レバ次ニ、險縁ノ線間部ニ強キ縫合チナシテ眼瞼ノ位置ヲ正シカラシメ、次ニ皮膚ヲ遊離部ヨリ始メテ縫合スベシ
ニ 縫合後兩眼閉鎖チナスベシ。 コレ眼瞼ノ運動ニ由テ縫合セル縁ノ破綻スル 10mm ヲ防グ

三 保護縫合。兩創縁ニ創縁ヲ距ル 1.5cm ノ所ニ間ヲオキテ絲ヲ通シ、皮膚面ニテ結紮ス、コレ堅張甚シクシテ縫合絲ノ餘リニ牽引セラル、キニ行フ

四 緩張切開。外眥切開術ヲ施シ、コノ部ノ皮膚ヲ基底ヨリ十分ニ剝離スベシ、止ムヲ得ザルキハ後ニ容貌ヲ損スルノ憂アレド、垂直線ノ緩張切開ヲ行フ、若シ内眥ニ於テ堅張甚シキハ小涙管、淚囊ヲ傷ツケザル様ニ結膜剝離ヨリ小剪刀ヲ以テ内眥部ノ眼瞼ヲ基底ヨリ剝離シテ鼻及頰部ニ及スキハ大ニ緩張セラル、 1cm ヲ得ベシ、コノ際眼瞼ノ固定及榮養ハ皮膚及小涙管周圍ノ結締織ニ由テ行ハルベシ

四らんごあーLandolt氏式(第九十七圖)

例ハ癌腫除去ニヨリテ眼瞼ノ内方三分ノ一ノ缺損アリトスル時ハ、外方ニ翼狀ヲナシテ存スル、三分二ノ眼瞼ヲ險縁ヨリ眼窩縁ニ至ル迄切開シテ二葉トナシ(あると氏縁間切開術ノ深キ者)ソノ前葉ヲ外方ノ部ニテ斜ニ切開シテ得タル者ノ内ノ内方ニ位スル皮瓣ヲ移送シテ、缺損ノ内側縁ヲ基底ヨリ剝離セル者ト縫合シテ造瞼ス、コノ新ナル眼瞼ハ中央



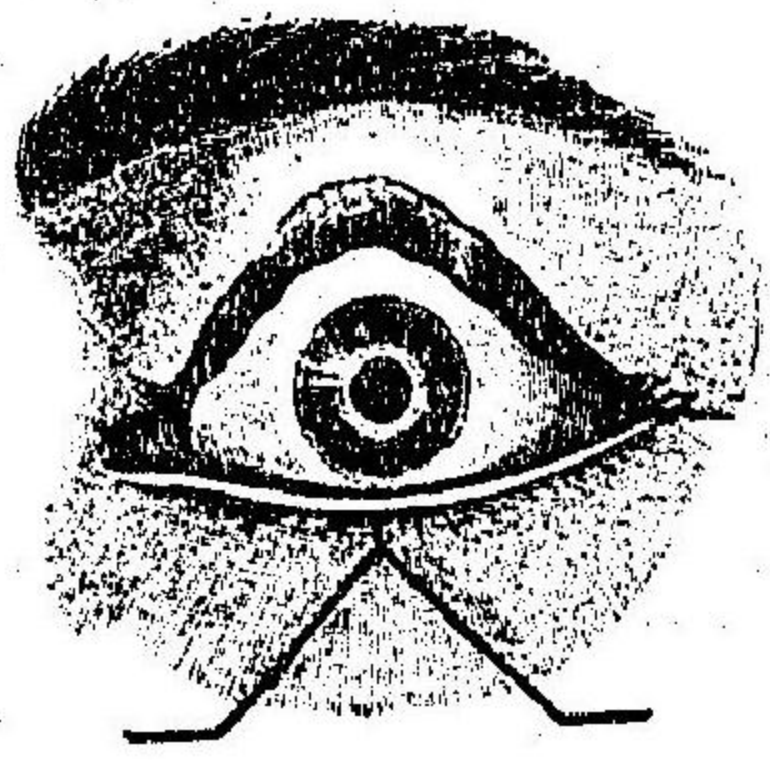
第九十七圖
らんごあー氏式

らんごあー氏

部ノミ前後ノ兩葉相重ル、コノ重レル所ハ縫合Matrazennahrtニテ固定ス、故ニコノ眼瞼ノ内方ノ部分ハ前葉ノミヨリナリ、外方ノ部分ハ後葉ノミヨリナリ、コノ手術ノ時眼瞼ヲ閉鎖縫合スルハ勿論ナリ(圖ノ點線ハ缺損部ヲ示ス)

五 うゐへるさーうゐ(Wierkiewicz氏式(第九十八圖))

第九十八圖
うゐへるさーうゐ氏式



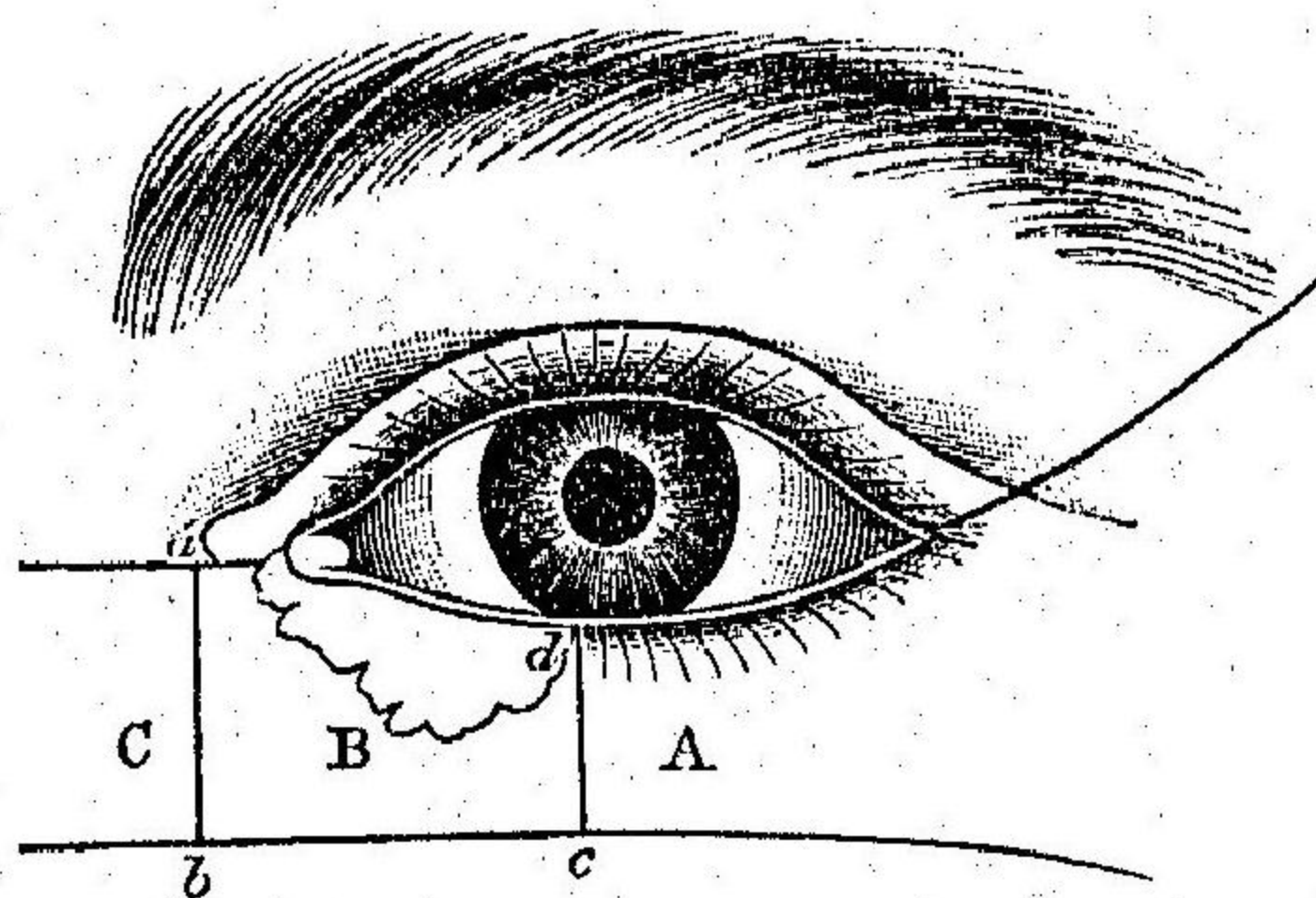
外傷性眼瞼缺損症ニ用ユ。圖ノ如キ缺損ヲ上眼瞼ニ生ズルキハ、コノ缺損ノ形ニ從フテ、下眼瞼ノ險縁ヲ少シク距リタル所ニ於テ、上方ニ相會スル二線 ab, bc ヲ作り、眼瞼ノ全層ヲ切開シテ眼窩縁ニ及バシム、コノ線ノ末端ヨリ、左右ニ險縁ニ平行シテ切開ヲ延長ス bd, ce 。次ニ先ツ ab, ac ヲ縫合シ、次ニ下眼瞼ヨリ作りタル三角形皮瓣 bdc ノ尖端 c ヲ上眼瞼缺損部ノ尖端 c ニ縫著シ、次ニ bd ヲ st ニ、 bc ヲ rs ニ縫合ス、コノ第一手術ノ後六七日ニシテ皮瓣上眼瞼ニ癒合セバ、コノ皮瓣ノ柄ヲナス dro ヲ稍、下方ニ彎曲セル線ヲ以テ剪截離斷セシメ、同時ニ bd, ce ノ切開創ヲ縫合ス、若シ abc ノ皮瓣十分ニ大ナルキハ ro ヲ上眼瞼舉筋ノ腱ニ縫著スル時ハ、眼瞼ノ上舉ヲナス

「得下云フ」氏ハカクシテ效ヲ奏セリト云フ。缺損大ナルキハコノ式ハ用ユベカラス

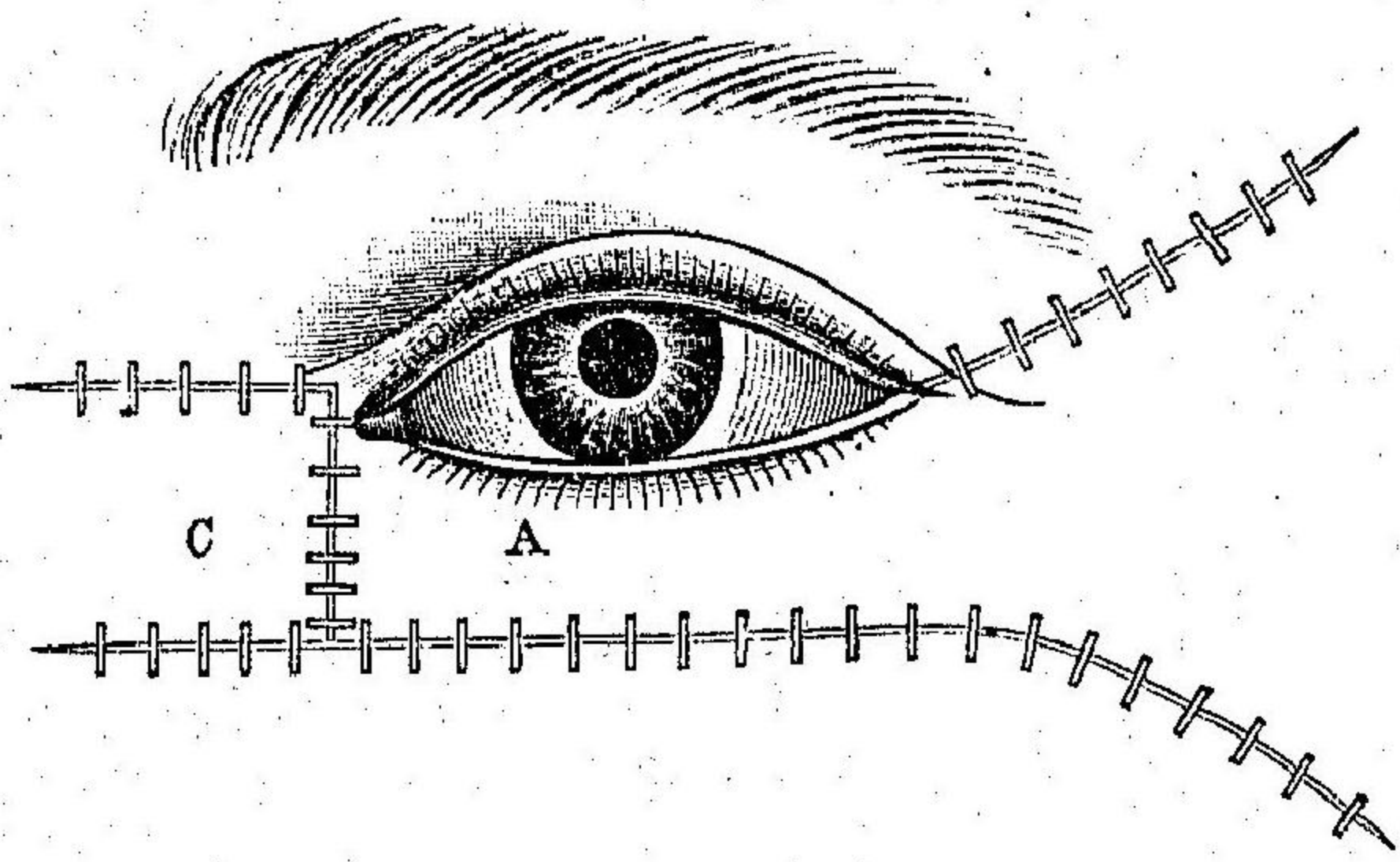
六くなく Knapp 氏式(第九十九、第一百圖)

くなく氏式

第九十九圖 (圖載所書科眼氏るへっみ) 式氏ぶっなく



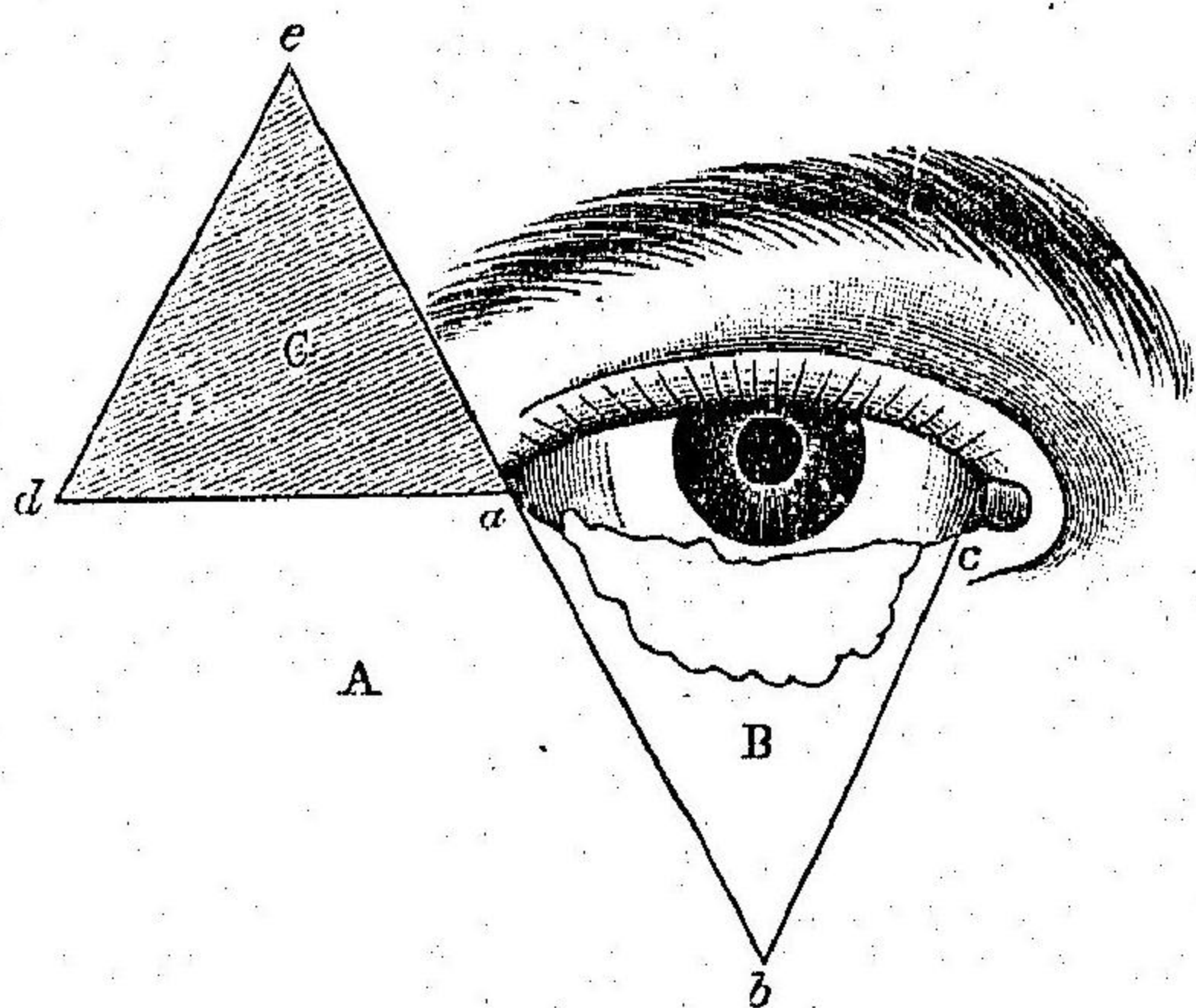
第一百圖



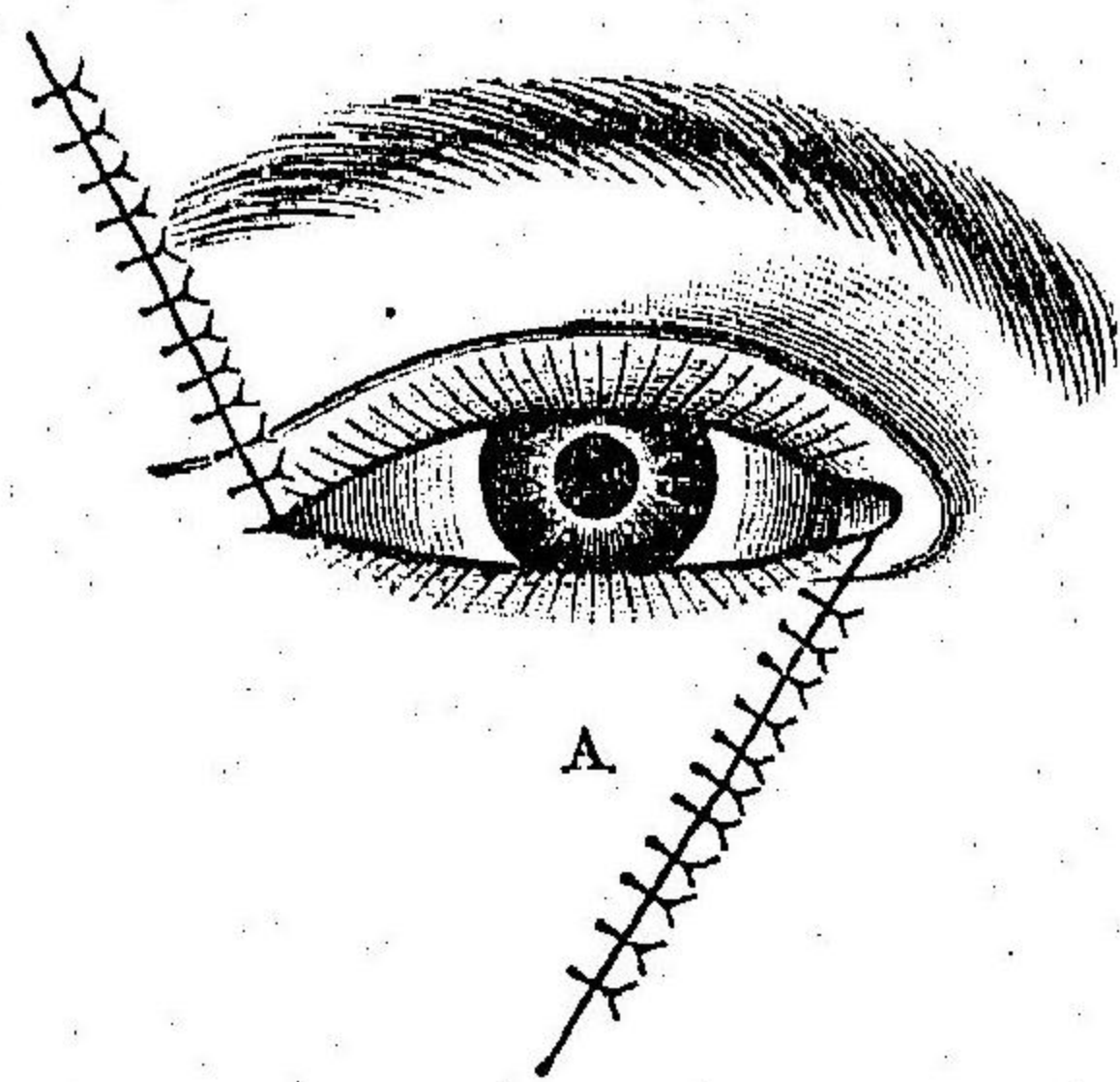
圖ノ如キ切開ヲナシテ
ヲロニ縫合
ス
七びろー
Burrow 氏式
(第一百、第百
二圖)
三角形 abc
ノ缺損部ヲ
補償スルニ
近傍皮膚ノ

びろー氏式

第一百圖 式氏ろび



第一百二圖

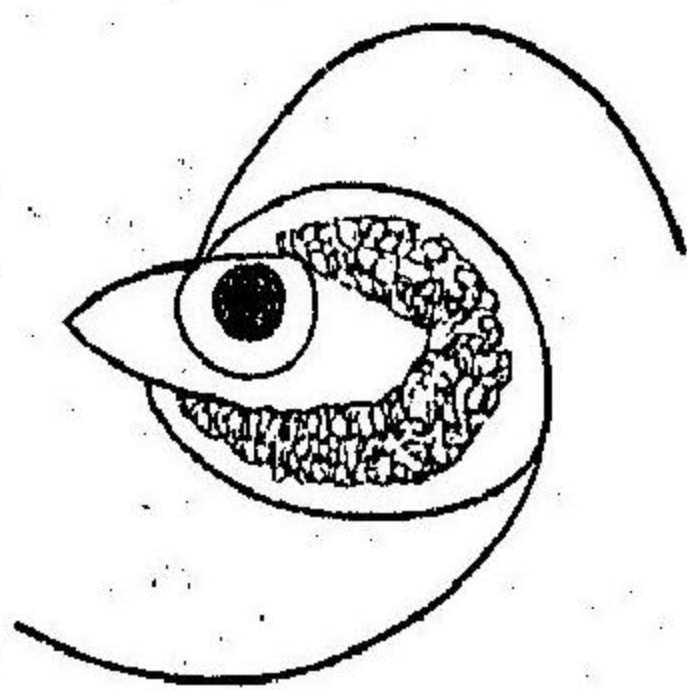


移送ヲ容易ナラシメンガ爲ニadeナル三角形ノ皮膚ヲ切除シテedヲcbニ、
edヲedニ縫合ス
八はすねる氏兩眼瞼成形術(第百三、第百四圖)
例ハ外眥部瘤腫ノ除去ニ由テ同時ニ兩眼瞼ニ缺損ヲ生ゼル時之ヲ補償セ

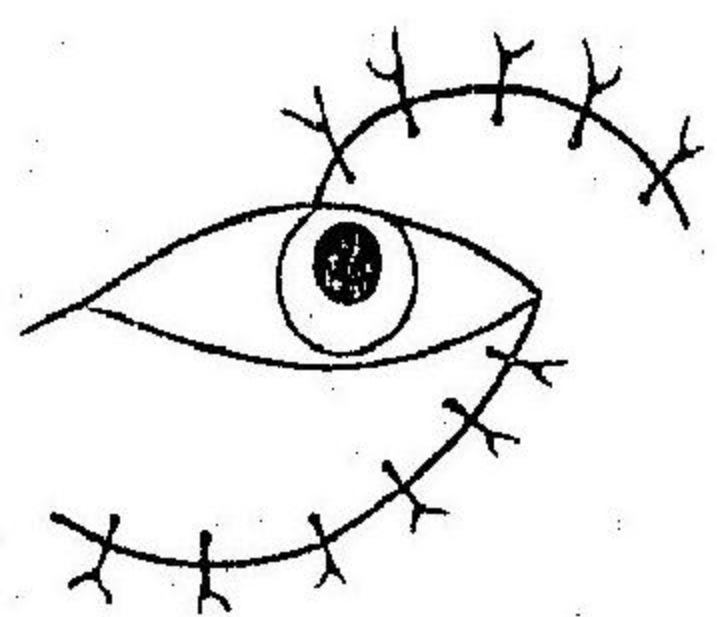
はすねる、ふ
おん、あるた
形術氏兩眼瞼成

眼瞼下垂症手
術

第三百三圖
はすねる、ふ、おん、あるた
術形成瞼眼兩氏あ
氏んまるち)
(載所論各科外



第三百四圖



ントスルノ法ニシ
テ、圖ノ如ク缺損部
ノ周圍ニ於ケル皮
膚ヨリ二個ノ鎌状
皮瓣ヲ作ル

第二十項 眼瞼下垂症手術

一ぐれーふ Græfe 氏式

麻醉 要セズ

助手 角板ヲ保持セシムルモノ一人

器械 小尖刃刀、鉤鑷子、小鑷子二本、持針器、剪刀、一端ニ針ヲ有セル絹合絲

三本、角板

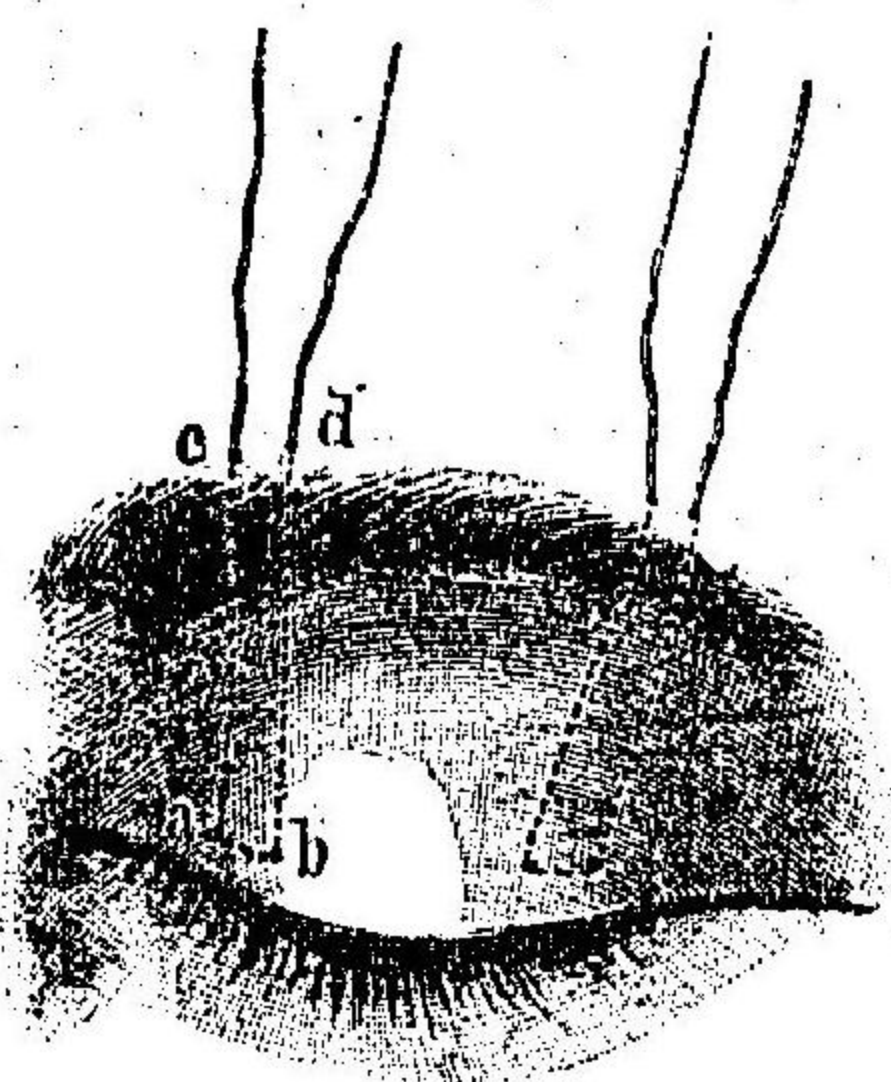
位置 術者ハ患者ノ頭方ニアリ

術式 瞼縁ノ上 5 mm. ノ處ニ平行ナル切開ヲ眼瞼ノ一端ヨリ他端ニ及

ボス、止血、次デ上創縁ヲ強ク上方ニ引カシメ現レ出タル輪匠筋纖維ヲ軟骨

ばーげんすて
つへる氏式

第三百五圖
式氏るへつてすんげーば



二ばーげんすてへる Pagenstecher's Suture 氏式(第三百五圖)
麻醉並助手 不要

面ヨリ剪除ス、次ニ止血、殘レル筋纖維ヲ皮膚ノ創縁ト共ニ縫合スルヲ三條、
眼瞼皮膚ニ過剩アルキハ狭ク 3-5 mm. ヲ切除ス、終ニ沃度仿謨撒布、繃帶
目的 眼瞼舉筋ノ力ヲ加ヘンガ爲ニ對敵ナル輪匠筋ノ力ヲ弱ムルニア
リ、皮膚ヲ切除スルハ前額筋ノ力ヲ及サシメントスルニアリ
適應症 不全下垂症

器械 昇汞水ニ浸セル綿ノ小球、持針

器解剖用鑷子、長キ絹絲ノ兩端ニ大針ヲ

附シタルモノ以上二個ヅ、

術式 絲ノ兩端ニアル針ヲ以テ瞼縁

ヨリ 2 mm. ヲ距テタル所ニ刺入シ皮下

ヲ潜通シ眉弓上ニ至リテ貫出シ其兩端

ヲ結紮シシノ化膿スルヲ待チテ除去ス結紮スルキニ綿球ヲ枕トシテ直接

ニ皮膚ヲ壓セザラシム

目的 化膿後ニ生ズル瘻痕絲ニ由テ瞼縁ト前額筋トノ間ニ結合ヲ作り前額筋ノ力ヲ瞼縁ニ及ボサシメントスルニアリ

適應症 眼瞼舉筋ノ作用消失シタル者ニテ眼瞼ノ皮膚ニ甚ダシキ過剰ナキ者……輕度ナル者

三 Wecker 氏式

術式 ばーげんすてへる氏法ニ眼瞼ノ皮膚ヲ切除シ其創縁ノ相接スル丈絲ヲ緊紫ス

四 Hess 氏式

局處麻醉 古加乙涅水又ハシユライヒ氏ノ浸潤麻痺ヲ用フ

器械 角板、尖刃刀、兩端ニ針ヲ有スル絲三條、一端ニ針ヲ有スル絲一條、持針器

術式 眉毛ヲ剃リテソノアトニ、眼窩縁ニ平行シテ切開シコノ下創縁ヲ眼瞼縁迄剝離シ、次ニ眼瞼縁ヲ去ルニ、上ノ處ニ、前額皮膚ニ貫出シテ、兩針ヲ刺入シ、相平行セシメテ切開ノ上創縁ヲ去ルニ、前額皮膚ニ貫出シテ、結紫ス、カクノ如クスルヲ三絲、次ニ切開創ヲ縫合ス

目的 ばーげんすてへる氏法ト同ジクシテ其效大ナリ

五 Landolt 氏式

術式 瞼縁ヨリ 2mm. ノ處ニ、平行ニ切開シテ皮膚ヲ眼窩縁迄剝離シ、眼瞼ヲ二葉ニナシ、兩端ニ針ヲ有セル絲ヲ以テ、切開ノ下創縁ニ刺入シ、皮膚ノ下ヲ通り眉毛ノ上、前額ノ皮膚ニ於テ貫出シ、結紫ス、カクスルキハ、皮膚ハ上舉セラレタル下葉ノ前ニ懸垂セラルレト時ヲ經ルヤ、收縮シテ常態ニ復ス可シ

六 Pansa 氏式(第百六、第百七圖)

器械 角板、小尖刃刀、解剖鋸子、固定鋸子、兩端ニ絲ヲ有スル絹絲四五本、持針器

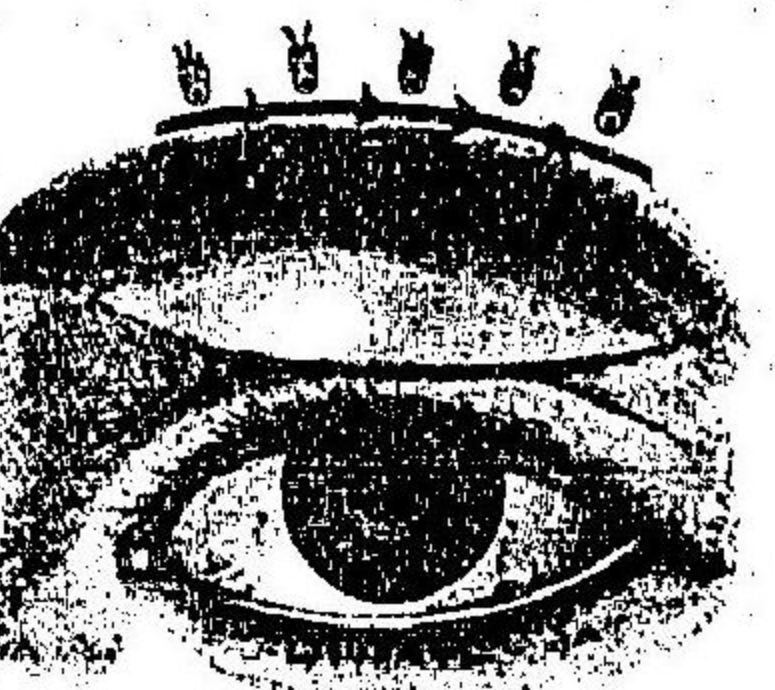
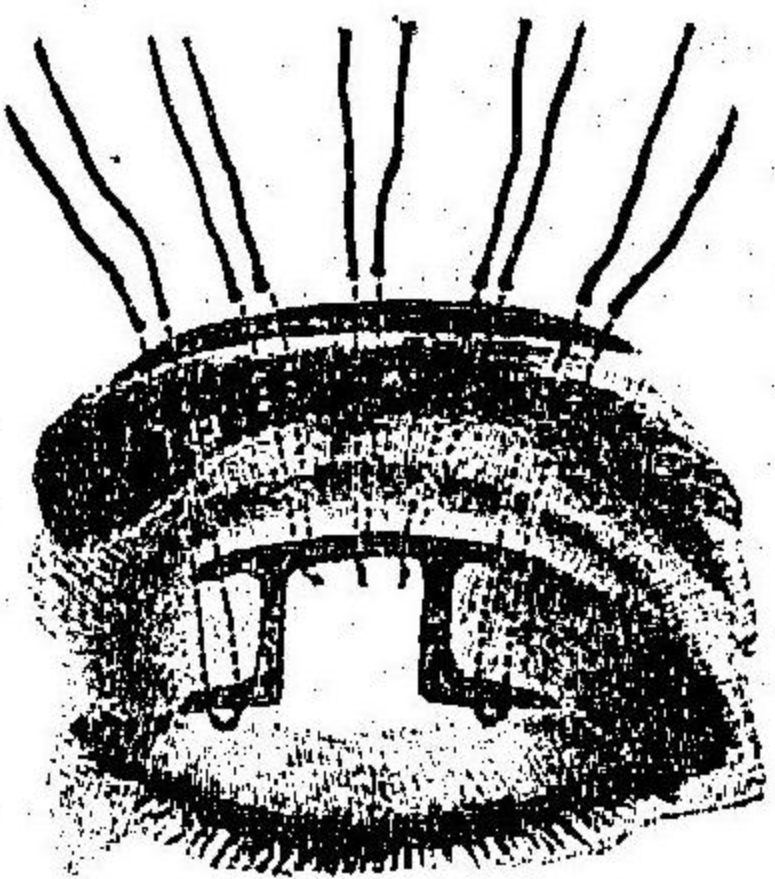
針器

局處麻醉 古加乙涅ノ半筒皮下注射

射

術式 眼瞼皮膚ニ

正字形ノ切開線ヲ作



第百六圖 ばな氏式

第百七圖

ばな氏式

リソノ眼窩縁ニ平行ナラシム、切開腺ノ中央〇ノ皮下組織ヲ剝離シ、次
 テ眉毛内ニ〇ニ平行シテ〇ヲ切開シ、次ニ 2.5mm ノ間ノ皮下ヲ剝離シテ橋狀
 ニナシオキ、圖ノ如ク針ヲ通ジテ〇ナル皮瓣ヲ、 2.5mm ナル皮橋下ニ引キテ、結
 紮スルヲ、圖ノ如クス可シ

繃帶 險裂ノ上ニハ、硼酸ワゼリンヲ塗布セル護謨紙ノ長片ヲ載セ(コレ
 術後一時高度ノ兎眼ヲ來スニヨル)、次ニ通例ノ如クニ無毒繃帶ヲナス、第二
 日ニ十字形ニ剪レル絆創膏ヲ險裂ニ貼布ス、絲ハ四五日ニシテ去ル

目的 眼瞼皮膚ヲ短縮スルニアリ

注意 皮瓣ヲ作ル所、下部ナル程其效大ナリ、術後效果過大ノ觀アルハ、日
 ヲ追テ減ズ可シ、皮膚瓣(〇)ヲ作り、長キニ過ギタリト知ルキハ、切除シテ短ク
 ナシテ皮橋下ニ致ス可シ

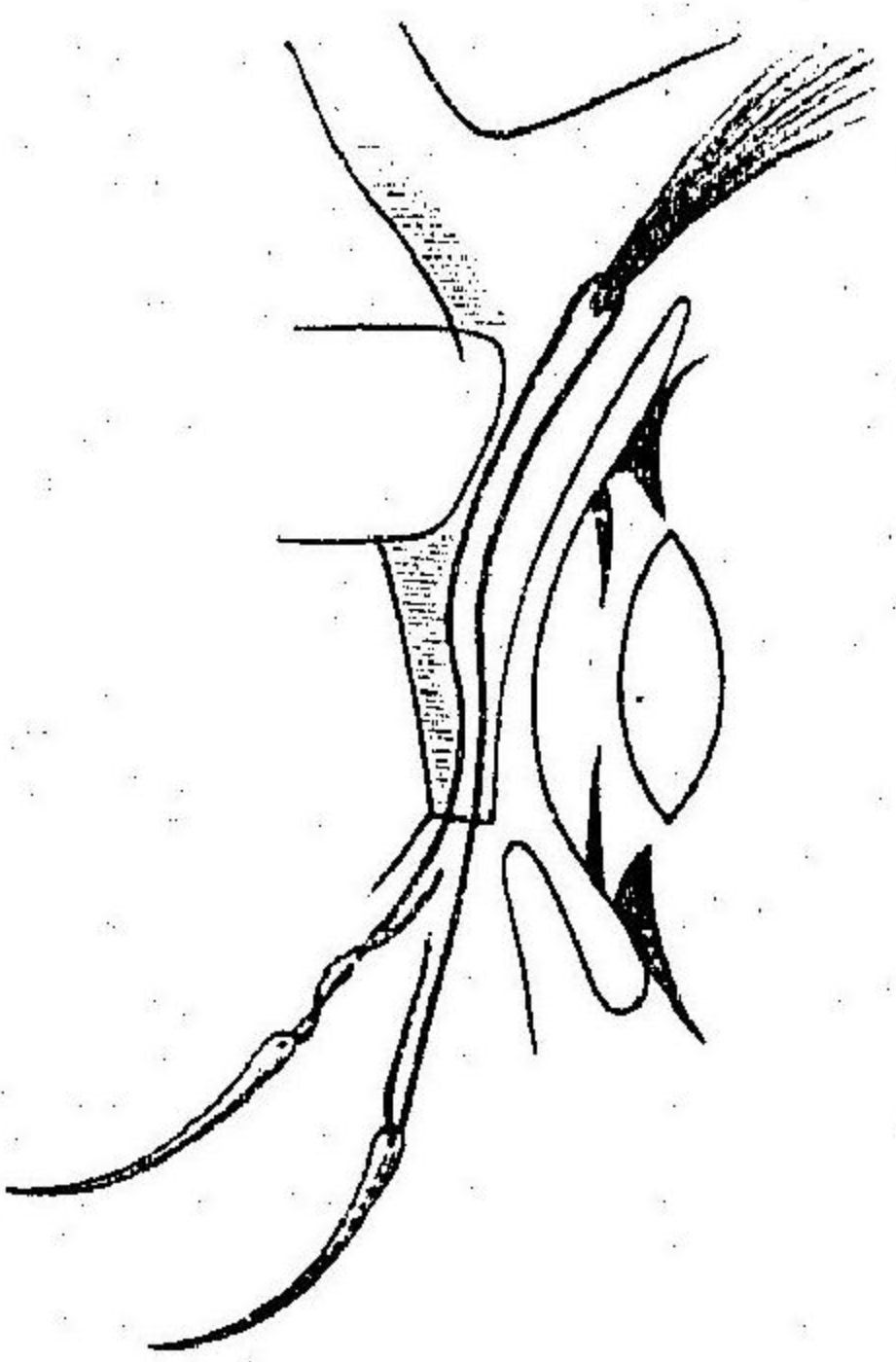
適應症 先天性、後天性ノ者ニテ險舉筋ナキカ或ハ全ク麻痺セル者

七えへるすぶし氏健前轉法 Eversbusch's Sehnen vor Lagerung (第百〇八圖)

器械 小圓刃刀、夾險器、鉤二本、持針器、兩端有針ノ絲三本
麻醉 全身麻醉

七えへるすぶし氏式斷面圖

第百〇八圖 七えへるすぶし氏式斷面圖 (載所書科眼七えへるすぶし氏)



術式 上眼瞼ノ皮膚ヲ、ナル
 ベク上方ニ指ニテ引キ上ゲテ
 クカ、或ハ皮膚ヲナルベク上ニ
 引キオキテ、夾險器ヲ固定シ、小
 圓刃刀ヲ以テ、眼窩縁ト眼瞼縁
 トノ中間ニ、眼窩縁ニ平行ニ、皮

膚及輪匠筋層ヲ一舉ニ切開シ、軟骨面ニ達スルヤ、上下ニ 4mm 、宛筋層ヲ軟
 骨ヨリ剝離シ、險舉筋ノ軟骨上縁ニ附著スル所ヲ暴露セシメ、兩端ニ強ク彎
 曲セル針ヲ有セル絲ヲトリ、其一針ヲ以テ横ニ險舉筋ノ腱ニ刺入シ 2.5mm 。
 ヲ距テ、貫出シ、針ヲ引キテコノ腱ヲ貫ケル部ヲ絲ノ中央ニオキ、次ニ兩針
 ヲ各々軟骨ト筋層トノ間ヲ通ジテ、險縁部ニ約 2.5mm ヲ距テ、出シ、綿片(又
 ハ南京玉、護謨管ノ一片)ヲオキテ結紮ス、カクスルヲ中央及内外ノ兩端ニ於
 テス、次ニ皮膚筋層ノ切開創ヲ縫合ス

繃帶 通例ノ如シ兩眼ニ施シ皮膚創ノ治スルヲマテ去ル

目的 險舉筋ノ腱ヲ短縮シ險舉筋ノ輕少ナル力ヲ以テ大ナル作用アラ

ノ貴重ナル部分ヲ犠牲ニ供セザランガ爲メト尙時ニ一部分ノ除去ニ由テ
 殘部ノ自癒スルヲアレバナリ。後出血ハ壓迫繃帶、氷罌法等ニ由テ止血セラ
 ルベシ。若シ出血尙止マザレバ腫瘍ノ殘部ヲ取り去リ、缺損ヲ生ズレバ眼瞼
 成形術ヲ施スベシ

(三) 腫瘍若シ眉毛、額部、鼻根、頰部等ニ及ベル時ハ施スベキ術ナシ

(四) 哺乳兒ナルカ然ラザルモ刀ヲ恐ル、ノ人ナルキハ、電針法 *Electropunctur*
 ヲ行フ。積極ヲ白金針トナシ消極ト連絡セシメ、毎回三四ヶ所ニ刺針ス。密接
 シテ刺針スルキハ大ナル壞疽ヲ生ジ、後ニ高度ノ癩痕收縮ヲ來シ、爲メニ兎
 眼、外反症ヲ來スヲアリ、慎マザルベカラズ

眼瞼象皮症手
術

第二十三項 眼瞼象皮症手術

肥大セル皮膚ニ幾回カ反復切除ヲ施シ、同時ニ皮下組織ノ過剩ナル者ヲ切除ス
 ベシ

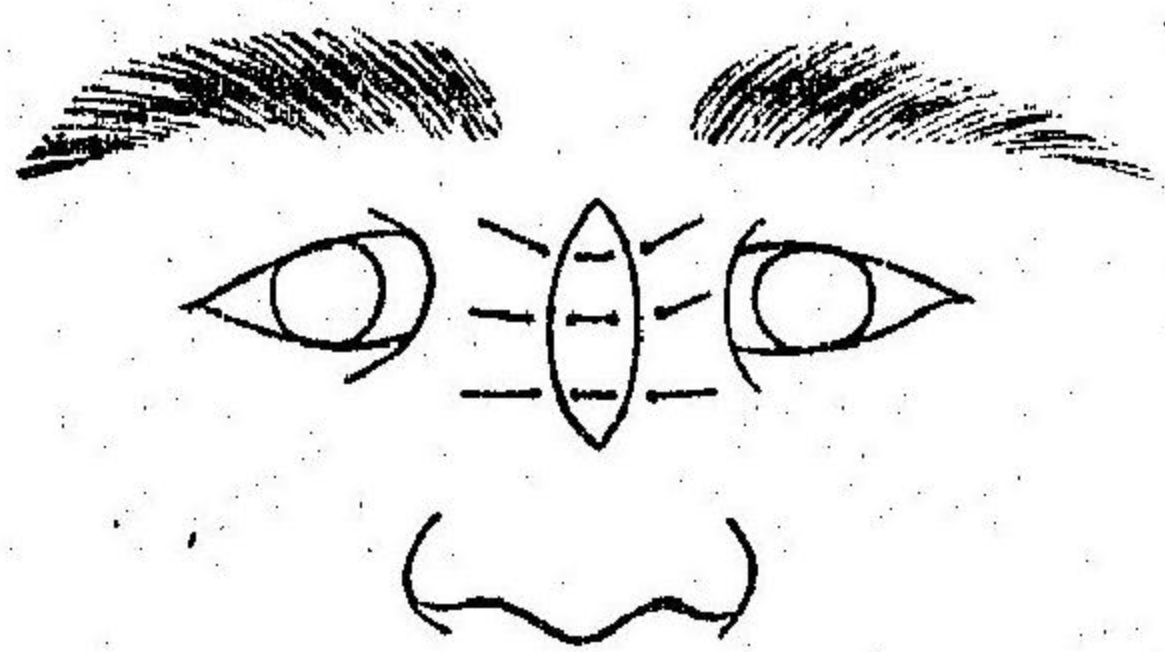
第二十四項 内眥贅皮 *Epicantus* 手術

内眥贅皮

あんもん氏内
眥贅皮手術式

第百十圖

あんもん氏内眥贅皮手術式



- 一 あんもん *Ammon* 氏式(第百十圖)
- 鼻梁ノ皮膚ヨリ贅皮ノ皺襞ノ高サニ於テ、縦楕圓形
ニ切除シ横ニ縫合ス。切除ノ大小ハ贅皮ノ大小ニ
ヨル
- 二 ある *Arll* 氏式
- 兩眼ノ内眥ニ於テ過剩ナル皮膚ヲ切除ス

涙器手術

小涙管切開術

第二章 涙器手術

第一項 小涙管切開術

Schlitzung des Tränenkanälchens

目的

小涙管ヲ溝狀トナス、ソノ溝後方ニ向フガ故ニ容貌ヲ損スルコトナ

シ(第百十一圖)

術式 涙管消息子(第百十二圖)ヲ右手ノ

第一、二、三指ニテ持チ、小指ヲ前額ニ當テ、

左眼下眼瞼ノ小涙點ニ垂直ニ挿入シ(左眼

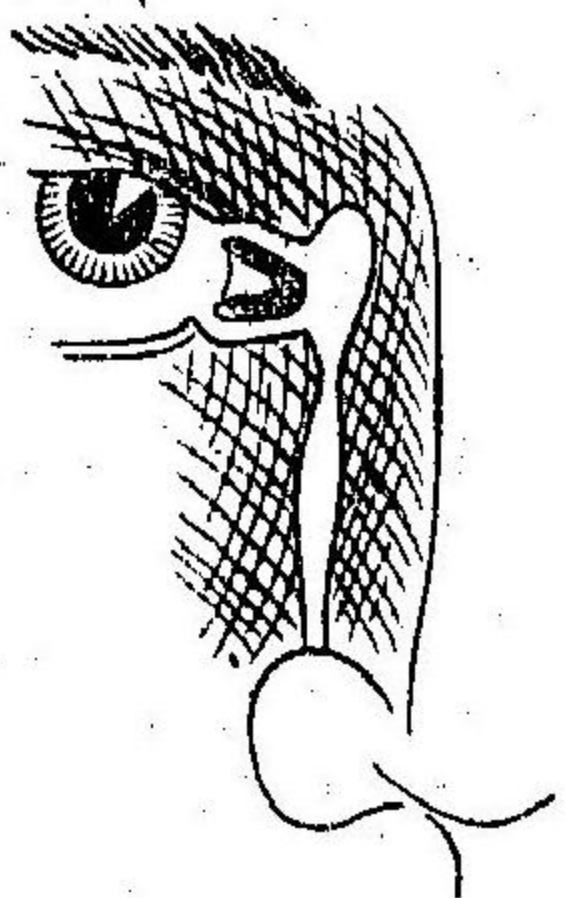
ヲ例トス)壘狀部 Ampullaノ底ニ達シテ少

シク抗抵アルヤ、九十度廻轉シテ

水平ニ小涙管ニ送ル、コノ時左手

ヲ以テ下眼瞼ヲ外下方ニ引キテ、

小涙管ヲ堅張シテ内眥ニ皮皺ナ

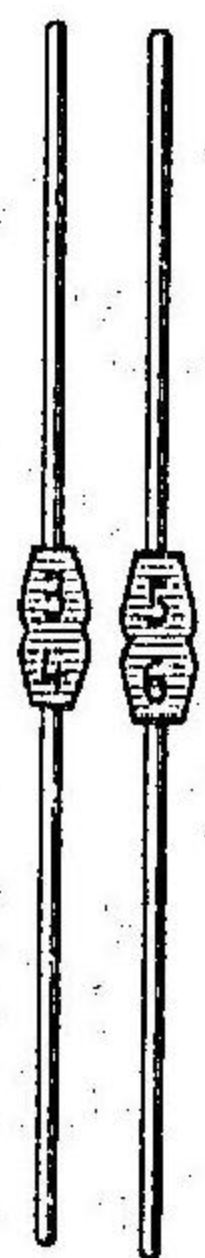


涙道圖

第百一十圖 涙道

涙管消息子

第百二十圖 涙管消息子

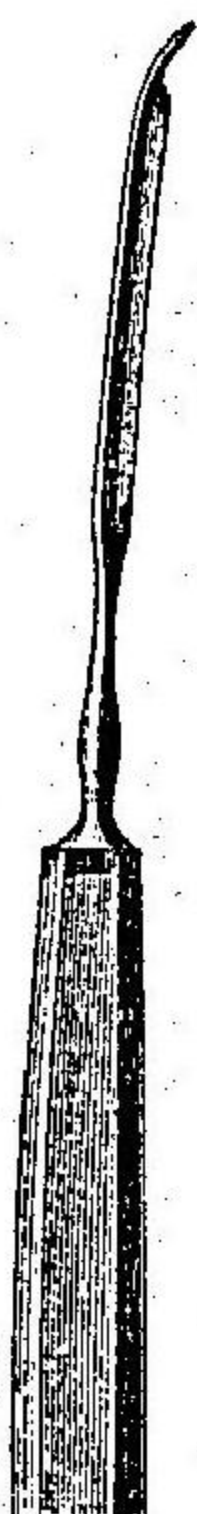


涙器手術

小涙管切開術

うゑいへる氏
涙管刀

第百三十三圖 涙管刀



カラシムベシ、既ニ涙囊ノ内

側ニ到ルヤ骨ニ衝リテ抵抗

ヲ感ズ、コノ時少時休息シテ、

反対ニ引キ抜ケバ涙點小涙

管擴張セラルベシ、コ、ニ於テうゑいへる氏涙管刀(第百十三圖)ヲ挿入シ(或

ハ消息子擴張ヲナサズシテ、直ニコノ涙管刀ヲ手ニスルモ可ナリ)ソノ刀及

ヲ後方ニ向ケテ刀柄ヲ引キ起スコノ九十度、刀柄ノ端眉毛ニアタル迄涙囊ニ

オシ入ル、其ハ、小涙管ハ涙點ヨリ息肉部迄切開セラル。綳帶ヲ要セズ、創面

ノ癒著セザルヲヨシトスレバナリ、若シ癒著セントセバ消息子頭ニテ離開

スベシ。忍耐ナキ患者ニハコノ術ノ前後ニ古加乙混水ヲ點眼スベシ

適應症 一 涙點隔離症、二 小涙管狭窄、三 涙點閉鎖、四 小涙管内ノ「ポリープ」

菌集合體、涙石、五 涙囊、鼻涙管ノ疾患ノ時洗滌、消息、粘液搔抓等ヲナスガ爲メ、

六 涙囊炎ノ初期ニ涙囊内容物ノ容易ニ排除セラレテ涙囊ノ擴張ヲ豫防セ

ンガ爲メニ

小淚管ノ電氣療法

第二項 小淚管ノ電氣療法

消息子ヲ通シオキテ、之レニ消極ヲ接続シテ電流ヲ通ズ、四、ミリアンペア

小淚管閉鎖術

第三項 小淚管閉鎖術

Verschluss der Thränenrohren

- 一時性ト持久性トノ別アリ
- 一時性ノ閉鎖 一時性ナルハ淚囊ト結膜囊トノ交通ヲ一時絶斷セントスルモノニシテ、例ハ化膿性淚囊炎アル患者ニ眼球手術ヲナサントスル時、險縁ニテ、小淚管ノ起始部ヲ結束スルニアリ。即チ淚點ノ内方ニテ險縁ヨリ二密迷距テ、針ヲ通シ險縁ニテ強ク結紮ス、二三日ニシテ絲ヲ去ル。交通斷絶ノ必要ヲ見ザルノ時、コノ絞紮部ヨリ内方ニ於テ小淚管ヲ切開ス。或ハ小淚管ノ起始點ヲ燒灼シテ一時閉鎖セシメ、必要去レバ消息子ヲ以テ擴張復舊セシムベシ (Haab)
- 二持久性ノ閉鎖 小淚點ヨリ深ク(五密迷)燒灼子ヲ送り強ク粘膜ヲ燒灼ス

鼻淚管消息法

ベシ (Haab) コノ閉鎖ヲ淚囊破壞術ノ時ニ行フ人アレモ、コノ時ハ反テ、小淚管存スル方創傷分泌物及ビ血液ノ排除ニ便アリト (Czernak)

第四項 鼻淚管消息法 Katheterismus d. Tränensenganges (第百十四、第百十五、第百十六圖)

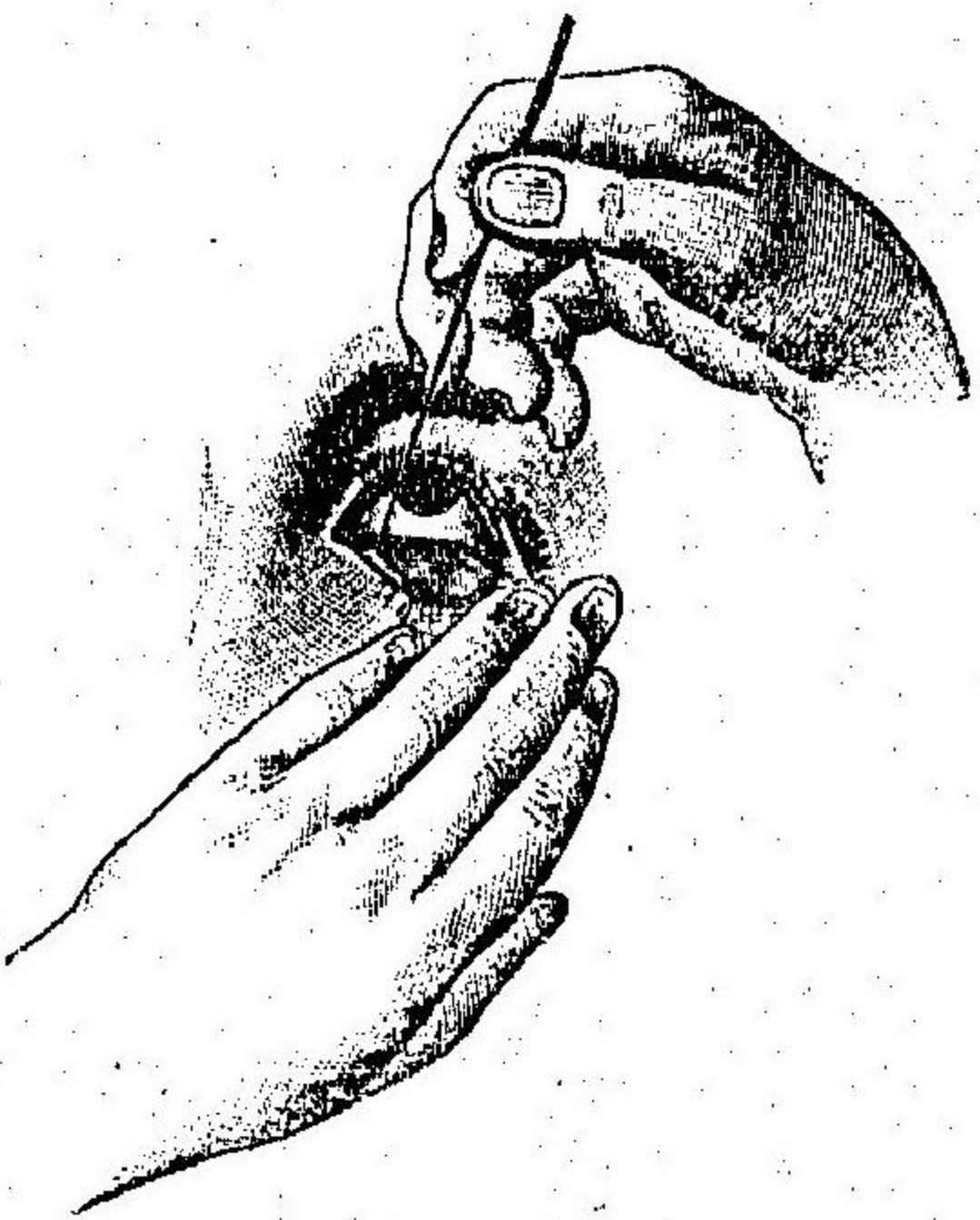
Katheterismus d. Tränensenganges (第百十四、第百十五、第百十六圖)

患者ヲシテ頭部ヲ稍、後方ニ傾ケシメ、或ハ助手ヲシテ之ヲ支持セシメ、術者ハ左手ニテ外眥(右眼)ヲ外上方ニ引カシメ、右手ニ第一、二、三指ニテばーまん

氏消息子(第百十二圖)ヲ持チ、其端ヲ淚孔ニ挿入シ、先ヅ垂直ニ下シ抵抗ヲ覺ユレバ九十度廻轉シテ消息子ヲ横へ、險縁ノ方向ニ内眥ニ向テ送入シ淚囊ニ入りテ(淚囊ニ入ル所狹窄スルコトアリ)ソノ内壁ニ衝突スルヤ骨面ニフレテ硬キ抵抗アルベシ、次ニ少シク休ミ

淚管消息法

第百十四圖 淚管消息法

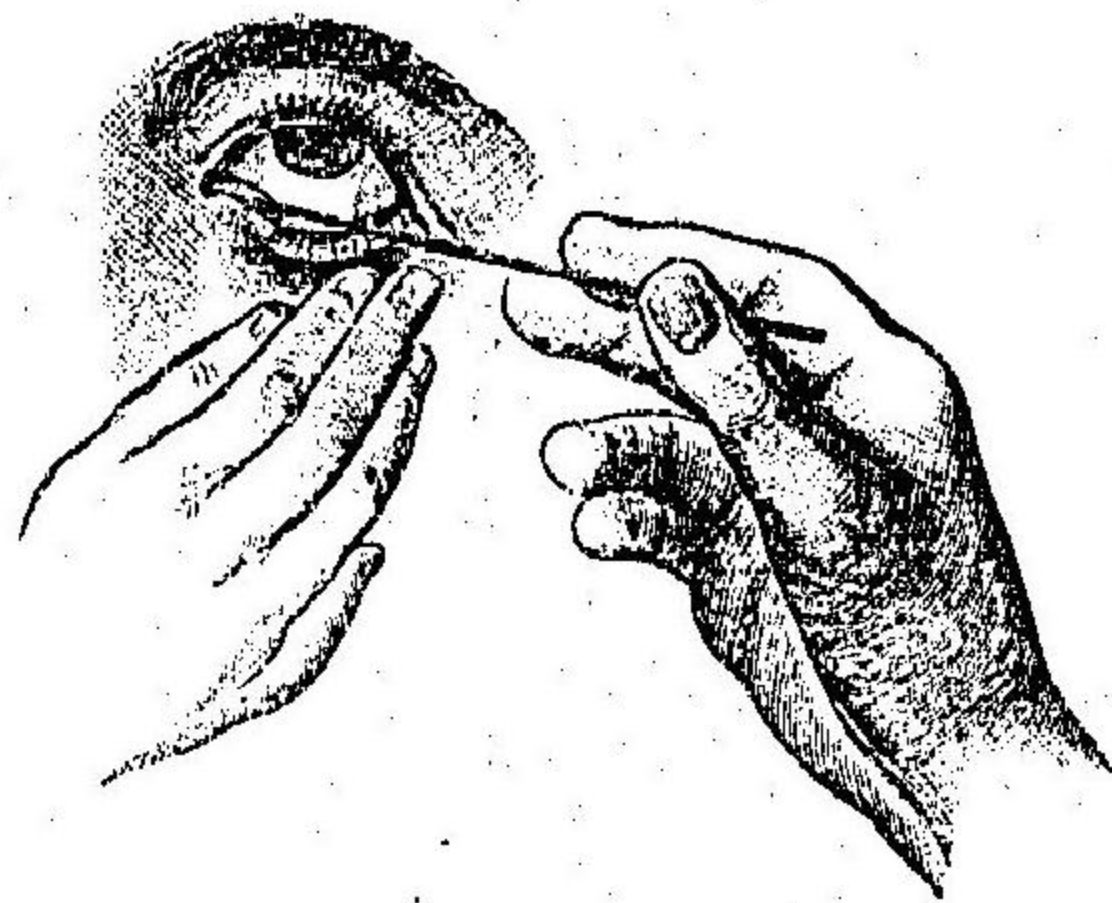


小淚管ノ電氣療法・小淚管閉鎖術・鼻淚管消息法

二 涙管消息法ノ

圖五 十 百 第

二ノ法 息 消 管 涙

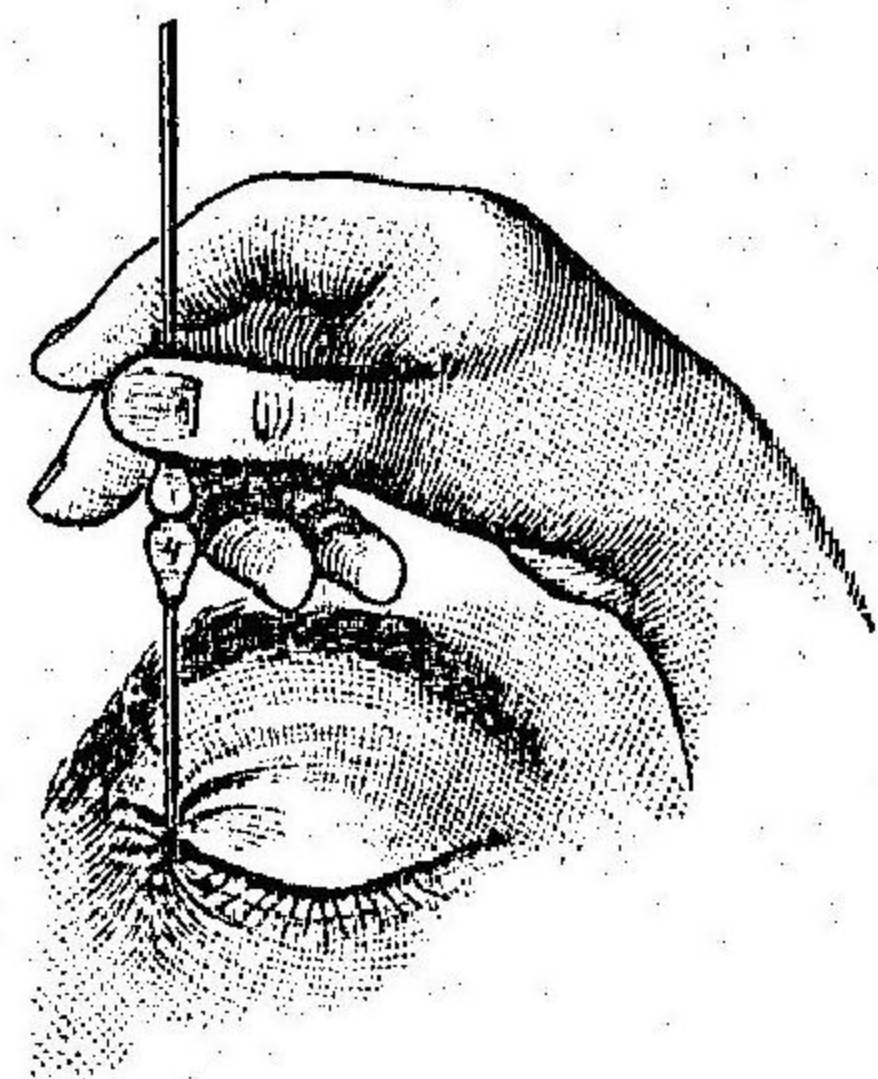


テ、消息子ヲ少シク引キモドシ、上方ニ廻
 轉スルコト九十度、再ビ垂直ノ位置トナ
 シ、下方ニ向ツテ送入ス。コノ時、内眥部ニ
 於テ消息子ニ接シテ、眼瞼皮膚ノ皺襞ヲ
 作ルハ、消息子ノ端、鼻淚管孔ニ向ハザル
 ノ證ナリ。コノ管口ハ、管ノ終端ト共ニ生
 理的ニモ、狹細ナル所ニシテ、マク病的狹
 窄ノ尤モ多キ所ナリ。然シテ、此上狹窄部
 ノ上部ニ於テ、擴張セラレテ、側室ヲ作ル
 一少カラズ、消息子ノ端若シコノ側室ニ
 入ル時、軟部ニ衝突スルガ故ニ、一種彈
 力アル抵抗ヲ覺ユベシ。マク管孔ニテ正
 シク消息子ノ端ガ管内ニ進メル時、消
 息子ヲ執ル指ヲ離スモ、消息子ハヨクソ
 ノ位置ニ固定スベシ。コレニ反シテ、管口

三 涙管消息法ノ

圖六 十 百 第

三ノ法 息 消 管 涙



内ニ入ラザル時、指ヲ離セバ、直チニ顛倒スベシ。既ニ管口ニ進メル時、ハ徐々
 ニ力ヲ加ヘテ、鼻淚管ノ方向ニ逆下スベシ。管ノ中途ニテモ、又ハ管孔ニテモ
 狹窄シテ入り難キ時、ハ稍、ヒキモドシテ、更ニ少シク方向ヲ變ヘテ進マシム
 ル時、ハ容易ニ入ルコトヲ得ルコトアリ。管ノ下鼻道孔ヲ出ヅルヤ、鼻腔牀ニ
 衝突シテ抵抗アリ。コノ時、患者消息子ノ鼻内ニ入レルコトヲ自覺ス。而シテ
 ほうまん氏消息子ハ、ソノ中央ニアル短柄ノ端ガ患者ノ眉毛部ニアタルベ
 シ。消息子ヲオクテ十五分間、之レヲ抜キ出ル時、ハ注意シテ徐々ニ引キモド
 スベシ

小涙管ハ上下何レヲ選ブベキカ、下小涙管ノ方廣大ナリ、多クハ之レニ
 挿入ス。然レモ下涙管ニテモ消息子ノ太キ者(No. 0以上)ハ進ミ難シ故ニ、息
 肉ニ至ル迄、小涙管ヲ切開セル方鼻淚管ノ消息ニハ便多シ。下小涙管全ク閉
 鎖セル時、ハ上小涙管ヲ用ユ

所用消息子 診断的ニハほうまん氏消息子No. 3(徑一密迷)ヲ用ユ、通ゼ
 ザル時ハ更ニNo. 2, No. 1ヲ試ム、初ヨリ餘リ細キ者ヲ用ユル時ハ反テ通
 シ難キモノナリ。No. 3通ズレバ更ニNo. 4以上ヲ試ム。治療的ニハ通ズル

ヲ用ルモノ、内ノ太キモノヲ用ヒ更ニ次第ニ太キモノヲ用ユ

消息ノ度数 初メハ一日一回、後ニ毎二日若クハ毎三日一回、更ニ毎週一回

注意 診断ニ際シ消息子通り難キ時ハ、更ニ翌日若クハ二三日ヲ經テ試ムベシ、容易ニ挿入シウルコトアリ、僅ニ一回ノ挿入ヲ以テ直ニ閉鎖セルモノト認ムベカラズ、マタ強テ挿入セントスルコトナカレ

手術中ノ不幸 小涙管ノ毀傷ヲ生ズ、コレ太スギル消息子ヲ用ヒテ暴力ヲ以テ挿入セントセルニヨル、ニ粘膜ノ剝傷、ニ暴力ヲ用ユル時コトニ消息子細キ時ハ、涙管以外ノ組織内ニ挿入スルコトアリ、未ダ涙囊ニ達セザル時消息子ヲ立テ、強壓スル時ハ小涙管ノ壁ヲ穿孔シテ涙管外ノ組織内ニ入ルコトアリ、コノ爲ニ激裂ナル炎症ヲ來スコトアリ、涙囊ノ内壁ヲ穿通シテ涙骨ヲ破ルコトアリ、狭窄部ノ上部ニ於テ涙管ヲ衝キ破ルコトアリ

注意 神経質ノ患者ニテハ消息子ヲ通スルノ前後ニ於テ失神狀ニナルコトアリ、らんぼるじー Rampoldi氏ハ消息子ヲ通セル後直ニ癲癇様發作ヲ來セル一婦人ヲ見タルコトアリ、又瞳孔散大症ヲ來セル患者ヲ見タルコトアリト

云フ、鼻涙管ノ疾患ハ鼻腔疾患ト關係多キガ故ニ常ニ鼻ノ検査ヲ怠ルベカラズ

適應症 一鼻涙管ノ検査、ニ狭窄ヲ擴張スルガ爲ニ

禁忌症 一涙囊炎新ナルキハ粘膜炎腫シテ毀損ノ恐多シ、ニ高度ノ癢痕狭窄ナル時、ニ狭窄ガ骨、疾患ニ原因スルキ、ニ既ニ涙囊擴張ヲ來セル時、ニ全ク閉鎖セラレタルキ、ニ粘膜炎ノ「ポリロー」様變性ヲ呈セル者、ニコレニ由テ全身違和ヲ來ス人

第五項 涙道洗滌 Ausspritzung des Tränenanges

診断、治療及他ノ手術ノ準備(例ハ眼球手術)トシテあねーる Anel'sche Spritze氏



注射器(第百十七圖)ヲ用ヒ洗滌液ヲ小涙管ヨリ注入シテ鼻腔ニ排出セシメテ洗滌ス。洗滌藥ハ二十倍「プロタルゴール」液、硝

酸銀液、溫湯、食鹽水、昇汞水等ヲ用ユ

第百十七圖 涙道洗滌器注射器

あねーる氏注

涙道洗滌

涙道洗滌

べちの氏
涙囊前壁切開法

第六項

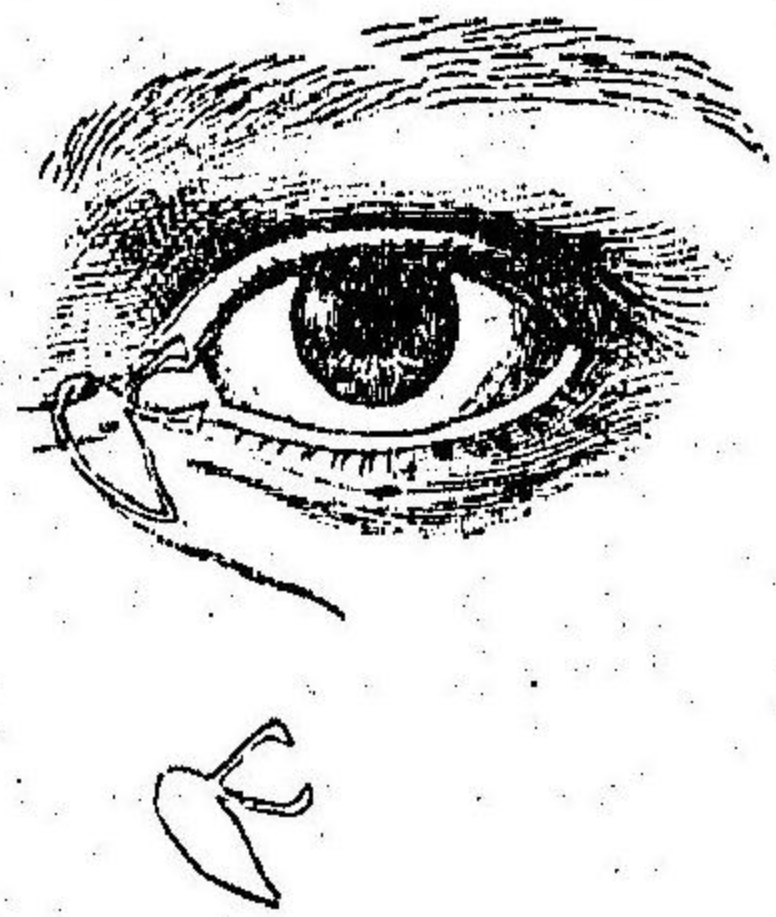
べちの氏涙囊前壁切開法 Spaltung der

vord. Tränensackwand (第百十八圖)

術式 助手ヲシテ外眥ヲ上外方ニ牽引セシムル時ハ内眥鞅帶皮膚下ニアリテ強ク堅張セラレテ外面ヨリソノ存在ヲ知ラシム。術者ハ右手ニ筆ノ

如クニ執レル小刀ヲ以テ鞅帶ノ中央ニシテ直チニ之レニ接セル下部ヨリ下外方ニ5—7mm. 切開ス。深サ4—5mm.

あるとAULT氏ハ内眥鞅帶ノ中央點ヨリ鼻尖ト眼窩外縁トノ二點ヲ結ベル直線ニ向テ垂直平面ヲ設クト假想シ、コノ平面ヲ手



第百十八圖 淚囊位置

術平面 Operationsebene ト命ジ、コノ平面ガ顔面ト會スル線ヲ方向トシテ内眥鞅帶ノ中央部ニテコノ鞅帶ニ接シタル所ヨリ、外下方ニ5—7mm. 切開スト云フ

適應症

一 化膿性涙囊炎、ニ涙石、異物ヲ涙囊或ハ鼻淚管ヨリ摘出スル時、

三 鉛匙、烙白金、燒灼電氣、腐蝕藥等ヲ以テ粘膜ノ外科的治療ヲ試ムル時、四 涙囊摘出、同破壞術ノ準備手術トシテ、五 眼球手術ヲナス前ニ涙囊ヲ清淨ニセシテ、ニガ爲ニ

第七項

涙囊摘出術 Exstirpation des Tränensackes.

術式

險裂ニハ絆創膏ヲ貼リテ、手術中ニ角膜乾燥シ之ニ涙囊ノ惡性分泌物ガ觸接シテ大害ヲ起スヲナキ豫防シ、次ニ涙囊前壁切開術ノ如クニシテ1.5cm.ノ切開ヲ以テ涙囊ヲ切開ス、コノ時内眥鞅帶ハ中央ニテ切斷ス。通例出血甚クシテ手術ヲ妨グ、一人ノ助手ハ左手ノ指ヲ以テ下創縁ヲ骨ニ向テ壓迫シ右手ヲ以テ拭血セシム、拭血用綿花ハ他ノ助手側ニ在ツテ不絶供給スベシ。次ニ鉤ニテ皮膚創ヲ開ラキ、小刀或ハ閉タル剪刀ヲ以テ徐々ニ涙囊壁ヲ周圍ヨリ剝離ス、鑷子ヲ以テ涙囊壁ノ一部ヲ撮ミ、刀ヲ以テ壁ト周圍ノ組織トノ間ヲ剝シツ、進ム、鼻側壁ハ密ニ骨膜ニ接著スルガ故ニ骨膜ト共ニ剝スベシ、涙囊ノ頂ハコトニ小ナル曲剪刀ヲ以テ剝スベシ、顫顫側ハ剪刀ヲ以テ切り離シ或ハ鈍ニ剝スベシ。既ニシテ全ク囊壁周圍ヨリ離ル

涙囊摘出術

べちの氏涙囊前壁切開法・涙囊摘出術

レバ鼻淚管孔及小淚管口ニテ之ヲ切斷シ、小淚管ハ烙白金ニテ燒灼破壞シ、鼻淚管ニハ銳匙ヲ入レテ搔抓ス、然レモ若シ囊壁ニ癰痕、瘻著、浸潤等アリテ剝離シ難キ時ハ、或ハ一部ハ剝離スレモ一部ノ剝離シ得ザル者アル片ハ、銳匙ヲ以テ根本的ニ搔抓スベク、或ハ遺漏ナク燒灼スベシ。次ニ洗滌、次ニ縫合スルニハ、ナルベク彎曲セル針ヲ用ヒテ皮膚ト共ニナルベク餘分ナル周圍組織トヲ刺貫シテ結紮スルヲ三絲、其一ハ内眥鞏帶ニオキ、其二ハコレヨリ上方ニ、其三ハコレヨリ下方ニ於テ施スベシ。鞏帶ハ創面ノ上ニ「ガーゼ」ヲ十分ニオキテ壓迫鞏帶ヲナスベシ。

麻醉 局所ニテモ手術シウレモ全身麻醉ヲヨシトス

後療法 縫合絲ハ第四、五日ニ拔去シ、毎日一回鞏帶ヲ交換シ、ソノ時毎ニ強ク内眥部ヲ指壓シテ創傷分泌物ヲ下方ニ排除セシムベシ、第八日ニ至テ鞏帶ヲ去ル

治癒障礙 一鞏帶交換ノ時ニ内眥部ヲ壓スルヲ少ケレバ血液及漿液性創傷分泌物溜リテ海綿様肉芽ヲ生ジ、コレガ爲メニ内眥部膨起スベシ、コノ時指壓スレバ小淚點ヨリ出血性、或ハ溷濁セル血清ヲ排出シ、消息子鼻淚管

ニ通ズルヲアリ、コノ時ハ更ニ壓迫鞏帶ヲ強クナスベシ、ニ粘●膜●ノ●一●部●殘●留●ス●ル●片●ハ●肉●芽●ヲ●生●ズ●ル●ト●共●ニ●コ●ノ●殘●留●セ●ル●粘●膜●ヨ●リ●表●皮●細●胞●層●ヲ●生●ジ●テ●之●ヲ●被●ヒ、遂●ニ●小●淚●管●鼻●淚●管●ニ●交●通●セ●ル●粘●膜●囊●ヲ●生●ジ、化●膿●竈●タ●ル●ヲ●舊●ノ●如●ク●ニ●シ●テ●危●險●ヲ●眼●球●ハ●及●サ●ン●ト●ス●ル●ヲ●ア●ル●ベ●シ、コ●ノ●時●ハ●再●ビ●創●ヲ●切●開●シ●殘●留●セ●ル●粘●液●膜●ヲ●剪●刀●或●ハ●銳●匙●ヲ●以●テ●除●去●ス●ベ●シ、ニ縫●合●絲●ノ●通●ゼ●ル●孔●ニ●化●膿●ヲ●生●ゼ●ル●時●ハ●コレ●ヨ●リ●延●ヒ●テ●内●部●ニ●及●シ、淚●囊●部●腫●脹●シ●壓●痛●ア●リ、指●壓●ニ●由●テ●排●膿●ス、コ●ノ●時●ハ●縫●合●ヲ●解●キ●根●本●的●清●潔●ヲ●計●リ、銳●匙●ニ●テ●搔●抓●シ、沃●度●仿●謨●ヲ●撒●布●シ、沃●度●仿●謨●ガ●一●ゼ●ヲ●插●入●シ●テ●鞏●帶●シ、毎●日●交●換●ス、四●化●膿●ノ●爲●ニ●顔●面●丹●毒、眼●窩●膿●瘍●ヲ●續●發●ス●ル●ヲ●ア●リ、ち●え●る●ま●ー●Czernak氏●ニ●ヨ●レ●バ、軟●骨●眼●窩●筋●膜●ヲ●破●レ●ル●ニ●ヨ●リ●テ●生●ゼ●ル●ナ●ラ●ン●ト●云●フ

適應症 一凡テノ保存的處置ノ效ナキ時、淚管狹窄ノ骨疾患又ハ高度癥痕ニ由テ生ゼル時、ニ淚囊炎、化膿性淚囊炎、淚囊漏瘻、ニ保存的治療效ナキニ非ルモ時ヲ有セザル片、四淚囊ノ高度弛緩擴張、五淚囊淚管ノ結核、六眼球手術或ハ眼球摘出術ノ時、淚囊分泌物ノ爲メニ危險ヲウクルノ恐アル時

淚囊瘻手術

第八項 淚囊瘻手術 Tränenfisteln-Operation.

瘻管尙新ナル片ハ切開シテ創縁ヲ搔抓シ、硬結セル部或ハ肉芽ヲ除去シテ縫合ス、若シ陳舊ナル時ハ搔抓腐蝕、燒灼、摘出等ヲ行フ

さめるぞーん Samelsohn 氏ハ電氣療法ヲ行ヘリ、其法ほーまん氏消息子ノ太キ者ヲ鼻淚管ニ挿入シ、次ニ燒灼電氣ノ燒灼子ノ白金線ヲ瘻孔ニ挿入シテ消息子ニ觸レシメオキテ電氣ヲ通ズルヲ、毎日一回、十四日ニテ瘻孔閉鎖セラレタリト云フ

淚管異物

第九項 淚管異物

送入セル器械ノ折レテ殘ルコアリ、或ハ他ノ事ニ由テ稀ニ異物ノ淚管ニ存スルコアリ、コノ時消息子ニテ上ヨリツキ落スカ或ハ淚囊ヲ切開シテ鉗子ニテ引き出ス

淚腺摘出術

第十項 淚腺摘出術 Exstirpation der Orbitaldrüse

一、えべるすぶーゆ氏式

術式 眉毛ノ外半部ヲ剃リテ、コノ部ニ下方ニ向テ凹ナル切開線ヲ皮膚ニ作リテ、深ク骨膜ニ達セシム、次ニコノ切開創ヲ鉤ニテ廣ゲテ、眼窩縁ヲ現サシメ、軟骨眼窩筋膜ヲ眼窩縁ニ接シテ切開ス、コノ時餘リニ内方ニ迄及ブ時ハ臉舉筋ノ腱ヲ截ルノ憂アリ、コノ事ニ注意シテ切開スル時ハ眼窩縁ノ後方ニ於テ淚腺ヲ見ルベシ、コノ時ハ鉤鉗子ヲ以テ淚腺ヲ撮ミ、徐ニ引き上ゲテ周圍ノ結締織ヲ除去シ、淚腺動脈ヲ結紮ス、次ニ筋膜ヲ骨膜ニ縫合シ、次テ皮膚ヲ縫合ス

二、うゑける氏式

術式 結膜ヲ古加乙涅水ニテ局所麻酔セシメ、上眼瞼ヲ反轉シ、下眼瞼ヲ下方ニ引き、患者ヲシテ下内方ヲ凝視セシメ、固定鉗子ヲ角膜ノ外上方ニオキテ助手ヲシテ之レヲ持サシメテ、眼球ヲ固定ス、カクノ如クスル時ハ淚腺ハ反轉セル上眼瞼軟骨ノ外三分ノ一ノ所ニ於テ結膜下ニ稍隆起スルヲ見ルコノ隆起部ヲ小圓及刀ヲ以テ *Scissors* ノ長サニ結膜ヲ切開ス、次ニ閉ヂタル剪刀ノ尖ヲ以テ結膜及結膜下組織ヲ剝離シ、腺ヲ現シ、之レヲ切除ス、血

淚囊瘻手術・淚管異物・淚腺摘出術・淚腺瘻手術

涙腺瘻手術

管ハ結紮ス、結膜ヲ縫合シテ綳帶ス

適應症 一 新生物除去、二 不治涙管瘻、三 涙管水腫、四 頑固ナル流涙症

第十一項 涙腺瘻手術

一 絲ノ兩端ニ針ヲ附シテ、ソノ一針ヲ瘻孔内ニ刺入シテ、眼瞼軟骨ヲ越エテ結膜ニ刺貫ス、次ニ第二針ヲ同様ニ刺シテ、5mm. 距テタル所ニ刺貫シテ、兩端ヲ結紮シ結膜ニ瘻孔ヲ生ズルニ至テ(八乃至十四日)絲ヲ去ル

結膜手術

「トラホーム」手術

第三章 結膜手術

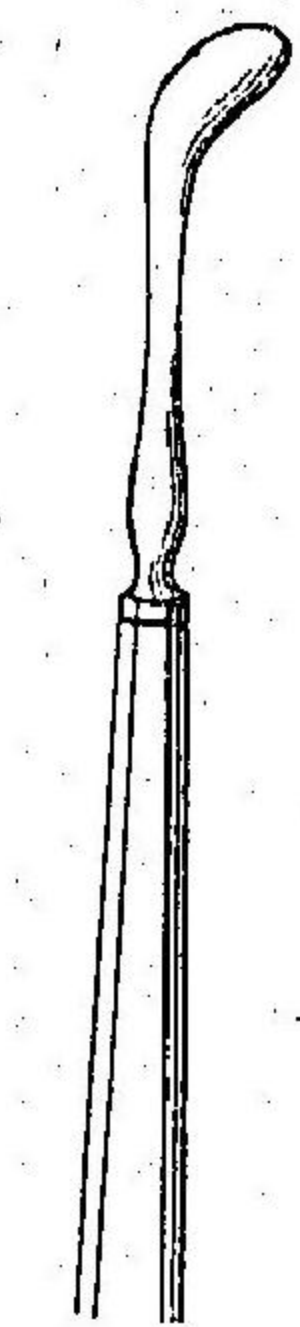
第一項 「トラホーム」手術

一 さめるぞーん Samelohn 氏焼灼式

さめるぞーん氏創試スらいび Raich 氏、Burchard 氏新シキ者ニ試ミテ、效アリタリト云フ、一度ニ凡テヲ焼灼シ盡クスト能ハズ

二 移行部切除式 Ausschneiden der Nebengangsfalten

術式 古加因水局處麻醉—1:8000 昇汞水洗滌、5% 古加因水液ヲぶらわつ注射器ニテ四割線丈結膜下ニ注射シテ、人工的ニ穹窿部結膜ニ浮腫ヲ來サシメ、浸潤セル顆粒ヲ有スル部位ヲ著シカラシム、一切除スルハ通例 5-10 m.m. ノ幅故、5-8 ノ絲ノ一端ニ針ヲ附シテソノ針ヲ眼球結膜ニ刺入シ、上記ノ幅ヲ切除シウル丈ニテ、眼瞼軟骨ノ凸縁ヲ去ル 10-15 m.m. ノ處ニ刺貫シテ絲ヲ緩メオキ、1-2



第九百九十九號 亂切刀

亂切刀

「トラホーム」手術

12mm.ノ幅ヲオキテ亂切刀(第百十九圖)ニテ絲ノ出入セル點ヨリ1.0mm.位ヲ距テ、横ニ結膜ヲ切開スル。一ニ線、一ニ次ニ錐子ニテコノ二個ノ切開線ノ會セル處ノ一端ヲ撮ミテ引キ上ゲツ、剪刀ニテ切除ス、一結紮
 軟骨ノ一部ヲ切ラントスルキハ切開線ヲ軟骨ニ作ルベク、絲ヲ刺貫スル所軟骨ナルベシ、コノ時眼瞼舉筋ノ睫ヲ切斷セザルベシ
 繃帶 緩ニオク第三日ニ去ル

手術後疼痛 ハ甚シカラズ若アレバ氷卷法

後療法 創縁腫起シ眼瞼皮膚腫張スルコトアルモ次日ニハ消失ス、屢眼瞼皮膚ニ溢血ヲ見ルコトアレバ、放置スレバ可ナリ

目的 穹窿部ニ於ケル主病竈ヲ除去スルニアリ。コレニヨリテ眼瞼結膜及ビ角膜ノ變化ニ誘導的効力アラシメントスルニアリ

應用 藥物的ニ治療セザルキ、凡テノ場合ニ用ユベシ

抗議 結膜囊ヲ短縮スト云フモ眼球結膜延長シテ補ルベシ、眼瞼下垂症ヲ惹起スベシト云フモ、コレ理論的ノ事ニシテ實地ニハ之レヲ見ズ、除去セザルモ可ナル部マデ併セテ取り去ルノ恐アリト云フモコレ亦憂フルニ足

ラズト云フ

三つされる氏顆粒搔把式 Ausführung des Auslöfungs der Trachomkörner nach Sattler (1891)

術式 古加因水點眼、1:5000昇汞水洗滌(コノ液ニ浸セル綿花球 Wattebauschenヲ用ユ)一眼瞼ヲ反轉シテ、内障針 Starnadelヲ以テ顆粒ヲ切開シ、銳匙ヲ以テ搔把ス、1.5—3.0mm.ノ大ニテ、銳匙ハ種々ノ大ノモノヲ備ユベシ。眼瞼部ハカクノ如クニシテ容易ニナシ得ルモ、穹窿部及半月狀襞ニテハ、針匙ヨリ遁逸シテ術ヲ施シ難シ、故ニ皺襞ヲ撮ミ上ダ緊張ナシオキテ、搔把ヲ確實ニナス可シ、一洗滌

後療法 繃帶ヲナサズ、氷冷セル布片眼上ニオク、輕症ノキハ外來治療トスルコトヲ得レドモ、重症ノ時ハ翌日ハ眼瞼腫張シテ、搔把セル部ハ灰色ノ物ヲ以テ被ハル、三四日ニシテ表面清潔ニナリ、上皮ヲ以テ被ハル

適應症 「トラホーム」ニシテ顆粒ノ判然タルモノニ適ス(Trachom mit deutlichen körnigen Einlagerungen)

充血腫張分泌ヲ有セル新ナル者ニテハ、藥用ニヨルヲヨシトス。陳舊ニシテ

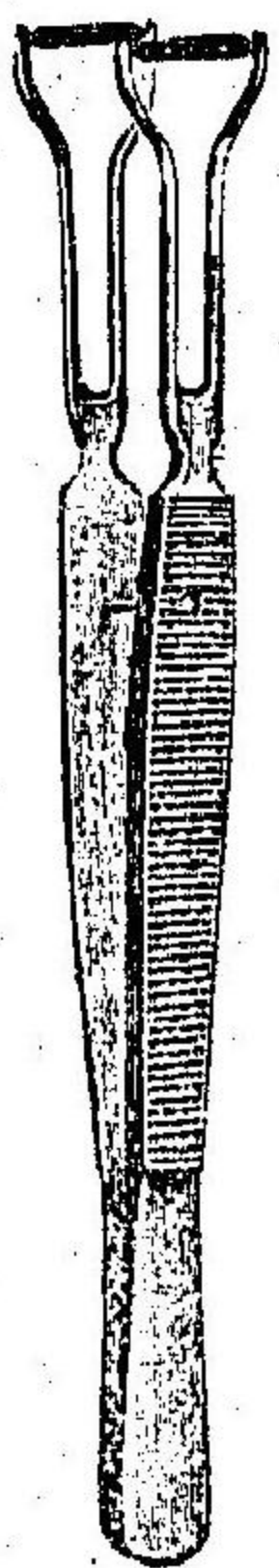
眼瞼結膜ハ肉様赤色ナル乳嘴様肉芽 (Warzige Granulation) ヲ以テ被ハレ、移行部ハ一樣ニ不潔ナル赤色ノ腫起シテ雞冠様ヲ呈シ顆粒ノ判然セザル者ハ先ヅ通常藥物的療法ヲ行ヒ、分泌及ビ腫張ガ減退シテ、顆粒判然スルヲ待ツ可シ

コノ術後硫酸銅桿、明礬結晶ヲ以テ擦ルカ單寧ノ撒布(單寧一ニ硼酸三ヲ混ゼル粉末ヲ用ユ)ヲナス

四くなぶ氏顆粒挫出式 Ausquetschung der Trachomkörner nach Knapp

くなぶ氏滑車鉗子

第百二十二圖 滑車鉗子 くなぶ氏



術式 麻醉—眼瞼ヲ反轉シ浸潤セル部ヲじよーんそん Johnson's 氏刀ニテ亂切シくなぶ氏

滑車鉗子 Knapp's Rollzange (第百二十圖) ヲ以テ頻回反覆シテ顆粒ヲ挫壓ス
後療法 術後結膜腫張シ顆粒ノ内容榨出セラレタル者、血液ニ由テ著色セラル、ヲ見ル、五千倍昇汞水或ハ無毒殺菌食鹽水ニテ洗滌ス、綳帶ヲ要セズ、冷罨法ヲ要セズ、結膜ノ腫張ハ一二日ニシテ消失ス、結膜ニ小瘡面ノ多數

ヲ有スルガ故ニ、時ニ互ニ癒著セントスベシ、毎日洗滌スルキニ之レヲ隔離セシメ或ハ消息子頭ヲ以テ剝離セシムベシ

適應症 濾胞性結膜炎、顆粒性、蔓延性、癩痕性「トラホーム」春季加答兒 (Knap-pp)

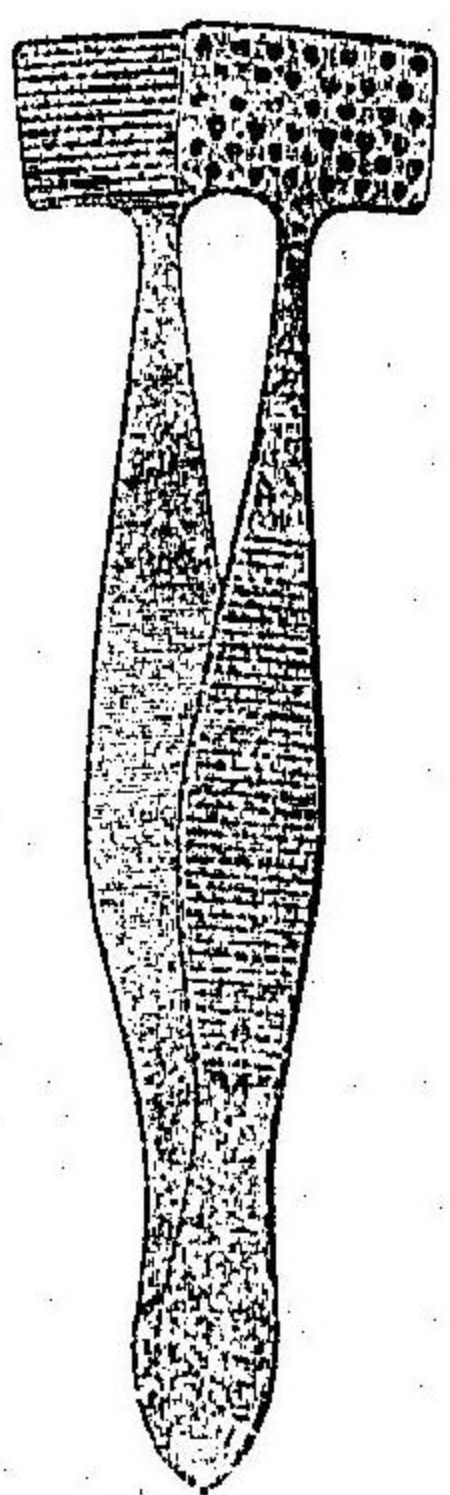
五くーんと氏顆粒壓出法

術式 くーんと氏ハ種々ナ

ル壓榨板第百二十一圖ヲ用ヒ

タリ

第百二十一圖 くーんと氏壓榨板



六擦過法—現時余ノ行ヒツ、アル式、即トラホーム手術ノ時機

術式 眼瞼皮膚、瞼縁、睫毛根部等ヲ石鹼ヲ以テ洗滌シ、次ニ眼瞼ノ内外コトニ結膜穹窿部ニ注意シテ五千倍昇汞水ヲ以テ洗滌ス。次ニくーん古加因水ヲ點眼シテ局處麻痺ニ至ラシム。結膜知覺ナキニ至レバ、上眼瞼ヲ反轉シテ穹窿部結膜下ニくーん古加因水半筒乃至一筒ヲ注射シテ結膜ヲ膨隆セシム(小兒ニテ全身麻酔ヲ施セル時ハ食鹽水ヲ注射ス)次ニ助手ヲシテ角板ヲ以テ角膜ヲ保護セシメ、術者ハ齒刷子(第百二十三圖)ヲトリテンノ柄端篋様ニ

「ト」ホーム
擦過法齒刷子

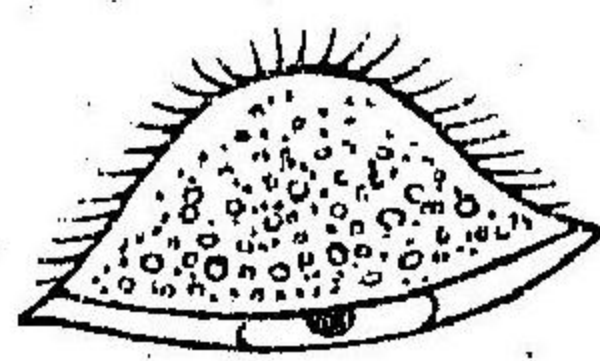
圖二百二十二
「ト」ホーム
子刷齒法過擦



扁平ニナレル部
ヲ以テ膨起セル
結膜面ヲ壓スル
時ハ表面ニ見レ

ザル顆粒ハ壓シ出サレテ結膜面ニ現ルベシ。次ニ穹窿部及眼險軟骨部ニ於テ顆粒(在來現レタルモノト壓出セラレタルモノトヲ併セテ)ヲ齒刷子ヲ以テ擦過除去ス。結膜肥厚シテ一種ノ退行變性ヲナセル者ニテハソノ變性セル上層ヲ除去ス、コノ際濫リニ暴力ヲ用ヒテ、不必要ナル結膜破壞剝離ヲナスベカラズ。顆粒若シ散在性ニ存スル時ハ、蜂巢ヲ見ルガ如ク(第百二十三圖)點々陷凹セル部アリテ出血スルヲ見ルベシ、マタ餘リニ細心ニ過ギテ弱ク

圖二百二十三



擦過スルキハ顆粒ノ全部ヲ除去スルコト能ハズ。次ニ綿花小球ヲ五千倍昇水ニ浸シタルモノヲ以テ結膜面ヲ摩擦スルコト數回。次ニ下眼險結膜穹窿部ノ結膜下ニ古加因水一筒注射。術者左手ニ角板ヲ持チテ角膜ヲ被ヒ右手ニ齒刷子ヲ持テ壓出擦過、五千倍昇水綿花小球摩擦法ヲ行フ。上

眼險ノ時ト同様。次ニ五千倍昇水ヲ以テ洗滌ス

後療法 術後直ニ氷罨法ヲ命ズ。二日乃至五日、眼險ノ浮腫去ルヲ見テ止ム。毎日一回乃至二回一%硝酸銀水ヲ點眼シ、食鹽水ヲ以テ洗滌シテ結膜充血ノ去ル時ニ及ブ。眼險及眼球結膜ニ浮腫ヲ來スコト高度ニシテ一見驚クベキコトアリ、眼險毫モ開カザルガ如キモ少シモ恐ル、ニ足ラズ。擦過セル結膜面上ニ白色ノ義膜様ノモノヲ生ズ、コノ者ハ決シテ故意ニ除去スベカラズ。自然ニ脱落スルヲ待ツベシ。穹窿部結膜ニ皺襞相癒著セントスルヲ見バ、毎日數回點眼硝子棒ヲ以テ癒著ヲ剝離シ尙硼酸華攝林ヲ離解セル面ニ塗布シテ癒合スルヲ妨ゲシム。若シコノ注意ヲ怠ル時ハ、後來結膜囊ノ消失若クハ短縮ヲ來スベシ。氷罨法ヲ去レル後ハ、一%硼酸水冷罨法ヲ持續スベシ

注意 乳頭性「ト」ホームハ本法(恐クハ一般ノ手術的療法)ニ適セズ(コノ症ハ乳頭増息シテ細胞ノ浸潤瀰蔓性ニシテ毫モ區劃セラル、所ナキガ故ニ結膜全層ヲ切除スルニ非レバ病的產物ノ除去サレ難キニヨルナラン)
手術ノ時機 炎症症狀去リテ、顆粒ノ箇々ガ明瞭ニナリ、表層ニ現レ來リ

テ、顆粒外ノ結膜ガ略健康状態ニ復セル時ニ於テ手術スベシ

余ハ臨牀上手術ニ適スト思ハルモノ、結膜ト、適セズト思ヘルモノ、結膜トヲ探リテ、組織的ニ比較シテ互ニ相異レル點ヲ發見シ、ソノ差異點ヲ以テ、臨牀上手術ノ適否ヲ原因トスルコトヲ得ベキヤ否ヤヲ研究セントセリ。余ハ此方針ヲ以テ手術ニ適セリト思ヘル結膜ノ顆粒ヲ有スル部(1)ト適セズト思ヘルモノ(2)トヲ切除シテ組織學的ニ調査セルニ、次ノ結果ヲ得タリ

第百二十四圖。臨牀上手術ニ適セリト認ムル、トラホーム患者ノ顆粒ヲ有スル結膜 Haematinin, Eosin

上皮下結締織内ニ顆粒アリ判然區別セラレ、ソノ横楕圓形ヲナス顆粒ノ周圍部ハ小ニシテ Haematininニ濃厚ニ染色スル細胞(三)ヨリナリ、中央ニ移ルニ從テ染色スルコト淡ニシテ細胞ノ形大ナル圓形細胞(○)ノ群簇セル物ニシテコノ群簇ヲ包被スル特別ナル囊狀物ヲ認メザルモ結締織纖維ハ Eosinニ著色セラレテ密ニ存シテ近傍ノ粗糙ナルニ似ズ、(a)表面上皮(c)ヲ以テ被ハレ唯上皮ノ最モ顆粒ニ接スル所ニ於テハ Haematininニ濃厚ニ染色スル圓形細胞ガ直ニ上皮下ニ及ボシ、恰モ此部ニ於テ顆粒囊ノ破綻アルカノ觀アリ、上皮モ亦此ノ部(三)ニ於テハ染色スルコト著シカラズシテ nekrotischナルコトヲ示ス、要スルニ、顆粒ヲナス圓形細胞ハ、最モ明カニ限局セル集合ヲナシテ、シカモ其表面ニ向ケル所ニ

圖 四 十 二 百 第
顆粒ム！ホラトアルメ認トリセ適ニ術手上牀臨

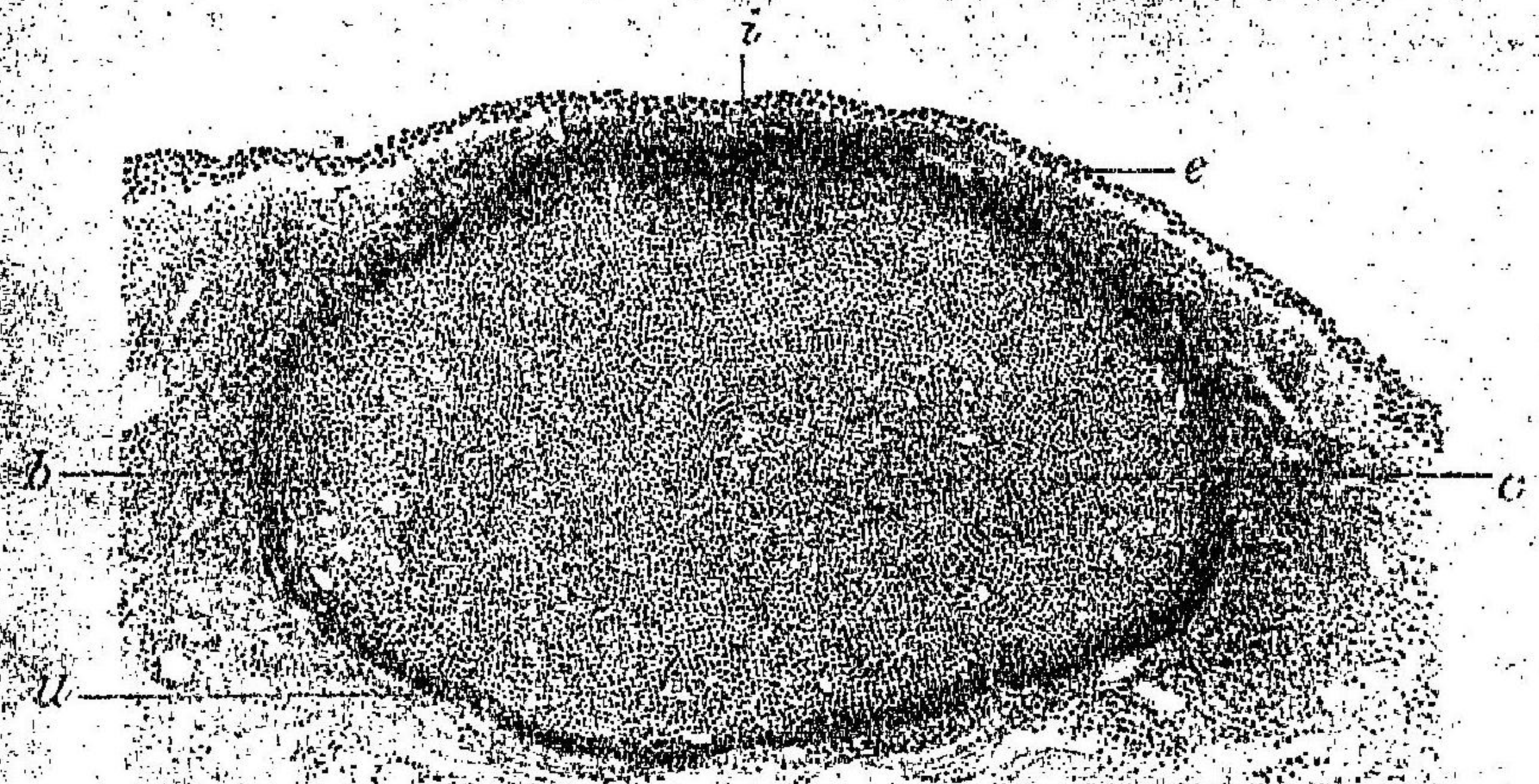
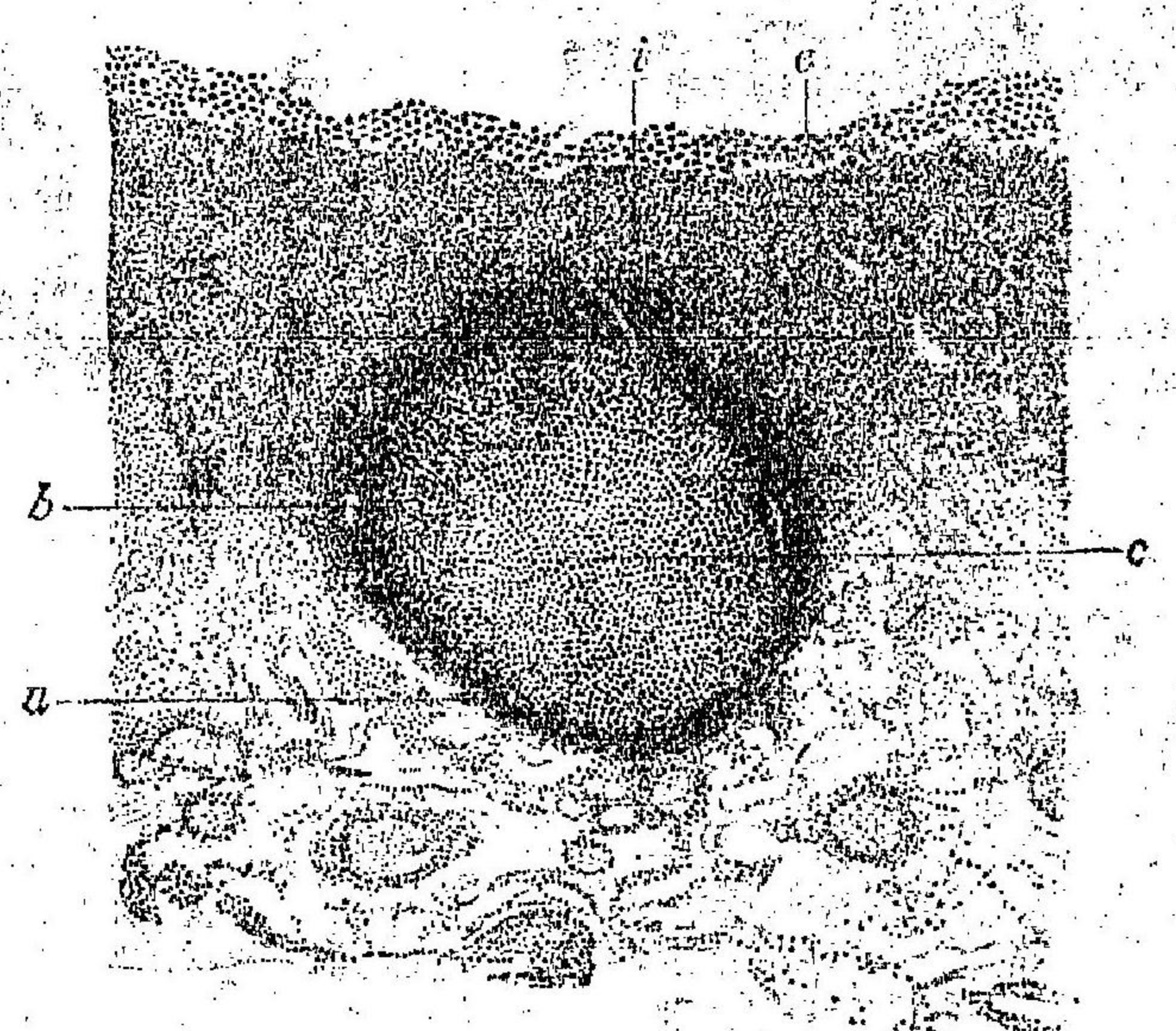


圖 五 十 二 百 第
顆粒ム！ホラトアルメ認トズセ適ニ術手上牀臨



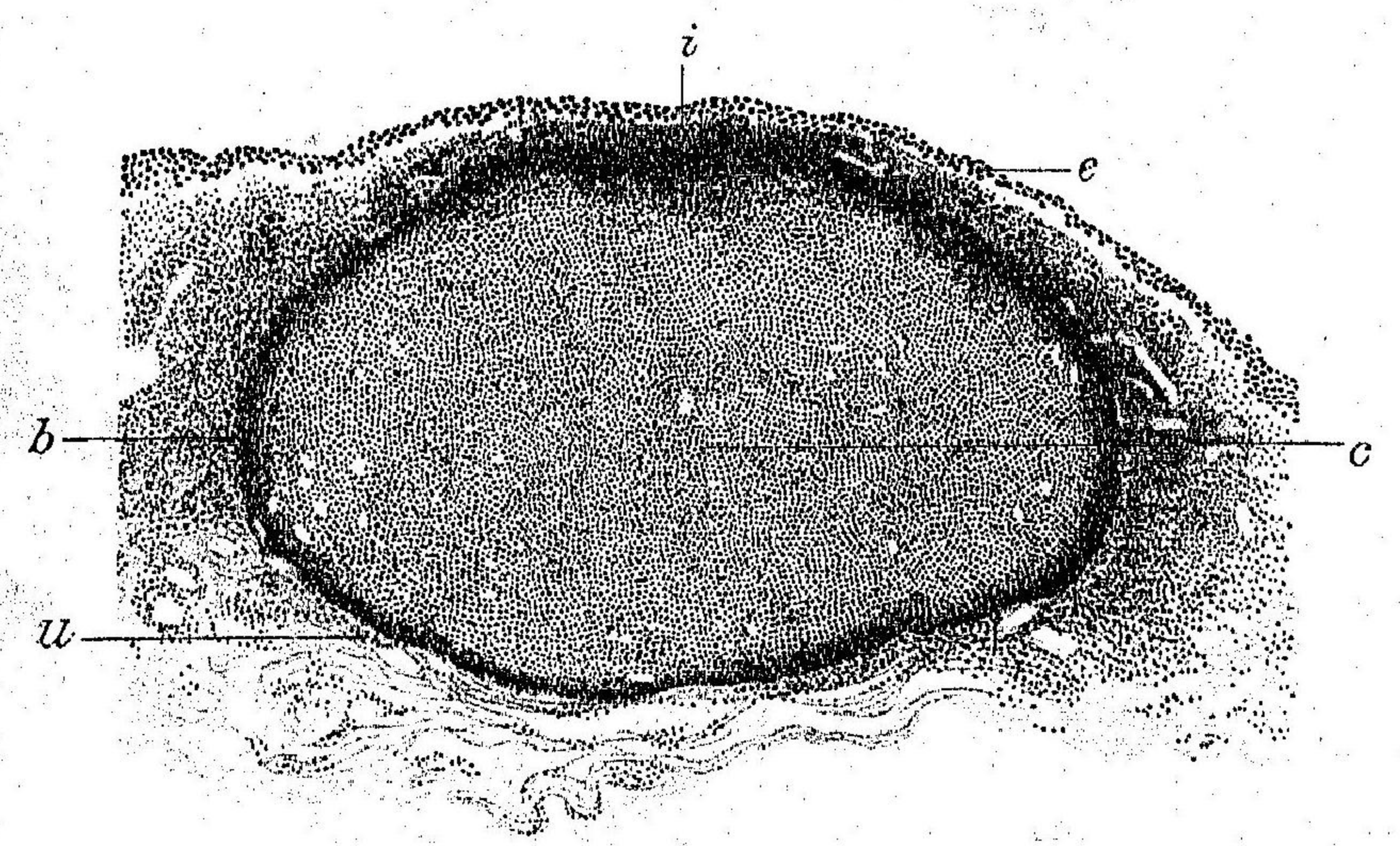
テ、顆粒外ノ結膜ガ略々健康状態ニ復セル時ニ於テ手術スベシ

余ハ臨牀上手術ニ適スト思ハルモノ、結膜ト、適セズト思ヘルモノ、結膜トナ
探リテ、組織的ニ比較シテ互ニ相異レル點ヲ發見シ、ソノ差異點ヲ以テ、臨牀上手
術ノ適否ヲ原因トスルコトヲ得ベキヲ否ヤヲ研究セントセリ。余ハ此方針ヲ以
テ手術ニ適セリト思ヘル結膜ノ顆粒ヲ有スル部(1)ト適セズト思ヘルモノ、(2)

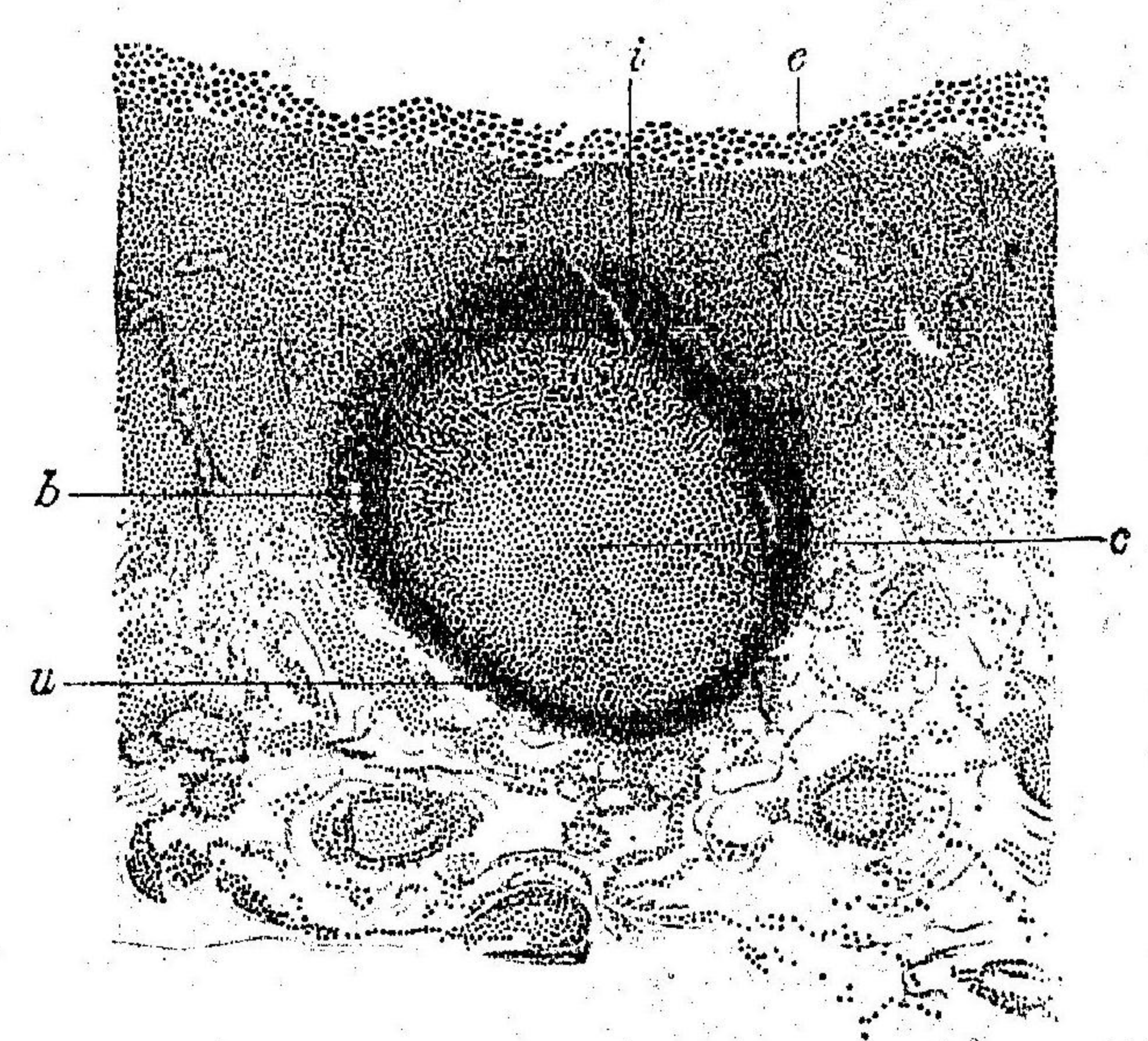
トヲ切除シテ組織學的ニ調査セルニ、次ノ結果ヲ得タリ
第百二十四圖。臨牀上手術ニ適セリト認ムル「ト」ホ「ム」患者ノ顆粒ヲ有ス
ル結膜 Haematin, Eosin

上皮下結締織内ニ顆粒アリ、突然區別セラレ、ソノ横楕圓形ヲナス顆粒ノ周圍
部ハ小ニシテ Haematin ニ濃厚ニ染色スル細胞(2)ヨリナリ、中央ニ移ルニ從テ
染色スルコト淡ニシテ細胞ノ形大ナル圓形細胞(3)ノ群集セル物ニシテ、コ
群集ヲ包被スル特別ナル囊狀物ヲ認メザルモ、結締織纖維ハ Eosin ニ著色セラ
レテ密ニ存シテ近傍ノ粗糙ナルニ似ズ、(4)表面上皮(5)ヲ以テ被ハレ唯上皮ノ
最モ顆粒ニ接スル所ニ於テハ Haematin ニ濃染スル圓形細胞ガ直ニ上皮下ニ
及ボシ、恰モ此部ニ於テ顆粒液ノ破綻アルカノ觀アリ、上皮モ亦此ノ部(3)ニ於
テハ染色スルコト著シカラズシテ nekrotisch ナルコトヲ示ス、要スルニ、顆粒ヲナ
ス圓形細胞ハ、最モ明カニ限局セル集合ヲナシテ、シカモ其表面ニ向ケル所ニ

第百二十四圖
臨牀上手術ニ適セトリ認ムル「ム」ホ「ト」ノ顆粒



第百二十五圖
臨牀上手術ニ適セズト認ムル「ム」ホ「ト」ノ顆粒



於テ、上皮ノ壞死状態ヲ示スモノナリ

第百二十五圖。臨牀上手術ニ適セズト認ムル「トラホーム」患者ノ、顆粒ヲ有スル結膜

深ク表皮ノ下ニ於テ、將ニ限局區劃セラレントスルノ狀況ヲ呈スルモ、表皮下ハ、一般ニ圓形細胞ノ浸潤アリ、血管ノ新生、充血著シ、顆粒ノ存在ハコノ圖ニ於テモ略知ルコトヲ得、ソノ周圍部ニ於テ Haematininニ滲染セラルレドモ、第百二十四圖ノ如ク、判然區劃セラレテ、周圍ノ結締組織状態ヲナシテ包ムガ如クニアラズ。ソノ下方結締織ト界セラル、所(E)ニ於テノミ、稍區劃セラル、モ、ソノ他ノ部ニ於テハ、顆粒ノ内外相移行スル(C)ヲ見ル、表皮ハ到ル所、一様ニ染色セラ、ル、ヲ見ルノミ

今此兩圖ヲ對照シ、且ツ臨牀的所見ト、比較スルニ、第百二十四圖ノ手術ニ適セルトナス者ハ、上記スルガ如ク、炎症症状減シテ顆粒ガ箇々明瞭ニ區劃セラル、ト云フニヨク相一致スルニ非ズヤ、シカモ其ノ顆粒部ノ表皮ノミガ Nekrotischニシテ其ノ他ニ異常ナキハ、コレ顆粒以外ノ結膜ガ健康状態ニ近キ觀アリ、ト云フニ一致スルニ非ズヤ。次章ニ詳説スレドモ、余ハ手術ニ於テ、先ヅ「コカイン」水ヲ結膜下ニ注射シテ、結膜ヲ緊張セシメガキテ、小平板ヲ以テ、結膜面ヲ壓シテ、顆粒ヲ逸出セシムレドモ、コノ第百二十四圖ニ於テ見ルガ如クニ、顆粒ヨリ下ノ層ニ於テ

ハ結締織極メテ粗糙ナルガ故ニ、若シ、單ニ銳匙ヲ以テ搔抓スルカ、或ハ、擦過スルモ、或ハ、燒灼セントスルモ、何レモ下層極メテ粗糙ナレバ、十分コノ顆粒ヲナス細胞群ヲ除去スルコト能ハザルベシ、恰モ沼池ニ砂利ヲオキタルモノヲトラントスルガ如ク容易ニ手中ヲ脱シテ除去ヲ全クスルコト能ハザル可シ。然ルニ、結膜下ニ液體ヲ注射シテ、結膜ヲ緊張セシムレバ、コレ顆粒層ノ下ニ堅牀ヲ設ケタルト等シキ作用アルベシ。尙注射ニ由テ緊張セシメ置キテ、上面ヨリ壓スルトキハ、コノ圖ニ示スガ如クニ、顆粒ニ接スル部ノ表皮ハ、壞死的ナルガ故ニ、表皮面ヲ壓スルトキ、他ノ健康ノ部が破壊セラレザル程ノ力ニテモ、容易ニコノ壞死部ハ破ラレテ開口スベシ、コノ開口ヤ、直ニ顆粒内容ニ連續スルガ故ニ、尙僅ナル力ヲ以テスレバ顆粒ノ内容物ハ壓出セラレ可シ、コレ實際手術時ニ球形ヲナシテ壓出セラレ、チ見ル、今顆粒ガ一個ナラズシテ、數個若クハ數十個アリト假定シテ、結膜下ニ注射シテ後ニ、顆粒ヲ壓出セル時ヲ想像スレバ、恰モ蓮實ヨリ其個々ノ實ヲ出シタル殻ノ如ク、或ハ蜂巢ヨリ、蜂蟲ヲ出セルモノ、如クナランカ。カクノ如クシテ後ニ、一樣ニ齒磨楊子ヲ以テ擦過スレバ、最モ擦過ノ力ノ及ブベキ所ハ、壞死部トコノ開口ヨリ内部トナルベクシテ、健康ナル結膜ハ、割合ニ害ヲウケルコト少カルベシ。今假ニ銳匙等ヲ以テ搔抓スルトセバ、少クトモ銳匙頭丈ケノ大サ宛結膜ガ破壊セラレ、コト、ナルベシ、若シ之レヲ燒灼セントスレバ、更ニ結膜

ノ損害大ナルモノアラシカ。次ニ若シ第百二十五圖ノ如キ狀況ニアル結膜ニ於テ、手術スルトセバ、病的產出物、眼局セラル、モノナキガ故ニ、顆粒ノ近傍一體ヲ除去スルニ非レバ效ナク、結膜ノ損害モ大ニシテ殆ント凡テノ部ヲトリ去ルノ要アリ、若シ之ヲトリ去ルコト不十分ナレバ、反テ刺戟シテ、其病機ヲ擴張スルノ恐アルベク、トリ去ルコト十分ナリトスレバ、結膜ハ又結膜トシテノ作用ヲ全失スルニ至リ、眼球ガ滑澤ナル結膜ヨリ被ハル、コトナク、乾燥ソノ他ノ害ヲ得テ、ソノ被害ノ狀、手術前「トラホーム」顆粒アルトキニ僂ルモノアルベシ。余ハコノ研究ニ由テ得タル組織的所見ヲ臨牀的經驗トナ一致セシメテ手術ノ時機ヲ説ク「ト上記ノ如シ

第二項 險球癒著症手術

手術ヲ施ス者ハ

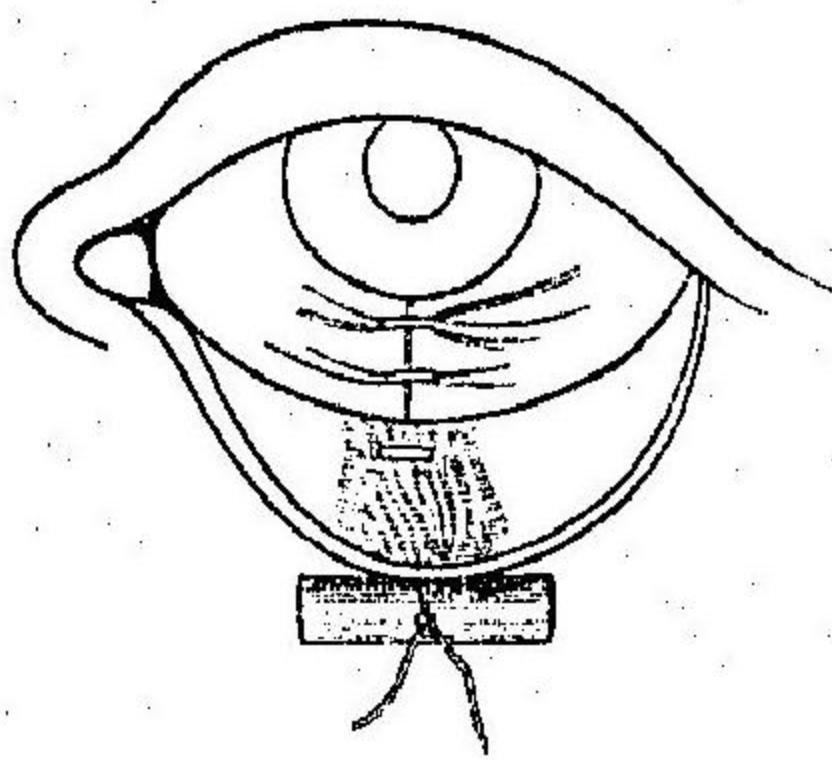
- 一 癒著症ヲ惹起セル原因的疾患、全ク經過セル者ナラザルベカラズ
- 二 甚シク狭少セル險裂ガ乾燥様義膜 Xerotic Membran ニテ閉鎖セラレタル者ハ、術效ヲ奏スルモ角膜潤濁途ニ除去スルコト、能ハザルコトヲ忘ルベカラズ
- 手術ノ方式ヲ分類スレバ

- 一 單ニ癒著ヲ離斷ス
- 二 離斷セル後ソノ創面ヲ被覆ス
- 一 創面ニ近接セル結膜ヲ引キ寄せテ縫合ス、例、あるヒアヒ氏式
- 二 結膜ヨリ有柄皮瓣ヲ作ル、例、てゝるTeale氏式
- 三 無柄粘液膜瓣ヲ用ユ(口唇、唇部)、例、ひるしゆへるく氏式
- 四 有柄皮瓣ヲ用ユ
- 五 無柄皮瓣ヲ用ユ

粘膜ハ身體他部ヨリ採リ、他人ヨリトリ或ハ動物ヨリ採リテ試ミタル人アリ

一 單ニ癒著ヲ離斷ス

圖六十二百第



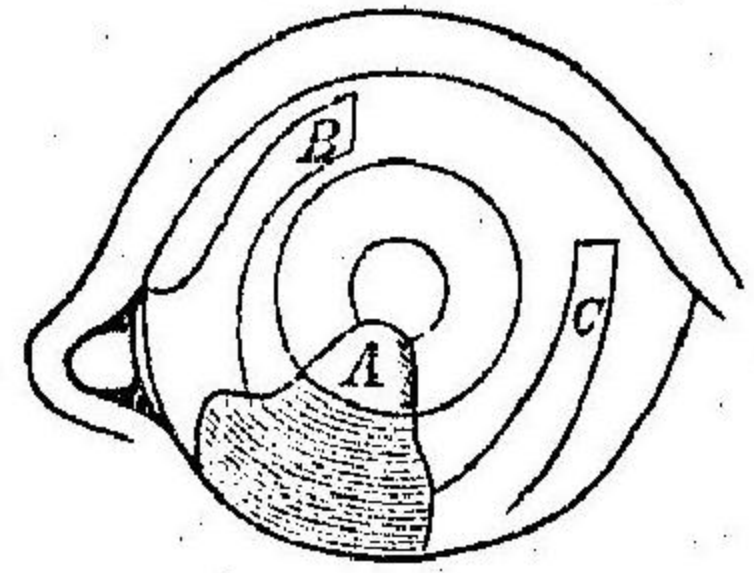
二 あるヒアヒ氏式(第百二十六圖)

驗球癒著セル者ヲ剪刀ヲ以テ離斷シ、眼球結膜ノ創面ハ創縁ヲ縫合シ、眼瞼ハ一時絲ヲ以テ外翻セシム

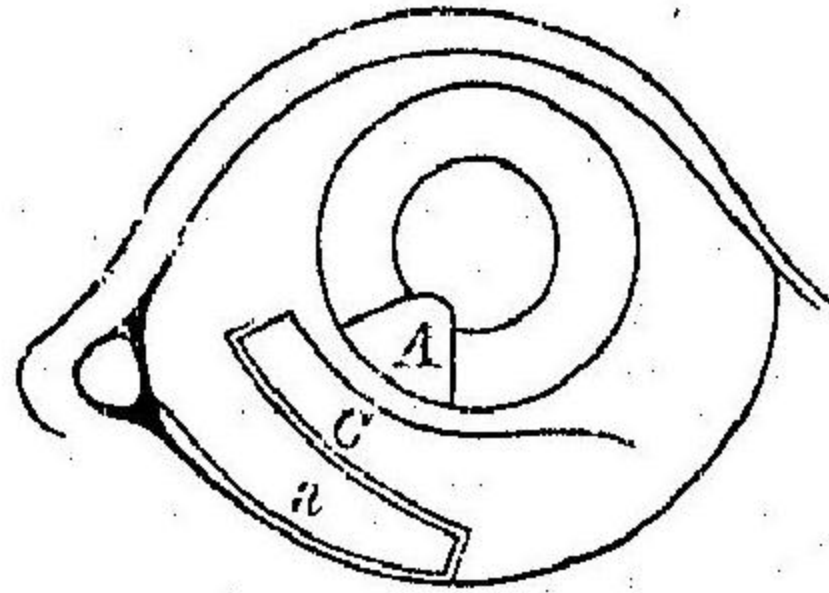
三 てゝるTeale氏式(第百二十七、第百二十八圖)

驗球癒著セル所ヲ離斷シ、眼瞼ヲ眼球ヨリ距ラシ

圖七十二百第



圖八十二百第



四 ひるしゆへるくHirschberg (1884)氏式

五十二歳ノ婦人ニ全身麻醉ニテ下眼瞼ヲ全ク眼球ヨリ離シオキテ、上眼球結膜ニ内外兩側ニ根ヲ有セル橋狀瓣ノ幅4mm.ノ者ヲ作り、之レヲ角膜ノ下方鞏膜部ニオキ、結紮ニ由テ固定シ、次ニ口粘膜ヨリトレル瓣ヲ、眼瞼ノ創面ニオキ、眼瞼遊離縁ニテ結紮セルニ結果良好ナリシト云フ

メ、角膜ノ兩側ニ於テ眼球結膜ニ舌狀ノ瓣ヲ作り(及)、之ヲ角膜縁ニ接シテ眼球結膜ニオキ、之ヲ下眼瞼ニオキテ、ソノ創面ヲ被ハシメ、何レモ結紮固定ス、瓣ヲトリタル部ノ結膜缺損ハ單ニ縫合ス

第三項 結膜異物

結膜異物

結膜ノ異物ハ眼瞼部ニアルモノハ、之レヲ反轉シテ鑷子ニテ摘取スルカ、棉花ヲ以テ拭ヒ取ルベシ、稍、大ニシテ久シク存在シ肉芽組織ヲ以テ圍繞スルハ、マタ

結膜異物

結膜下注射法

錐子ニテ摘取スルノミニテ可ナレモ、肉芽多キ時ハ之レヲ剪除スベシ。結膜囊ニアル時ハ、點眼硝子挿入ハ「スパーテル」ヲ以テ二重反轉ヲナシ、上結膜囊ナレバ同時ニ患者ヲシテ眼球ヲ下向セシメ、下結膜囊ナレバ上向セシムベシ。烟塵ノ如キ微細ナル者ナル時ハ摘取後十分ニ食鹽水又ハ五千倍昇汞水、 $\frac{1}{2}\%$ 硼酸水等ニテ灌洗スベシ。異物ハ時ニ比較的大ナルコトアリ。本邦俗人ニ屢見ル眞珠ノ結膜囊ニ入レタルモノハ眼球ノ運動ト共ニ轉々シテ摘取シヤスカラザルコトアリ。極メテ稀ニ生存セル蟻ヲ見タル人アリ

第四項 結膜下注射法

局所ヲ無毒的ニ洗滌シ、古加因水ヲ點眼シ、開險器ヲ用ヒテ開險シオキテ、左手ニ錐子ヲ以テ移行部結膜ヲ撮ミ上ゲ右手ニ注射器ヲ持テ、横ニ錐子ノ下ニアル結膜皺襞内ニ刺入シ、徐ニ注射ス開險器錐子ヲ用ヒザルモ可ナリ

第五項 翼狀贅片手術

一切除式

往時ハ翼狀贅片全部ヲ淚阜ノ處マテ切除シ鞏膜上ニ梯形ノ創面ヲ作り癢痕ニ

翼狀贅片手術

委セリ。コノ法ニヨル時ハ肉芽組織ヲ生ジ癢痕隆起シテ外見醜惡ナル續發性翼狀贅片 *Secondaries Pigeon-fell* ナ生ズ(明治三十二年余ガ尾州馬島明眼院ヲ訪ヘル時院主ノ話ニ從前翼狀贅片ハ角膜部ヲ極ク少シツ、鉤ニカケテヒキ剪刀ヲ以テ之レヲ切り約三十日位ヲ角膜部除去丈ニ置セリト)

ニある *V. Ahl* 氏式

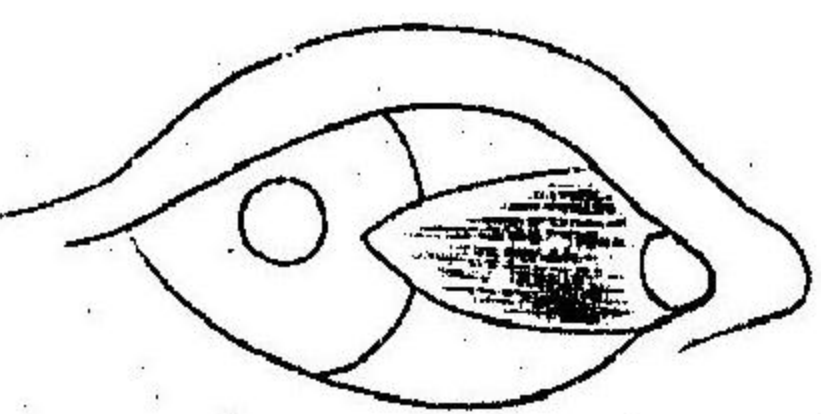
鞏膜部ニテ内眥ニ集合スル二個ノ切創ヲ作り三角形ノ創面トシタリ。コノ法ニヨレバ癢痕裂隙部ニ暴露セラレ、ノミナラズ再發ヲ免カレズ

三 *Coccius* 氏式(第百二十九圖)

贅片ヲ切除セル後鞏膜上ノ創面ヲ結膜創線ノ縫合ニ由テ補償シコレニ由テ粗大ナル癢痕形成ヲ妨グントセリ(1854) カクノ如クスル時ハ肉芽組織ヲ生セザルヲ以テ肉芽ガ角膜ノ創面ニ膨起シテ再發ノ基礎ヲナスコトヲ妨ガルコトヲ得ベシ

コノ修正ハ極メテ簡單ナルコトナレモ直ニある *V. Wecker* 氏ハ三角形切除法ニ代ヘテ用ヒラレウニける *V. Wecker* 氏

ガレウニ採用セラレヤカテ有柄鑷ヲ作ル式ノ端緒ヲナセリ



百二十九圖 式氏すうゆしこ

こしゆす
氏式

結膜下注射法・翼狀贅片手術

四つにける Wecker 氏式

翼状贅片ヲ内障刀ヲ以テ角膜ヨリ剝シ鞏膜ヨリ涙阜ニマテ剝離セシメ次ニ切創ヲ以テ贅片ノ根部ニ向テ相會セシメテ鞏膜部結膜ト分離セシメ鞏膜部結膜ノ創縁ハ十分ニ一致セシメテ縫合セリカクシテ放置スル時ハ基根部ヲ殘シ剝離セラレタル贅片ハ漸次退化萎縮セラレベシ若シ腫脹シテ險裂間ヨリ現レ出ルカ如キハ後日之レヲ剪除ス

五つにける Galezowski 氏式

根部マテ剝シタル贅片ノ遊離尖端ニ絲ヲ貫キ贅片ヲ反轉シテ根部ニ縫ヒツケ結膜創ハ別ニ縫合ス

六つにける Chibret 氏式

同シク翻轉スル前ニ贅片ノ裏面ヲ烙白金ニテ燒キ結膜創面ニハ鞏膜部結膜ヨリ二個ノ瓣ヲ作りテ被ヘリ

七腐蝕式

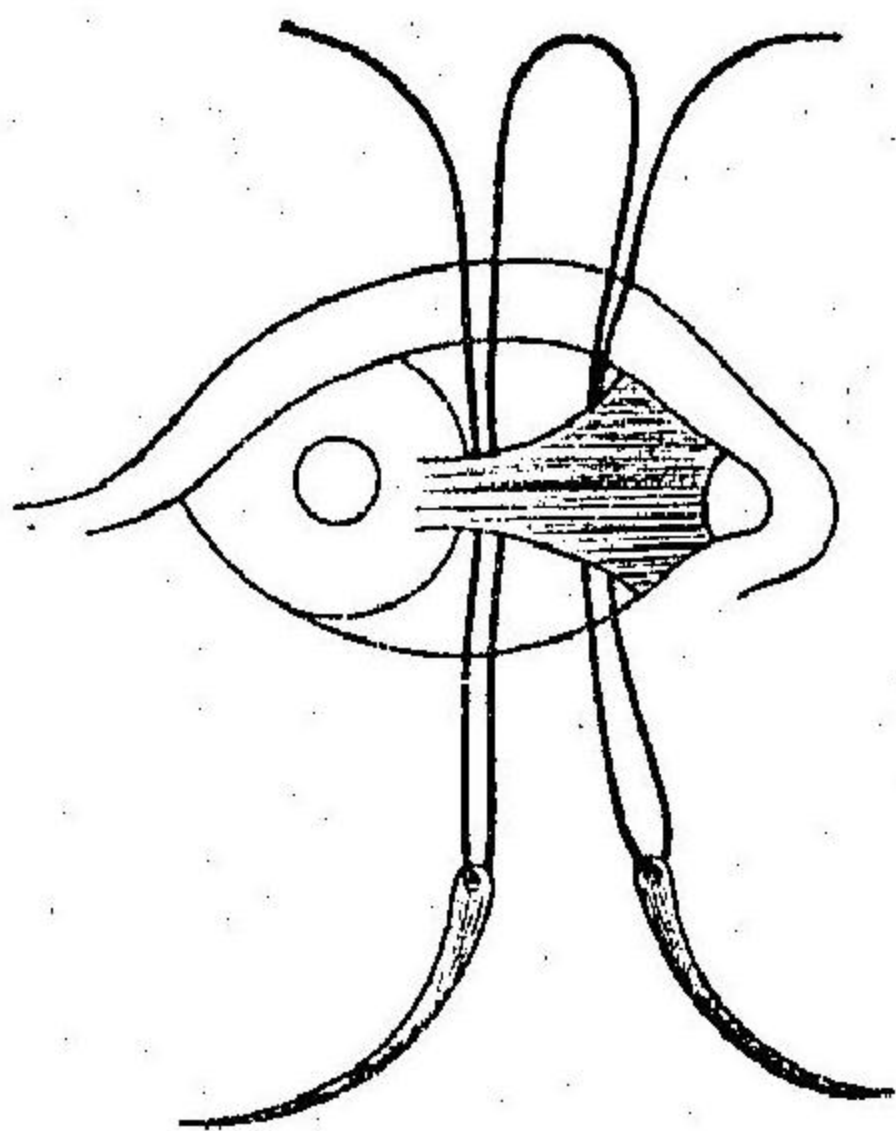
單ニ贅片ニ腐蝕ヲ試ミタル者アリトコレニヨルキハ瘢痕收縮ニ由テ眼球ノ運動ヲ害スルヲ甚シク斜視ヲ起スト稀ナラズ害アリテ救ナシ

八つにける Szokalski 氏結束式(第三百三十圖)

多液性燃衝性ノ贅片ヲ萎縮性ニ變ズルモ收縮ノ爲ニ結膜ヲ短小ニスルヲ免カ

すつをかるす
きー氏結束式

圖 十 三 百 第
式 束 結 氏 1 き す る か を つ す



レズマタ其效必スベカラズ(一千八百四十五年)

九ですきー Desmarres 氏移植法(第三百三十一圖)

贅片ノ頭體ノ部ヲ角膜及鞏膜ヨリ剝離シ次ニ結膜創ノ下縁ノ中央ヨリ角

ですきー氏手
術式

圖 一 十 三 百 第
式 術 手 氏 1 ます で

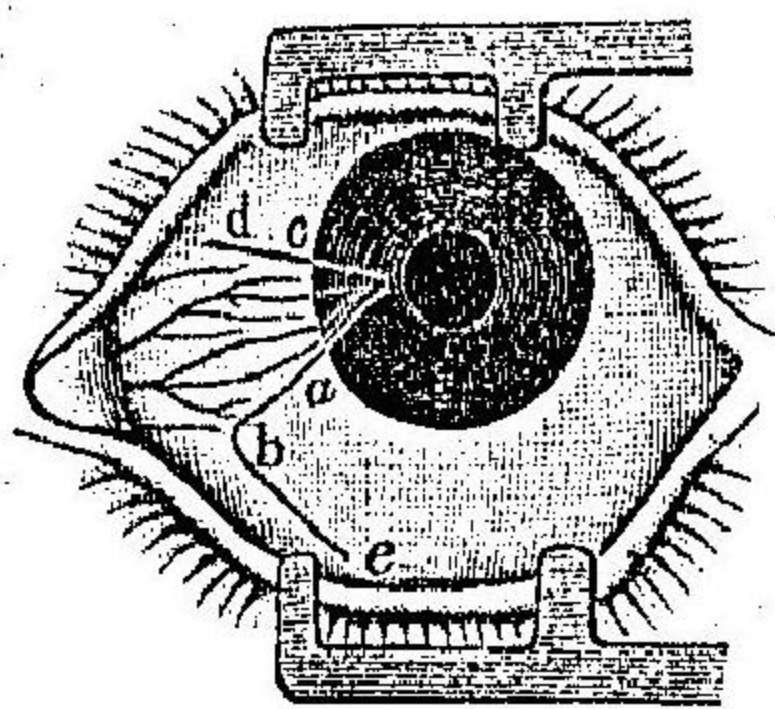
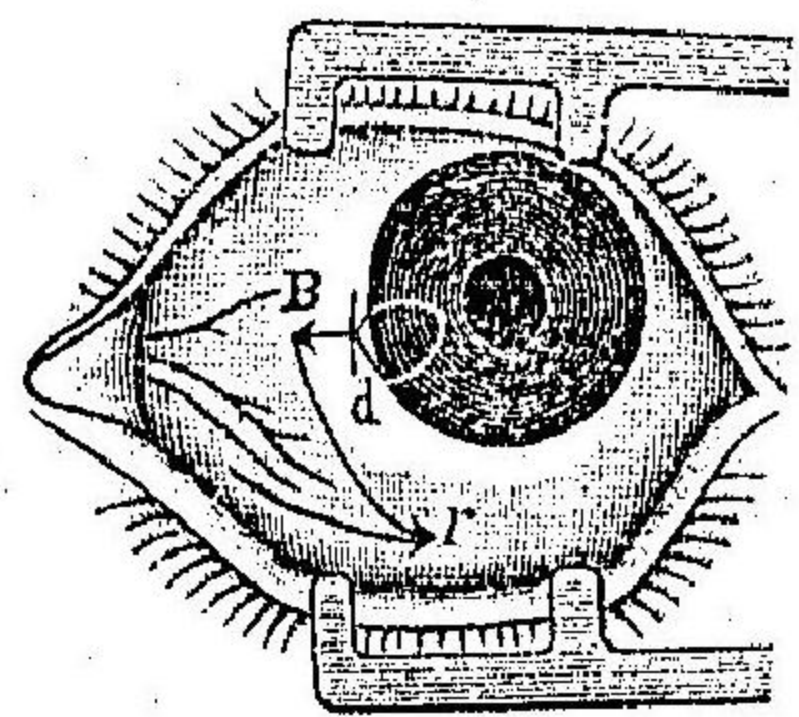


圖 二 十 三 百 第



膜縁ニ平行シテ外下方ニ眼球結膜ニ一截切創ヲ作り鼻側翼狀贅片ノ時コレニ由テ開ラキタル結膜新創間ニ翼片ヲ嵌入セシメテ縫合シ贅

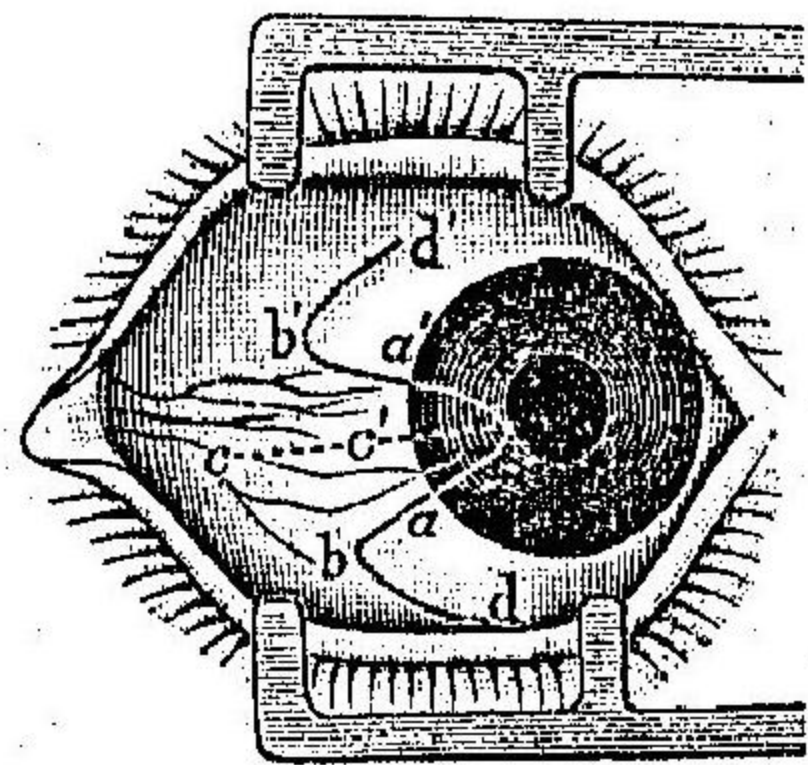
片ヲ去リタル爲メニ生ゼル缺損部ハ二ヶ所ニテ縫合ス

一〇くなく Knapp 氏移植法(第三百三十三圖 第三百三十四圖)

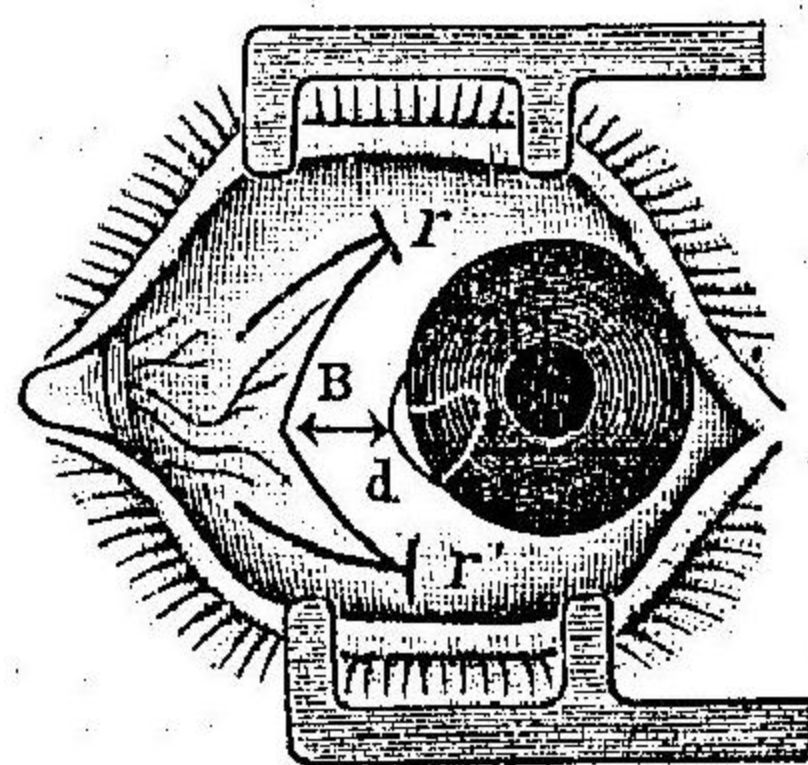
翼狀贅片ヲ頭部ヨリ根部ニ至ルマデ剝離シ次ニ眼球結膜ヲ弓狀ニ上下穹

術くなくぶ氏手
式

第百三十三圖
くなくぶ氏手術式



第百三十四圖



隆部ニ向テ切開シ次ニ剝離セル贅片ヲ其長徑ニ從フテ兩割シテ上下ノ兩瓣トナシコレニ由テ得タル小ナル四角形ノ瓣ノ上

ナルモノヲ上ニ下ナルモノヲ上ノ創間ニ嵌入セシメテソノ尖端ニ於テ結膜ト縫合シ贅片ヲ去リタル後ノ鞏膜部ハ結膜ノ上下ノ二線ヲ接セシメテ縫合ス

一 一ですまー Desmarres (Sohn) 氏式

くなくぶ氏式ト同一ニシテ唯タ終リノ結膜縫合ヲ略セルモノナリ贅片ノ端鈍ニシテ創間ニ嵌入セシムルモ甚シク隆起ヲ生ズルノ恐アリタル者ニ於テスト

一 二みへる Y. Michel 氏式

みへる氏ノ贅片ノ小ナル者ハですまー氏式大ナルキハくなくぶ氏式ニ從フト云フ余モ自家ノ結膜橋下移植法ヲ案出セル前ハみへる氏ト同一ニ處置セリ

一 三れーもん C. Raymond 氏式

うまーべる氏剪刀ヲ以テ角膜縁部ニ於テ贅片ノ頸部ヲ切斷シ細剪刀ヲ以テ角膜ニ屬スル頭部ヲ切除シ次テ數日間持續シテコノ小ナル開放セル創口ヲ硫酸銅桿ニテ腐蝕ス

一 四は P. C. Holz 氏植皮式

角膜部ヲ注意シテ角膜縁マデ剝シ次ニ結膜下ニテ鞏膜ヨリ剝ス片ハ結膜ハ角膜ヨリ退キテ鞏膜ノ一部暴露セラル次ニコノ全部ナラズシテ一部分角膜ニ接スル部ニ通例耳ノ後ニテ剃刀ニテ得タル皮瓣ヲ置クソノ大サハ三密迷ノ幅ヲ有シ結膜創ノ上下縁ニ達スル長ヲ要ス而シテ上下端ハ結膜ト縫合ス四十八時間ヲ經レバ既ニコノ皮瓣ハ綳帶ヲ要セズシテ離レザル様ニナルト云フ(一千八百九十七年)

一 五すたるけー Starkey 氏電氣分解式

角膜ヲ餘リ健サハル者ニ於テ白金線ノ積極ヲ贅片内ニ三所ニ密迷宛テ隔テテ刺シ三ミリアンペヤノ電流ヲ一分間宛通シ大ナル血管ガ消失シ瓦斯球ガ結膜下組織ニ生ズルニ至テ止メタルニ途ニ贅片消失セリト云フ大ナル者ニハ一部ニ效アリテ再發ヲ免カレズ小ナル時ハ三四回ニテ奏效スト云フ

一六後轉法 Einfache Rücklagerung d. Flügelhells (等百三十五, 第三百三十六圖)

贅片ノ頭部ヲ角膜ヨリ剝シテ頭ノ尖端ヲ切除シ體部ヲ鞏膜ヨリ剝離スル

ヤ翼狀贅片ノ

全部ハ眼内皆

ニ向テ退縮ス

ベシコ、ニ於

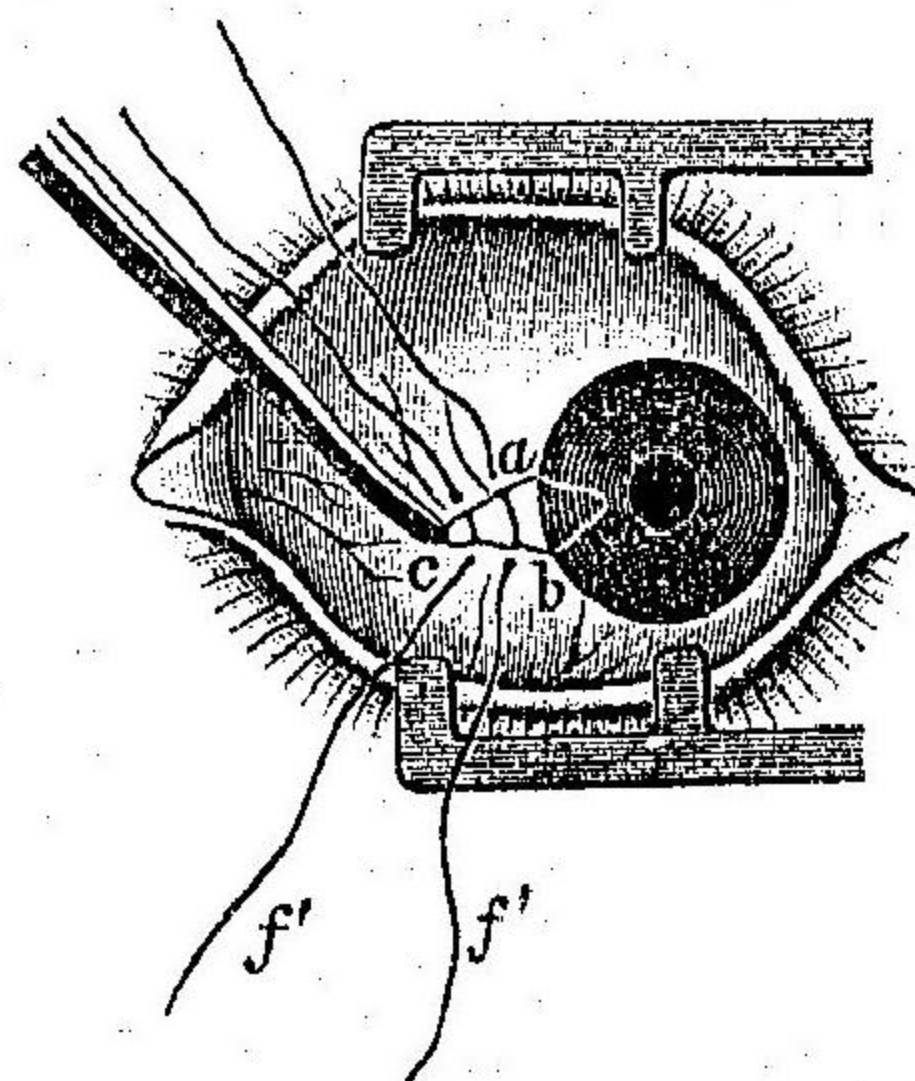
テ贅片ノ殘部

ヲ内角ニ鑷子

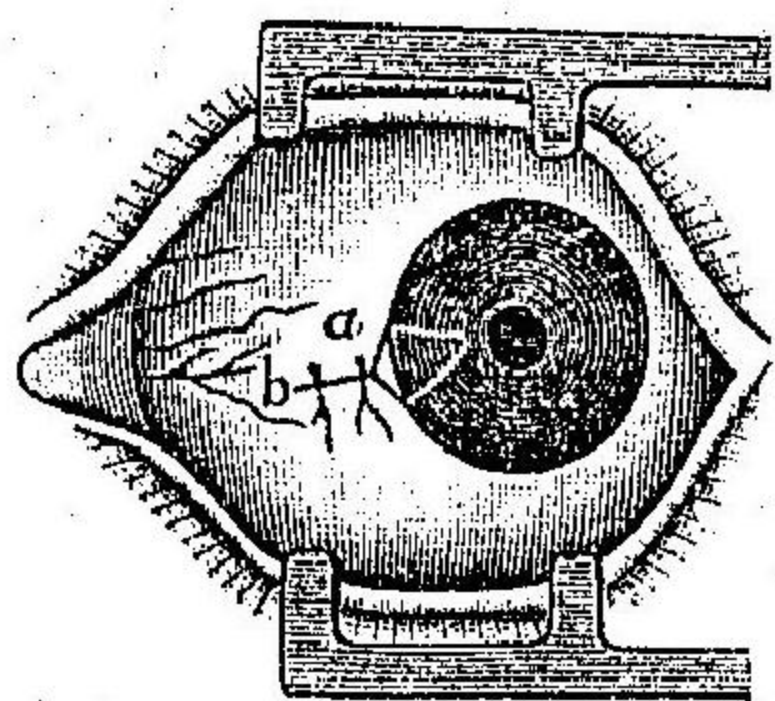
ニテ牽引シテ

後轉法

第三百五十五圖 後轉法



第三百六十六圖



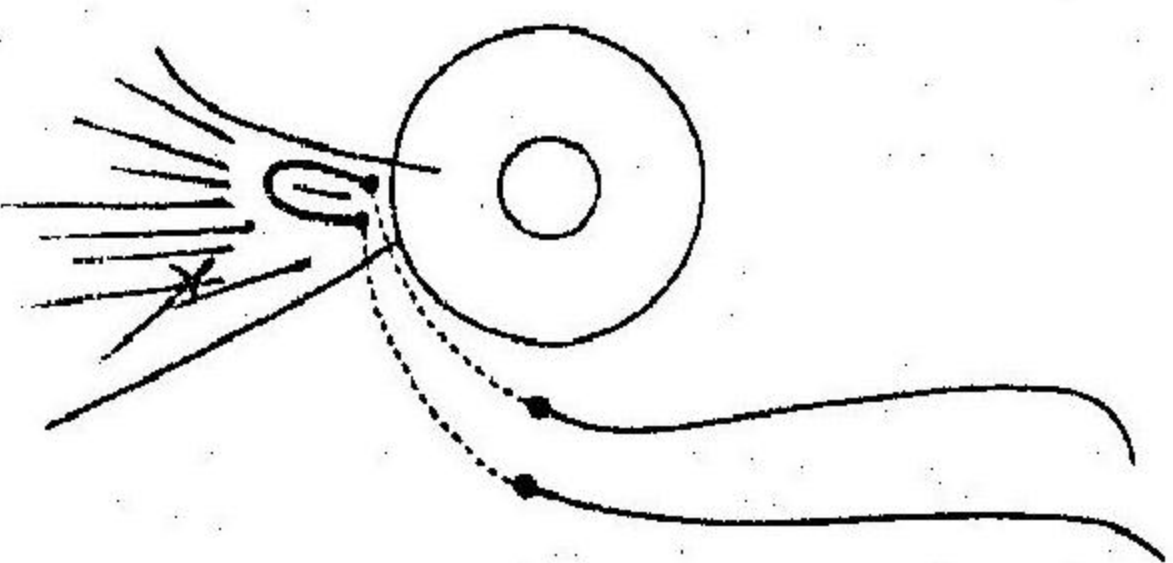
キテ結膜ノ上下ノ創縁ヲ相結合スルコト二三ヶ所ナルベシカクノ如クスル
時ハ手術後當分ハ内眥ニ接シテ隆起ヲ見レハ漸次收縮シテ扁平トナルベ
シコノ法ハ余ハ輕度ノ者ニハ好シテ用ユクニ、ぶ氏式ヨリハ簡單ニシテ效
ヲ奏スルコトハ同シ而シテ余ノ經驗ニヨレバ翼片ノ大ナル程コノ法ハ應用
シ難キガ如シ

一七結膜下移植法 John. Pterygium-Operation vermittelt subconjunctivaler Verschiebung (第三百三十

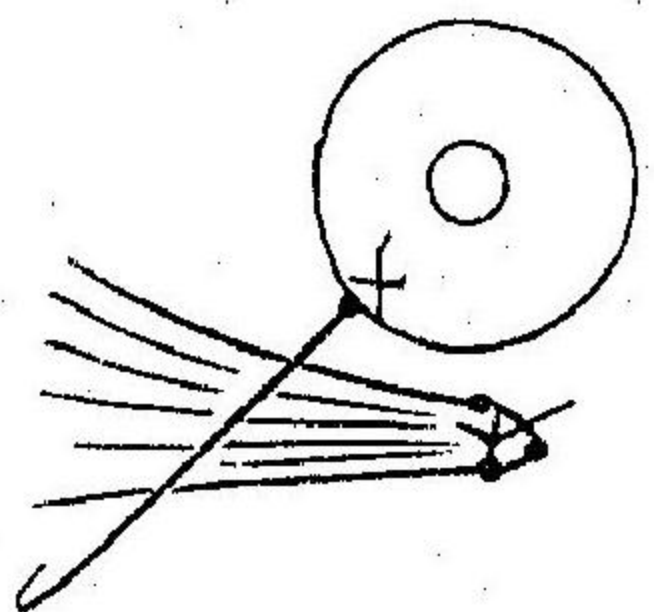
七、第三百三十八圖

贅片ノ頭部ヲツカミ角膜ニ屬スル部ヲ剝シ次ニ結膜ヲ贅片ノ下縁ニ沿ウテ切
開シ下外方ニ結膜下組織ヲハガス次ニ一絲ノ兩端ニ針ヲ附シテ贅片ノ頭部ヲ

第三百三十七圖 じよん氏結膜下移植法



第三百三十八圖



兩針共ニ通シ次ニ前ニハガシ
ガキタル結膜下ヨリ針ヲ出シ
テ翼片ヲ下外方ニ結膜下ニ移
植シ兩針ノ絲ヲ結束ス(一千九
百〇一年)コレト略同同時ニ中央
醫學會第七十四回例會記事ノ
中外醫事新報第五百十六號ニ
載セラレタル者ノ内ニ葛谷貞
二氏ハ翼狀贅片ヲ根部マテ剝

離シテ角膜下部ノ球結膜下ニ轉移縫著シ贅片ノ存在セシ結膜創口部ハ緊密ニ
縫合セリ數日ニシテ全癒再發ノ憂ナカルベシトテ自家ノ實驗例ヲ報告セリト
云フ余ハ同氏ノ詳細ナル報告ヲ手ニセザルガ故ニ想像ニ過ギザルモ恐クハ前
記じよん氏ノ報セル者ト同一ナランカ東西期セズシテ軌ナ一ニセルハ又奇
遇ト云フベキナリ

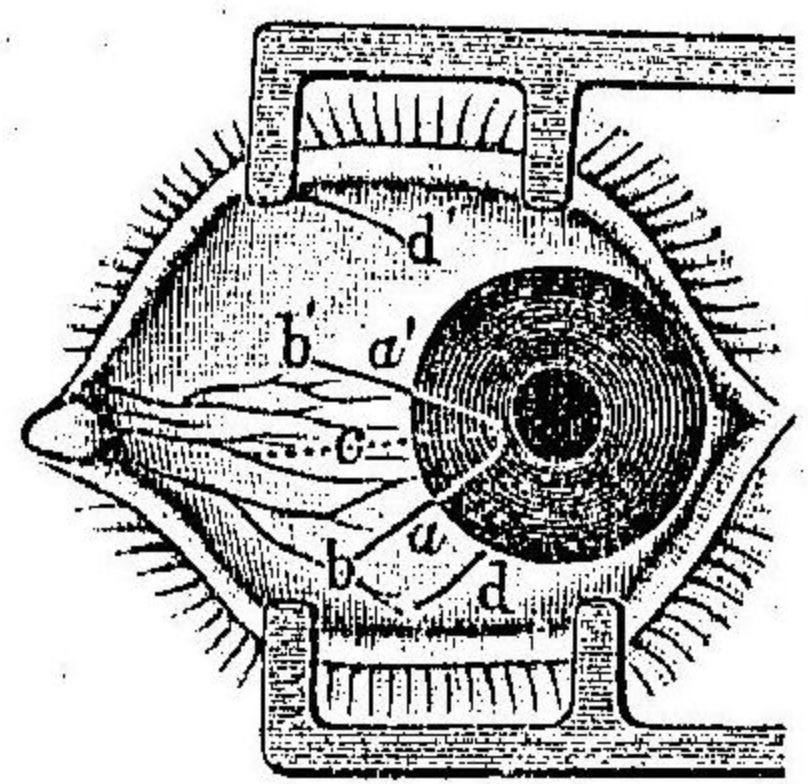
じよん氏
結膜下移植法

一八小川氏結膜橋下移植法(第三百三十九、第四百十圖)

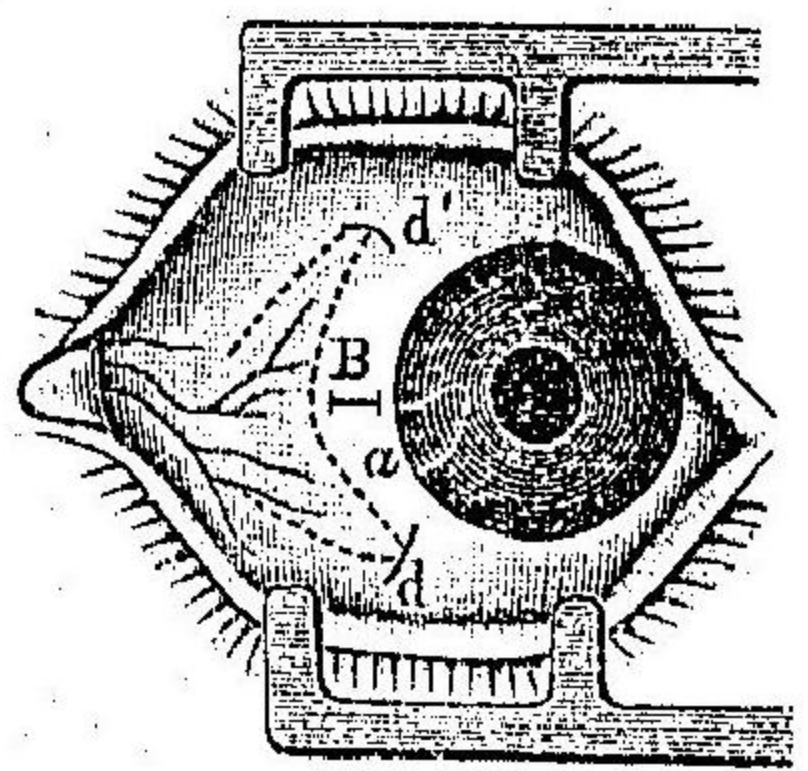
無毒の注意、古加因麻醉、Ba'dy'ナル翼狀贅片ヲ先ヅ鑷子、斜視鉤、河本氏、スバ
ーテル、狀刀ヲ用ヒテ剝離シテ根部ニマデ及ボシ、ナル線ニテ翼片ヲ其長

小川氏手術式

第三百三十九圖
小川氏手術式



第四百十圖



徑ニ從フテ上下ノ二片
ニ横斷シ次ニa及cナ
ル二切創ヲ眼球結膜ニ
作ルソノ位置ハ豫メ二
片ノ一片ヲヒキ延シテ
ソノ頭尖ノツク所ナル

ベシ而シテコノ切創線(a或ハc)ヨリb(或ハd)ノ方ニ結膜下組織ヲ鞏膜
ヨリ剝シテ結膜橋ヲ作ル次ニ上下ノ二片ハ別々ニコノ橋下ニ移シテ其頭
ヲc(或ハe)ノ外方結膜創縁ニ縫著シ、贅片ヲ去リタル所ノ結膜創(b)ハ二
ヶ所ニテ縫合ス、縫帶スルヲ四五日ニシテ絲ヲ去リ、綳帶ヲ去ル
コノ法ニヨル時ハ術後少日數間ハ結膜ニ隆起アルモ漸次扁平トナリ(くな
ぶ氏ヨリモ早く)表面ハ結膜ナルガ故ニ滑澤ニシテ他ノ式ニヨルガ如クニ

外貌醜ナラズ之レヲ略言スレバ、くなぶ氏式トじよーん氏式ト併セ且ツ
結膜下ヲ結膜橋下トセル者ニシテ余モ初メハじよーん氏ノ如クニ結膜下
ニ移植スベクヤト考ヘタルモ老熟ナル助手ヲ缺クガ爲ニ二個ノ切創ヲ作
リ結膜橋ヲ作り次ニコノ下ニ剝離セル贅片ノ一片ヲ持チ來レルニ手術容
易ニシテ助手熟練ヲ要セザルノ便アリ

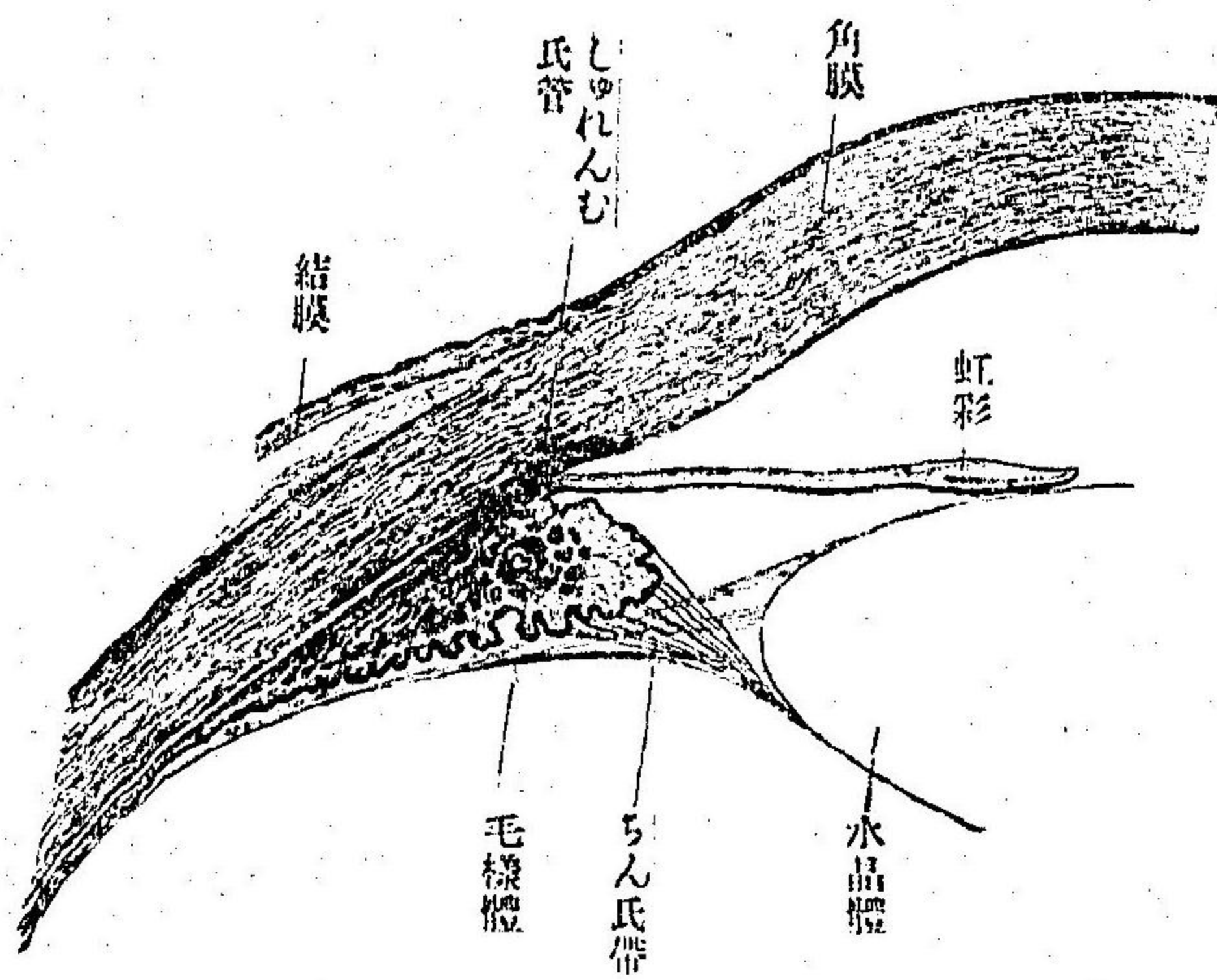
第四章 角膜手術 (第四百十一圖)

第一項 角膜潰瘍ニ沃度丁幾ヲ塗布スル法

角膜潰瘍ニ沃度丁幾ヲ塗布スル法

眼球全部断面

圖一十四百四 圖面断面全球眼



細キ棒(消息子、小楊子)ノ尖端ヲ棉花ニテ卷キ、沃度丁幾ニ浸シ、液ヨリ出セル時少時間空氣中ニ乾シテ浸液ノ剩餘ノ去ルヲ待テテ潰瘍ノ縁及ビ邊ヲ摩ス、翌日反復シテ行フ

角膜表層刮去術

第二項 角膜表層刮去術 *Abschabung der Hornhaut* *Abrasio corneae.* Die

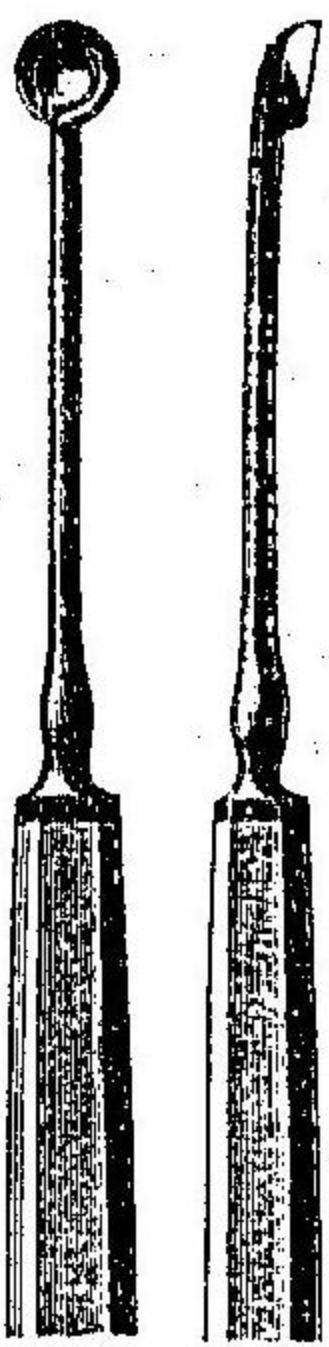
角膜表層ニ潤濁アル時之ヲ刮去ス、表皮層ナラズシテ實質ニ潤濁アル時ハ、之レヲ刮去スルモ、次テ生ズル者ハ癍痕ニシテ同シク不透明ナルガ故ニ效ナシ

術式 古加因水局所麻醉、線狀刀ノ刃ヲ平ニ潤濁セル部ノ角膜表層ヲ剝刮ス
適應症 一 睫毛亂生症ノ爲メニ生セル角膜表皮肥厚、ニ表皮ニ於ケル石灰、鉛、火藥粉末ノ沈著、三角膜帶狀潤濁ニシテ視力尙存スル者、四圓錐角膜(ぐれー、ふん氏ハ圓錐尖端ヲ刮去セル後創面ヲ硝酸銀棒ノ尖リタル者ヲ以テ腐蝕セリ)

第三項 角膜潰瘍搔抓術

角膜潰瘍ヲ銳匙(第四百十二圖)ヲ以テ搔抓シ不潔ナル部ヲ除去スベシ、潰瘍縁及底面ノ滑澤ナルニ至テ止ム、次ニ十分ニ洗滌シ、沃度

銳匙



圖二十四百第

角膜潰瘍ニ沃度丁幾ヲ塗布スル法・角膜表層刮去術・角膜潰瘍搔抓術

角膜亂切術

仿謨ヲ撒布シ、綳帶ス

應用 角膜異物除去後ニ溷濁或ハ鏽暈ヲ存スル時

第四項 角膜亂切術 Scarification der Hornhaut

角膜亂切ノ效ハ疑ハシ

一 亂視ノ手術的矯正 (Bates 氏)

二 Scott 氏「マンヌス」手術 線狀刀ヲ以テ周圍ヨリ中心ニ向テ「マンヌス」内

ニアル血管ヲ、ソノ縱徑ニ從テ切割シテ血管ノ增生及吻合ヲ妨ゲ、且ツ之レヲ

消滅セントス

三 たまむち氏「Tannanicheff」氏白斑手術 角膜白斑ヲ亂切シテ、ソノ吸收ヲ促サント

セリ

第五項 角膜燒灼術 Kauterisation der Hornhaut

角膜燒灼術

燒灼器 ぱけりん Paquelin 氏烙白金或ハ燒灼電氣

術式 古加因局所麻醉 灼熱シテ赤色トナリタル烙白金或ハ燒灼電氣

ヲ以テ點々觸接シテ燒灼スベシ

適應症 一 角膜潰瘍ニテハ先ヅ2%フルオレスチン「溶液」(2%ノ曹達水

一〇〇ニ〇〇五ノ「フルオレスチン」ヲ溶解ス)ヲ點滴シテ少シク時ヲ經テ

綠色ヲ呈スルヲ待チテ潰瘍ノ境界、進行部位等ヲ詳ニセル後ニ行フベシ、ニ

小ニシテ深キ邊緣潰瘍、ニ表皮剝脫或ハ創傷ノ化膿セル時、四「マンヌス」輕症

ノ時ハ大ナル血管ヲ角膜緣ニテ燒灼シ、重症ノ時ハ角膜緣ヲ超エテ鞏膜部

ニ及シテ燒灼ス、五 鏽暈、六 翼狀贅片切除後、七 惡性腫瘍除去後、八 局所性及全

部性角膜葡萄腫、九 圓錐角膜、十 虹彩脫 切除シ難キ時或ハ切除セルモ更ニ

脫出セル時、十一 角膜實質炎 Marinache, Albrand, Iröhreich ニ試ミタル人アリ

第六項 角膜穿孔術 Punction od. Paracentese der Hornhaut (第百四十六圖)

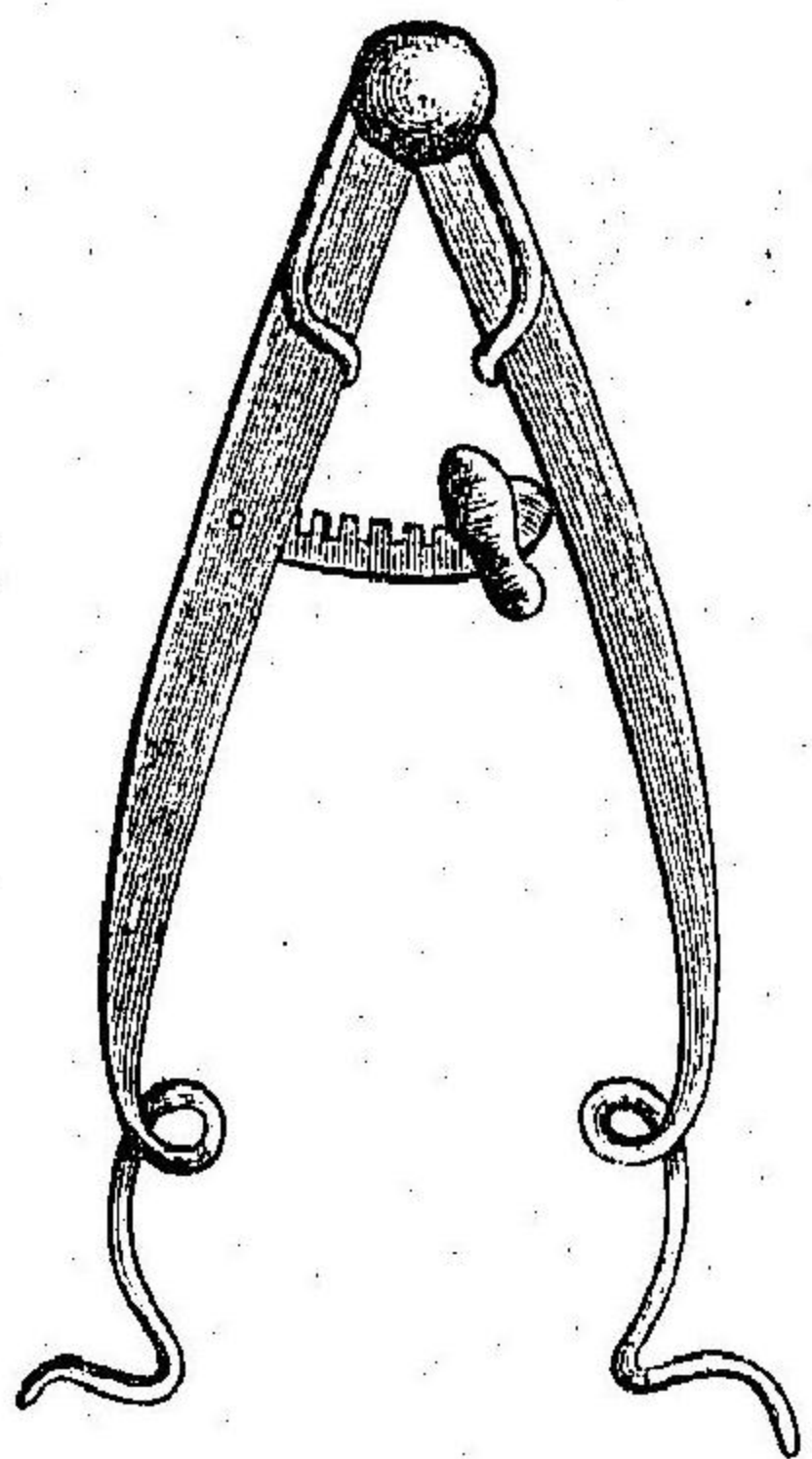
角膜穿孔術

Hornhaut (第百四十六圖)

器械 開險器(第百四十三圖)、固定鉗子(第百四十四圖)、角膜穿孔針(第百四十五圖)

術式 古加因水局所麻醉 固定鉗子ヲ穿孔セントスル部ノ反對側ノ角

開驗器



膜縁部ニオキテ眼球ヲ固定シ、左手之ヲ持シ、右手ニ穿孔針ヲトリテ角膜ノ下縁或ハ下外縁ニ於テニ垂直ニ刺入シ、針尖前房内ニ達スレバ、柄ヲ横ヘ虹彩ニ平行シテ進ミ、創口 3mm. ニナレバ、徐々ニ針ヲ拔出シテ前房水ヲ漏泄セシム、コノ際急ニ

固定鑷子



前房水ノ流出セザル様注意スベシ、然ラザレバ水晶體ヲ傷ツクル恐アリ、針ヲ去リテ後前房

角膜穿孔針



水尙十分ニ出デザル時ハ「スパーテル」或ハ「だびーる」氏匙 David's Löffel ヲ以テ創口ヲ開クベシ

適應症及其效用

圖三十四百第

器 驗 開

圖四十四百第

子 鑷 定 固

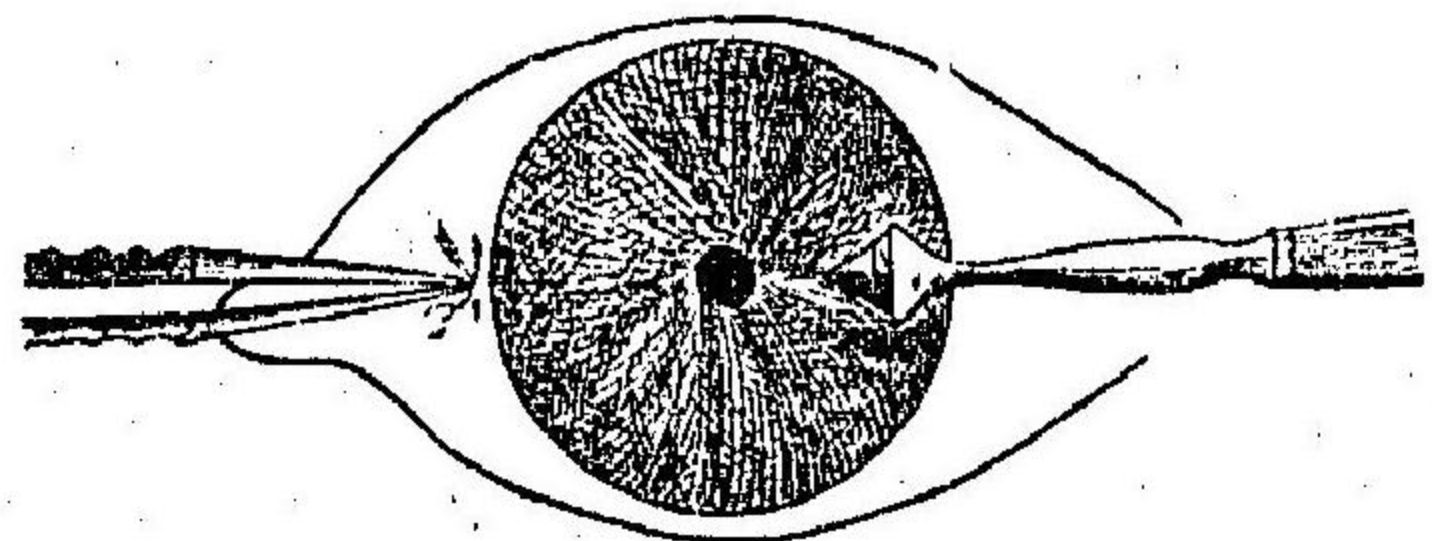
圖五十四百第

針 孔 穿 膜 角

穿孔針ヲ以テ角膜穿孔セル

圖六十四百第

圖ルセル孔穿膜角テ以テ針孔穿



一 前房出血、蓄膿、異物寄生蟲
二 内壓亢進

- a. 急性緑内障發作時虹彩切除術ヲナシ難キ時
- b. 牛眼ノ高度内壓亢進アル者ニ虹彩切除術ヲ施ス準備手術トシテ
- c. 單性緑内障ニ虹彩切除術ヲ施スニ就テソノ豫後診斷ノ爲メニ
- d. 一時性内壓亢進ヲ去ル例ハ外傷或ハ手術後ノ水晶體膨脹、毛様體炎

三角膜潰瘍 潰瘍ノ底面ニ於テ穿孔ス、穿孔ニ由テ前房水出ル時ハ内壓ニヨル角膜ノ堅弛緩シ、淋巴液ノ疏通佳トナリ榮養増進セラレ、進行性潰瘍モ爲メニ退行性潰瘍ニ一變セラル、コノアリ、又手術的ニ穿孔スレバ、病ノ爲メニ潰瘍ガ不時ニ破壊穿孔シテ虹彩或ハ水晶體ノ脱出、全眼球炎等トナルヲ防グ、コノ利アリ、術後虹彩脱ヲ生ズルコトアルモ破壊ノ爲メニ生ズル者ニ比スレバ極メテ小ナリ

角膜潰瘍ヲ穿孔スルニハ穿孔針ヲ以テセズシテ烙白金若クハ燒灼電氣ヲ以テ燒灼穿孔セシムルモ同様ナル利アリ

四 角膜、虹彩、毛様體、脈絡膜等ノ非化膿性ノ頑固ナル炎症、硝子體濁濁ノ時ハ眼内新陳代謝ヲ一變シテ榮養ヲス・ム

五 角膜擴張、葡萄腫、虹彩脫術後綳帶ヲ要ス

六 白内障ニ截開術ヲ施セル後吸收遲々タル時　コノ時穿孔スレバ水晶體質ニテ飽和セラレタル前房水排出セラレテ、前房水新鮮トナリ、ソノ吸收力加ルト。術時前房水流出ノ時、水晶體前出スルガ爲メニ、將ニ癒著閉鎖セントスル水晶體ノ創口開大セラレテ、前房水更ニ水晶體內ニ滲透スルヲ得テ吸收ヲ促スヲ得ベシ

七 中心動脈若クハコレガ分枝ノ栓塞　内眼ヲ滅シテ栓塞物ヲナルベク末梢部ニ驅逐セントス

角膜切開術

第七項

角膜切開術 Keratomie

一名セーミーの氏法

Sänisch'sche Verfahren (第四百十七、第四百十八、第四百十九圖)

百四十九圖

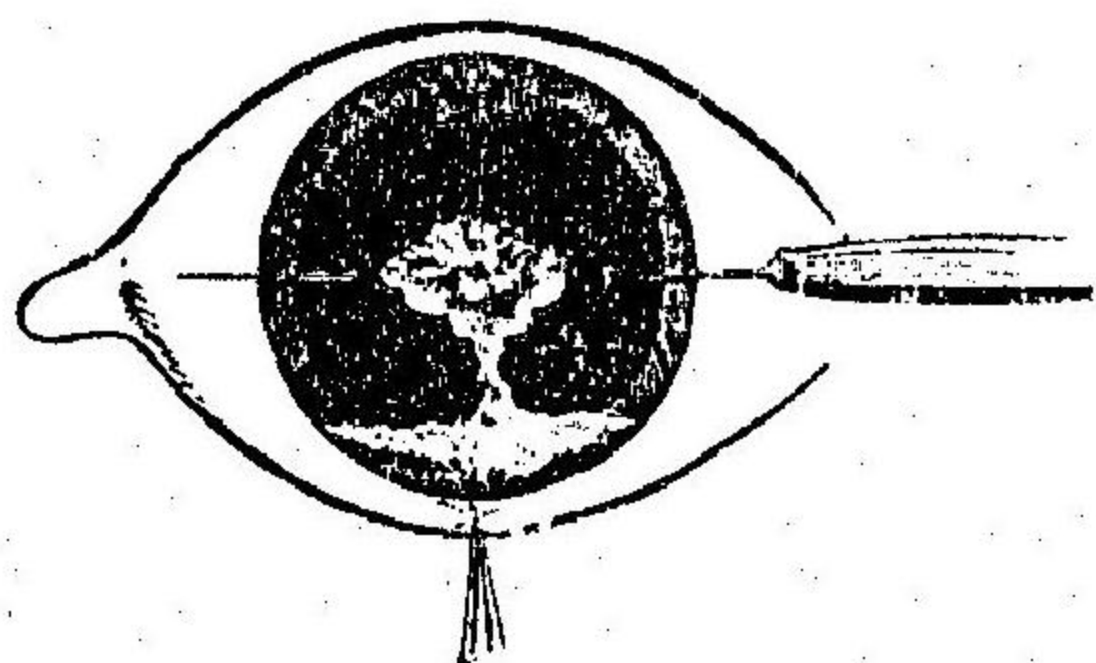
ゼーミーの氏法線狀刀ヲ刺セル圖
同將ニ切開シ終ラントスル圖
同切開後前房著膿ノ去レル

ぐれーふ氏の線狀刀

術式 古加因水局所麻醉　ぐれーふ氏線狀刀(第百五十圖)ヲ以テ角膜潰瘍ヲ横斷スル法ニシテセーミーの氏ノ創ムル所タリ、刀尖ヲ潰瘍縁ヲ距レル健康部ニ刺入シテ、刀尖前房ニ達スルヤ、刀ヲ横ヘテ進ミ、他側ノ潰瘍縁ヲ

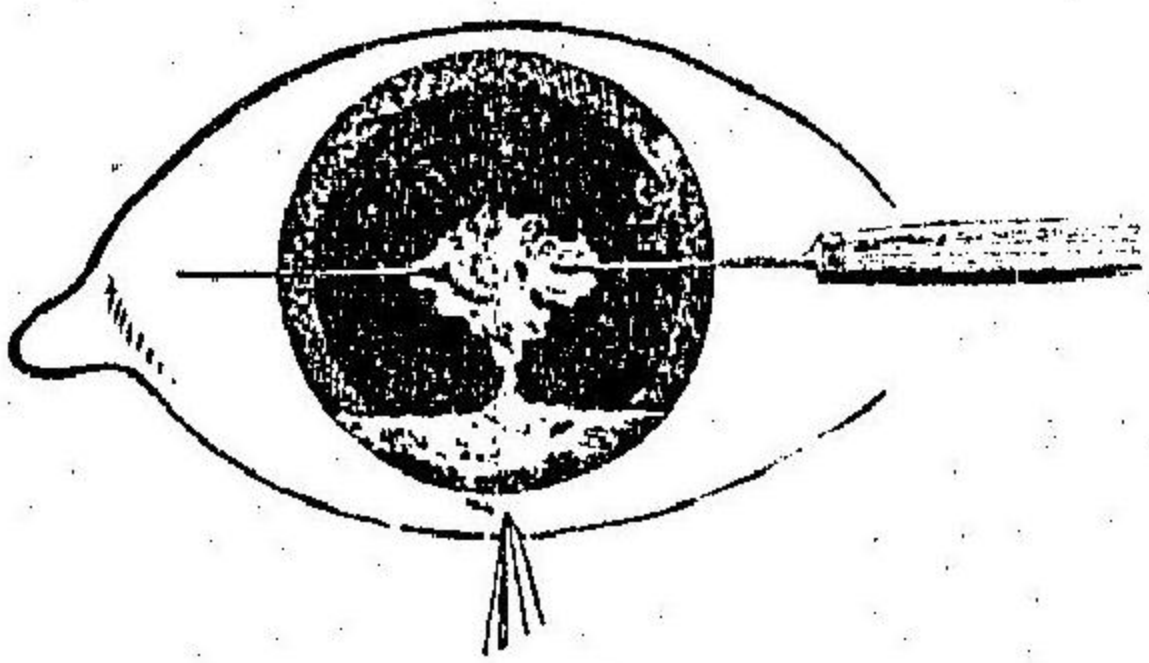
第四百七十七圖

ゼーミーの氏法線狀刀ヲ刺セル圖



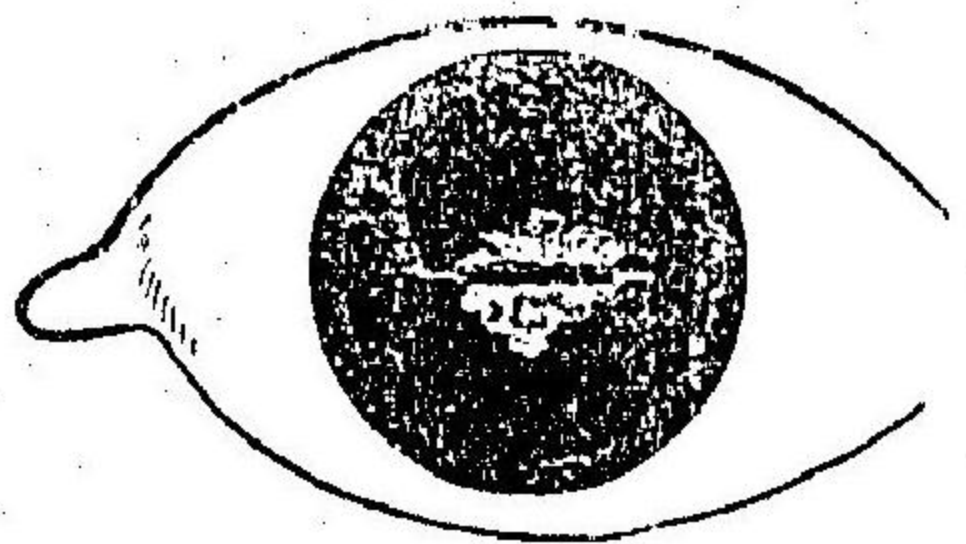
第四百八十四圖

同將ニ切開シ終ラントスル圖



第四百九十四圖

同切開後前房著膿ノ去レル圖



第四百五十五圖

ぐれーふ氏の線狀刀



距レル健康部ニ刺出シテ(コノ時刀及ハ前方ニ向フ)潰瘍ノ全經ヲ徐々ニ切開ス、コノ時前房水流出ス、前房蓄膿アレバ排泄セラル

適應症 一前房蓄膿性角膜潰瘍、ニ匍行性角膜潰瘍、ニ蠶蝕性角膜潰瘍

注意 一數々術後虹彩嵌入シテ、後日葡萄腫ノ原因ヲナスコアリ、ニ術後潰瘍ノ進行停止セラレザル時ハ「スパイテル」ヲ以テ創口ヲ開キ前房水ヲ頻回漏泄スベシ

第八項 割刺術 Tätowierung

器械 うゑける氏束針 Wecker's Bündelnadel (第百五十一圖) 小溝狀針 Rinnen-nadel (第百六十六圖)

術式 無毒的洗滌、古加因水局所麻醉 唐墨ヲ靜ニ磨リテ蜂蜜様ニナリ



タルモノヲ、毛筆ニテ角膜白斑ノ上ニ塗り、針(點墨針)ヲ以

第百五十一圖 針束氏るけう

割刺術

うゑける氏束針

テ、針尖ヲ稍斜ニナル様ニ(柄ヲ少シク斜ニス)點々刺針ス、殺菌性綿花ニ研酸水ヲ浸シテ固クシボレル者ヲ以テ、輕ク上ヨリ壓ス様ニシテ拭ヒ、墨ガ組織内ニ入りタルヲ見バ更ニ墨ヲ塗りテ綑帶ス、若シ割刺ノ足ラザル所アレバ、ソノ部ニ墨ヲ塗りテ刺針スベシ

白斑ニ血管ノ入レル者ハ、術前又ハ一二日前ニ角膜縁ニ於テ血管ヲ切斷シオクヲヨシトス、血管ノ入レル點、白斑ニ點墨スルモ、容易ニ吸收セラレテ其跡ヲ留メズ、局部廣キ時ハ反復シテ數回ニ割刺スベシ

適應症 多クハ粧飾的ニ容貌ヲヨクセンガ爲ニ手術ヲ乞フヲ常トスレ

凡時ニ光學的ノ方法ヲ兼ヌルコトアリ、瞳孔領ニカ、レル僅ナル點ハ、其稍透明ナランヨリハ、反テ之ヲ割刺シテ全ク不透明トスル方視力ヲ増スコトアリ

注意 虹彩ノ著色ヲ模倣セントスル時ハ朱ヲ混ズベシ

第九項 角膜ニ於ケル結膜移植術 Pfropfung

von Bindehaut auf die Hornhaut.

角膜ニ於ケル結膜移植術

割刺術・角膜ニ於ケル結膜移植術

一 クーント Kunt氏ハ角膜潰瘍ノ底面ヲ掃除シテ、ソム上ニ無柄結膜瓣ヲオキタルニ、容易ニ癒著シテヨク虹彩脱ヲ防グ₁ヲ得、又溷濁ヲ避クル₁ヲ得タリト

二 ギン Gama Pinto (1887) 氏ハ、虹彩脱ニ脱出セル虹彩ヲ剪除セル後、角膜缺損部ニコロノ大ニ相當スル(收縮スルガ故ニ二倍大)結膜瓣ヲ切除シテ移植セシメタリト

三 シューレ Scholer, クーント Kunt 氏等ハ、角膜縁ヨリ餘リ遠カラザル所ヨリ有柄結膜瓣ヲ作り角膜潰瘍面ノヨク搔抓シタルモノ、上ニ靜ニ載セ₁ス₁バ₁ト₁テ₁ル₁ヲ以テ僅ニ壓シツケオキ、繃帶ヲ三日間ソノマ、ニオキタリト

四 ウエル Wecker 氏ハ潰瘍ノ大ナル時又ハ角膜鞏膜ノ外傷ニシテ創口開大セル者ニ、結膜ヲ全角膜周擁ニ於テ剝シ、巾著ヲク、ルガ加クニシテ角膜ヲ包ミテ結膜ヲ縫合セリ、コノ時ハ角膜潰瘍ハ結膜囊ノ内ニ密封セラレベシ、コノ密閉中ニ在テ潰瘍治セル後縫合糸ヲ去ルニ、一部ノ結膜ハ角膜ト癒合スルヲ見ル

五 スネル Snellen 氏ハ白内障手術後ニ創傷治癒ヲ速ナラシムルト傳染

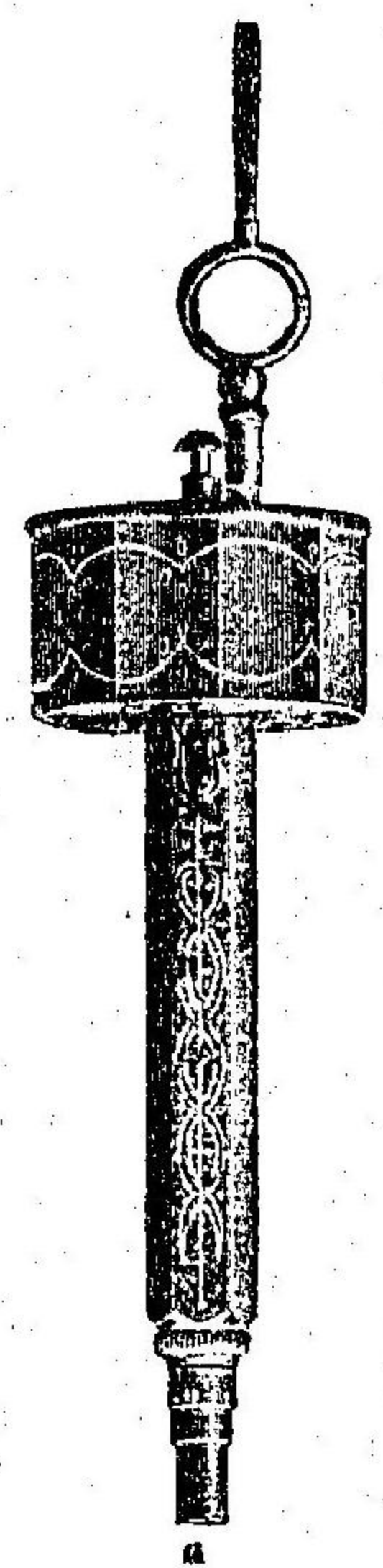
ノ危険ヲ避ンガ爲メニ好ンデ結膜瓣ヲ作レリ

第十項 角膜移植術

ヒッペル V. Hippel 氏ハ自家考案ノ圓鋸 Trepan (第一百五十二圖)ヲ用ヒテ角膜白斑ヨリ小圓板ヲ切除ス、コノ際ですせめ₁と₁氏膜 Descemet'sche Membranヲ傷ツ

鋸ひける氏圓

圖二十五百第
鋸圓氏るべっひ



ケズ、次ニ同ジ器ヲ用ヒテ、動物ノ角膜ヨリ同形同大ノ圓板ヲ切除シテ之ヲ白斑ノ切

除創中ニオク時ハヨク、癒著シテ透明ナル角膜ヲ得ト云フ、ですせめ₁と₁氏膜健全ナラザルカ、圓鋸ヲ使用スル際之ヲ傷ツケル時ハ奏效セズト云フ、ざる₁つ₁る₁ Salzer 氏ニヨレバ、人間ノ角膜ヲ人間ニ移スニ非ルヨリハ無効ニシテ、移植セル者ハ漸次消失シテ之ニ代ルニ新ナル瘢痕ヲ以テシ、視力ニ益ナキ

人工角膜術

「術前ト同一ナリト云フ

第十一項

人工角膜術 (第百五十三、第百五十四、第百

五十五、第百五十六圖)

角膜ヲ切開シ
テ一種ノ鑷子
ヲ送入シテ之
レヲ基底トシ
テ圓鋸ヲ用ユ
義角膜ヲ圓鋸
孔ニ嵌ス

圖 三 十 五 百 第

入送ヲ子鑷ノ種一テシ開切ヲ膜角
ユ用ヲ鋸圓テシト底基ヲレ之テシ
(載所「術膜角工人」氏るえつるぞ)

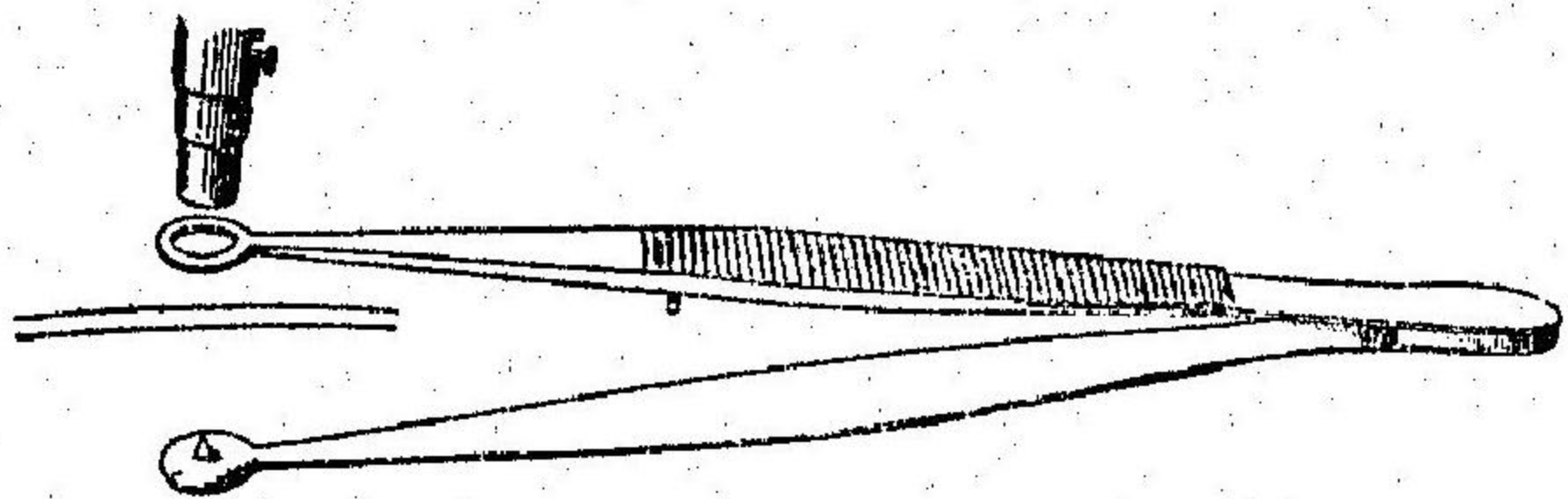
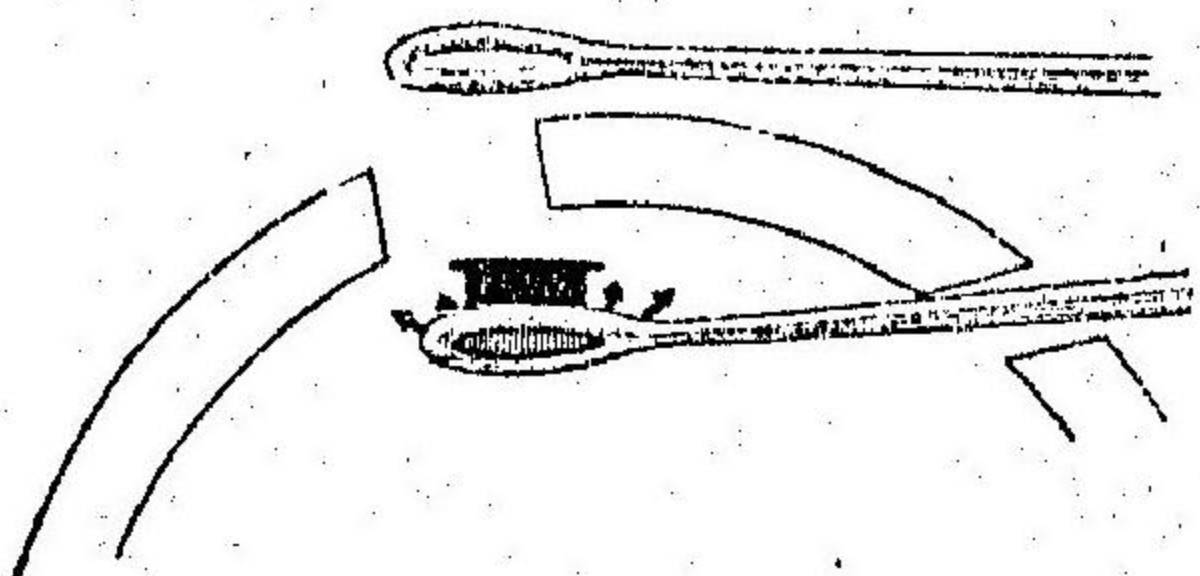


圖 四 十 五 百 第

ス嵌裝ニ孔鋸圓ヲ膜角義



透明ナル物體ヲ以テ角
膜白斑ニ代ントセルハ
ぬすばうむ Nussbaum (18
50)ノ創案セル所ニシテ
v. Hippel, Gradenigos, Dim-
merノ諸氏皆失敗セリ。
あるつる Solzer氏ハ今
尙ソノ研究ニ怠ラズ。ざ
氏ハ一種ノ鑷子ノ一葉
ヲ角膜裏面ニ送入シテ
キテコレガ上ニテ圓鋸

圖 五 十 五 百 第

ムシモ定固ヲ膜角義ヲヒ用ヲ之、子鑷用嵌裝鋸圓

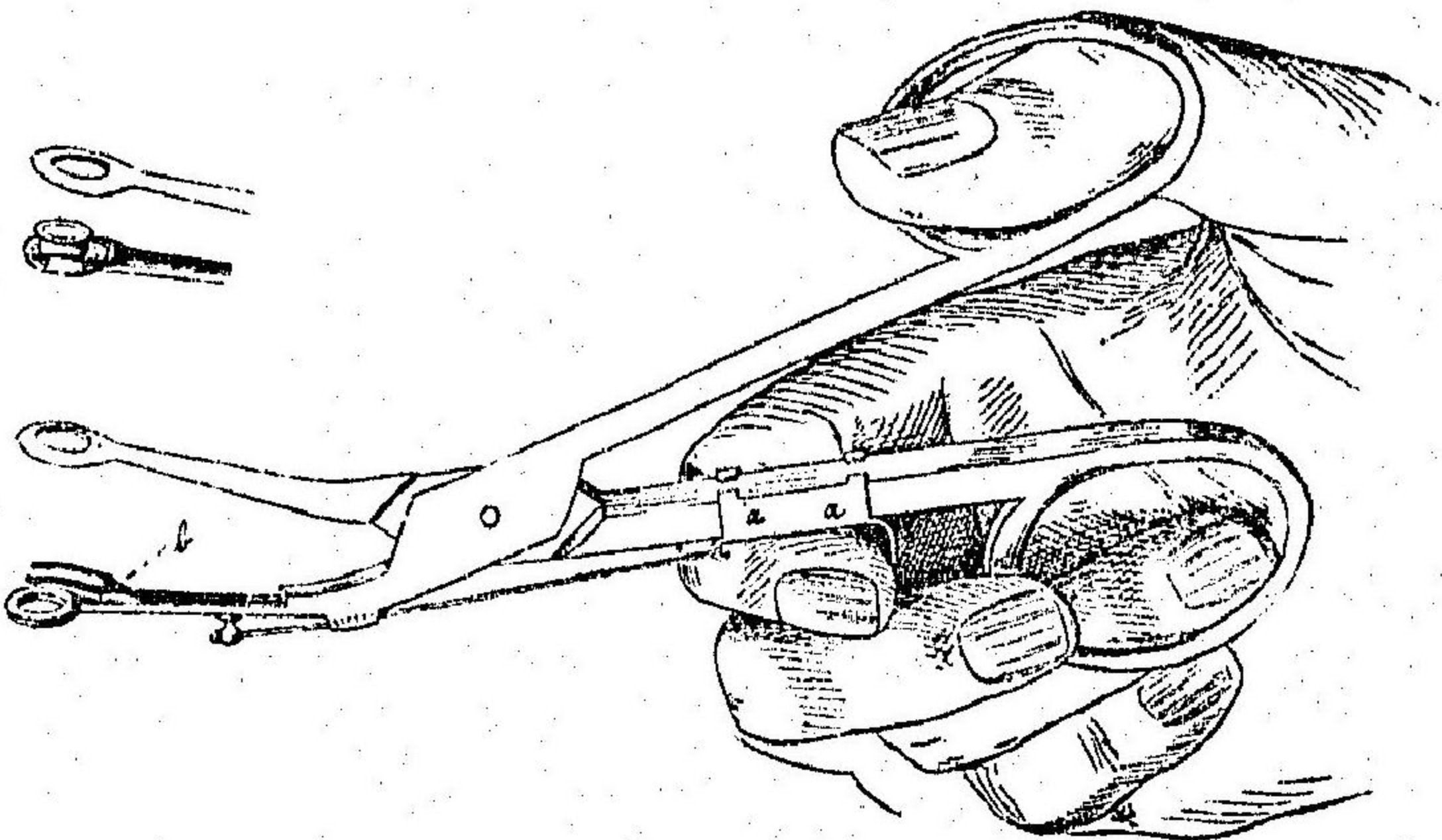


圖 六 十 五 百 第

圖ノ者ルモ過經ヲ月ケ一十後嵌裝膜角義



ヲ用ヒテ白斑ニ圓孔ヲ作り、硝子ヲ黄金ニテ包メル義角膜ヲ嵌装セリ。ソノ

装用後十一ヶ月ヲ經過セリト云フ(寫眞ヲ茲ニ載ス)

第十二項 角膜切除術

Excision, Ausschneidung der Hornhaut.

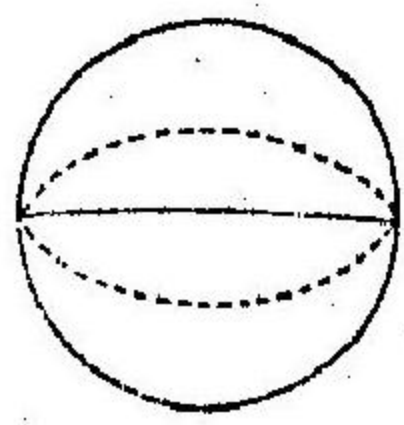
全身麻酔ヲ要ス
麻酔 局所麻酔ニテ可ナレモ神經質ノ人、小兒及不從順ナル人ニハ、時ニ

指ニテ上下眼瞼ヲ開クカ或ハですまゝ氏開瞼器ヲ用ヒ、固定鑷子ニテ眼球ヲ固定ス

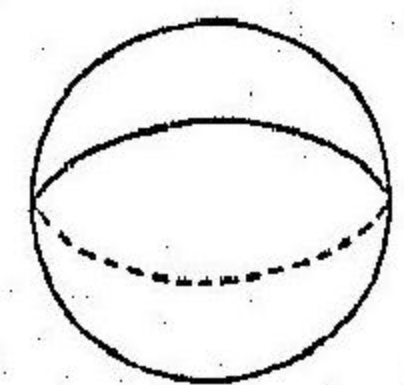
術式ノ一 切除セントスル部ノ中央ヲ横ニ線狀刀ヲ以テ切開シ、次ニ創

縁ヲ鑷子ニテ撮ミ曲剪刀ニテ切除ス(第百五十七圖)

圖七十五百第



圖八十五百第



ハ切開ヲ示ス
ハ剪ハ示ス
ハ切開ヲ示ス

術式ノ二 刀ヲ以テ先ヅ弓形ノ切開ヲナシ、ソノ凸創縁ヲ鑷子

ニテ撮ミテ、剪刀ニテ弓形ニ截リテ角膜ノ一部ヲ截除ス(第百五十八圖)

コノ法ニヨルキハ、橢圓形或ハ柳葉狀片ヲ切除スベシ、而シテコノ切除ニ際

ハいでる氏圓錐角膜手術

がれぞーすき氏圓錐角膜手術

全角膜截除術

シテ、水晶嚢ヲ傷ツクル時ハ、同時ニ摘出スベシ、切除後ノ創縁若シ柔軟菲薄ナル時ハ、ソノマ、放置スルモ可ナレモ、若シ硬厚ナル時ハ縫合スベシ

適應症 一圓錐角膜 Keratoconus. はいでる Bader 氏ハ圓錐角膜ノ尖端ヨリ

3-5mm. ノ長キ橢圓形ニ切除シ、時ニ縫合ヲ行ヒ時ニ之ヲ行ハズ、切除部ニ

瘢痕ヲ生ゼル後ニ虹彩切除ヲ行ヘリ、がれぞーすき Galzowski 氏ハ角膜ノ

上半部ニ切除ヲ施シテ瞳孔領ノ透明ヲ謀レリ、コノ法ニヨル時ハ虹彩嵌入

ノ害アリ、ニ局部性葡萄腫 先ヅ虹彩切除ヲ試ムルモ腫起減ゼザレバ、内壓

充進ナキモ瘢痕ノ一部ヲ切除シ壓迫綑帶ヲ施スベシ、ニ全部性葡萄腫 加

も Canno 氏ハ全葡萄腫ノ中央ヲ星彩狀ニ切除シ、ソノ三角瓣ノ各個ニ絲ヲ

通ジテ結紮シ次ニ鞏膜ヨリ剝離セル結膜ヲ縫合シテソノ上ニ被ヘリ、角膜

膜瘻 瘻管アル部ノ瘢痕ヲ切除ス

第十三項 全角膜截除術 Ablatio corneae, Die

Ganzliche Abtragung der Hornhaut.

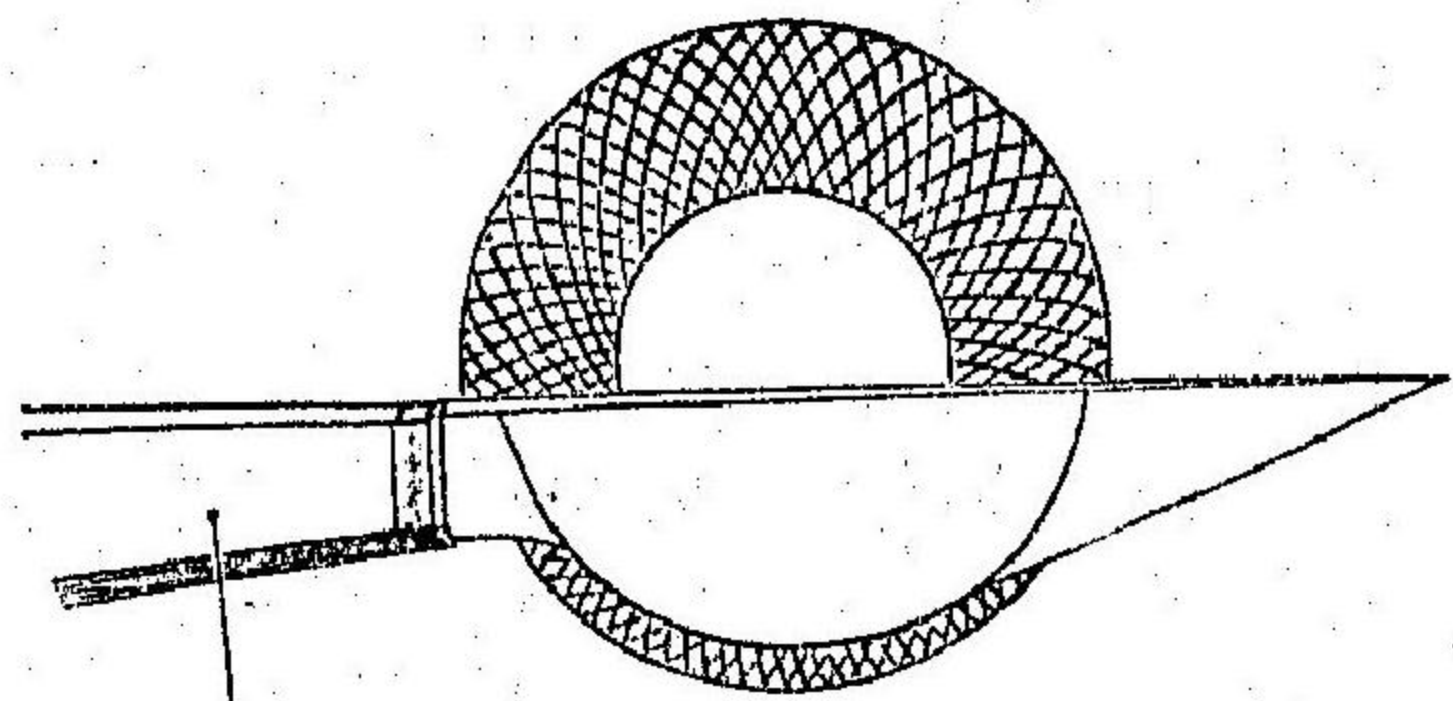
麻酔 局所麻酔

角膜切除術・全角膜截除術

ベール氏式

第九百五十九圖

式氏るいべ



ベール氏刀

術式

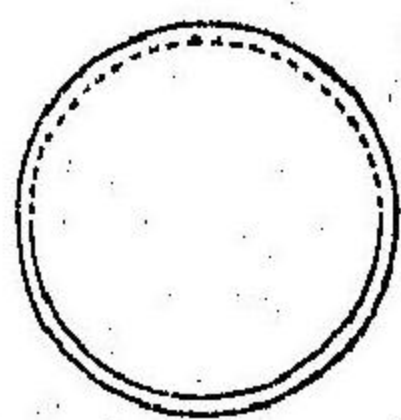
一 ベール氏式(第九百五十九圖)

三角形ナルベール氏内障刀ノ及ヲ下方ニ向ケテ角膜縁ニ刺入シ、反對側ニ於テ刺出シテ角膜周縁ノ下半部ヲ切開ス(第九百五十九圖)次ニ切開ニ由テ生ジタル瓣ヲ鑷子ニテ撮ミ、剪刀ヲ以テ角膜縁ニ沿ウテ上半部ヲ剪截シテ、角膜全部ヲ除去ス(第九百六十圖)眼球内容物ハ流出スルモノハ出シ、特ニ何等ノ處置ヲナサズシテ、洗滌、綑帶、眼球ノ萎縮收小スルニ任ス

ベール氏式
うまつける氏
式結膜縫合糸
ヲ示ス

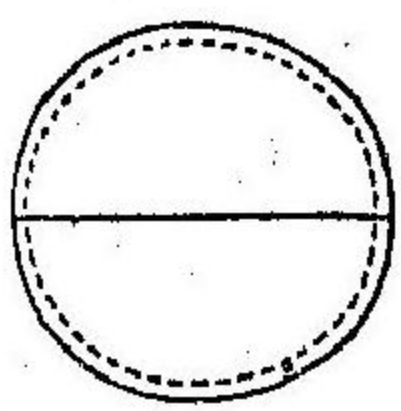
第十六百圖

式氏るいべ



第十六百圖

式氏るけつえう



ハ切
開ヲ示ス
ハ剪
截ヲ示ス

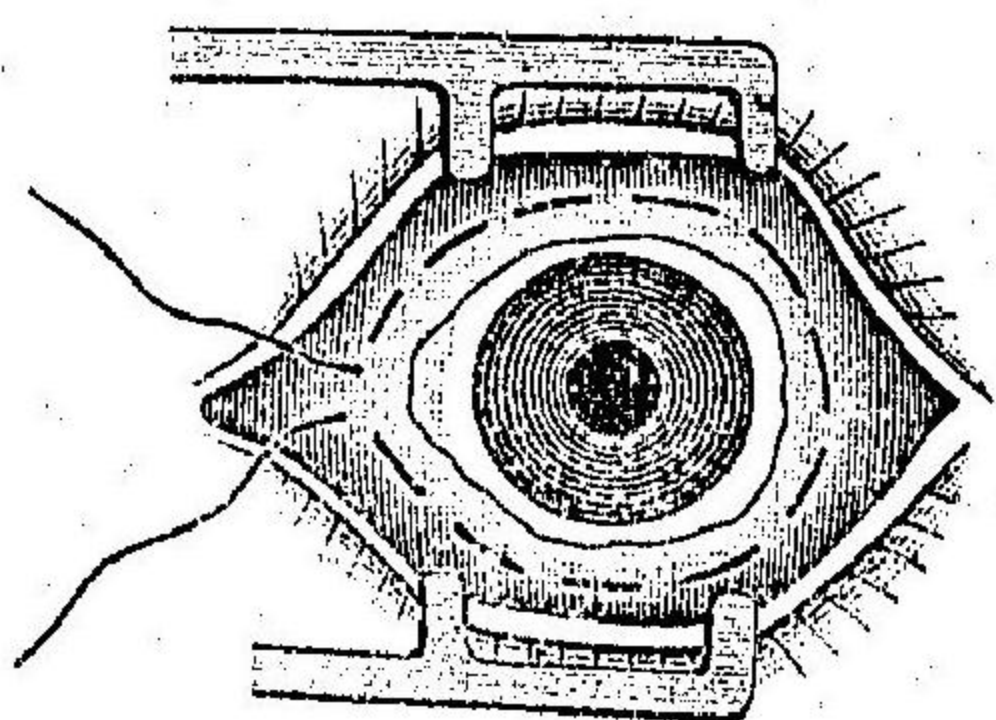
二 うまつける Wecker 氏式(第

百六十一、第六百六十二圖)線狀刀ヲ以テ角膜ノ中央ヲ横ニ切開シ、次ニ角膜縁ニ沿ウテ上下瓣ヲ剪除

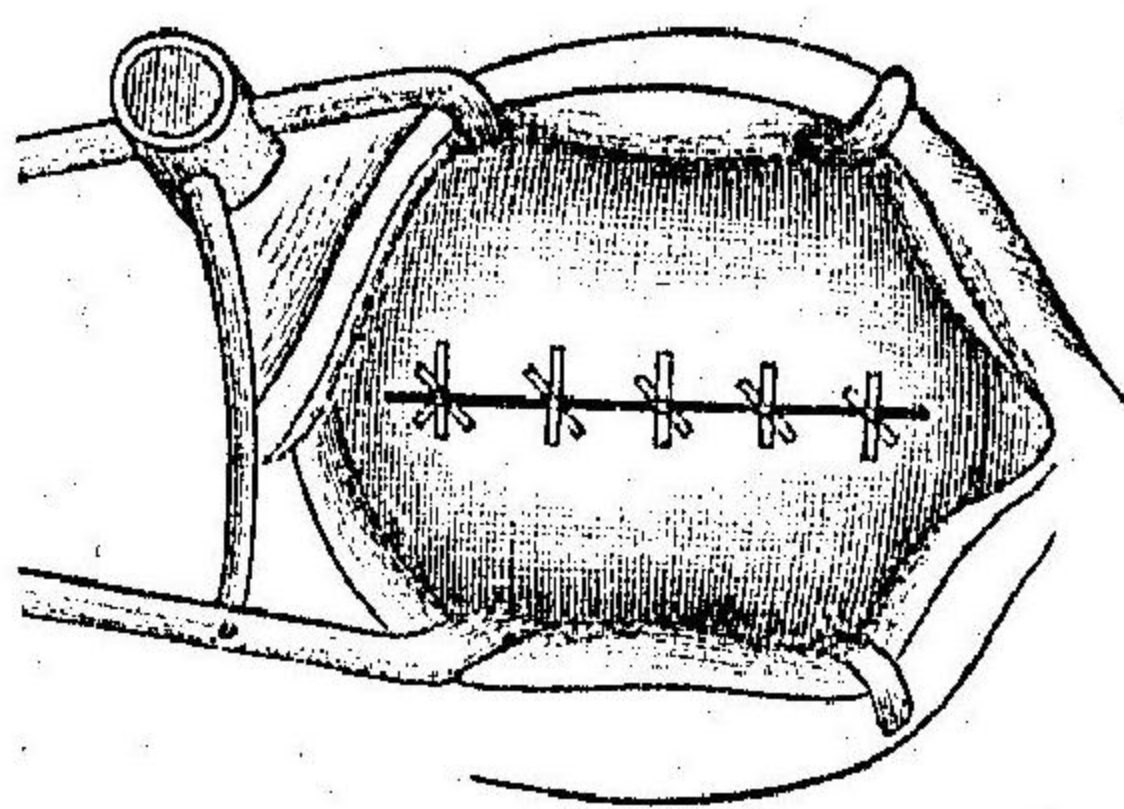
うまつける氏
式結膜縫合糸
ヲ示ス

第六百六十二圖

ス示ヲ絲合縫膜結、式氏るけつえう



第六百六十三圖



ス。而シテ豫メ眼球結膜ヲ角膜縁、鞏膜ヨリ剝シ、コレニ巾著ノ緒ノ如クニ糸ヲ通ジオキタルモノヲ引キテ結紮スル時ハ、截除後ノ大創口ハ結膜ヲ以テ被ハレ、術後、傳染化膿等ヲ防グコトヲ得ベシ

三 くりスター Crichton 氏式

大ナル曲針ヲ用ヒテ角膜ノ上下ニ糸ヲ通ジオキテ、ベール氏式ノ如クニ截除セル後ニ、糸ヲ結紮シテ創口ヲ合スルコトヲ示ス(第六百六十三圖)ノ如ク、ス。コノ式ニヨル時ハ毛様體ニ針ヲ刺スガ爲メニ毛様體炎、全眼球炎、交感性眼炎等ヲ惹起スルコトアリ

適應症 全部葡萄腫ニシテ鞏膜擴張ヲ來サ
ル者

第十四項 眼球前部截除術 Abtragung des vorderen Theils des Auges

術式 ベーる氏刀ヲ以テ角膜縁ヲ距ル、後方 5-6 mm. ノ所ニ刺入シ反對側ニ出シテ眼球前半部ヲ切開シ、次ニ殘レル半部ヲ剪除ス。豫メ眼球結膜ハ鞏膜ヨリ剝シオキテ之ニ絲ヲ通シテ結紮スル事全角膜截除術ノうるける氏式ノ如クナスカ、或ハく^ち氏式ノ如ク縫合スルモ可ナリ

適應症 全葡萄腫ニシテ鞏膜擴張アル者

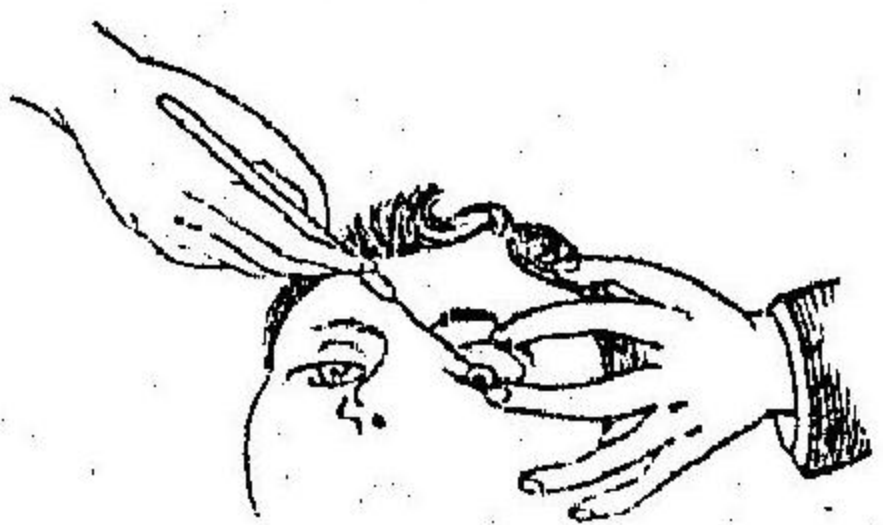
第十五項 角膜異物摘出術 Entfernung von Fremdkörpern aus der Hornhaut (第百六十四圖)

先ヅ斜照法ニ由テ異物竄入ノ新舊、形狀、位置、角膜面ヨリ隆起セルヤ否ヤ、前房ニ及セルヤ否、既ニ化膿ヲ生ゼルヤ否等ヲ精査スルヲ要ス

麻醉 古加因水局所麻醉 小兒不從順ノ人、又ハ異物深在シ、或ハ一部前房内ニ入レル様ノ時ハ全身麻醉ヲ要スルコアリ

第百六十四圖

角膜異物ヲ摘出スル圖



眼球固定 手術容易ナル時ハ、左手ノ第一、二指ニテ開險シツ、眼球ヲ固定ス、稍、困難ナル時ハ開險器固定鉗子ヲ用ユ

術式

一 異物小ニシテ角膜表面ニ在ル時 異物針(第百六十五圖)ニテ容易ニ取り去ルベシ、異物ヲ取り圍ミテ不潔ナル浸潤アル時ハ、異物除去後搔抓スベシ、除去後十分ニ洗滌シテ綳帶スベシ。一二日

第百六十五圖

異物針



ニシテ創面滑澤ナレバ溫卷法ニテ缺損ノ補償ヲ促スベシ。化膿ノ徴アリタル時ハ、沃度仿膜ヲ撒布シテ綳帶スベシ

第百六十六圖

小凹溝刀



二 斜ニ角膜ニ貫入セル長キ異物ナル時、或ハ異物深在ニシテ尖端前房ニ達セル時ハ、異物針、鉗子、凹溝刀(第百六十六

圖等ニテ摘出セントシテ、反テ異物ヲ益、深ク押シコムカ或ハ遂ニ前房ニ墜落セシムルコトアリ、コノ様ノ恐アルキハ、先ヅ角膜縁ヲ切開シテ槍狀刀ヲ前房内ニ送入シテ角膜ノ後面ヨリ異物ヲ壓シ、コレニ由テ異物ノ深入ヲ妨ゲヲキテ、異物ニ接シタル所ニテ角膜ヲ切開シテ、異物ヲ除去スベシ。あると氏ハ槍狀刀ニ代ユルニだびーる氏匙ヲ以テセリ、コレ水晶體等ヲ傷ツクルノ恐ナケレバナリ

三 異物大ニシテ角膜面ヨリ其一端隆起スルキハ、刀ヲ以テ創口ヲ擴ゲ、鑷子ニテ摘取ス

四 異物若シ鐵ナルキハ、磁石カヲ用ユ

注意 手術中穿孔ノ憂アリト知ル時ハ先ヅ「エゼリン」ヲ點眼シオクベシ
後療法 綳帶

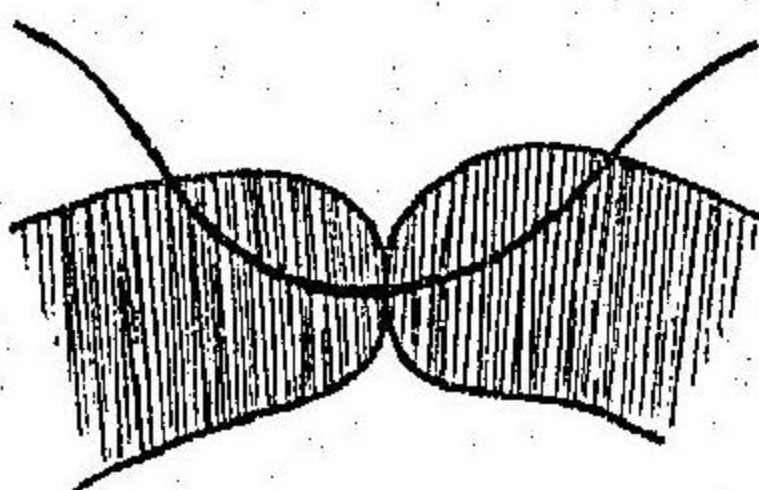
角膜縫合

第十六項 角膜縫合 Hornhautnaht

角膜創傷ニ缺損ヲ兼ネタル時、或ハ大ナル裂創鞏膜ニ及ボシテ、創口甚シク開口スルカ、創傷不規則ニシテ創口蹄花狀ヲナス時ハ、眼球内容物脫出ヲ防グガ爲メニ

角膜縫合ノ模
型圖(ちねる
まー氏原圖)

圖七十六百第
圖型模ノ合縫膜角
(圖原氏「まるえち」)



角膜縫合ヲ要スルコトアリ

術式 創縁ヲ小鑷子ニテ撮ミ創縁ヨリ約〇・五密迷ヲ距タル所ニ刺入シ、角膜層ノ中位ヲ通りテ他ノ創縁ヲ距ル〇・五密迷ノ所ニ刺貫シテ結紮ス。縫合針ハ特別ナル微細ナル角膜針ヲ用ユ(第百六十七圖)

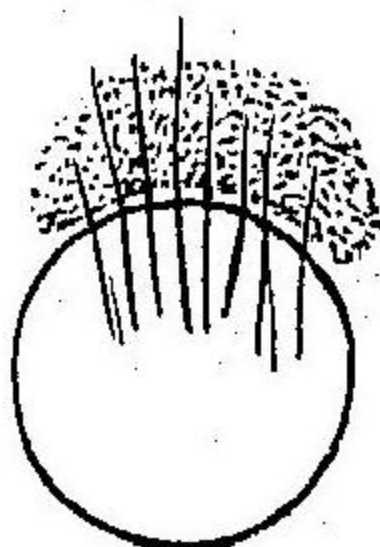
硝酸銀周擁腐
蝕術

第十七項 硝酸銀周擁腐蝕術 Periaetzung

(第百六十八圖)

硝酸銀周擁腐
蝕術

圖八十六百第
擁周銀酸硝
術蝕腐



「パンヌス」アル時角膜ノ周擁ニ硝酸銀腐蝕ヲ行ヒテソノ血管ヲ廢絶セントス

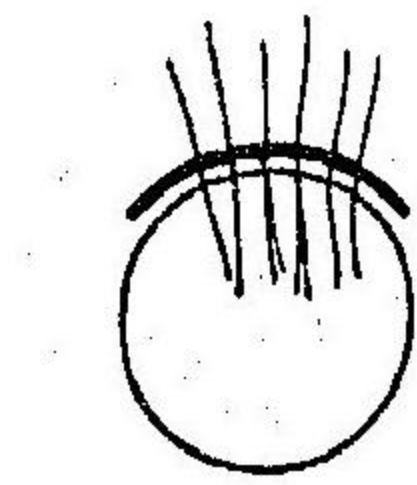
術式 無毒的洗滌、古加因水局所麻醉、開險器ヲカケ、固定鑷子ニテ眼球ヲ固定シ、硝酸銀棒ヲ硼酸水ニ浸シオキタル毛筆ヲ以テ磨リ濃厚銀液毛筆ニ合マル、ヤ、コレヲ以テ角膜周擁ニ塗布シ、直ニ食鹽水ヲ灌注ス、腐蝕ノ廣サハ「パンヌス」ノ大ツニヨル

術 角膜周擁切開

第十八項 角膜周擁切開術 Peritomie

(第百六十九圖)

術 角膜周擁切開

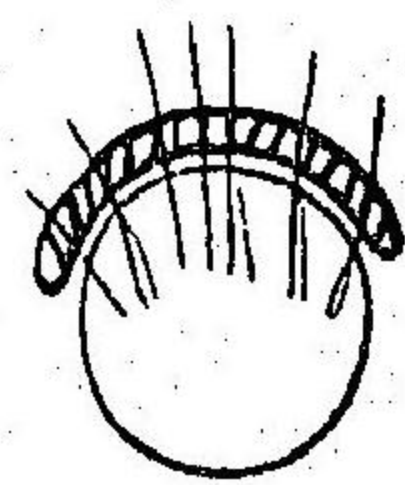


術式 「パンヌス」ノアル部ノ眼球結膜ノ角膜縁ニ亂切刀ヲ以テ切開ス、コレ角膜表層へ浸入ノ血管ヲ中斷セントスルニアリ

術 角膜周擁切除

第十九項 角膜周擁切除術 Periectomie (第百七十圖)

術 角膜周擁切除



術式 「パンヌス」ノアル部ノ結膜ヲ角膜縁ニ沿ウテ、鉤鋸子ヲ以テツマミ上ゲテ 2-3mm. ノ幅ニ線狀ニ切除ス、コノ目的モマタ「パンヌス」ヘノ血管ヲ中斷シテ癍痕ヲ以テ斷絶セシメ角膜ニ血液ヲ送ラシメザルニアリ、切除ノ大サハ角膜周擁ノ半分迄ハナスコトヲ得

術 角膜周擁搔抓

第二十項 角膜周擁搔抓術

上記三法ノ效果ヲ十分ナラシメンガ爲メニ、切除結膜部ノ上鞏膜組織即結膜下組織ヲ銳匙ニテ搔抓スルコトアリ、コレ「パンヌス」ノ血管ニコノ組織内ヨリ入ルモノアリテ結膜ノ切開、切除ノミニテハ「パンヌス」ニ於ケル影響渺ケレバナリ

注意 上記ノ四法ハ結膜擦過術ト同時ニ行フコトヲ禁ズ、コレ險球瘵著症ヲ起セバナリ、角膜潰瘍アルノ時結膜擦過術ヲ行フベカラザルコトモ同シ

鞏膜手術

前鞏膜切開術

第五章 鞏膜手術

第一項 前鞏膜切開術 Sclerotomy anterior.

(第百七十一、第百七十二圖)

術式 「エゼリン」ヲ點眼シテ、十分ニ瞳孔ヲ縮少セシメ、古加因ニテ局所ヲ
麻醉セシム。開險スルニハ開險器ヲ用ユルコトアリ或ハ助手ヲシテ左右拇指

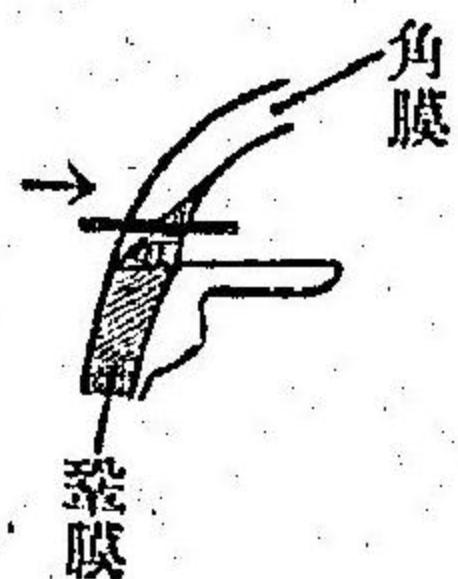
ヲ以テ開險セシム、固定鑷子ヲ

下方角膜縁ニ沿ウテ眼球結膜

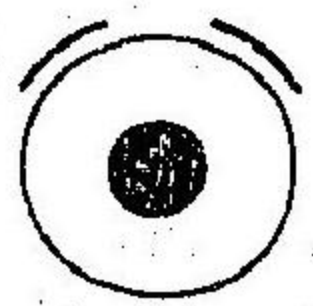
ヲ撮マシメテ眼球ヲ固定シテ

左手ニ之レヲ持シ、右手ニぐれ

第百七十一圖
前鞏膜切開術
斷面想像圖
(原作者著)



第百七十二圖
前鞏膜切開術



「ふ」氏線狀刀ヲ以テ角膜外縁ヲ距ル「0.5mm」ノ處ニ刺入シ、虹彩面ニ平行
シテ徐々ニ進ミ、反對側ニ於テ鞏膜ヲ刺貫シ、鋸ヲ引クガ如クニシテ、上方ニ
向テ、内外兩側ニ於テ同時ニ鞏膜ヲ切開シ、ソノ中間部ハ殘シテ、刀ヲ引キ去
ル。次ニ尙一回「エゼリン」ヲ點眼ス

注意

切開後虹彩脫出ナクシテ瞳孔ガ一方ニ牽引セラル、ガ如キ觀ヲ
呈スルコトアリ、コハ虹彩ノ根部ガ皺襞ヲ作り或ハ創間ニ嵌入セントスル者
ナルガ故ニ「スパ」トナルヲ以テヨク虹彩ヲ整復シテ瞳孔ノ形ヲ正圓ナラシ
ムベシ。虹彩若シ脫出シテ整復セラレザル時ハ切除ス

後療法

通例ハ痕跡ヲ殘ササル程ニ治療スレド、時ニ切開創ノ一部腫起
シテ所謂濾過性癥痕 Filtrationnarbe ヲナスコトアリ、結膜下ニ前房水出テ、水
腫樣癥痕 Cystoide Narbe トナルコトアリ、稀ニ切開セル所移開シテ虹彩ノ脫出
スルコトアリ、コノ時ハ切除セザルベカラズ

適應症

綠内障ニ於ケル虹彩切除術ノ效能ハ鞏膜切開ニアリト云フ論
者 (v. Wecker 1867, v. Stellwag 1868, Quaglino 1871) ハ前鞏膜切開術ヲ以テ虹彩
切除術ニ代ントスルモ、實ハ奏效一時ニ止リテ永久的ナルコト能ハズ、ソノ用
ヒラルベキハ、一單性綠内障ノ前房深キ者、ニ牛眼、三出血性綠内障、四炎性綠
内障ニシテ虹彩「アトロピン」ニ反應スル時若クハ患者虹彩切除術ヲ好マザ
ル時、五綠内障ニ虹彩切除術ヲ行ヘルモ效ナカリシ時、六虹彩切除ヲナス迄
ノ一時的處置トシテ

第二項 後鞏膜切開術 Sclerotomy posterior

(第七十三圖)

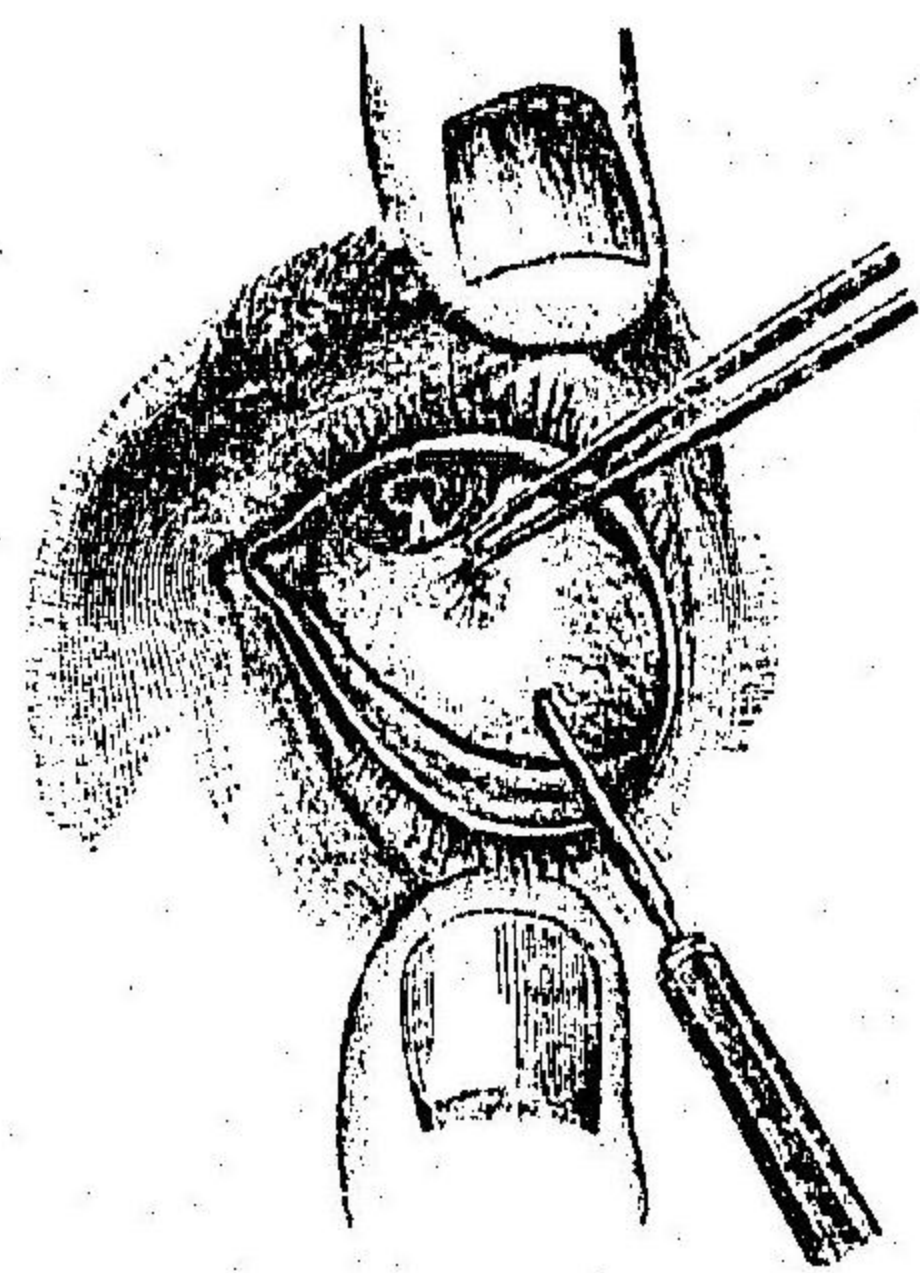
麻醉 古加因水局所麻醉

術式 角膜縁ヨリ少クモ0.5mm以上距リタル鞏膜ニぐれー氏線狀刀

ヲ以テ刺入ス、前部ニ過クル時ハ眼筋、毛様體ヲ傷ツクルノ恐アリ、切開ノ方向ハ子午線的ナルベシ、コレ主ナル鞏膜纖維ノ方向ニ一致シテ脈絡膜血管ヲ損害スルコト尤モ少ケレバナリ

適應症 網膜剝離 剝離ノ最

第七十三圖 後鞏膜切開術



高ノ處ニ刺入シ刀尖網膜下ニ達スレバ柄ヲ廻ラシテ創口ヲヒロゲ、剝離下ノ液體ノ排出ヲ便ナラシム、液體眼球外ニ流出スルヤ稍、黄色ヲ呈シテ結膜ノ膨隆スルヲ見ル、コトニ於テ刀ヲ抜キ去ルベシ、或ハ剝離ノアル部ニ反對

セル所ニ刀ヲ刺入シテ剝離下ノ液體ヲ硝子體內ニ流注セシムル人アリ、ニ線内障 前房消失シテ虹彩切除ヲ施シ難キ時ニコノ術ヲ行ヒ、硝子體ノ一部ヲ排出セシムベシ、硝子體粘稠ニシテ出デ難キガ故ニ創口稍大ナルヲ要ス、ニ異物胞蟲

第六章 虹彩手術

第一項 虹彩切除術 Iridectomy

器械 一開險器(第四百三三圖)、二固定鉗子(第四百四十四圖)、三曲鎗狀刀(第七十四圖)、四うろける氏鉗子(第七十五圖)、五「スパーテル」(第七十七圖)、六曲虹彩鉗子(第七十六圖)

曲鎗狀刀

圖四十七百第 刀狀鎗曲



所麻醉 古加因局

助手 一人

準備 五千倍昇

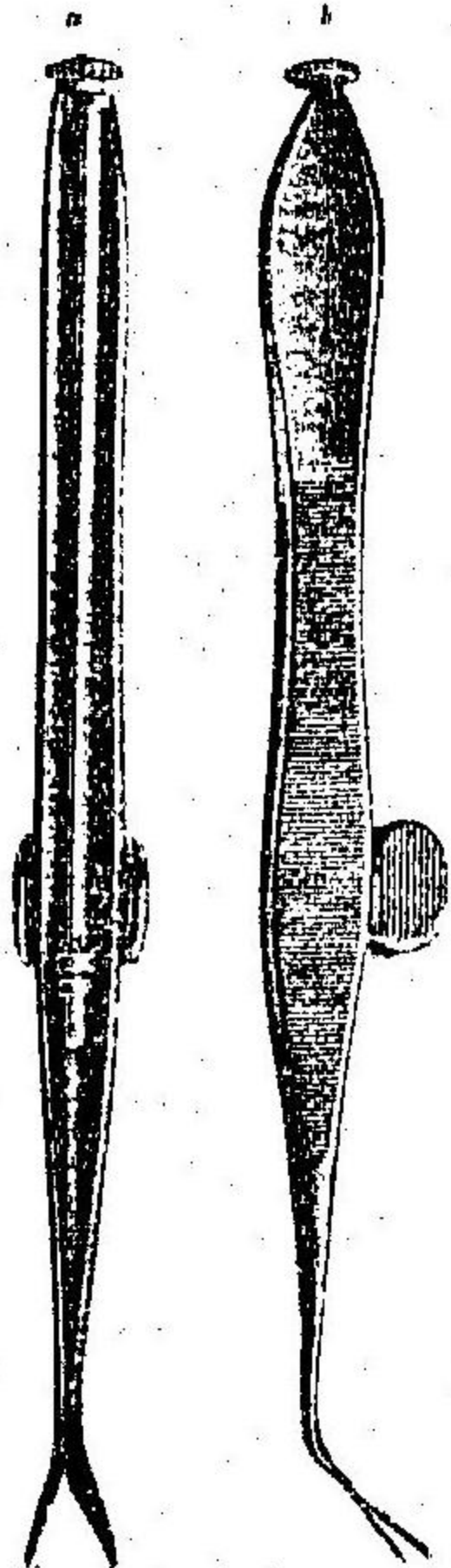
汞水ヲ以テ眼險及

結膜ヲ洗滌シ、コト

ニ眼險緣穹窿部、涙

うろける氏鉗子

圖五十七百第 鉗子鉗氏るけろ



虹彩手術

虹彩切除術

曲虹彩鉗子

圖六十七百第 子鉗彩虹曲



「スパーテル」

圖七十七百第 「ルテ」マス



池等ハ五千倍昇汞水ニ浸セル小

綿球ヲ以テ不潔物ヲ去リ、古加因

水ヲ點滴シテ局所的麻醉セシム

術者ノ位置 切除セントスル

虹彩ノ局所ヲ前ニシテ立ツ、助手

ハ術者ニ向ツテ立ツベシ、器械ヲ

載セタル机ハ術者ノ右側ニ置ク

術式 開險器ヲ用ヒテ開險シ、

固定鉗子ヲ以テ切除セントスル部ノ反對側ノ角膜緣ニ接シテ眼球結膜ヲ撮ミテ左手ヲ以テ之レヲ持シ、眼球ヲ固定ス、次ニ曲鎗狀刀ヲ鉛直ニ角膜緣部ニ刺貫シ、其尖端前房ニ達スレバ(直接ニ尖端ヲ見ルカ或ハ及ノ創口ニ入レル所ヨリ前房水ノ滲出スルヲ見ルベシ)稍、後方ニ引ク氣味ニテ刀柄ヲ傾ケテ及面ヲ虹彩面ト平行ナラシメ、次ニコノ位置ヲ以テ刀ヲ進メ、創口ノ幅適當ナルニ至レバ(第七十八圖)刀尖ヲ角膜ノ裏面ニ向ケテ水晶體ヲ傷ツケザルノ注意ヲナシツ、極メテ徐々ニ刀ヲ引キ出スベシ。是ニ於テ固定鉗

虹彩切除ノ時ノ角膜切開

第百七十八圖 虹彩切除ノ時ノ角膜切開 (河本氏原圖)



確ムベシ(瞳孔領ニ於ケル虹彩ノ創角正位ニ復スルヤ否ヤヲ檢スベシ)若シ
 嵌留セバ「スパーテル」ヲ以テ前房内ニオシ入レテ整復セシメ、エゼリンヲ點
 眼シテ、少時ヲ經テ更ニ創間嵌留ノ有無ヲ檢ス。次ニ洗滌、片眼繃帶ヲナス
後療法 毎日一回繃帶ヲ交換ス、コノ際必ず創間虹彩嵌入ノ有無ニ注意
 スベシ、若シ虹彩ノ脱出アレバ「スパーテル」ヲ以テ前房内ニ入ル、カ、或ハ切

子ヲ助手ニ托シテ保持セ
 シメ、術者ハ右手ニ虹彩鉗
 子ヲ閉ヂテ前房内ニ入レ、
 瞳孔縁ニ至リテ稍之レヲ
 開キ瞳孔縁ヲ撮ミ(第百七
 十八圖)創口ヨリ牽出シテ
 (第百七十八圖)左手ニテラ
 えける氏鉗子剪ヲ以テ剪
 除ス、次ニ虹彩ノ角膜創口
 ニ嵌留スルナキヤ否ヤヲ

直虹彩鉗子

第百七十九圖 直虹彩鉗子



除シテ創間ニ嵌入スルコトナカラシム、或ハ「スパーテル」ニテ押シ入レテ翌日
 更ニ脱出スルコトアレバ切除スベシ。虹彩充血、虹彩炎等ノ徴アレバ「アトロピ
 ン」ヲ點眼スベシ、前房内出血ハ概スルニ恐ル、ニ足ラズ多クハ自然ニ吸收
 セラル前房生ジテ角膜ノ創全ク癒合セバ繃帶ヲ去リテ著色眼鏡又ハ遮光
 帶ヲカケシムベシ
手術ノ注意 上記術式ニ擧ゲタル器械ハ余ノ尤モ使用シテ便利ナリト
 セルモノヲ列擧セルナリ、他ノ器械ヲ用ユルモ可ナリ、而シテ
 一角膜切開ヲナスニハ直槍狀刀ヲ用ユルモ可ナリ、又前房淺キ時ハぐれー
 ふ氏刀ヲ用ユルコトアリ、然レモ余ハ今日迄百數十回ノ手術ニ於テ曲直槍狀
 刀ヲ用ヒテ不便ヲ感ジタルコトナシ

二虹彩鉗子ハ 直虹彩鉗子
 (第百七十九圖)或ハ虹彩鉗子
 用ユルモ可ナリ
 三虹彩切除ノ剪刀ハ 如何
 ナル剪刀ニテモ可ナリ、好シ